

# ガンジ山 A 古窯跡群

～大府桃山土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告書～

2000年

大府市教育委員会



遺跡遠景（上が南西）



①遺跡近景（上が南西）



②2号窯, 3号窯（上が南南西）

## 序

知多半島の丘陵地には古代に操業を開始した猿投窯の流れを継ぐといわれる中世の古窯跡が有り、大府市にも、現在判明しているものだけでも、88カ所の古窯が存在しています。

大府市は名古屋市の南に隣接した都市で、年々人口の増加と公共事業にともなう様々な開発事業が展開され、それに重なるように埋蔵文化財の発見も増えました。埋蔵文化財は歴史的にも文化的にも貴重な遺産で、それを後世に伝えていくことは我々の使命であると考えます。

本市では、ここ5年間各地で発掘調査が実施され、海陸庵古窯（平成6）・神明古窯（平成7）・円通寺古墓（平成7）・森岡1号窯（平成8）・深廻間A古窯（平成9）などが調査となり、数々の知見を得ています。今回のガンジ山A古窯跡群の発掘調査は、平成9年4月から7月までの期間で、無事終了し、ここに報告書として上梓することができました。

最後に、発掘調査を指導されたガンジ山A古窯発掘調査会会長 立松宏氏（前半田市立博物館館長）をはじめとする調査員の方々のご苦勞とご協力に心から感謝いたします。また調査に際して、ご指導とご協力を賜りました愛知県教育委員会、大府市都市開発部区画整理課、株式会社花井組、発掘調査作業にご協力いただいた方々、この事業に対して、特別なご理解とご高配をいただきました大府桃山土地区画整理組合理事長青山よ志ゑ氏には厚くお礼を申し上げます。

平成12年3月吉日

大府市教育委員会

教 育 長 浅 田 勇

## 例 言

- 1.本書は愛知県大府市桃山町三丁目111番地他に所在したガンジ山A古窯跡群の発掘調査報告書である。
- 2.発掘調査は大府桃山土地地区画整理事業にともなう緊急調査として大府市教育委員会の委託を受けたガンジ山A古窯発掘調査会が実施した。
- 3.調査期間は、平成9年4月8日に試掘調査を、本調査を4月14日から7月6日、追加調査を8月18日から19日まで行った。なお遺物洗浄作業は発掘現場で実施した。平成10・11年度は報告書作成のための整理作業と編集を実施した。
- 4.調査体制は、ガンジ山A古窯発掘調査会を組織し、半田市立博物館館長立松宏（当時）を会長とし、氏の指導の下、近藤英正（半田市立博物館学芸員）と古田功治（大府市歴史民俗資料館主任）が担当した。
- 5.調査にあたっては、下記の各機関および地権者の方々のご協力を得た。  
愛知県教育委員会文化財課 株式会社花井組 東知多農業協同組合 愛知県経済連 大府桃山土地地区画整理組合 中野晴久氏（常滑市民俗資料館）
- 6.発掘調査作業にあたり、下記の方々が参加された。  
木下信雄、小野玲子、渡瀬喜久枝、岩田公子、佐野栄作、松本純子、保科懐子、鳥居和子  
服部祐子、大竹富美子、青山美智子、松石健治（中日新聞記者）、富田智恵、遠山光嗣（敬称略）
- 7.本書の編集は古田功治が行い、執筆は第2章と第5章を近藤英正が、それ以外を古田が行った。また第4章の熱残留磁気測定と炭化物の分析については、それぞれ富山大学理学部教授広岡公夫氏、佐竹俊昭氏（富山大学理学部地球科学教室）とパレオ・ラボの柘植弥生氏に玉稿を賜った。
- 8.遺物整理・図面整理・遺物復元・実測・トレース・写真撮影・図版作成などのについては、立松氏と近藤氏の指導のもと古田、沓名勝（資料館館長）、早川清夫（資料館指導員）、深川忠幸（資料館主任）、伊藤羊子、富田智恵、遠山光嗣、村野實、前田美江、木下信雄、舟崎千春、アイシン精機株式会社が担当した。
- 9.炭化物の分析については、パレオ・ラボに依頼した。
- 10.窯体の熱残留磁気測定は、富山大学理学部地球科学教室に依頼した。
- 11.窯体および調査区の測量は愛知玉野情報システム株式会社に委託し、座標は国土座標第Ⅶ系に準拠する。
- 12.土色には、小山正忠・竹原秀雄著『新版標準土色帖』を使用した。
- 13.調査記録および出土遺物は大府市歴史民俗資料館で保管している。

# 目次

## 第1章 調査概要

第1節	位置と地形	2
第2節	歴史的環境	3
第3節	発掘調査にいたる経緯	6

## 第2章 遺構

第1節	窯体について	10
第2節	前庭部および灰原について	25

## 第3章 遺物

第1節	器形分類	32
第2節	窯内と灰原などの遺物	35
第3節	床面下施設の遺物	40
第4節	考察	52

## 第4章 科学分析について

第1節	ガンジ山A古窯の考古地磁気学的研究	102
第2節	炭化物について	124

## 第5章 まとめ

132

## 図版

136

## 挿 図 目 次

第 1 図 遺跡位置図	2	第 21 図 碗類器形分類図	33
第 2 図 調査地点地形図	4	第 22 図 皿類器形分類図	34
第 3 図 周辺遺跡分布図	4	第 23 図 部位等名称図	34
第 4 図 調査前地形図	7	第 24 図 2号窯床面下施設遺物器形別分類組成図	41
第 5 図 遺構配置図	13	第 25 図 2号窯床面下施設遺物取上位置番号図	42
第 6 図 1号窯窯体実測図	14	第 26 図 碗類器形別分類組成図	53
第 7 図 1号窯埋土セクション	15	第 27 図 皿類器形別分類組成図	54
第 8 図 1号窯断面セクション	16	第 28 図 遺物実測図(碗 1 遺構)	55
第 9 図 2号窯窯体実測図	17	第 29 図 遺物実測図(碗 2 遺構)	56
第 10 図 2号窯埋土セクション	18	第 30 図 遺物実測図(皿 1 遺構)	57
第 11 図 2号窯断面セクション	19	第 31 図 遺物実測図(皿 2 遺構)	58
第 12 図 2号窯前庭部土器溜実測図	20	第 32 図 遺物実測図(碗 床面下)	59
第 13 図 2号窯床面下施設実測図	21	第 33 図 遺物実測図(その他)	60
第 14 図 3号窯窯体実測図	22	第 34 図 遺物実測図(焼台)	61
第 15 図 3号窯埋土セクション	23	第 35 図 遺物実測図(障焰棒)	62
第 16 図 3号窯断面セクション	24	第 36 図 ガンジ山 A 古窯の考古地磁気測定結果と西南日本版 (広岡、1977) および東海版(広岡・藤沢、1998) 考古地磁気永年変化曲線	107
第 17 図 灰原セクション(1)	26	第 37 図 ガンジ山 A 古窯の燃料材樹種の検出地点	128
第 18 図 灰原セクション(2)	27		
第 19 図 灰原位置図	28		
第 20 図 SK3・SK4・SK5 平面断面図	29		

## 図 版 目 次

図版 1 遺跡(1) 調査前	136	図版 9 遺物(1) 碗	144
図版 2 遺跡(2) 1号窯	137	図版 10 遺物(2) 碗	145
図版 3 遺跡(3) 2号窯	138	図版 11 遺物(3) 碗	146
図版 4 遺跡(4) 2号窯	139	図版 12 遺物(4) 皿	147
図版 5 遺跡(5) 3号窯	140	図版 13 遺物(5) 皿	148
図版 6 遺跡(6) 灰原	141	図版 14 遺物(6) その他	149
図版 7 遺跡(7) 灰原	142	図版 15 遺物(7) 床面下	150
図版 8 遺跡(8) 発掘後	143		

## 写 真 目 次

写真 1 ガンジ山 A 古窯燃料材 走査電子顕微鏡写真	129
--------------------------------	-----

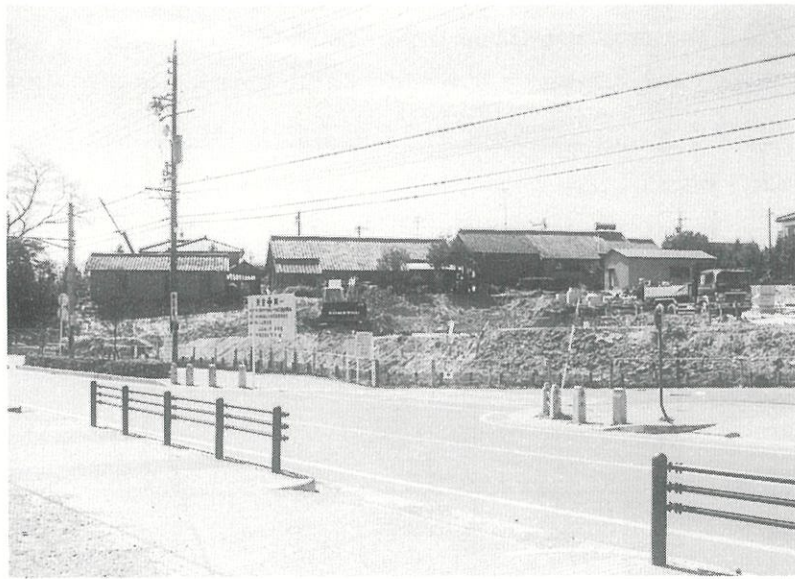
## 表 目 次

第 1 表 大府市遺跡一覧	第 35 表 遺物観察表 (皿)3
第 2 表 発掘調査に伴う法的手続き	第 36 表 遺物観察表 (皿)4
第 3 表 遺物番号対照表	第 37 表 遺物観察表 (皿)5
第 4 表 2号窯出土碗類器形分類別組合せ表	第 38 表 遺物観察表 (皿)6
第 5 表 2号窯床面下施設遺物取上記録(1)	第 39 表 遺物観察表 (皿)7
第 6 表 2号窯床面下施設遺物取上記録(2)	第 40 表 遺物観察表 (皿)8
第 7 表 2号窯床面下施設遺物取上記録(3)	第 41 表 遺物観察表 (皿)9
第 8 表 2号窯床面下施設遺物取上記録(4)	第 42 表 遺物観察表 (皿)10
第 9 表 2号窯床面下施設遺物取上記録(5)	第 43 表 遺物観察表 (皿)11
第 10 表 2号窯床面下施設遺物取上記録(6)	第 44 表 遺物観察表 (皿)12
第 11 表 2号窯床面下施設遺物取上記録(7)	第 45 表 遺物観察表 (その他)1
第 12 表 2号窯床面下施設遺物取上記録(8)	第 46 表 遺物観察表 (その他)2
第 13 表 2号窯床面下施設遺物取上記録(9)	第 47 表 遺物観察表 (碗 床面下)1
第 14 表 碗類皿類法量比較表	第 48 表 遺物観察表 (碗 床面下)2
第 15 表 碗類器形分類別組合せ表	第 49 表 遺物観察表 (碗 床面下)3
第 16 表 皿類器形分類別組合せ表	第 50 表 遺物観察表 (碗 床面下)4
第 17 表 遺物観察表 (碗)1	第 51 表 遺物観察表 (碗 床面下)5
第 18 表 遺物観察表 (碗)2	第 52 表 遺物観察表 (碗 床面下)6
第 19 表 遺物観察表 (碗)3	第 53 表 遺物観察表 (碗 床面下)7
第 20 表 遺物観察表 (碗)4	第 54 表 ガンジ山 A 1・A 2・A 3 号窯で 採取した考古地磁気試料番号
第 21 表 遺物観察表 (碗)5	第 55 表 ガンジ山 A 1号窯の NRM の磁化測定結果
第 22 表 遺物観察表 (碗)6	第 56 表 ガンジ山 A 1号窯の 2.5 mT 消磁後の磁化測定結果
第 23 表 遺物観察表 (碗)7	第 57 表 ガンジ山 A 1号窯の 5.0 mT 消磁後の磁化測定結果
第 24 表 遺物観察表 (碗)8	第 58 表 ガンジ山 A 1号窯の 7.5 mT 消磁後の磁化測定結果
第 25 表 遺物観察表 (碗)9	第 59 表 ガンジ山 A 1号窯の 10.0 mT 消磁後の磁化測定結果
第 26 表 遺物観察表 (碗)10	第 60 表 ガンジ山 A 1号窯の 15.0 mT 消磁後の磁化測定結果
第 27 表 遺物観察表 (碗)11	第 61 表 ガンジ山 A 1号窯の 20.0 mT 消磁後の磁化測定結果
第 28 表 遺物観察表 (碗)12	第 62 表 ガンジ山 A 1号窯の 25.0 mT 消磁後の磁化測定結果
第 29 表 遺物観察表 (碗)13	第 63 表 ガンジ山 A 2号窯下層床の NRM の磁化測定結果
第 30 表 遺物観察表 (碗)14	第 64 表 ガンジ山 A 2号窯下層床の 2.5 mT 消磁後の磁化測定結果
第 31 表 遺物観察表 (碗)15	第 65 表 ガンジ山 A 2号窯下層床の 5.0 mT 消磁後の磁化測定結果
第 32 表 遺物観察表 (碗)16	
第 33 表 遺物観察表 (皿)1	
第 34 表 遺物観察表 (皿)2	



第 66 表	ガンジ山 A 2 号窯下層床の 7.5 mT 消磁後の磁化測定結果 . . . . .	113	第 76 表	ガンジ山 A 3 号窯の NRM の磁化測定結果 . . . . .	118
第 67 表	ガンジ山 A 2 号窯下層床の 10.0 mT 消磁後の磁化測定結果 . . . . .	114	第 77 表	ガンジ山 A 3 号窯の 2.5 mT 消磁後の磁化測定結果 . . . . .	119
第 68 表	ガンジ山 A 2 号窯下層床の 15.0 mT 消磁後の磁化測定結果 . . . . .	114	第 78 表	ガンジ山 A 3 号窯の 5.0 mT 消磁後の磁化測定結果 . . . . .	119
第 69 表	ガンジ山 A 2 号窯上層床の NRM の磁化測定結果 . . . . .	115	第 79 表	ガンジ山 A 3 号窯の 7.5 mT 消磁後の磁化測定結果 . . . . .	120
第 70 表	ガンジ山 A 2 号窯上層床の 2.5 mT 消磁後の磁化測定結果 . . . . .	115	第 80 表	ガンジ山 A 3 号窯の 10.0 mT 消磁後の磁化測定結果 . . . . .	120
第 71 表	ガンジ山 A 2 号窯上層床の 5.0 mT 消磁後の磁化測定結果 . . . . .	116	第 81 表	ガンジ山 A 3 号窯の 15.0 mT 消磁後の磁化測定結果 . . . . .	121
第 72 表	ガンジ山 A 2 号窯上層床の 7.5 mT 消磁後の磁化測定結果 . . . . .	116	第 82 表	ガンジ山 A 1・A 2・A 3 号窯の 考古地磁気測定結果 . . . . .	122
第 73 表	ガンジ山 A 2 号窯上層床の 10.0 mT 消磁後の磁化測定結果 . . . . .	117	第 83 表	ガンジ山 A 1・A 2 (下層床)・A 2 (上層床) ・A 3 号窯の考古地磁気年代 . . . . .	123
第 74 表	ガンジ山 A 2 号窯上層床の 15.0mT 消磁後の磁化測定結果 . . . . .	117	第 84 表	ガンジ山 A 古窯の燃料材樹種同定結果 . . . . .	127
第 75 表	ガンジ山 A 2 号窯上層床の 20.0 mT 消磁後の磁化測定結果 . . . . .	118	第 85 表	ガンジ山 A 古窯燃料材の 出土位置別の検出樹種 . . . . .	127

# 第1章 調査概要



発見時の風景

## 第1節 位置と地形

大府市は知多半島の基部に位置し、南西の端を頂点とする二等辺三角形の市域を形成する。面積は3,68 km<sup>2</sup>である。市域は主に丘陵地から成るが、中央部には丘陵地を二分する北西-南東方向の低地があり、そこをJR東海道線が通っている。東部は尾張丘陵と総称される名古屋市の東部の丘陵につながっている。西部は大府丘陵と呼ばれている。これらの丘陵は北東-南西方向に標高を下げ、市域では丘陵の最も高いところで40~50mとなっている。このため大府丘陵の方がややなだらかな地形となっている。丘陵は常滑層群と呼ばれる地層からなり、礫層、砂層、シルト層から構成される。常滑累層は下部から上部にかけて構成粒子が大きくなり、上部層の表出している尾張丘陵では礫層が多く挟まるようになる。ガンジ山A古窯跡群は尾張丘陵に立地している①。

この古窯跡群は県道横根大府線に隣接しており、西へ5m入った東側に傾斜した斜面に位置していた。当地はぶどう園が営まれ、周辺を住宅が取り巻いている場所であった。長くぶどう園として土地利用されてきたため、遺跡に与える影響はあまりなく、地中に保存されていたと想像される。しかし、遺跡の発見が土地区画整理事業による造成中ということもあり、残存状況は悪かった。現在は土地区画整理事業により、宅地となっている。

註 ①『大府市誌』資料編 自然 3~18頁(1988年刊、大府市役所)。



第1図 遺跡位置図( 国土地理院 1 / 5万地形図「名古屋南」)

## 第2節 歴史的環境

ガンジ山A古窯跡群は市中心部に近接し、市庁舎やJR大府駅のある市中心街から直線距離にして北東約1kmの場所である。ここは前述したように尾張丘陵の一角であるが、地形的には境川に注ぐ延命寺川水系の平坦地に隣接し、東側に緩やかに傾斜した斜面に立地する。標高約17mである。

縄文時代の遺跡は、共栄遺跡（市北部の共栄町、区画整理により滅失）と棧敷遺跡（朝日町）の2遺跡がある。

弥生時代の遺跡としては、市北西部の子安神社遺跡（共和町、1982・84市教委調査）と北東部の惣作遺跡（横根町、1972市教委調査）の2遺跡があるが、いずれも中世までの複合遺跡である。

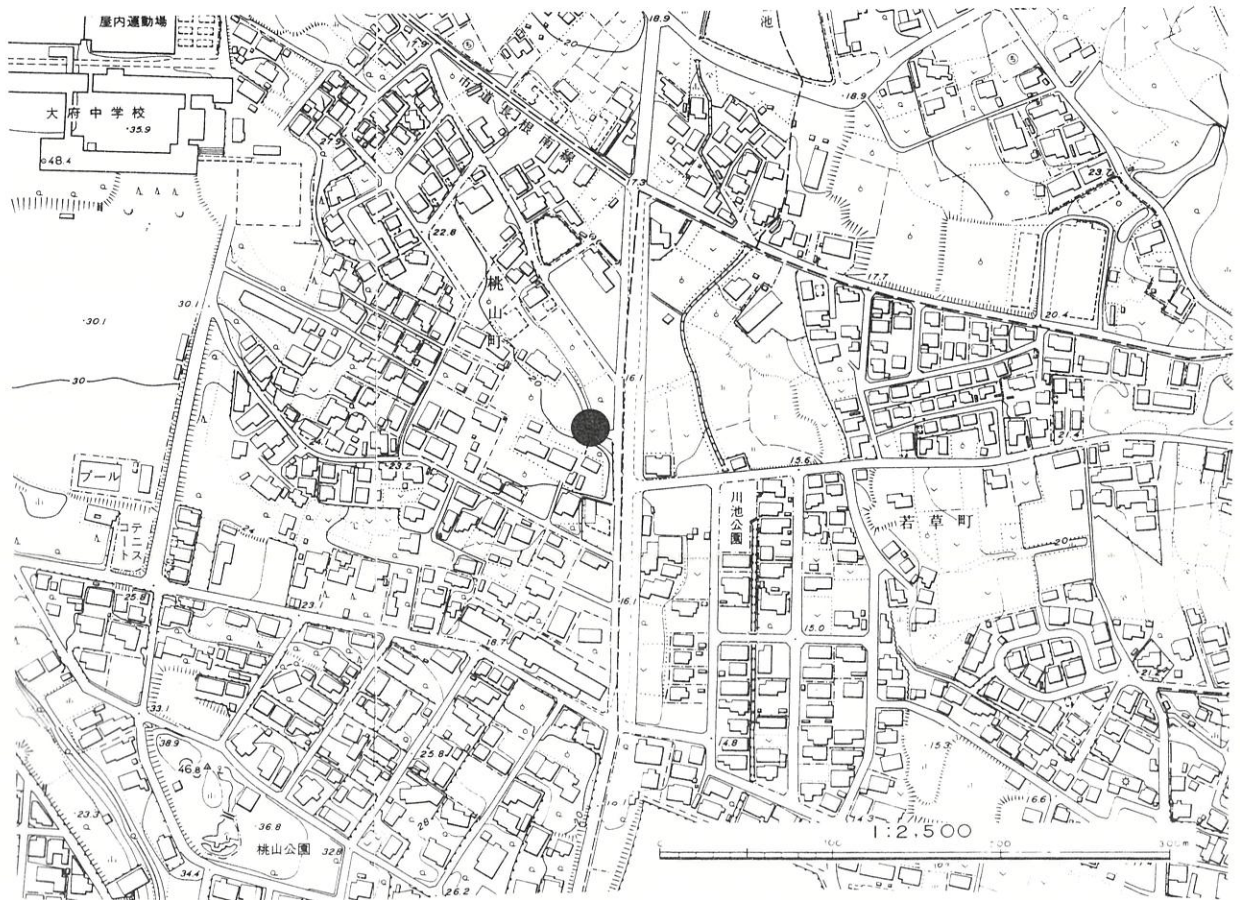
愛知県は古代（5世紀）から焼き物生産が始められ、猿投山山麓における窯は、生産地の一つとして成長したものである。この地区の古窯は猿投山西南麓古窯群と呼ばれている。また、12世紀初頭の成立といわれる常滑古窯群が知多半島には存在し、知多古窯群とも称される。大府市はいずれの古窯群とも境を接する地区で、尾野善裕氏は猿投山西南麓古窯群と知多古窯群との境を市の中心を通る東海道本線で分けている<sup>②</sup>。この説でいけば、ガンジ山A古窯跡群は前者になる。これが妥当かどうかは調査遺跡の増加と新発見の古窯から、検討の余地があると思われるが今は従っておくことにする。

平安時代になると、猿投山西南麓古窯群の野々宮古窯跡を最古の事例としてこの地域でも窯業生産が丘陵地に登場する。基本的には碗と皿を中心に焼成した窯と思われるが、代表的な遺跡として12世紀代に鳥羽離宮安楽寿院の瓦を生産した吉田第1・第2号窯跡（吉田町1968・69市教委調査）、大量の広口長頸瓶を焼いた神明古窯跡群（1995市教委調査）やへら描文をもつ壺が出土した森岡第1号窯跡群（1996県埋文調査）がある。これらは石ヶ瀬川水系の丘陵地で、年代的に古い窯跡が多く、大府市での窯業生産の発祥となすこともできる。一方ガンジ山A古窯跡群周辺には平安時代の遺跡は知られていないが、鴨池北古窯・鴨池東古窯・川池西古窯・石亀土古窯・羽根山古窯などの窯業遺跡が数多くあり、いずれも丘陵地に存在している。時代的には12世紀末期か14世紀頃の、いわゆる中世山茶碗窯であるが、同遺跡周辺の丘陵地にはかつて多くの窯跡が存在したことが伝承として語られており、古窯密集地帯であった可能性がある。また、同遺跡の東側にある境川流域の丘陵地にも窯跡は散在しており、「藤井宮大明神御酒瓶子」（県指定文化財）が出土したと伝わる横根町や12世紀前半の窯跡の高根山古窯群（北崎町）がある。

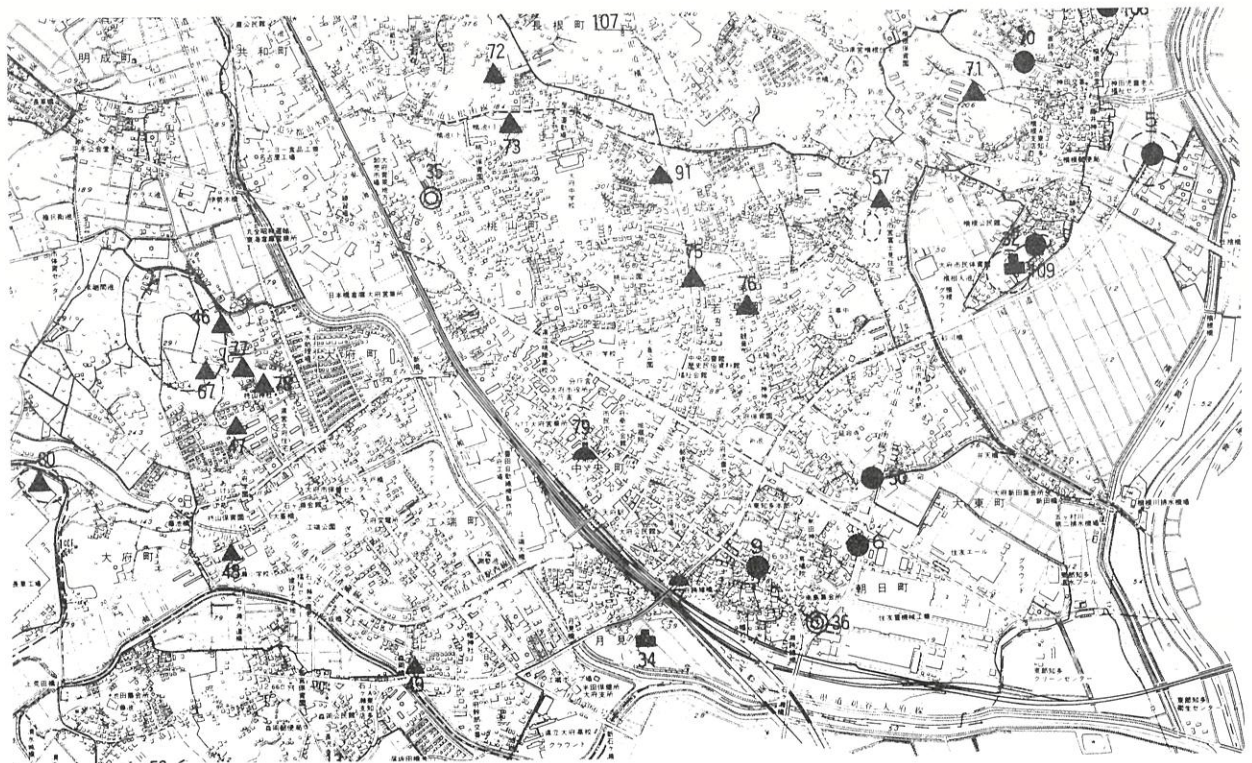
室町・戦国時代の遺跡は、古戦場や城館跡が散見され、窯業遺跡は存在していない。

大府市では現在までに117か所の遺跡を確認しているが、そのうち88か所が窯業関連の遺跡で、約75%に及んでいる。遺跡の分布をみると、空白地帯が存在するが、ほぼ市内全域に古窯が散在している。その立地はすべて丘陵地である。すべての古窯跡の築窯年代が解明されているわけではないが、焼成品や調査結果から推測すると、この地は平安時代末期から鎌倉時代末期の約200年間ほどに集中している。つまり、この地は一大窯業地帯だったのではないかと想像される。今後、遺跡分布調査が進展すれば、さらに多くの窯跡が発見され、この仮説が裏付けされると確信される。

註② 尾野善裕編『NN330号窯発掘調査報告書』137頁（1994年刊、名古屋市教育委員会）。



第2図 調査地点地形図



第3図 周辺遺跡分布図(1/2.5万)

91がガンジ山A古窯群

1. 子安神社遺跡	2. 共栄遺跡	3. 東光寺経塚	4. 聖賢院貝塚
5. 惣作遺跡	6. 棧敷貝塚	7. 高山古墳	8. 正官墳
9. 南島貝塚	10. 石丸遺跡	11. 源吾遺跡	12. 野々宮古窯
13. 森岡第1号窯群	14. 森岡第2号窯	15. 北向古窯	16. 旧中部病院第1号窯
17. 旧中部病院第2号窯	18. 旧中部病院第3号窯	19. ハンヤ古窯	20. 吉田第1号窯
21. 吉田第2号窯	22. 律粉古窯	23. 籠染第1号窯	24. 籠染第2号窯
25. 大日古窯	26. 外輪第1号窯	27. 外輪第2号窯	28. 外輪第3号窯
29. 外輪第4号窯	30. 骨田末古窯	31. 吉川城跡	32. 横根城跡
33. 追分城跡	34. 石ヶ瀬古戦場跡	35. 大清水井戸跡	36. おしも井戸跡
37. 芦沢井戸跡	39. 福池古窯	39. 大根古窯	40. 高根山古窯群
41. 梶田古窯	42. 別岨古窯群	43. 権兵衛池古窯	44. 名高山古窯群
45. 立根A古窯群	46. 深廻間A古窯群	47. 柊山A古窯群	48. 石ヶ瀬古窯
49. 江端古窯	50. 延命寺貝塚	51. 割木A古窯群	52. 東端古窯
53. 才田A古窯	54. 才田B古窯	55. 山手A古窯	56. 山手B古窯
57. 羽根山古窯群	58. 神明古窯群	59. 海陸庵古窯群	60. 円通寺古墓
61. 上入道古窯	62. 長根山A古窯	63. 立根B古窯群	64. 立根C古窯群
65. 立根D古窯群	66. 立根E古窯	67. 深廻間B古窯群	68. 西浜田遺跡
69. ニツ池東古窯	70. 藤井宮御酒瓶子出土	71. 平子古窯	72. 鴨池北古窯群
73. 鴨池東古窯	74. 下北山古窯群	75. 川池西古窯	76. 石亀土古窯
77. 柊山B古窯	78. 柊山C古窯	79. 雨兼池西古墳	80. 山口古窯群
81. 大高山古窯	82. 籠染第3号窯	83. 円通寺経塚	84. 大廻間古窯
85. みどり公園古窯	86. 高根山西古窯	87. 口無池西古窯	88. 北崎大池北古窯
89. 箕手A古窯	90. 箕手B古窯	91. ガンジ山A古窯群	92. 律粉東古窯
93. 上徳古窯群	94. 丸根城跡	95. 大深田古窯	96. 荒池古窯群
97. 砂原古窯	98. 木根A古窯群	99. 木根B古窯群	100. 久分古窯
101. 瀬戸遺跡	102. 奥谷古窯	103. 瀬戸古窯	104. 北山古窯
105. 石原古窯群	106. 長草城跡	107. 長根山B古窯	108. 普門寺遺跡
109. 寺田遺跡	110. 大高山西古窯群	111. 影清屋敷跡	112. 外輪南古窯
113. 炭焼遺跡	114. 上ノ戸古窯	115. 井田古窯群	116. 池之分古窯
117. 山中遺跡			

第1表 大府市遺跡一覧

### 第3節 発掘調査にいたる経緯

ガンジ山A古窯跡群は、大府桃山土地区画整理事業の工事中に発見された遺跡である。ここは、工事に先立っての埋蔵文化財の所在の有無はなされておらず、市教育委員会の遺跡分布調査も実施していない地区であった。

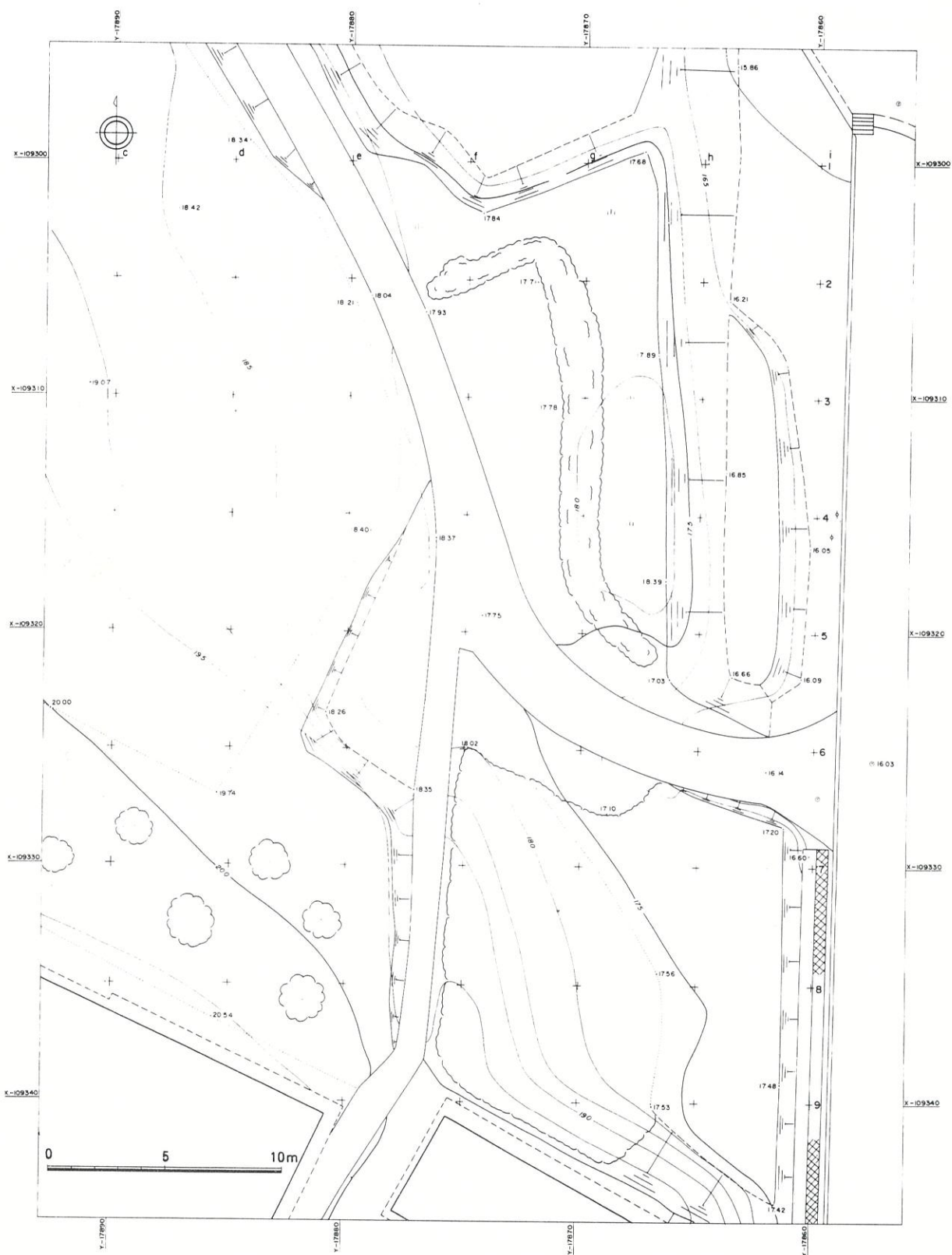
発見されたのは、平成9年3月18日に市文化財保護委員から大府市歴史民俗資料館へ連絡が入ったことによる。連絡により、早速現地を担当者が確認したところ窯体2基が掘削した斜面に露出しており、遺跡の一部破壊が進んでいる状態であった。その場で、市区画整理課や工事関係者などに現状を説明し、工事の中断と文化財保護法に基づく手続きをとること、及び発掘調査を実施する方向で準備を進めることにした。平成8年度中の調査開始は年度末間際ということもあり、次年度に補正予算を組んで調査を開始することで市教委と区画整理組合などと合意した。調査は、市から半田市立博物館館長立松宏氏を会長とするガンジ山A古窯発掘調査会に委託し、市歴史民俗資料館が支援する形で行った。調査面積は約800㎡である。

調査前の状況として、この地はかつてぶどう園と林であり、自然な傾斜が維持されていたと想像される。しかし、前述したとおり発見が工事中で、遺構の一部が露出または破壊されていた状態であったのでどれほど遺構が残存しているのか不安があった。具体的には1か所は全体が法面掘削で斜めに削られた上に燃焼室が消滅、もう1か所は燃焼室の一部が破壊された状態であった。

調査の経過は、4月8日に灰原の確認のためにトレンチによる試掘調査を行ったが成果はほとんどなかった。4月10日に国土座標Ⅶ系に基づいて5m×5mのグリッドを設定、グリッドにしたがって4月14日から本調査を開始した。

まず、調査区内の宅地造成した部分の客土の除去をして、窯体の検出をしたところ3基目の窯を発見した。全体で3基となり窯に対面して左から順に1号窯・2号窯・3号窯と名付けることにした。2号窯は焼成室の3分の1程度がすでに削平された後の状態であった。客土の除去と平行して2号窯と3号窯の灰原があると思われる地点の検出を開始した。検出にあたりグリッドを示す杭と杭を結ぶラインにベルト状の畦を残して掘削した。ここからは、灰層と灰原の東端を確認できたが、概して遺物量は少なかった。その先はかつて田圃だったと思わせるように水がしみ出てくる状態となっていた。その先には灰原が拡がる可能性は少ないと見受けられた。2号窯焚口の東側には検出時点から遺物の混ざった灰層が帯状にひろがっていた。ここは1号窯の灰原か2号窯のそれなのかははっきりとは確定できなかった。1号窯の灰原は耕作時か工事中のいずれかの時に消滅したと思われ、該当個所からは遺物は採取されていない。灰原に関してはあまり成果は得られなかった。

調査開始から約1か月後の5月6日からは窯内の掘削に取りかかった。3基の窯を同時進行とした。窯内には縦1本と横に数本のベルトを設定した上で掘削し、6月13日に3基の窯内掘削は完了した。翌日の14日の午後に空撮を行い、19日から床面の断割作業に移行した。2号窯焼成室には床面下施設が施されていることが分かった。25日に床面下施設の図下作業をし、28日にその遺物を取上を行い、7月6日にすべての調査は終了した。



第4図 調査前地形図



その後、工事区域の変更にもなって8月18日と19日に1号窯の未調査部分の追加調査を実施し、遺構図面の修正を行っている。

### 調査日誌抄

平成9年3月18日 遺跡発見  
 4月8日 試掘調査  
 4月10日 調査区設定と基準および杭打ち  
 4月14日 作業員導入と調査開始  
 4月16日 客土除去、遺構検出と灰原等掘削開始  
 5月6日 窯内掘削開始  
 6月14日 空撮測量、現地説明会  
 6月19日 窯体断割作業開始  
 6月25日 2号窯床面下施設図化  
 6月28日 2号窯床面下施設遺物取上  
 7月6日 調査終了  
 7月8日 2号窯・3号窯消滅  
 8月18日 1号窯追加調査  
 8月19日 追加調査終了  
 8月20日 1号窯消滅（一部分残存）

区 分	大府桃山土地区画整理組	ガンジ山A古窯発掘調査会	市教育委員会	県教育委員会
文化財保護法 第57条の5	平成9年4月1日 大桃区発第9-1号		平成9年4月2日 大教生発第20号	平成9年4月7日 9教文第65-2号
文化財保護法 第57条第1項		平成9年4月10日	平成9年4月11日 大教生発第20号	平成9年4月14日 9教文第61-20号
終 了 届		平成9年7月8日		
終 了 確 認	平成9年7月9日		平成9年7月10日 9教文第65-2号	平成9年8月13日 9教文第65-2号
遺失物法 第1条		平成9年7月11日 (東海警察署提出)		
埋蔵文化財保管証		平成9年7月11日 大教生発号外	平成9年8月29日 9教文第61-20号	

第2表 発掘調査に伴う法的手続き

## 第2章 遺構



調査風景

## 第1節 窯体について

ガンジ山A古窯跡群は、3基の窯体と灰原からなる古窯跡群である。南西から北東へかけてなだらかに傾斜する丘陵の、おもにシルト層に築窯されていた。

窯体は3基とも山茶碗窯といわれる、小規模な窖窯である。窯体は3基とも遺存状態はほぼ良好であったが、前庭部から灰原にかけては、かなり削平されており、特に1号窯の前庭部から灰原全体と、2号窯・3号窯の灰原中位は完全に消失していた状態であった。

### 1号窯

本窯は焼成室の延長上に家屋が建築されているため、残念ながら焼成室上半分は調査することができなかった。また燃焼室から焚口・前庭部にかけては、耕作により滅失していた。窯体の残存長は、約7.3mである。窯体は焚口を北東に向けて築窯されており、窯体の主軸方位はS-32°-W、標高16.9m~19.2mである。

焚口から燃焼室にかけては、ほとんど消失している。わずかに燃焼室右側壁（西側）が、分焰柱中央部から長さ約80cm・高さ37cmが残存しているのみである。

分焰柱は、基底部のみが焼成室側に約半分残存していた。残存している高さは約15cm、基底部の幅は66cmで、ほぼ楕円形を呈していたものと思われる。またこの分焰柱は、地山堀り残しによって作られたものである。分焰柱中央部での窯体の幅は、床面で1.8m、通焰孔の床面幅は右が63cm・左が77cmとなっている。

焼成室は、上半分が調査できなかったため、調査できた範囲では、センターライン上で長さ約5.9m、最大幅2.26mである。側壁は高いところで98cmを残す。床面の傾斜は、分焰柱基部から69cmまでほぼ水平で、そこから86cmの地点まで12°、それ以降は26°の傾斜で上昇していく。焼成室の床面は灰黒色を呈し、よく焼き締っており、焼台も分焰柱から約4mまでは左右両側壁沿いに、またそれより上部は全体に残存していた。床面の断割調査を行なったところ、焼土面が2層検出された。上層は上から黒灰色土層・褐色土層・橙色土層となり、下層は黒色灰層・褐灰色土層・褐色土層となり、地山へと続いている。それぞれの層の厚さは、上層が約5cm~8cm、下層は15cm~25cmとなっている。下層上部の黒色灰層は、炭化物の混入した灰層であることから、上層は補修された面であると思われる。

### 2号窯

本窯は1号窯の北西約11mに位置している。焼成室上部が削平されている以外、焚口までほとんど残存している。窯体の残存長は約7.8mである。窯体は焚口を北東に向けて築窯されており、窯体の主軸方位は、S-72°-W、標高は16.0m~17.8mである。

焚口から燃焼室までの遺存状態は良好である。側壁は左右両方とも焚口までほぼ残存しており、焚口の幅は1.7m、燃焼室の幅は分焰柱基部で1.55m、燃焼室の長さは分焰柱基部まで1.69mである。燃焼室の床面傾斜は、焚口から63cmまでは9°、そこから1mまでは5°の傾斜で下降し、そこから分

焰柱基部まで約20°で上昇する。床面は灰黒色でよく焼き締っており、側壁は赤褐色を呈し、特に右側壁（北西側）は高いところで1.09mとよく残存している。また右側壁の上部には、碗類を利用して補修された面が検出されている。また右側壁の地山面から、小ピットを3か所検出した。この小ピットは、右側壁上部から25cm入った地山面に一列に並んでおり、3か所とも直径9.5cmの円形で深さはそれぞれ12cm・10cm・19cmであった。また位置は、焚口からそれぞれ37cm・49cm・83cmとなっていた。これらの小ピットは他には検出されず、位置も分焰柱よりも焚口に近く、また右側壁からも離れていることから、窯体との関連は不明である。

分焰柱は地山掘り残しによって作られ、天井部まで残存している。基底部で59cm×74cmの楕円形を呈しているが、中位から上部にかけて方形になり天井部に至る。色は灰黒色でよく焼き締っている。分焰柱は全体がかなり補修されており、時に燃焼室側の面には、右側壁と同様に皿類を貼り付けて補修された部分が検出されている。これは皿にスサ入り粘土を付けて分焰柱に貼り付け、まわりをスサ入り粘土で固めたものである。またこのスサ入り粘土による補修は、通焰孔の天井部にも施してあった。分焰柱中央部での窯体の幅は、床面で1.92m、通焰孔は右が高さ69cm・幅72cm、左が高さ83cm・幅69cmである。また残存している天井部の上部までの高さ、床面から1.26mであった。

焼成室はセンターライン上で残存長約5.5m・最大幅2.29mである。側壁は高いところで1.27mを残す。床面の傾斜は、分焰柱基部から26cmの地点まで30°、そこから34cmの地点まで4°の傾斜で下降する。そこから30cmの地点までほぼ水平で、そこから51cmの地点まで13°で上昇し、そこから2.2mの地点までは26°と急傾斜で上昇していく。そこから44cmの地点まで10°で上昇し、そこから92cmの地点までは再び29°と急上昇し、それ以降は16°で上昇していく。床面と側壁はともに灰黒色を呈し、よく焼き締っている。特に床面には、分焰柱基部から1.4mの地点まで、焼台が全体によく残存していた。床面は2層になっており、上部の補修面は分焰柱基部から4.8mの地点から始まり、焼成室上部では4cm～5cmの厚さで、分焰柱から約2mの地点からは10cm～12cmの厚さとなって、分焰柱まで続いている。

焼成室の床面の断割調査を行ったところ、床面下に碗（山茶碗）を伏せた状態または横にして敷き詰めた施設が検出された。遺物はすべて碗（山茶碗）で、個体数は313点であった。床面下施設の作られた位置は、分焰柱のまわりから焼成室中央部付近までであった。分焰柱左側（南東側）では、通焰孔の下から焼成室左側壁に沿って長さ2.57m、分焰柱右側（北西側）では分焰柱基底部から長さ1.57m、幅は最大で2.12mとなっている。この床面下施設は、分焰柱基底部から焼成室へ1.85mの地点で、地山を約20cm掘り下げて作られている。伏せられた碗の下は、地山を掘り下げた状態のままであり、碗を伏せて並べた上に砂層を敷いて、その上に粘土を貼り付けた構造であった。

敷き詰められた碗は、前述したようにほとんどが伏せられた状態であったが、左側壁沿いは横にした状態で置かれていた。碗は単体のものと熔着したものが使用され、全体の1/3は後者であった。また掘り込みの深いところでは、2枚重ねて置かれていた。伏せた碗の内部は空洞ではなく、ほとんどのものが粘土や碗の破片が詰められた状態であった。さらにこの他に排水溝と思われる溝が検出されている。この溝は分焰柱の右側通焰孔の下付近から始まって、燃焼室右側壁に沿って焚口まで続き、焚口を出たところで、前庭部を横切るように左側へと続いていた。

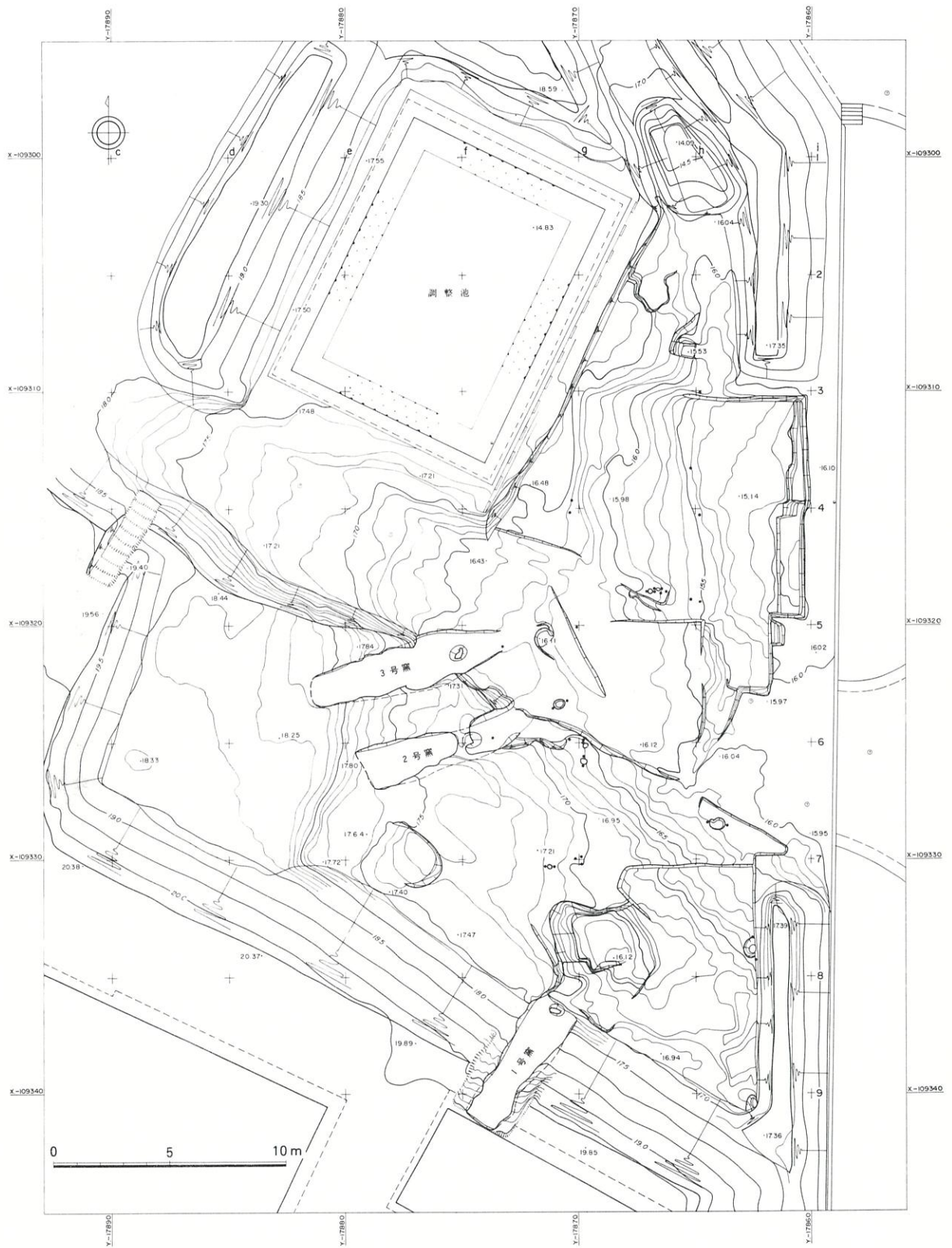
### 3号窯

本窯は2号窯の北、約2mに位置している。煙り出し部の先端と燃焼室上部が削平されている以外、焼成室から焚口まで良好に残存している。窯体の残存長は約8.9mである。窯体は焚口を北東に向けて築窯されており、窯体の主軸方位S-73°-Wで、2号窯とほとんど平行に築窯されている。標高は16.0m~18.2mである。

焚口から燃焼室までの遺存状態はほぼ良好である。側壁も左右両方とも焚口まで残存しており、焚口の幅は90cm、燃焼室の幅は分焰柱基部で1.66m、燃焼室の長さは分焰柱基部まで1.44mである。燃焼室の床面傾斜は、焚口から分焰柱に向かって69cmまでは30°、そこから80cmまでは3°の傾斜で下降している。床面は灰黒色でよく焼き締まっている。側壁は赤褐色を呈し、高いところで26cmを残している。

分焰柱は基底部のみが残存していた。残存している高さは37cm、基底部は61cm×84cmのほぼ楕円形を呈している。またこの分焰柱は地山掘り残しによって作られたものである。分焰柱中央部での窯体の幅は、床面で、1.83m、通焰孔の床面幅は、右が46cm・左が54cmとなっている。

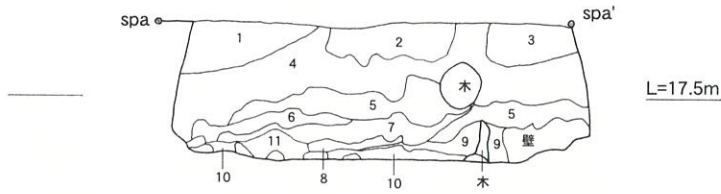
焼成室はセンターライン上で長さ6.3m・最大幅2.55mである。側壁は高いところで1.32mを残す。床面の傾斜は、分焰柱基部から31cmの地点まで2°の傾斜で下降し、そこから1.14mの地点まで8°の傾斜で上昇する。そこから2.75mの地点まで23°で急上昇し、そこからさらに72cmの地点までは17°、そこから1mの地点まで21°の傾斜で上昇し、さらに33°の傾斜で再び急上昇している。焼成室の床面は、分焰柱から約4.7mの地点まで灰黒色を呈しよく焼き締まっているが、その先は暗褐色であり焼き締っていない。この部分は煙り出し部の一部と思われる。焼成室の先端部分からは、床面に厚さ約10cmの灰層が検出された。この灰層には炭化した木材が、多量に混入しており、追い焚きをした可能性が考えられる。床面の断割調査を行ったところ2層になっていた。上部の補修面は、分焰柱基部から約4.7mの地点まで4cm~5cmの厚さで続いていた。また最終床面下、分焰柱から3.2m~4.6mの地点には、焼台がよく残存していた。



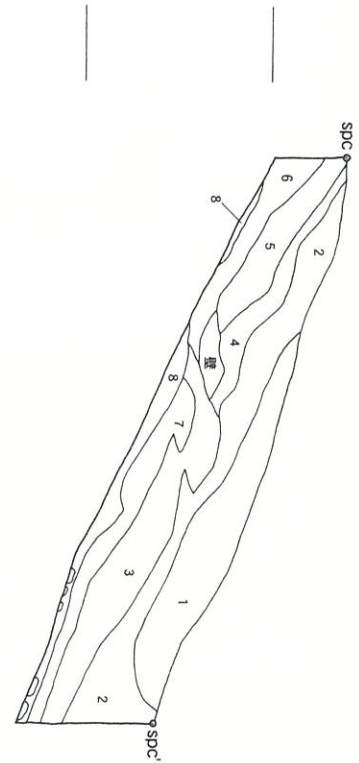
第5図 遺構配置図



第6图 1号窠窠体实测图

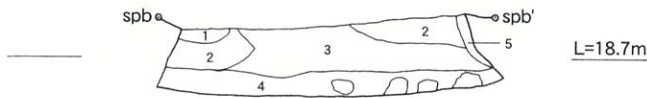


- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 1 : Hue5YR6/6   | 橙色シルト     |
| 2 : Hue10YR6/6  | 明黄褐色シルト   |
| 3 : Hue10YR5/4  | にぶい黄褐色シルト |
| 4 : Hue7.5YR6/6 | 橙色シルト     |
| 5 : Hue2.5Y6/4  | にぶい黄色シルト  |
| 6 : Hue10YR7/6  | 明黄褐色シルト   |
| 7 : Hue5YR6/8   | 橙色シルト     |
| 8 : Hue7.5R4/6  | 赤色シルト     |
| 9 : Hue5YR5/6   | 明赤褐色シルト   |
| 10 : Hue10Y4/1  | 灰色細粒砂     |
| 11 : Hue10R4/6  | 赤色シルト     |



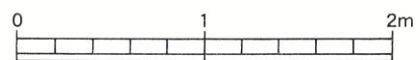
L=17.5m

L=18.5m



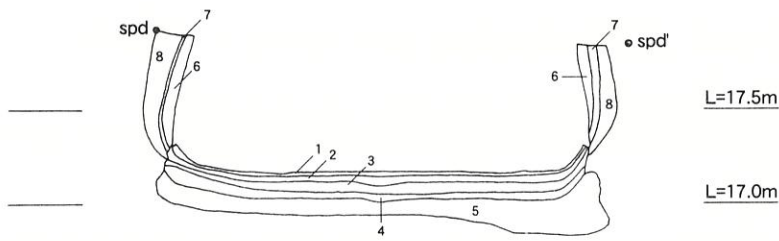
- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 1 : Hue2.5YR2/1 | 赤黒色シルト    |
| 2 : Hue5YR4/4   | にぶい赤褐色シルト |
| 3 : Hue10YR6/8  | 明黄褐色シルト   |
| 4 : Hue10YR5/6  | 黄褐色シルト    |
| 5 : Hue2.5YR4/6 | 赤褐色シルト    |

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 1 : Hue10YR6/4  | にぶい黄褐色シルト |
| 2 : Hue10YR6/6  | 明黄褐色シルト   |
| 3 : Hue7.5YR6/6 | 橙色シルト     |
| 4 : Hue5YR4/4   | にぶい赤褐色シルト |
| 5 : Hue10YR6/8  | 明黄褐色シルト   |
| 6 : Hue10YR5/6  | 黄褐色シルト    |
| 7 : Hue10YR4/6  | 赤色シルト     |
| 8 : Hue10YR4/1  | 灰色シルト     |

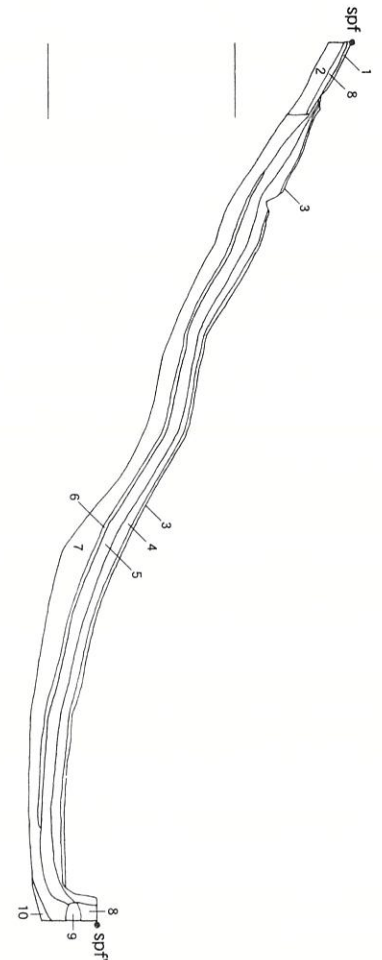


第7図 1号竈埋土セクション



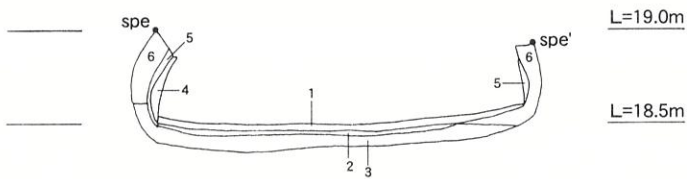


- |                   |         |
|-------------------|---------|
| 1 : Hue7.5YR4/1   | 褐灰色シルト  |
| 2 : Hue7.5YR6/8   | 橙色シルト   |
| 3 : Hue7.5YR1.7/1 | 黒色シルト   |
| 4 : Hue7.5YR3/4   | 暗褐色シルト  |
| 5 : Hue7.5YR5/1   | 褐灰色シルト  |
| 6 : Hue7.5YR6/1   | 褐灰色シルト  |
| 7 : Hue10YR7/6    | 明黄褐色シルト |
| 8 : Hue10R4/6     | 赤色シルト   |
| 9 : Hue10R4/8     | 赤色シルト   |



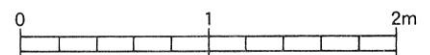
- |                   |
|-------------------|
| 1 : Hue7.5YR4/1   |
| 2 : Hue2.5YR4/8   |
| 3 : Hue7.5YR4/1   |
| 4 : Hue7.5YR6/8   |
| 5 : Hue7.5YR1.7/1 |
| 6 : Hue7.5YR3/4   |
| 7 : Hue7.5YR5/1   |
| 8 : Hue10YR7/8    |
| 9 : Hue7.5R4/8    |
| 10 : Hue7.5YR     |

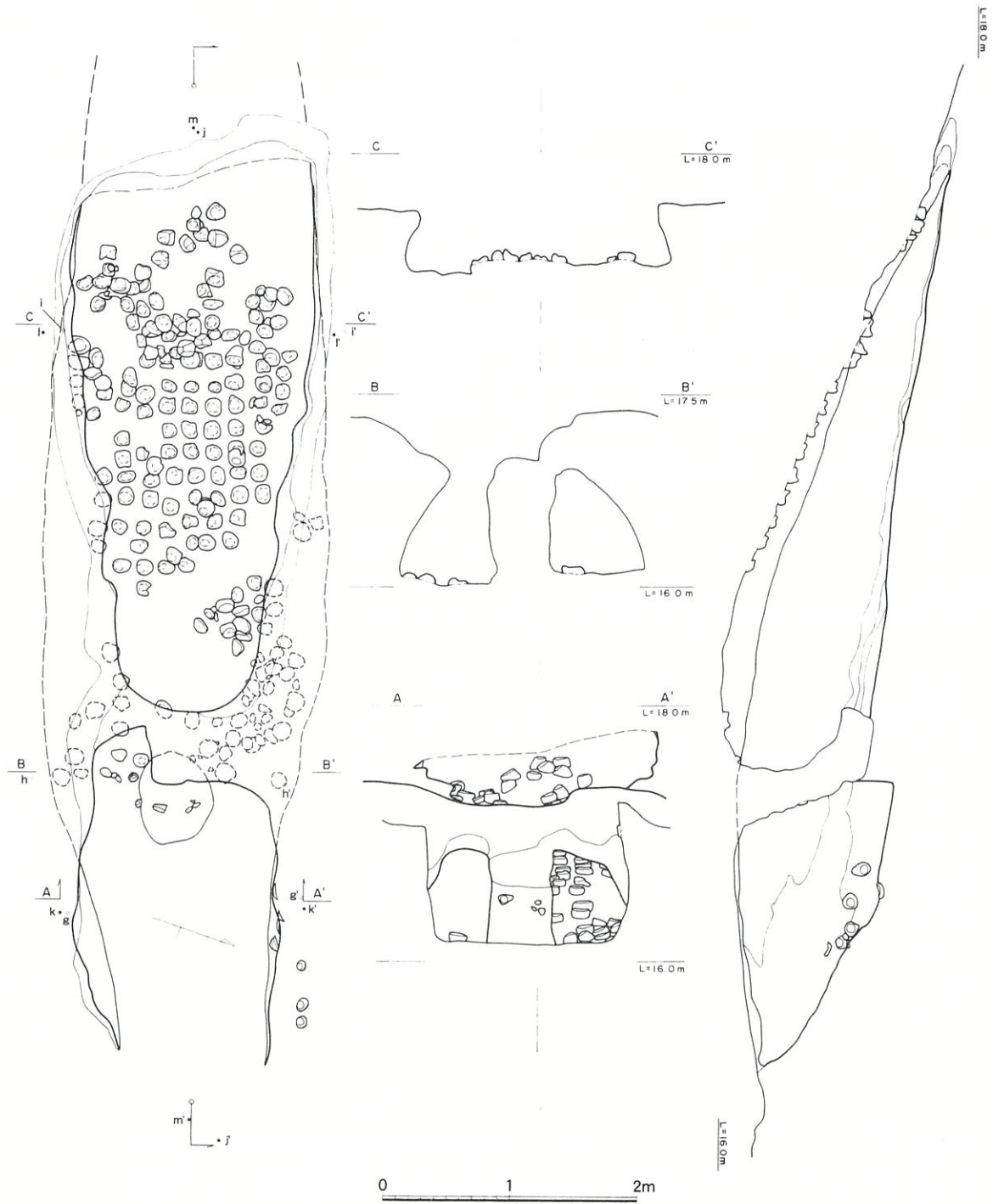
褐灰色シルト  
 赤褐色シルト  
 褐灰色シルト  
 褐色シルト  
 黒色シルト  
 暗褐色シルト  
 褐灰色シルト  
 黄褐色シルト  
 赤色シルト  
 に近い橙色シルト



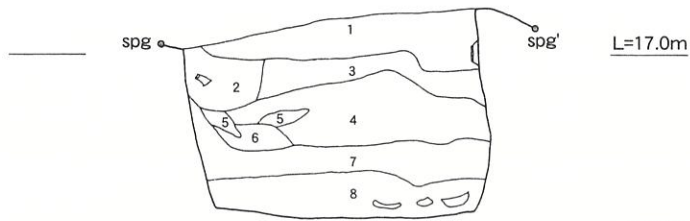
- |                 |         |
|-----------------|---------|
| 1 : Hue7.5YR4/1 | 褐灰色シルト  |
| 2 : Hue10YR7/8  | 黄橙色シルト  |
| 3 : Hue2.5YR4/8 | 赤褐色シルト  |
| 4 : Hue2.5YR6/1 | 褐灰色シルト  |
| 5 : Hue10YR7/6  | 明黄褐色シルト |
| 6 : Hue10R4/6   | 赤色シルト   |

第8図 1号窯断面セクション

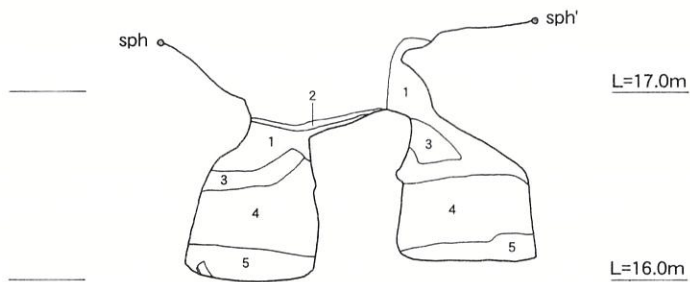




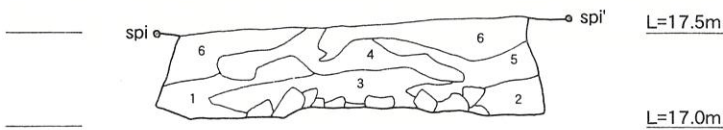
第9图 2号窠窠体实测图



- 1 : Hue10YR6/6 明黄褐色シルト
- 2 : Hue10YR6/8 明黄褐色シルト
- 3 : Hue7.5YR6/6 橙色シルト
- 4 : Hue7.5YR5/8 明褐色シルト
- 5 : Hue10R4/6 赤色シルト
- 6 : Hue2.5YR3/1 暗赤灰色シルト
- 7 : Hue2.5YR5/6 明赤褐色シルト
- 8 : Hue2.5YR3/2 暗赤褐色シルト



- 1 : Hue7.5YR5/8 明褐色シルト
- 2 : Hue10R4/6 赤色シルト
- 3 : Hue2.5YR3/1 暗赤灰色シルト
- 4 : Hue2.5YR5/6 明赤褐色シルト
- 5 : Hue2.5YR3/2 暗赤褐色シルト



- 1 : Hue7.5YR5/8 明褐色シルト
- 2 : Hue2.5YR3/1 暗赤灰色シルト
- 3 : Hue2.5YR5/6 明赤褐色シルト
- 4 : Hue10YR5/6 黄褐色シルト
- 5 : Hue5YR4/4 にぶい赤褐色シルト
- 6 : Hue5YR5/4 にぶい赤褐色シルト



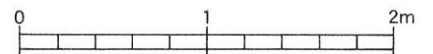
- 1 : Hue7.5YR5/4
- 2 : Hue7.5YR4/3
- 3 : Hue5YR4/4
- 4 : Hue2.5YR5/6
- 5 : Hue5YR4/3
- 6 : Hue5YR2/1
- 7 : Hue7.5YR4/2
- 8 : Hue5YR4/6
- 9 : Hue10YR6/6

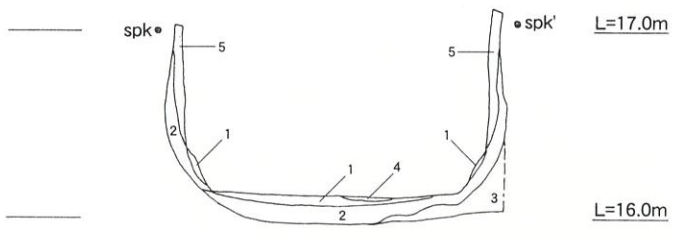
- にぶい褐色シルト
- 褐色シルト
- にぶい赤褐色シルト
- 明赤褐色シルト
- にぶい赤褐色シルト
- 黒褐色シルト
- 灰褐色シルト
- 赤褐色シルト
- 明黄褐色シルト

- 10 : Hue7.5YR6/6
- 11 : Hue7.5YR5/8
- 12 : Hue2.5YR5/6
- 13 : Hue2.5YR3/2

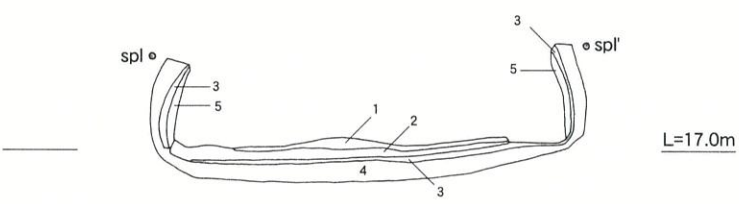
- 褐色シルト
- 明褐色シルト
- 明赤褐色シルト
- 暗赤褐色シルト

第10図 2号窯埋土セクション

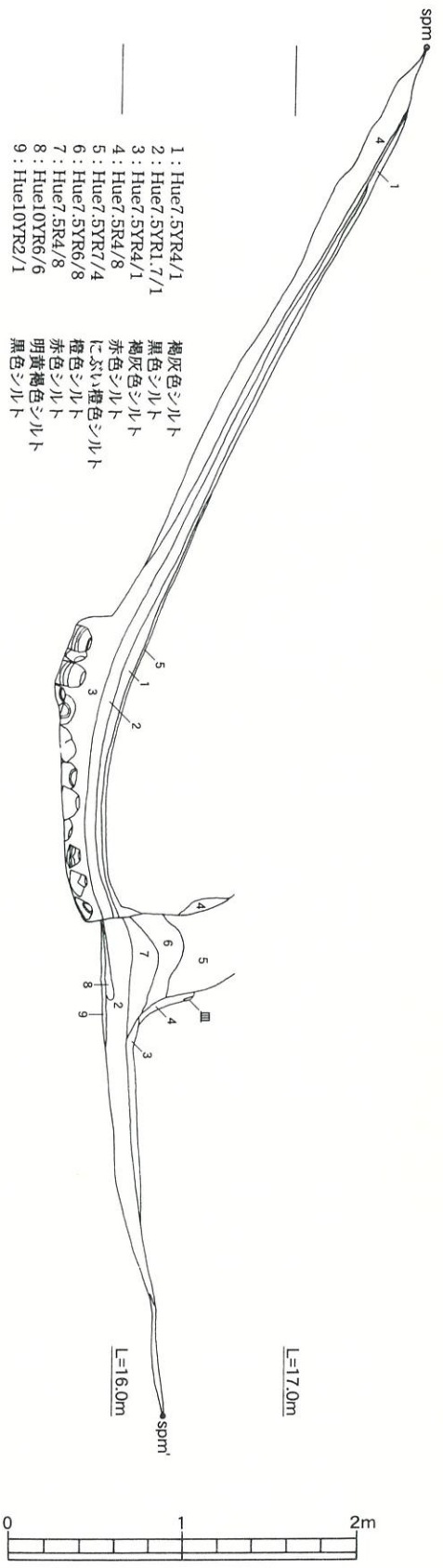




- 1 : Hue10YR6/6 明黄褐色シルト
- 2 : Hue7.5R5/8 赤色シルト
- 3 : Hue7.5YR5/6 明褐色シルト
- 4 : Hue7.5YR1.7/1 黒色シルト
- 5 : Hue10R6/6 赤褐色シルト

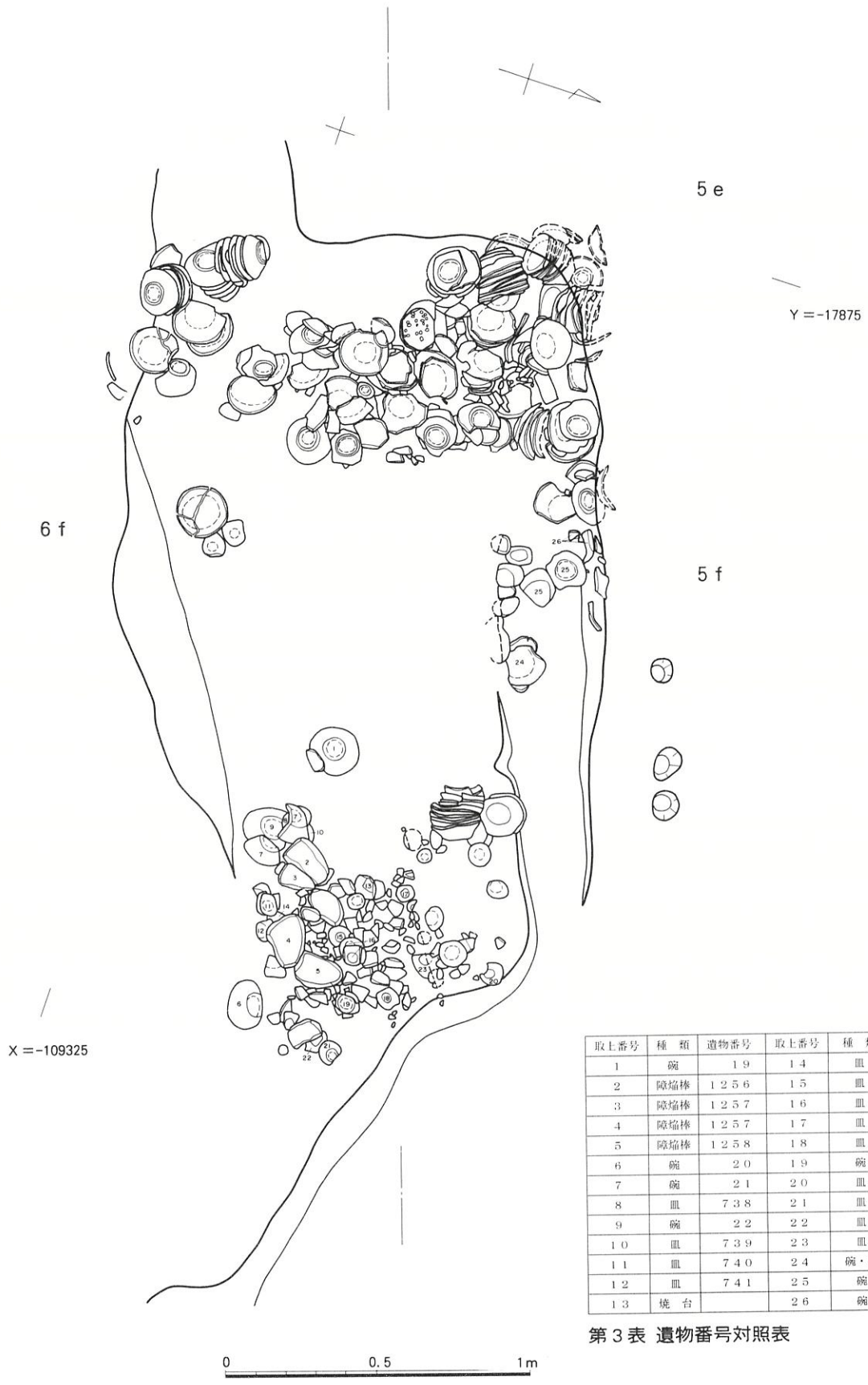


- 1 : Hue7.5YR4/1 褐灰色シルト
- 2 : Hue7.5YR1.7/1 黒色シルト
- 3 : Hue7.5YR4/1 褐灰色シルト
- 4 : Hue7.5R4/8 赤色シルト
- 5 : Hue7.5YR6/1 褐灰色シルト



- 1 : Hue7.5YR4/1 褐灰色シルト
- 2 : Hue7.5YR1.7/1 黒色シルト
- 3 : Hue7.5YR4/1 褐灰色シルト
- 4 : Hue7.5R4/8 赤色シルト
- 5 : Hue7.5YR7/4 にぶい橙褐色シルト
- 6 : Hue7.5YR6/8 橙褐色シルト
- 7 : Hue7.5R4/8 赤色シルト
- 8 : Hue10YR6/6 明黄褐色シルト
- 9 : Hue10YR2/1 黒色シルト

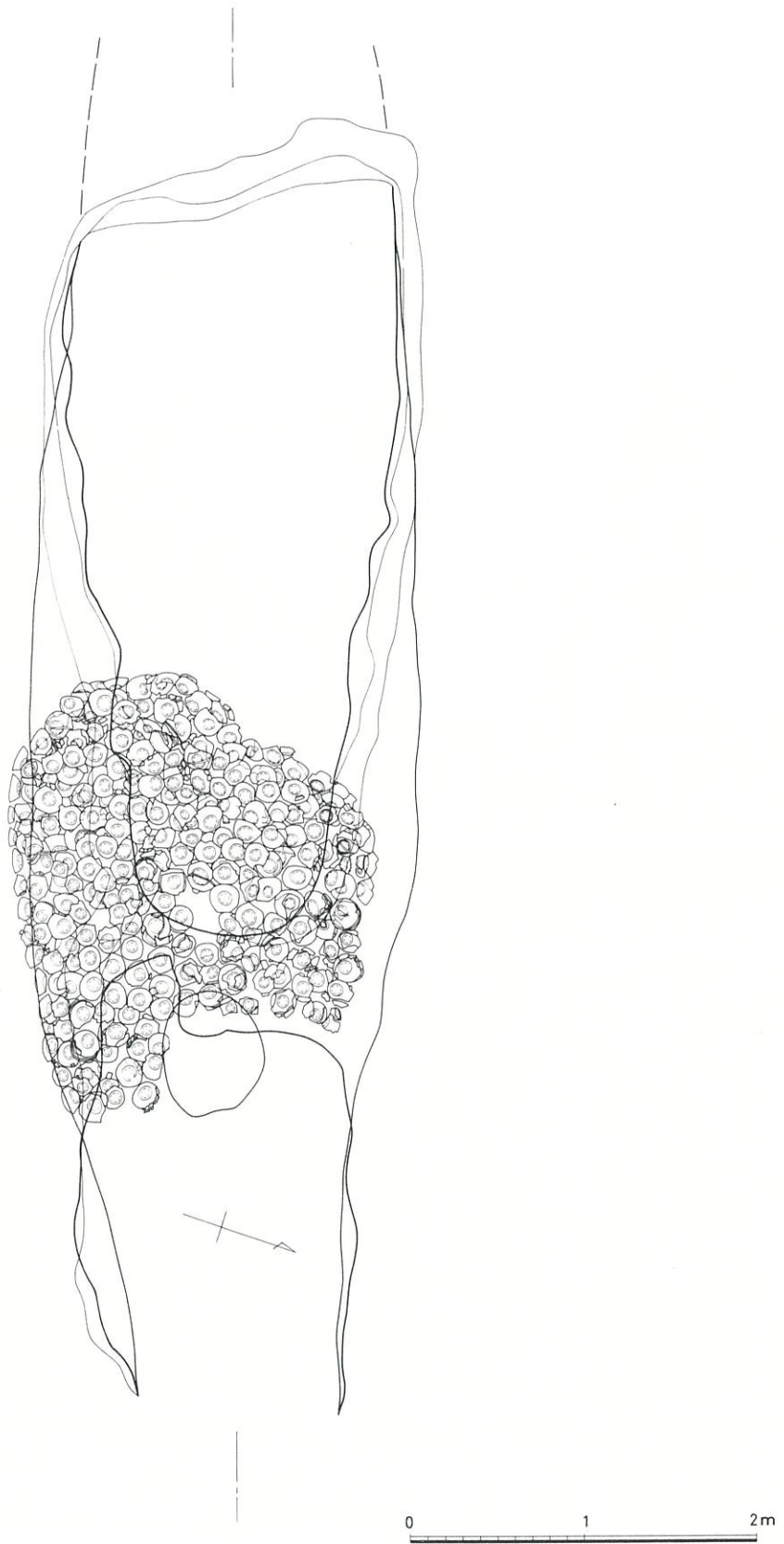
第11図 2号窯断面セクション



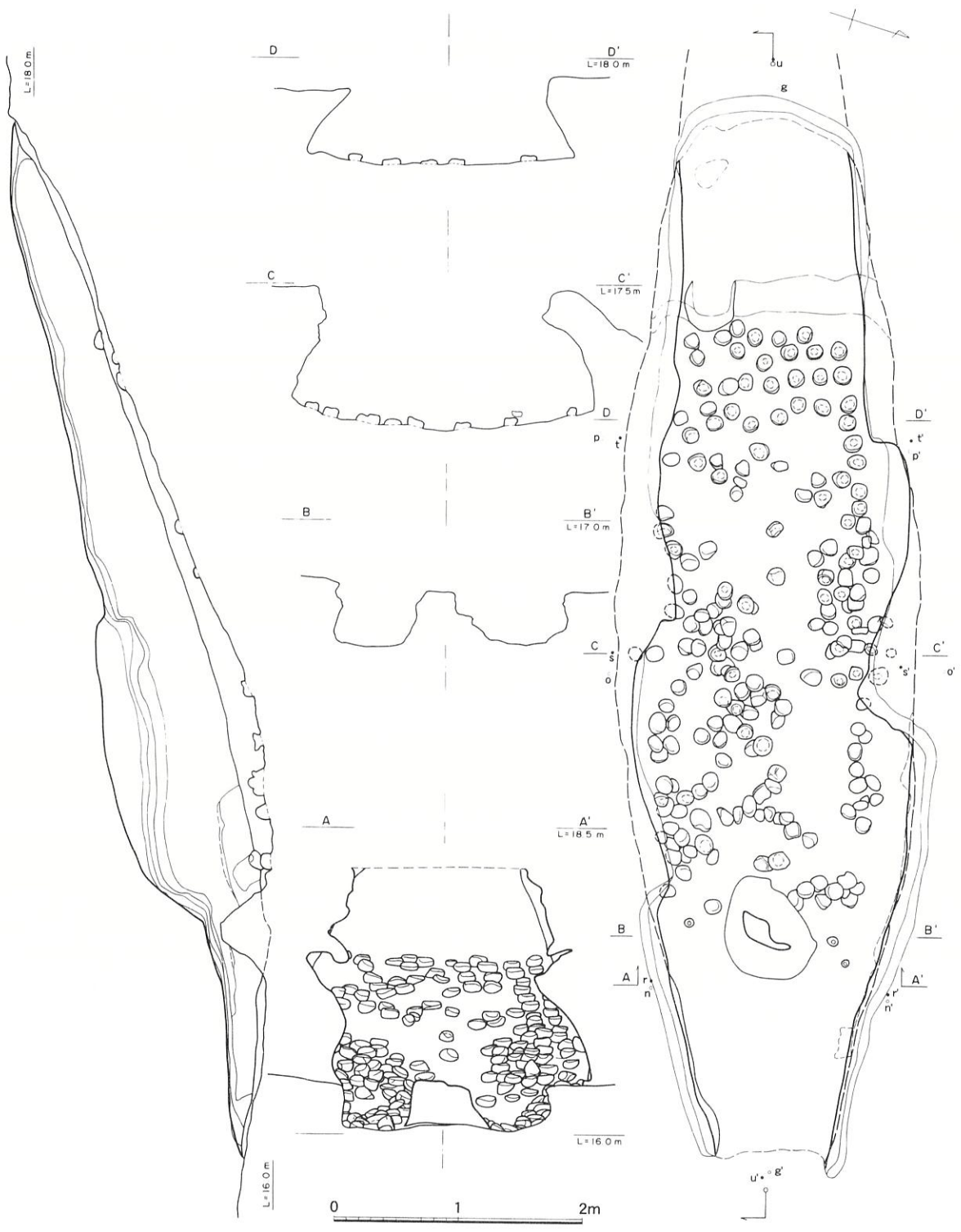
取上番号	種類	遺物番号	取上番号	種類	遺物番号
1	碗	19	14	皿	742
2	障楯棒	1256	15	皿	743
3	障楯棒	1257	16	皿	744
4	障楯棒	1257	17	皿	745
5	障楯棒	1258	18	皿	746
6	碗	20	19	碗	
7	碗	21	20	皿	747
8	皿	738	21	皿	748
9	碗	22	22	皿	749
10	皿	739	23	皿	750
11	皿	740	24	碗・皿	24
12	皿	741	25	碗	25
13	焼台		26	碗	26

第3表 遺物番号対照表

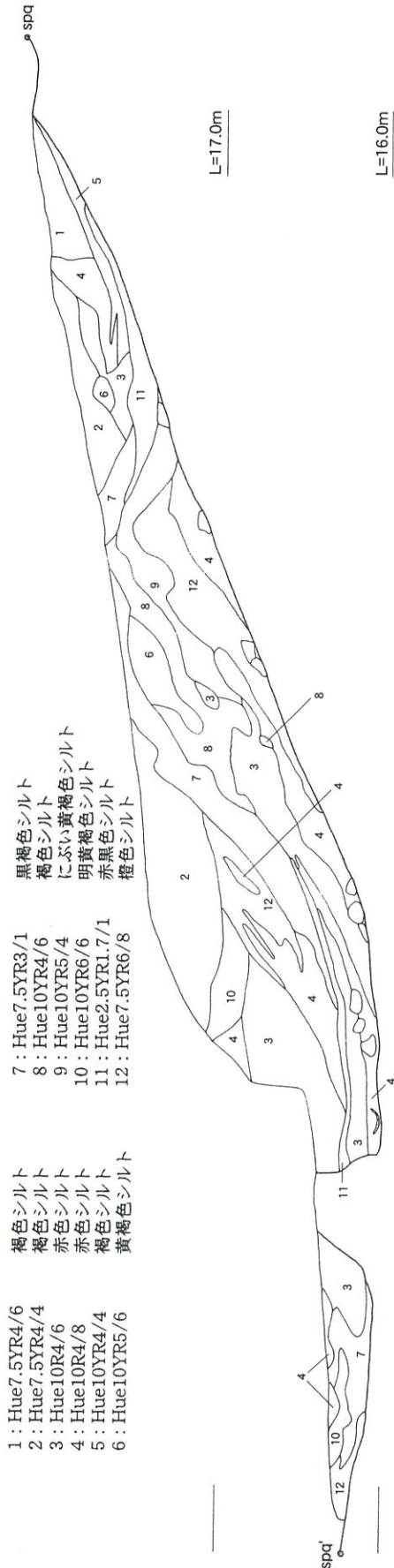
第12図 2号窯前庭部土器溜実測図



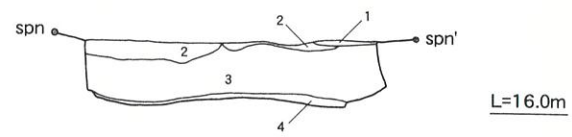
第13図 2号窯床面下施設実測図



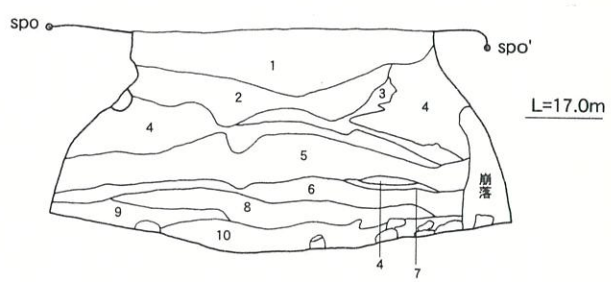
第14图 3号窰窰体实测图



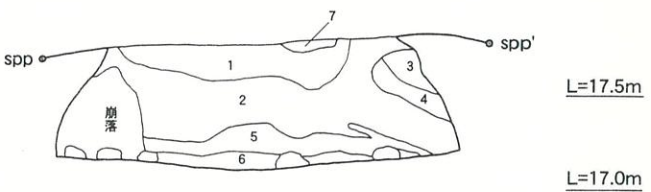
- |                    |           |
|--------------------|-----------|
| 1 : Hue7.5YR4/6    | 褐色シルト     |
| 2 : Hue7.5YR4/4    | 褐色シルト     |
| 3 : Hue10R4/6      | 赤色シルト     |
| 4 : Hue10R4/8      | 赤色シルト     |
| 5 : Hue10YR4/4     | 褐色シルト     |
| 6 : Hue10YR5/6     | 黄褐色シルト    |
| 7 : Hue7.5YR3/1    | 黒褐色シルト    |
| 8 : Hue10YR4/6     | 褐色シルト     |
| 9 : Hue10YR5/4     | にぶい黄褐色シルト |
| 10 : Hue10YR6/6    | 明黄褐色シルト   |
| 11 : Hue2.5YR1.7/1 | 赤黒色シルト    |
| 12 : Hue7.5YR6/8   | 橙褐色シルト    |



- |                   |         |
|-------------------|---------|
| 1 : Hue5YR7/6     | 橙褐色シルト  |
| 2 : Hue2.5YR3/1   | 暗赤灰色シルト |
| 3 : Hue5YR6/6     | 橙褐色シルト  |
| 4 : Hue2.5YR1.7/1 | 赤黒色シルト  |



- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 1 : Hue10YR5/4  | にぶい黄褐色シルト |
| 2 : Hue10YR4/4  | 褐色シルト     |
| 3 : Hue10YR5/8  | 黄褐色シルト    |
| 4 : Hue5YR5/8   | 明赤褐色シルト   |
| 5 : Hue5YR2/2   | 黒褐色シルト    |
| 6 : Hue2.5YR5/6 | 明赤褐色シルト   |
| 7 : Hue10YR7/8  | 黄褐色シルト    |
| 8 : Hue10YR5/6  | 黄褐色シルト    |
| 9 : Hue5YR4/1   | 褐色シルト     |
| 10 : Hue10R4/6  | 赤色シルト     |

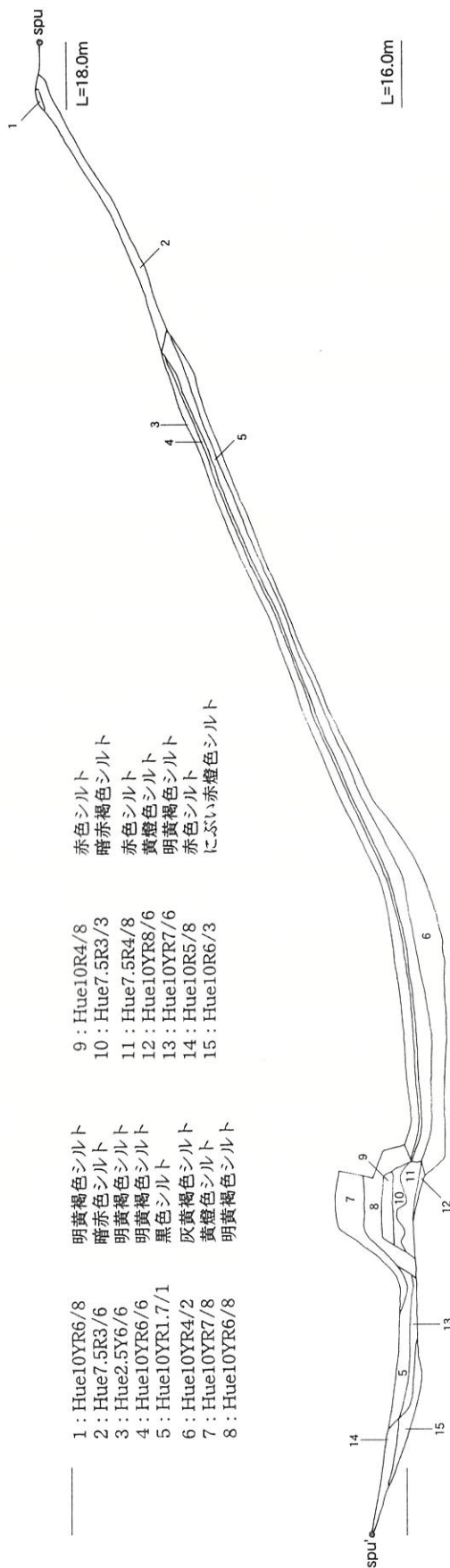


- |                   |        |
|-------------------|--------|
| 1 : Hue10YR4/4    | 褐色シルト  |
| 2 : Hue10YR5/6    | 黄褐色シルト |
| 3 : Hue7.5YR4/6   | 褐色シルト  |
| 4 : Hue10YR4/6    | 褐色シルト  |
| 5 : Hue10R4/6     | 赤色シルト  |
| 6 : Hue5YR4/1     | 褐灰色シルト |
| 7 : Hue2.5YR1.7/1 | 赤黒色シルト |



第15図 3号窯埋土セクション



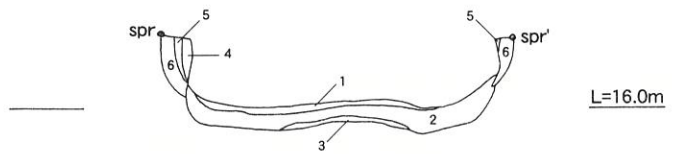


- 1 : Hue10YR6/8
- 2 : Hue7.5R3/6
- 3 : Hue2.5Y6/6
- 4 : Hue10YR6/6
- 5 : Hue10YR1.7/1
- 6 : Hue10YR4/2
- 7 : Hue10YR7/8
- 8 : Hue10YR6/8

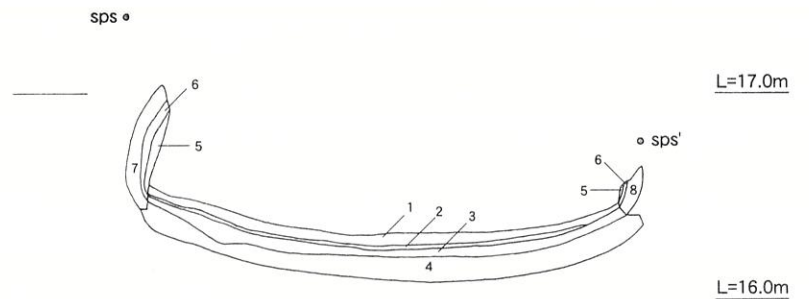
- 明黄褐色シルト
- 暗赤色シルト
- 明黄褐色シルト
- 明黄褐色シルト
- 黒色シルト
- 灰黄褐色シルト
- 黄褐色シルト
- 明黄褐色シルト

- 9 : Hue10R4/8
- 10 : Hue7.5R3/3
- 11 : Hue7.5R4/8
- 12 : Hue10YR8/6
- 13 : Hue10YR7/6
- 14 : Hue10R5/8
- 15 : Hue10R6/3

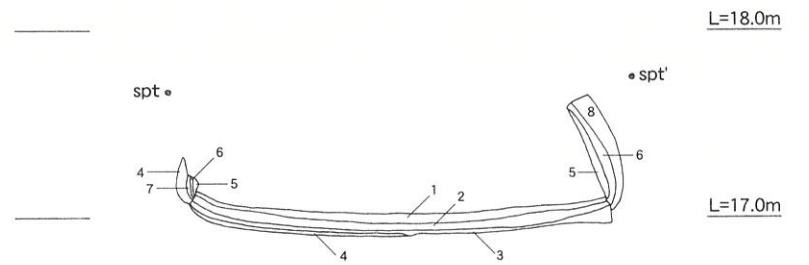
- 赤色シルト
- 暗赤褐色シルト
- 赤色シルト
- 黄褐色シルト
- 明黄褐色シルト
- 赤色シルト
- にぶい赤褐色シルト



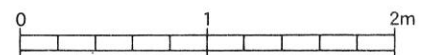
- 1 : Hue2.5Y6/6 明黄褐色シルト
- 2 : Hue10YR1.7/1 黒色シルト
- 3 : Hue10YR7/6 明黄褐色シルト
- 4 : Hue7.5YR6/1 褐灰色シルト
- 5 : Hue10YR7/4 にぶい黄褐色シルト
- 6 : Hue10R3/6 暗赤色シルト



- 1 : Hue2.5Y6/6 明黄褐色シルト
- 2 : Hue10YR6/6 明黄褐色シルト
- 3 : Hue10YR1.7/1 黒色シルト
- 4 : Hue10YR4/2 灰黄褐色シルト
- 5 : Hue7.5YR6/1 褐灰色シルト
- 6 : Hue10YR7/4 にぶい黄褐色シルト
- 7 : Hue7.5R4/8 赤色シルト
- 8 : Hue10R3/6 暗赤色シルト



- 1 : Hue10YR6/6 明黄褐色シルト
- 2 : Hue10YR1.7/1 黒色シルト
- 3 : Hue10YR4/2 灰黄褐色シルト
- 4 : Hue7.5R4/8 赤色シルト
- 5 : Hue7.5YR6/1 褐灰色シルト
- 6 : Hue10YR7/4 にぶい黄褐色シルト
- 7 : Hue2.5YR7/6 橙色シルト
- 8 : Hue10R3/6 暗赤色シルト



第16図 3号窯断面セクション

## 第2節 前庭部および灰原について

ガンジ山A古窯跡群の3基の窯体については、遺存状態は良好であったが、前庭部および灰原については、耕作や削平が激しく、遺存状態は良好とはいえなかった。

### 1号窯

1号窯は、燃烧室から焚口、前庭部及び灰原に至るまで、後生の削平のためにほぼ完全に消失していた。

### 2号窯

2号窯は、前庭部から灰原中位にかけて、工事による削平のために一部が消失していた。残存している前庭部は、焚口から約1.5mの地点までであった。床面はほぼ水平である。焚口の南側約20cmの地点と、焚口の正面約30cmの地点から土抗が検出された。焚口の南側の土抗をSK5、焚口の正面の土抗をSK4とした。

SK4は、61cm×44cmの楕円形を呈しており、床面からの深さは約10cmである。埋土中からは碗の破片が少量出土している。床面が一部削平されているために、土抗の性格は不明であるが、窯前の作業用土抗であると思われる。SK5は、1.2m×0.7mの楕円形を呈しており、床面からの深さは約25cmである。埋土中からは少量の碗の破片が出土している。

灰原は、中央部分が工事による削平のために消失している。残存している上部灰原の範囲は、焚口から南東に約8m、南へ約4mに及んでいた。灰層の厚さは、最も厚いところで30cm程度であった。灰層の上部には、かなり多量の遺物が検出されている。灰原の末端部分は、3号窯と重なっていた。

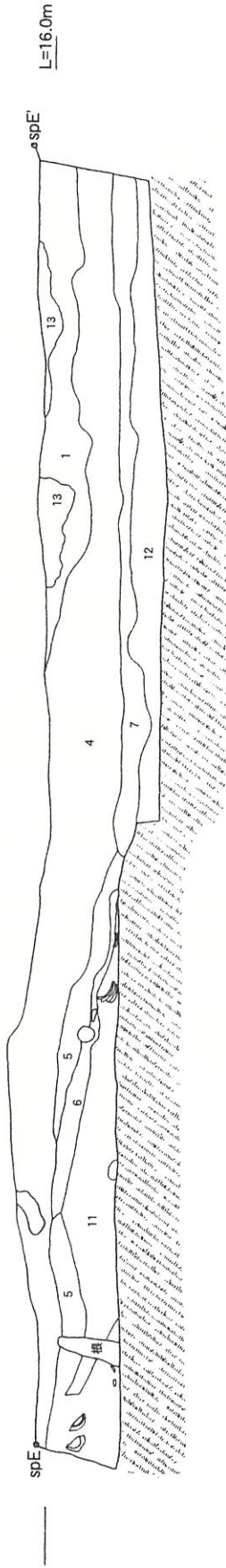
### 3号窯

2号窯は、前庭部から灰原中位にかけて、工事による削平のために消失していた。焚口の正面約30cmの地点から土抗が検出された。この土抗をSK3とした。

SK3は、直径約85cmのほぼ円形を呈している。床面からの深さは約7cmであるが、これは床面がかなり削平されているために、本来はもっと深い土抗であったものと思われる。削平が激しく、土抗の性格は不明であるが、この土抗もSK4と同様に、窯前の作業用土抗であったものと思われる。

灰原は上部から中位にかけて削平されているために、末端部分のみが残存していた。このため灰原末端部分は、2号窯の灰原との区別が明確ではないので、一括して述べる。残存している灰原末端部の範囲は、南北約5.5m、東西約7.5mであった。灰層及び遺物包含層は、東側に厚く堆積していた。灰原東側では、遺物とともにかなり多量の焼台が出土している。この灰層及び遺物包含層の厚さは、最も厚いところで約25cmであった。

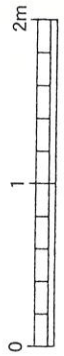
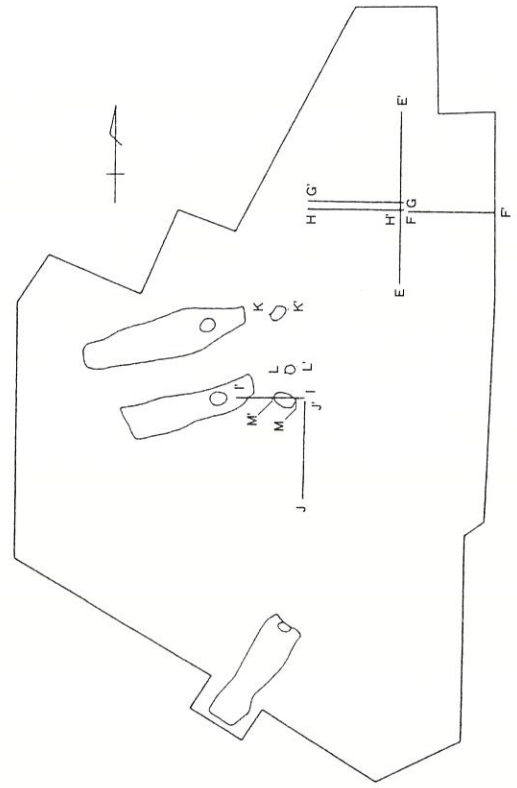
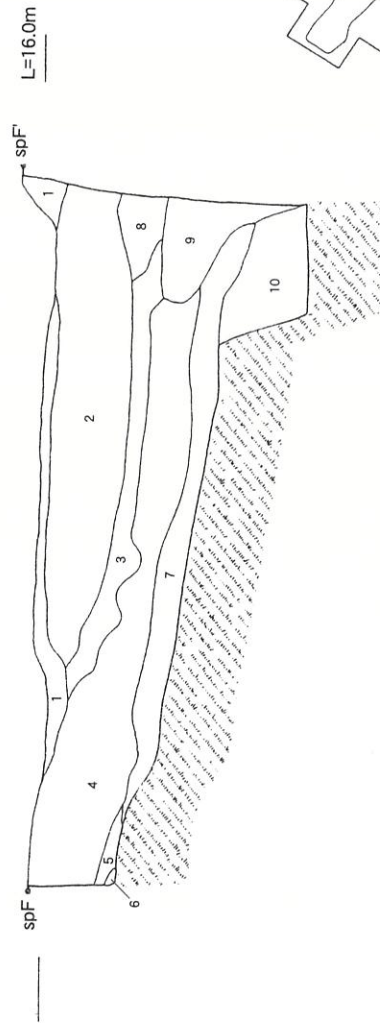
3h5h (東から)



- 7: Hue5YR4/1 褐灰色シルト
- 8: 小石層
- 9: Hue2.5R6/6 明黄褐色シルト
- 10: Hue10YR5/8 黄褐色シルト
- 11: Hue7.5YR6/8 褐色シルト
- 12: Hue10YR4/4 褐色シルト
- 13: 5YR6/8 橙色シルト

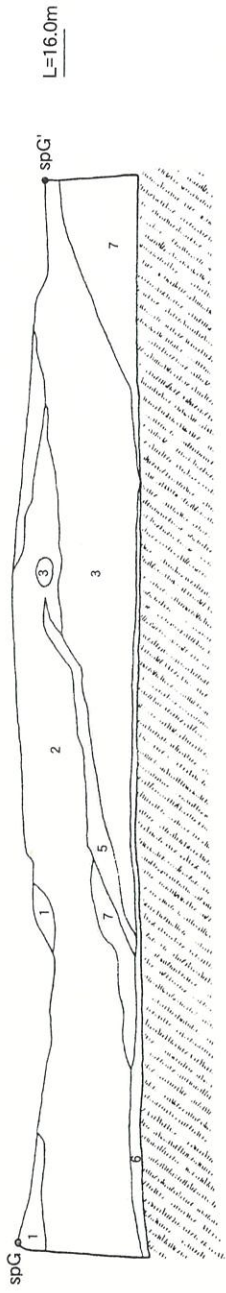
- 1: Hue10YR5/1 褐灰色シルト
- 2: Hue7.5YR7/8 黄褐色シルト
- 3: Hue7.5YR4/1 褐灰色シルト
- 4: Hue7.5YR4/4 褐色シルト
- 5: Hue5YR2/2 黒褐色シルト
- 6: Hue10R4/8 赤色シルト

4h4i (南から)



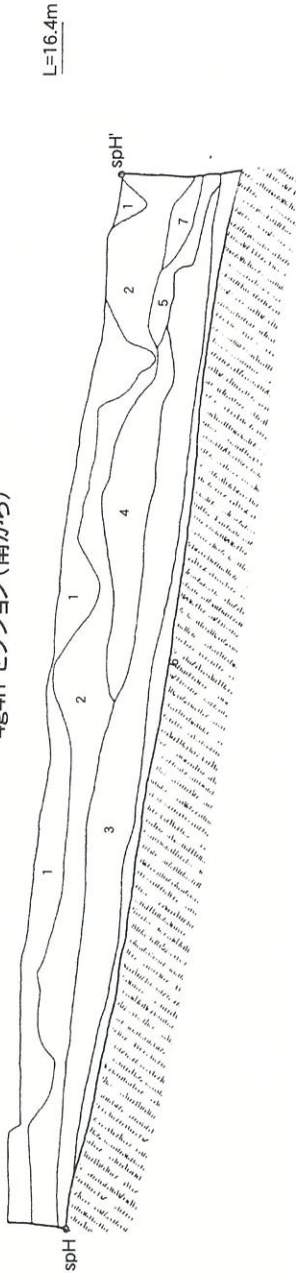
第17図 灰原セクション(1)

4g4h セクション(北から)

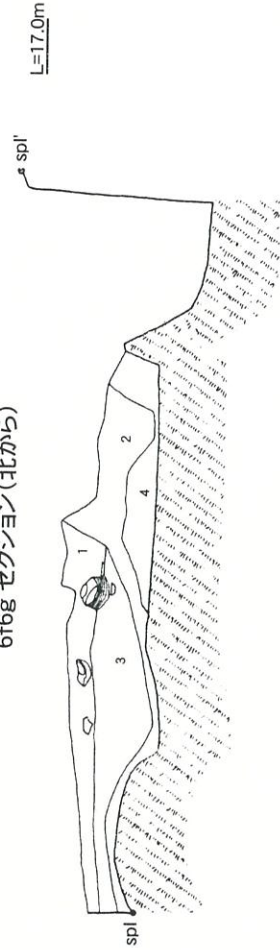


- 1 : Hue10YR5/1 褐灰色シルト
- 2 : Hue7.5YR4/4 褐色シルト
- 3 : Hue7.5YR6/8 橙色細粒砂
- 4 : Hue7.5YR7/6 橙色細粒砂
- 5 : Hue10R4/8 赤色細粒砂
- 6 : Hue5YR4/1 褐灰色シルト
- 7 : Hue5YR2/2 黒褐色シルト

4g4h セクション(南から)

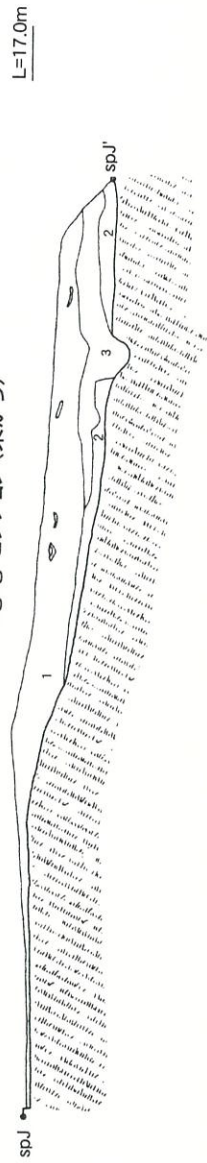


6f6g セクション(北から)

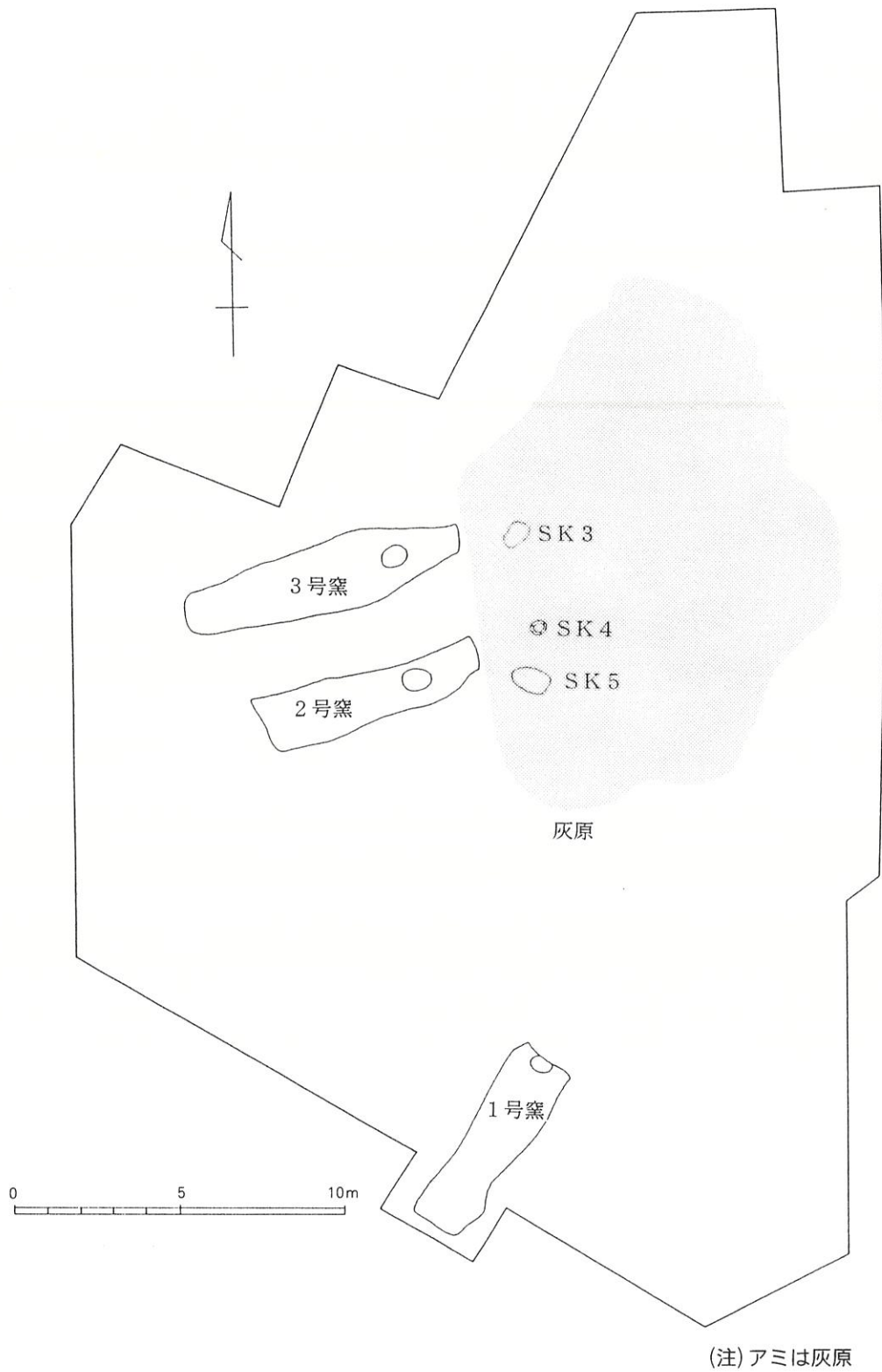


- 1 : Hue10YR6/6 明黄褐色シルト
- 2 : Hue10YR5/6 黄褐色シルト
- 3 : Hue7.5YR1.7/1 黒色シルト
- 4 : Hue7.5YR5/6 明赤褐色シルト

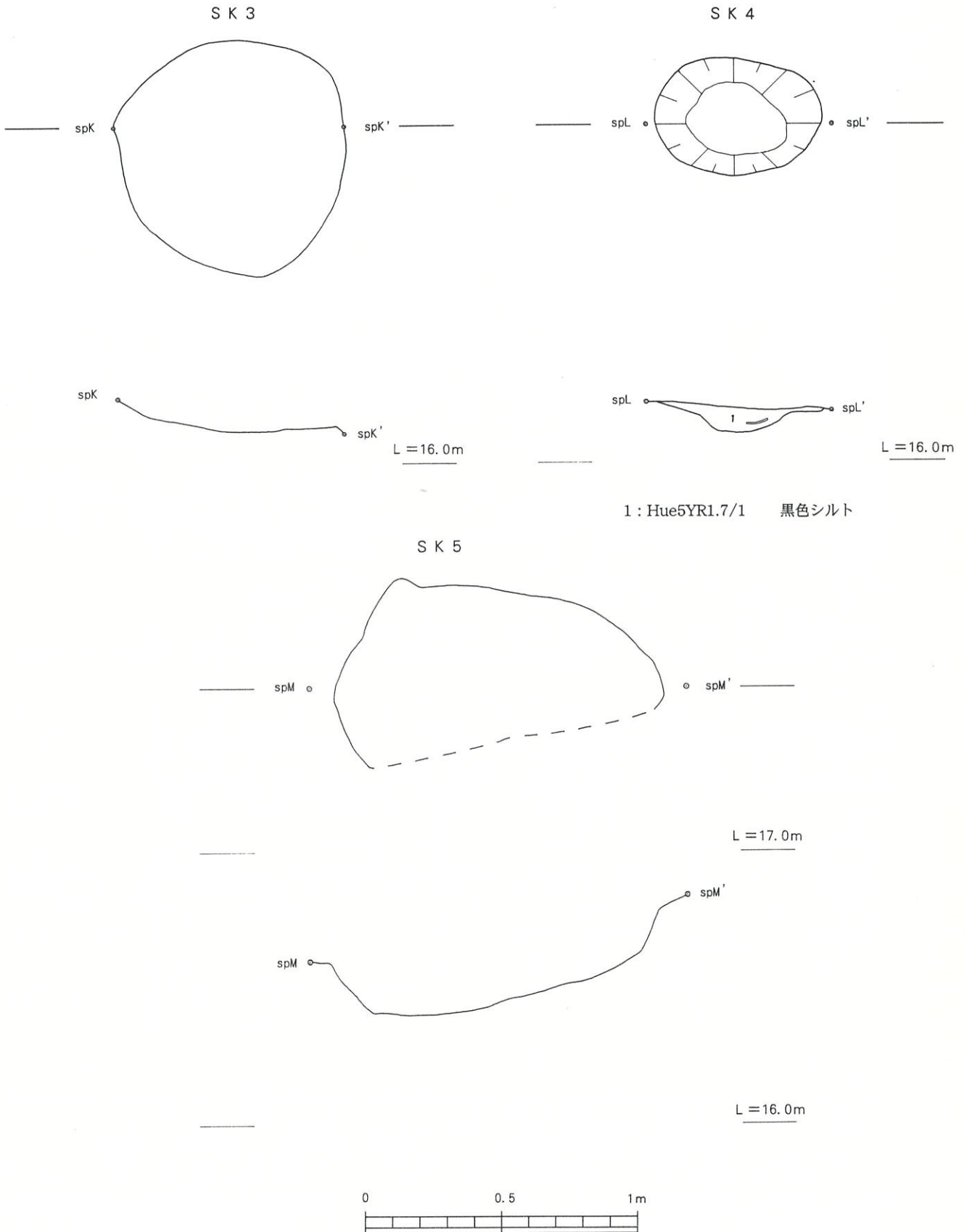
6g7g セクション(東から)



第18図 灰原セクション(2)



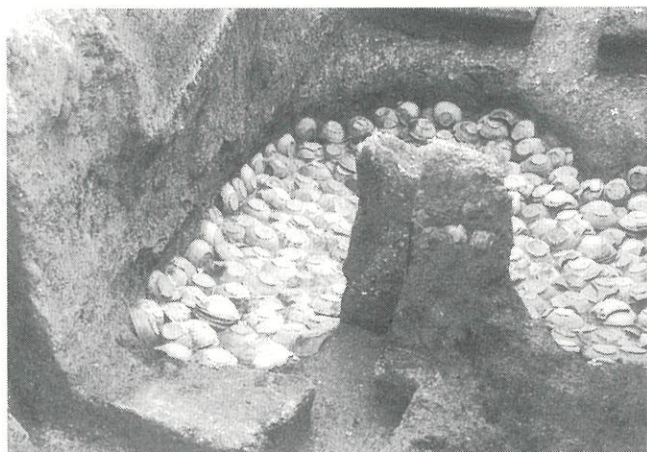
第19図 灰原位置図



第20図 S K 3 ・ S K 4 ・ S K 5 平面断面図



### 第 3 章 遺 物



遺物出土狀態



## 第1節 器形分類

今回の調査で出土した遺物は、全体で36リットルと18リットルのコンテナにして64箱である。伊勢型鍋片数点を除くと碗類と皿類に限られ、これに器種不明の陶器に窯道具の焼台と障焰棒が加わる。また、窯業生産とは無関係と思われる石鏃1点と近世の陶磁器数点がある。碗類と皿類は、中世に生産された無釉陶器である。

これらの個体識別については、碗類、皿類ともに底部を基準にした方法を採用した。すなわち、出土遺物の碗類、皿類の底部が1/2以上残存するものを1個体と数え、それ以外のものについて、一部の例外を除いて0個体と数えた。以下に記述する個体数は、すべてこの方法を用いた数値である。調査区内と床面下施設を合計した総個体数は、1565点である。器種別の内訳は、碗類が1028点、皿類が537点で碗類の全体に占める割合は65.7%である。各個体には登録番号を記し、観察による情報は観察表としてまとめた。

碗類と皿類に対しては、主として体部の断面形態をもとにした分類と、これらをさらに口縁端部の断面形態によった分類を設定した。ただし、皿類については底部に高台風になるものとそうでないものとに分けている。碗類と皿類の分類は以下に示した通りである。

### (1) 碗類

碗類は、体部と口縁端部とで分類した。

#### 体部

- A類 体部から口縁部にかけて断面形態が、直線的に立ち上がるもの
- B類 体部から口縁部にかけて断面形態が、曲線的に立ち上がるもの
- C類 体部から口縁部にかけて断面形態が、ゆるやかなS字形をとるもの
- D類 体部の断面形態が直線的であるが、口縁部付近では外反するもの
- E類 立ち上がりのところで断面形態が内側にえぐれているもの

#### 口縁端部

- 1類 口縁端部がほぼ丸みを帯びたもの
- 2類 口縁端部の断面形態が角張り、端部の内と外の曲点がそれぞれほぼ直角なもの
- 3類 端部の内側の曲点が外側の曲点より鋭角になるもの
- 4類 端部の内側の曲点が外側の曲点より鈍角になるもの
- 5類 口縁端部の端面が溝状にえぐれるもの
- 6類 口縁端部の内側が突起状にはりであるもの

### (2) 皿類

皿類は、底部が高台風になる点と、体部と口縁端部とで分類した。

#### 底部

- I系 底部が高台風にならないもの
- II系 底部が高台風になるもの

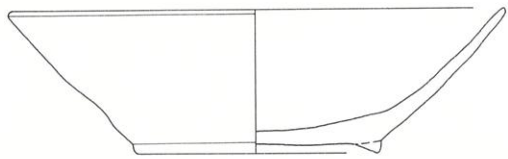
体部

- A類 体部から口縁部にかけて断面形態が、直線的に立ち上がるもの
- B類 体部から口縁部にかけて断面形態が、曲線的に立ち上がるもの
- C類 体部から口縁部にかけて断面形態が、ゆるやかなS字形をとるもの
- D類 断面形態が内側にえぐれているもの

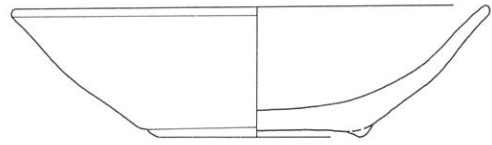
口縁端部

- 1類 口縁端部がほぼ丸みを帯びたもの
- 2類 口縁端部の断面形態が角張り、端部の内と外の曲点がそれぞれほぼ直角なもの
- 3類 端部の内側の曲点が外側の曲点より鋭角のなるもの
- 4類 端部の内側の曲点が外側の曲点より鈍角のなるもの
- 5類 口縁端部の端面が溝状にえぐれるもの

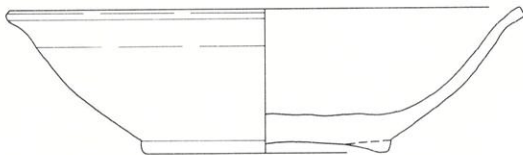
体部



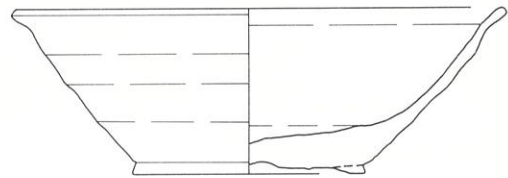
A類



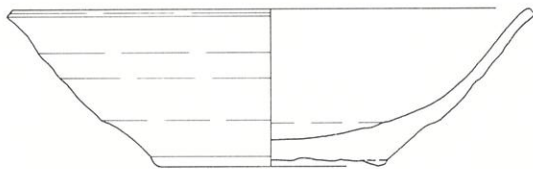
B類



C類



D類



E類

口縁端部



1類



2類



3類



4類



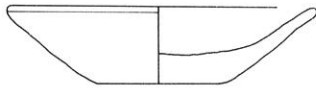
5類



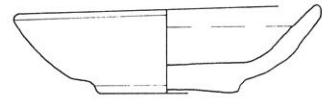
6類

第21図 碗類器形分類図

底部

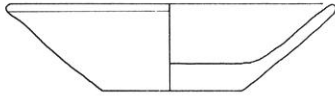


I系



II系

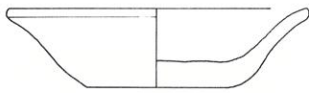
体部



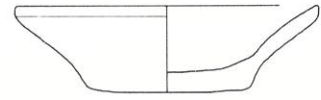
A類



B類



C類



D類

口縁端部



1類



2類



3類

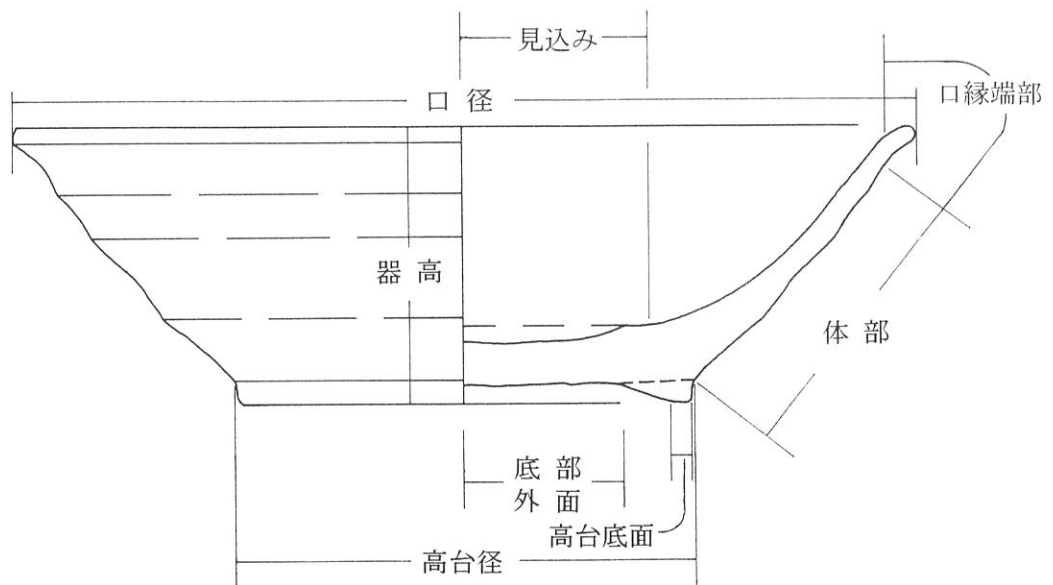


4類



5類

第22図 皿類器形分類図



第23図 部位等名称図

## 第2節 窯内と灰原などの遺物

### 1号窯に関する遺物

碗・皿・焼台および土師質鍋が出土しているが、その点数は全体に比して少量である。

#### 碗（第28～29図）

碗は9点で焼成室と燃焼室に残っていたもので、碗全体の出土総点数の1.3%である。

各部位の法量は、平均値で口径16.6cm、高台径7.9cm、器高5.4cmである。最大値は口径17.4cm、高台径8.4cm、器高5.6cmである、一方最小値は口径15.2cm、高台径7.4cm、器高5.2cmである。高台底面附着痕はもみ痕である。底部外面は糸切りか糸切り後ナデのいずれかである。見込みはナデか指ナデの2つで指ナデの方が多い。胎土は砂が混じるが、ほぼ良質で、3点には3mm大以上の小石を含むものがあつた。焼成は、良であるが、半焼けの状態のものが3点みられた。

器形分類は、A類1点、B類1点、D類5点、E類1点で、さらにD類は口縁端部のタイプで分けると2類が3点と3類が2点あつた。

#### 皿（第30・33図）

皿は6点が焼成室と燃焼室から出土した。皿全体の出土総点数のわずか1.1%にすぎない。

各部位の法量は、平均値で口径8.5cm、底径4.0cm、器高2.3cmである。最大値は口径8.8cm、底径5.0cm、器高2.5cmである、一方最小値は口径8.2cm、底径3.6cm、器高2.1cmを計測した。これらを観察すると、以下のものであつた。底部外面は、5点が糸切り、1点がナデである。見込みは、ナデが1点、指ナデが2点、不明が3点であつた。胎土は、3mm大の小石が表面に見受けられるが、土質が均質で砂分の少ない良質の土でつくられたものが5点あつた。

形態別に観察すると、底部が高台風にならないものが3点、高台風になるものが2点となつた。体部では、A類2点、B類1点、D類2点となり、口縁端部はいずれも3類であつた。

#### 焼台（第34図）

窯道具として大量の焼台が焼成室に残されていた。その中から状態のよいものを焼成室の各場所から選択して採取した。最大長13.20cm、最大幅15.90cm、最大高7.04cmを計測し、上面平坦部は窪みを有した馬蹄形をしている。

#### 土師質鍋（第33図）

土師質鍋はいわゆる伊勢型鍋で2点出土している。窯の焼成品ではないが、この窯の工人が使用したものとして各地の窯業遺跡から出土している遺物なのでとりあげる。破片点数は、21点で口縁部は特に少なく2点であつた。遺物番号1250と1251は、遺物の状態が悪く、もろい。胎土は黄橙色を呈している。1251の口縁端部は短く内側に折り返されている。

### 2号窯に関する遺物

碗・皿・焼台・障焰棒および土師質鍋が出土している。3基の窯内の中で一番出土した窯である。

#### 碗（第28・33図）

ここでは、焼成室と燃焼室およびその付近に残っていた碗の180点について述べることにする。点数

は碗全体の出土総点数の25.2%である。

各部位の法量は、平均値で口径16.3cm、高台径8.0cm、器高4.9cmである。最大値は口径17.8cm、高台径9.2cm、器高6.0cmである、一方最小値は口径14.8cm、高台径6.5cm、器高4.1cmである。高台はほとんど潰れていた。高台底面付着痕はほとんどみ痕であるが、砂痕跡が認められるのが1点あった。底部外面は糸切りか糸切り後ナデのいずれかで、糸切りは145点（80%）を占める。見込みはナデか指ナデの2つで、それぞれ90点と80点で、およそ半々であった。胎土は砂が混じるものが大半であるが、ほぼ良質である。だが、表面に3mm大以上の小石を含むものが認められ、57点あった。一方、粘土の均質なものもあり、前記のものと比較して質のよい碗が若干含まれている。焼成は、約90%が良であった。半焼けの状態のものが3点みられた。

器形分類は、体部がA類9点、B類17点、C類28点、D類49点、E類13点であり、ややばらけている。口縁端部が1類・2類・3類に集中している。

また、2号窯に関連して燃烧室壁内（北西側）と分焰柱内および2号窯床面下から出土したものについて扱う。

燃烧室壁内（北西側）からは6点出土している。各部位の法量は、平均値で口径15.9cm、高台径7.6cm、器高5.2cmである。器形分類は、体部がA類2点、D類2点、E類1点であり、口縁端部が2類4点と3類1点である。遺物番号660・662・664が該当する。

分焰柱内からは補強または修復のために使用されたものである。そのため通常遺構から出土するものと若干おもむきが異なる。それは炎にあたったように焦げていたり、補修用の土が付着したりしているからである。出土点数は2点である。遺物番号667は、口径16.0cm、高台径8.0cm、器高4.6cmを計測し、C類2に分類される。

2号窯床面下から出土したものは調査中に遺構面からはずれたものと考えられるものである。出土点数は3点である。法量は、平均値で口径16.5cm、高台径8.2cm、器高5.2cmを計測し、いずれもC類3である。遺物番号704・705・706が該当する。

### 皿（第30・33図）

皿は97点が焼成室と燃烧室及びその付近から出土した。皿全体の出土総点数の18.1%である。

各部位の法量は、平均値で口径8.2cm、底径4.0cm、器高2.1cmである。最大値は口径9.2cm、底径4.6cm、器高2.5cmである、一方最小値は口径7.3cm、底径3.2cm、器高1.7cmを計測した。これらを観察すると、以下のものであった。底部外面は、94点が糸切り、2点がナデ、1点が不明である。見込みは、ナデが65点、指ナデが19点、不明が13点であった。胎土は、3mm大の小石が表面に見受けられるものもあるが、1号窯のような土質が均質で砂分の少ない良質の土でつくられたものはなかった。焼成の方も焼きの不完全なものはなかった。

形態別に観察すると、底部が高台風にならないものが73点、高台風になるものが12点であった。体部では、A類18点、B類13点、C類38点、D類16点となり、口縁端部は1類18点、2類3点、3類25点、4類2点、5類37点という結果だった。体部と口縁端部との組み合わせは、C類5の18点が最大である。

また、2号窯に関連して分焰柱内から出土したものについて扱う。碗と同様、分焰柱内からは補強

または修復のために使用されたものである。そのため通常遺構から出土するものと若干おもむきが異なる。それは炎にあたったように焦げていたり、補修用の土が付着したりしているからである。出土点数は6点である。遺物番号は1225から1230が該当する。1226は、完形品で口径8.5cm、底径4.1cm、器高2.5cmを計測し、I系D類3に分類される。器形はI系が4点、II系が2点で、A類4が1点とD類4が5点とに分類できた。

#### 焼台（第34図）

窯道具として大量の焼台が燃焼室と焼成室に残されていた。その中から状態のよいものを燃焼室から1点、焼成室から5点の計6点を各場所から選択して採取した。最大長12.38cm、最大幅11.12cm、最大高6.13cmを計測し、上面平坦部は窪みを有した馬蹄形をしている。

#### 障焰棒（第35図）

出土総点数4点のうち3点が2号窯焚口から出土している。遺物番号1256は、完全な形で残存しており、高さ14.75cm、底径平均8.84cmを計測した。表面には緑色系の自然釉がかかっている。また、形状は円錐形をなしており、きれいに成形されてはいない。1257は、高さ16.5cm、底径平均12.05cmを計測し、全体の75%が残存している。底部はややもろいが、表面には緑色系の自然釉がかかっている。また、形状は円錐形をなしており、形は整えられてはいない。胴体には目的が不明な穴が1か所開けられている。穴は入り口の径1.1cm、中の径0.5cmを計測する。1258は、全体の50%しか残存していない。高さ15.9cm、底径平均13.44cmを測る。これにも、体部に穴が1か所開けられており、入り口の径2.0cm、中の径0.5cmを計測する。底部はややもろいが、表面には緑色系の自然釉がかかっている。

#### 3号窯に関する遺物

碗と皿および焼台が出土している。

#### 碗（第29図）

碗は54点で焼成室と燃焼室に残っていたもので、碗全体の出土総点数の7.6%である。

各部位の法量は、平均値で口径16.6cm、高台径8.1cm、器高5.1cmである。最大値は口径19.0cm、高台径9.3cm、器高5.5cmである、一方最小値は口径15.2cm、高台径7.0cm、器高4.5cmである。高台はほとんど潰れていた。高台底面付着痕はほとんどみ痕であるが、砂痕跡が認められるのが1点あった。底部外面は糸切り・糸切り後ナデ・ナデのいずれかで、糸切りは29点、糸切り後ナデは20点を数える。見込みはナデか指ナデのいずれかで、それぞれ25点と26点であった。胎土は砂が混じるものが大半であるが、ほぼ良質である。だが、表面に3mm大以上の小石を含むものが認められ、15点あった。一方、粘土の均質なものもあり、前記のものと比較して良質の碗が若干含まれている。焼成は、72%が良であった。

器形分類は、A類2点、B類3点、C類10点、D類11点、E類2点であり、ややばらけている。口縁端部のタイプは1類と3類に集中している。

#### 皿（第30図）

皿は9点が焼成室と燃焼室から出土した。皿全体の出土総点数のわずか1.7%である。

各部位の法量は、平均値で口径8.0cm、底径3.8cm、器高2.2cmである。最大値は口径8.9cm、底径4.1cm、器高2.3cmである、一方最小値は口径7.6cm、底径3.6cm、器高2.0cmを計測した。これらを観察す

ると、以下のものであった。底部外面は、糸切り9点のみであった。見込みは、ナデが8点、指ナデが0点、不明が1点であった。胎土は、3mm大の小石が表面に見受けられるものが2点あるが、1号窯のような土質が均質で砂分の少ない良質の土でつくられたものはなかった。焼成の方も焼きの不完全なものはなかった。

形態別に観察すると、底部が高台風にならないものが8点で他はない。体部では、A類1点、B類1点、C類0点、D類6点となり、口縁端部は1類2点、2類0点、3類3点、4類1点、5類2点という結果だった。体部と口縁端部との組み合わせはD類3の3点が最大である。

#### 焼台 (第34図)

窯道具として大量の焼台が焼成室に残されていた。その中から状態のよいものを焼成室の各場所から9点を選択して採取した。最大長14.41cm、最大幅13.19cm、最大高6.48cmを計測し、上面平坦部は窪みを有した馬蹄形をしている。

#### 灰原に関する遺物

碗・皿・焼台・障焰棒・器種不明の土器片が出土している。

#### 碗 (第29図)

碗は435点で6fと6gのグリッドに集中して残っていたもので、碗全体の出土総点数の61.0%を占める。

各部位の法量は、平均値で口径16.5cm、高台径7.9cm、器高4.7cmである。最大値は口径18.0cm、高台径9.4cm、器高5.3cmである、一方最小値は口径15.0cm、高台径6.6cm、器高4.0cmである。高台はほとんど潰れていた。高台底面付着痕はほとんどみ痕で94%を占める。砂痕跡が認められるのがわずかに6点であった。底部外面は糸切り・糸切り後ナデ・ナデのいずれかで、糸切りは230点、糸切り後ナデは184点、ナデは10点を数える。見込みはナデか指ナデのいずれかで、ここではナデが317点と指ナデの101点の3倍であった。胎土は砂が混じるものが大半であるが、ほぼ良質である。だが、表面に3mm大以上の小石を含むものが認められ、125点(28.7%)あった。一方、粘土の均質なものもあり、前記のものと比較して質のよい碗が30点含まれている。焼成は、410点(94%)が良という結果であった。

器形分類は、A類13点、B類17点、C類56点、D類53点、E類12点であり、C類とD類が主なタイプであった。口縁のタイプは1類が74点と最多であった。

#### 皿 (第30・31・33図)

皿は408点が主に6fと6gのグリッドから出土した。皿全体の出土総点数の80.0%を占める。

各部位の法量は、平均値で口径8.6cm、底径4.4cm、器高2.1cmである。最大値は口径9.8cm、底径5.4cm、器高2.6cmである、一方最小値は口径7.4cm、底径3.5cm、器高1.7cmを計測した。これらを観察すると、以下のものであった。底部外面は、405点が糸切り、糸切り後ナデが1点、ナデが1点、不明が4点であった。見込みは、ナデが326点、指ナデが27点、不明が53点であった。胎土は、3mm大の小石が表面に見受けられるものが65点あるが、1号窯のような土質が均質で砂分の少ない良質の土でつくられたものは10点(2.5%)しかなかった。焼成の方も焼きの不完全なものはなかった。

形態別に観察すると、底部が高台風にならないものが210点、高台風になるものが37点であった。体

部では、A類102点、B類28点、C類56点、D類61点となり、口縁端部は1類131点、2類12点、3類73点、4類13点、5類18点という結果だった。体部と口縁端部との組み合わせはA類1の76点が最大である。

#### 焼台 (第34図)

窯道具として大量の焼台が灰原に残されていた。その中から状態のよいものを7点紹介する。最大長14.65cm、最大幅13.42cm、最大高6.77cmを計測し、上面平坦部は窪みを有した馬蹄形をしている。

#### 障焰棒 (第35図)

2号窯にごく近い灰原から出土している。点数は1点のみである。遺物番号1255は、高さ12.5cm、底径平均10.79cmを計測し、全体の80%が残存している。底部はややもろいが、表面には緑色系の自然釉がかかっている。また、形状は円錐形をなしており、整った形ではない。

#### 器種不明の土器

3hのグリッドから出土した土器片で、縦6.43cm、横6.19cm、厚さ1.48cmを計測し、ほぼ正方形をなし、やや湾曲している。胎土の色はやや焼成不良のためか橙色を呈している。碗や皿より若干の厚みがあるので、それらの破片ではないと思われる。おそらく壺系の製品片と想像されるのだが、当遺跡からは比較できる遺物は1点も出土していないため、推測の域にとどめておく。

#### SK4・SK9の遺物

##### 碗

SK4から1点、SK9から3点出土している。遺物番号656・657・658・659が該当する。法量は、平均値で口径16.7cm、高台径7.9cm、器高4.7cmを計測し、器形はA類3、C類2、D類2に分類された。

##### その他の遺物

調査区域外または遺跡表面で採取された碗・皿および石鏝を扱う。

##### 碗

出土総点数の内22点が該当し、遺物番号668から689までに紹介した。完全なものではなく、口縁の一部が残存するか、高台または底部が残るのみのものがほとんどである。

##### 皿 (第31図)

出土総点数の内11点が該当し、遺物番号1235から1245までに紹介した。これらは、攪乱された場所と思われる7g・7h・8hグリッドから採取されたものである。法量は、平均値で口径8.3cm、高台径4.2cm、器高2.0cmを計測し、器形はA類、B類、C類、D類が確認された。

##### 石鏝 (第33図)

4fのグリッドの表面から採取されたもので、窯の製品または窯道具のいずれにも属さない遺物である。最大長1.98cm、最大幅1.52cm、最大厚0.27cmの小型の石鏝で、石の色は茶褐色を呈し、下呂石と思われる。図のとおり一部欠損している。時代的には縄文時代の遺物である。しかし、なぜここで出土したかは不明である。おそらく、他に縄文時代の遺跡が存在するか、他の遺跡からの流れ込みと想像される。



### 第3節 床面下施設の遺物

ここでは、2号窯焼成室床面の下に築かれた床面下施設に使用された土器について述べることにする。313点の碗にてこの施設は構築されている。取上時の状況は、以下の第5表から第13表を、図は第32・33図を参照していただきたい。なお取上番号は1から287までであるが、これは単独の碗が複数枚重ねられていたため点数と番号は一致していないのである。

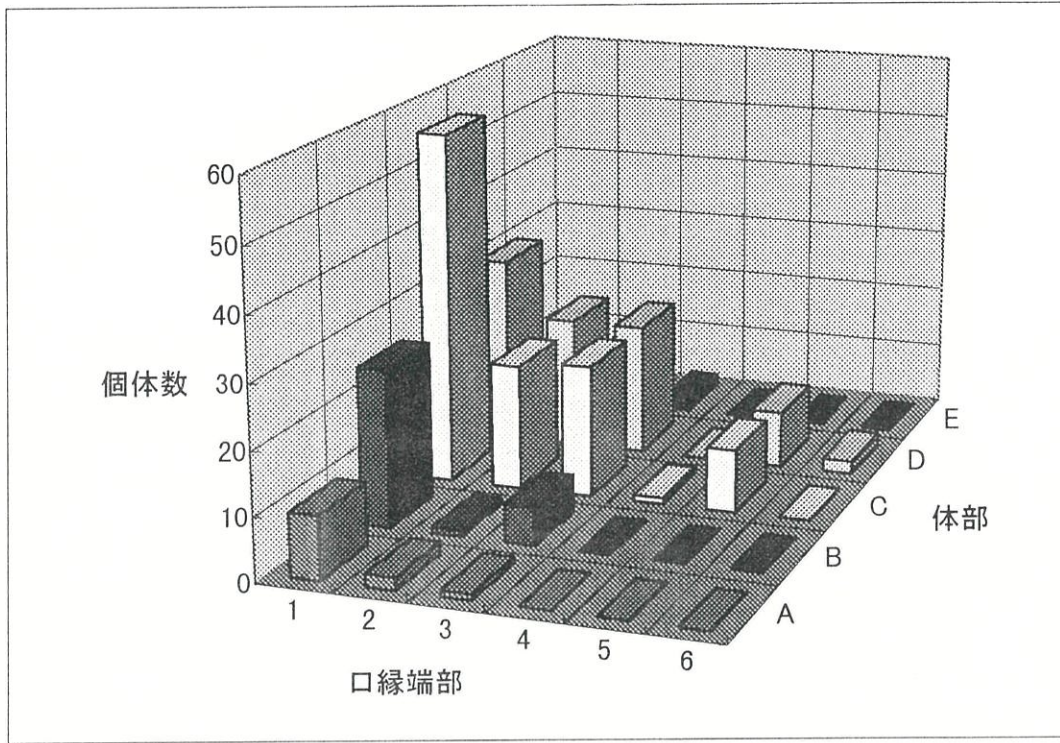
碗を詳しく観察すると以下のようになった。

各部位の法量は、平均値で口径16.4cm、高台径8.0cm、器高4.7cmである。最大値は口径17.9cm、高台径9.7cm、器高5.7cmである、一方最小値は口径14.2cm、高台径6.6cm、器高4.0cmである。高台底面付着痕はほとんどみ痕で301点（96%）を占める。砂痕跡が認められるのがわずかに6点であった。底部外面は糸切り・糸切り後ナデ・ナデのいずれかで、糸切りは285点、糸切り後ナデは9点、ナデは17点を数える。見込みはナデか指ナデのいずれかで、ここではナデが238点と指ナデの43点であった。胎土は砂が混じるものが大半であるが、ほぼ良質である。だが、表面に3mm大以上の小石を含むものが認められ、180点（57.5%）あった。一方、粘土の均質なものもあり、前記のものと比較して質のよい碗が77点存在していた。焼成は、297点（94%）が良という結果であった。概して、窯内や灰原から出土した碗と違いは認められなかった。その中で、遺物番号1571は口径17.3cm、高台径9.6cm、器高4.8cmを計測し、D類6というタイプに分類された。高台が平均値よりもやや大きく、高台自身も大きい。また、1589も口縁が全く欠損しているが、高台径9.7cmを測り、1571と同様のものと思われる。

器形分類は、分類可能な246点のうち、A類13点、B類32点、C類108点、D類83点、E類10点であり、C類とD類が主なタイプであった。口縁のタイプは1類が127点と1番多かった。この傾向は遺構の遺物のそれと同様であり、この施設に使用したものはこの窯で焼かれたものと判断できる。

口縁端部 体部	口縁端部						合計
	1類	2類	3類	4類	5類	6類	
A類	10	2	1	0	0	0	13
B類	5	1	6	0	0	0	32
C類	6	20	21	1	10	0	108
D類	30	21	21	0	9	2	83
E類	6	2	2	0	0	0	10
合計	127	46	51	1	19	2	246

第4表 2号窯出土碗類器形分類別組合せ表

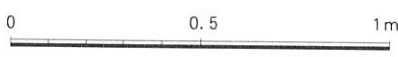


第24図 2号窯床面下施設遺物器形分別類組成図



Y = -17875

X = -109325



第25図 2号窯床面下施設遺物取上位置番号図

取上番号	器種名	出土状態	個体数（高台数）	破片の有無	遺物観察表対照	備考
1	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1287	
2	碗	伏せ	1	有り	1288	
3	碗	伏せ	2	有り	1289,1290	
4	碗	伏せ	1	有り	1291	
5	碗	横	1	なし	1292	完形品
6	碗	伏せ	1	有り	1293	
7	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1294	
8	碗	伏せ	1	有り	1295	
9	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1296	
10	碗	伏せ	1	有り	1297	
11	碗	伏せ	1	有り	1298	
12	碗	伏せ	1	有り	1299	
13	碗	伏せ	1	有り	1300	
14	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1301	
15	碗	伏せ	1	有り	1302	
16	碗	横	2	有り	1303,1304	
17	碗	伏せ	1	有り	1305	
18	碗	伏せ	1	有り	1306	
19	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1307	
20	碗	伏せ	1	有り	1308	
21	碗	横	1	有り	1309	
22	碗	伏せ	1	有り	1310	
23	碗（重ねと単体）	伏せ	2	有り	1311,1312	
24	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1313	
25	碗	伏せ	1	有り	1314	
26	碗	伏せ	1	有り	1315	
27	碗	伏せ	1	有り	1316	
28	碗（重ねと単体）	伏せ	2	なし	1317,1318	
29	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1319	
30	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1320	
31	碗	横	1	なし	1321	
32	碗	伏せ	1	有り	1322	
33	碗	伏せ	1	有り	1323	完形品

第5表 2号窯床面下施設遺物取上記録（1）

取上番号	器種名	出土状態	個体数（高台数）	破片の有無	遺物観察表対照	備考
34	碗	伏せ	1	有り	1324	
35	碗	伏せ	1	有り	1325	
36	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1326	
37	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1327	
38	碗	伏せ	1	有り	1328	
39	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1329	
40	碗（重ね）	伏せ	1	なし	1330	
41	碗	伏せ	2	有り	1331,1332	
42	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1333	
43	碗	伏せ	1	有り	1334	
44	碗	伏せ	1	有り	1335	
45	碗	伏せ	1	有り	1336	
46	碗	伏せ	1	有り	1337	
47	碗	伏せ	1	有り	1338	
48	碗	伏せ	1	有り	1339	
49	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1340	
50	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1341	
51	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1342	
52	碗	伏せ	1	有り	1343	
53	碗	伏せ	1	有り	1344	
54	碗	伏せ	2	有り	1345,1597	
55	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1346	
56	碗（重ね）	伏せ	1	なし	1347	
57	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1348	
58	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1349	
59	碗	伏せ	1	有り	1350	
60	碗	伏せ	1	有り	1351	
61	碗	伏せ	1	有り	1352	
62	碗	伏せ	1	なし	1353	
63	碗	伏せ	1	なし	1354	
64	碗	横	1	有り	1355	
65	碗	伏せ	1	有り	1356	
66	碗	横	1	有り	1357	

第6表 2号窯床面下施設遺物取上記録（2）

取上番号	器種名	出土状態	個体数（高台数）	破片の有無	遺物観察表対照	備考
67	碗	伏せ	1	有り	1358	
68	碗	伏せ	1	有り	1359	
69	碗	伏せ	1	有り	1360	
70	碗	伏せ	1	有り	1361	
71	碗	伏せ	1	なし	1362	
72	碗	伏せ	1	有り	1363	
73	碗	伏せ	1	有り	1364	
74	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1365	
75	碗	伏せ	1	有り	1366	
76	碗（重ね）	伏せ	1	なし	1367	
77	碗	伏せ	1	有り	1368	
78	碗	伏せ	1	有り	1369	
79	碗	伏せ	1	有り	1370	
80	碗	伏せ	1	有り	1371	
81	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1372	
82	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1373	
83	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1374	
84	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1375	
85	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1376	
86	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1377	
87	碗	伏せ	1	有り	1378	
88	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1379	
89	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1380	
90	碗	伏せ	1	有り	1381	
91	碗	横	1	有り	1382	
92	碗	伏せ	1	有り	1383	
93	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1384	
94	碗	伏せ	1	有り	1385	
95	碗	横	1	有り	1386	
96	碗	伏せ	1	なし	1387	
97	碗	伏せ	1	なし	1388	
98	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1389	
99	碗	伏せ	1	有り	1390	

第7表 2号窯床面下施設遺物取上記録（3）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備考
100	碗	伏せ	1	有り	1391	
101	碗	伏せ	1	有り	1392	
102	碗	伏せ	1	有り	1393	
103	碗	伏せ	1	有り	1394	
104	碗	伏せ	1	有り	1395	
105	碗(重ねと単体)	伏せ	2	有り	1396,1598	
106	碗	伏せ	1	有り	1397	
107	碗	伏せ	1	有り	1398	
108	碗	伏せ	1	有り	1399	
109	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1400	
110	碗	伏せ	1	有り	1401	
111	碗	伏せ	1	なし	1402	
112	碗	伏せ	1	有り	1403	ほぼ完形
113	碗	伏せ	1	有り	1404	
114	碗	横	1	なし	1405	
115	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1406	
116	碗	横	1	有り	1407	
117	碗	横	1	有り	1408	
118	碗	伏せ	1	有り	1409	
119	碗	伏せ	1	なし	1410	
120	碗	伏せ	1	有り	1411	
121	碗	横	1	有り	1412	
122	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1413	
123	碗(重ね)	伏せ	1	なし	1414	
124	碗	伏せ	1	なし	1415	
125	碗	伏せ	1	有り	1416	
126	碗	伏せ	1	なし	1417	
127	碗	伏せ	2	有り	1418,1599	
128	碗	伏せ	1	有り	1419	
129	碗	伏せ	1	有り	1420	
130	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1421	
131	碗	横	1	なし	1422	
132	碗	伏せ	1	有り	1423	

第8表 2号窯床面下施設遺物取上記録(4)

取上番号	器種名	出土状態	個体数（高台数）	破片の有無	遺物観察表対照	備考
133	碗	伏せ	1	有り	1424	
134	碗	横	1	有り	1425	
135	碗	伏せ	1	有り	1426	
136	碗	伏せ	1	有り	1427	
137	碗	伏せ	1	なし	1428	
138	碗（重ね）	伏せ	1	なし	1429	
139	碗	伏せ	1	有り	1430	
140	碗	伏せ	1	有り	1431	
141	碗	伏せ	1	なし	1432	
142	碗	伏せ	1	なし	1433	
143	碗	伏せ	2	有り	1434, 1435	
144	碗	伏せ	1	有り	1436	
145	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1437	
146	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1438	
147	碗	伏せ	1	有り	1439	
148	碗	伏せ	1	有り	1440	
149	碗	伏せ	1	有り	1441	
150	碗	伏せ	1	有り	1442	
151	碗	伏せ	1	なし	1443	
152	碗	伏せ	1	有り	1444	
153	碗	伏せ	1	有り	1445	
154	碗	伏せ	1	有り	1446	ほぼ完形
155	碗	伏せ	2	有り	1447, 1448	
156	碗	伏せ	1	有り	1449	
157	碗	伏せ	1	有り	1450	
158	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1451	
159	碗	横	1	なし	1452	
160	碗	伏せ	1	有り	1453	
161	碗	伏せ	1	なし	1454	
162	碗	伏せ	1	有り	1455	
163	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1456	
164	碗	伏せ	1	有り	1457	
165	碗	伏せ	1	なし	1458	

第9表 2号窯床面下施設遺物取上記録（5）



取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備考
166	碗	伏せ	1	有り	1459	
167	碗	伏せ	1	有り	1460	
168	碗	伏せ	1	有り	1461	
169	碗	伏せ	1	なし	1462	
170	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1463	
171	碗	伏せ	1	有り	1464	
172	碗	伏せ	1	有り	1465	
173	碗	伏せ	1	有り	1466	
174	碗	伏せ	1	有り	1467	
175	碗	伏せ	1	なし	1468	
176	碗	伏せ	1	有り	1469	
177	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1470	
178	碗	伏せ	1	有り	1471	
179	碗	伏せ	1	有り	1472	
180	碗	不明	0	有り	1473	底部なし
181	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1474	
182	碗	横	1	なし	1475	
183	碗	横	1	なし	1476	
184	碗	伏せ	2	有り	1477,1478	
185	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1479	
186	碗(重ねと単体)	伏せ	2	有り	1480,1481	
187	碗(重ねと単体)	伏せ	2	有り	1482,1483	
188	碗	伏せ	1	有り	1484	
189	碗	伏せ	1	有り	1485	
190	碗	伏せ	1	なし	1486	
191	碗	伏せ	2	有り	1487,1488	
192	碗	伏せ	1	有り	1489	
193	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1490	
194	碗	伏せ	1	有り	1491	
195	碗	伏せ	1	有り	1492	
196	碗	伏せ	1	有り	1493	
197	碗	伏せ	2	有り	1494,1495	
198	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1496	

第10表 2号窯床面下施設遺物取上記録(6)

取上番号	器種名	出土状態	個体数（高台数）	破片の有無	遺物観察表対照	備考
199	碗	伏せ	1	有り	1497	
200	碗	伏せ	1	有り	1498	
201	碗	伏せ	1	有り	1499	
202	碗	伏せ	1	有り	1500	
203	碗	伏せ	1	有り	1501	
204	碗	伏せ	2	有り	1502,1503	
205	碗	伏せ	2	有り	1504,1505	
206	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1506	
207	碗	横	1	有り	1507	
208	碗	伏せ	1	有り	1508	ほぼ完形
209	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1509	
210	碗	伏せ	1	有り	1510	
211	碗（重ねと単体）	伏せ	3	有り	1511,1512,1513	重ね1、単体2
212	碗	伏せ	1	有り	1514	
213	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1515	
214	碗	伏せ	1	有り	1516	
215	碗（重ね）	横	1	有り	1517	
216	碗	伏せ	1	有り	1518	
217	碗	伏せ	1	有り	1519	
218	碗	横	1	有り	1520	
219	碗	横	1	有り	1521	
220	碗	伏せ	1	なし	1522	
221	碗	伏せ	1	有り	1523	
222	碗	伏せ	1	なし	1524	
223	碗	伏せ	1	有り	1525	
224	碗	伏せ	1	有り	1526	
225	碗	伏せ	1	有り	1527	
226	碗	伏せ	1	有り	1528	
227	碗	伏せ	1	有り	1529	
228	碗	伏せ	1	有り	1530	
229	碗	横	1	なし	1531	
230	碗	伏せ	1	有り	1532	
231	碗	伏せ	1	有り	1533	

第11表 2号窯床面下施設遺物取上記録（7）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備考
232	碗	横	1	有り	1534	
233	碗	伏せ	1	有り	1535	
234	碗	横	1	有り	1536	
235	碗	伏せ	1	なし	1537	
236	碗	伏せ	1	有り	1538	
237	碗(重ねと単体)	伏せ	2	有り	1539,1540	
238	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1541	
239	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1542	
240	碗(重ね)	伏せ	1	なし	1543	
241	碗	伏せ	1	有り	1544	
242	碗	伏せ	1	有り	1545	
243	碗	伏せ	1	有り	1546	
244	碗(重ねと単体)	伏せ	2	有り	1547,1548	
245	碗	伏せ	1	有り	1549	
246	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1550	
247	碗(重ね)	伏せ	1	なし	1551	
248	碗	伏せ	1	有り	1552	
249	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1553	
250	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1554	
251	碗	伏せ	1	有り	1555	
252	碗	伏せ	1	有り	1556	
253	碗	伏せ	2	有り	1557,1558	
254	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1559	
255	碗	横	1	なし	1560	
256	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1561	
257	碗	伏せ	1	有り	1562	
258	碗	伏せ	2	有り	1563,1564	
259	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1565	
260	碗	伏せ	1	なし	1566	
261	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1567	
262	碗(重ね)	伏せ	1	有り	1568	
263	碗	伏せ	1	有り	1569	
264	碗	伏せ	1	なし	1570	

第12表 2号窯床面下施設遺物取上記録(8)

取上番号	器種名	出土状態	個体数（高台数）	破片の有無	遺物観察表対照	備考
265	碗	伏せ	2	なし	1571,1572	
266	碗	伏せ	1	有り	1573	
267	碗（重ね）	横	1	なし	1574	
268	碗	伏せ	1	有り	1575	
269	碗	伏せ	1	有り	1576	
270	碗	伏せ	1	有り	1577	
271	碗	伏せ	1	有り	1578	
272	碗	伏せ	1	なし	1579	
273	碗	伏せ	1	有り	1580	
274	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1581	
275	碗	伏せ	3	有り	1582,1583,1584	
276	碗	伏せ	1	なし	1585	
277	碗	横	1	なし	1586	
278	碗	横	1	なし	1587	
279	碗（重ね）	伏せ	1	なし	1588	
280	碗	横	1	有り	1589	鉢程度に大きい高台
281	碗	伏せ	1	有り	1590	
282	碗（重ね）	横	1	有り	1591	
283	碗	伏せ	1	有り	1592	
284	碗（重ね）	横	1	有り	1593	
285	碗	伏せ	1	有り	1594	
286	碗	伏せ	1	なし	1595	
287	碗	横	1	有り	1596	

第13表 2号窯床面下施設遺物取上記録（9）

## 第4節 考察

ガンジ山A古窯跡群では、上記に示したように碗類・皿類を主な焼成品にしていたと思われる。それらの遺物の詳細は第2節・第3節および遺物観察表に記したとおりである。ここでは、碗類と皿類の法量や器形分類データなどの全体的なまとめと障焰棒について記述することにしたい。

碗類は、1028点（窯と灰原715点、床面下施設313点）が、皿類は537点が調査の対象となった。

まず、碗類から見ていくことにする。窯と灰原関連715点と2号窯床面下施設313点の法量は、以下の第14表のとおりである。窯と灰原と2号窯床面下施設との法量の比較をすると、平均値では器高を

出土地点		器種	碗類			皿類		
			口 径	高台径	器 高	口 径	底 径	器 高
窯 と 灰 原	平均値		16.4	8.0	4.8	8.5	4.0	2.1
	最大値		19.0	9.4	6.0	9.8	5.4	2.7
	最小値		14.5	6.5	4.0	7.3	3.2	1.7
2号窯床面下	平均値		16.4	8.0	4.7			
	最大値		17.9	9.7	5.7			
	最小値		14.2	6.6	4.0			

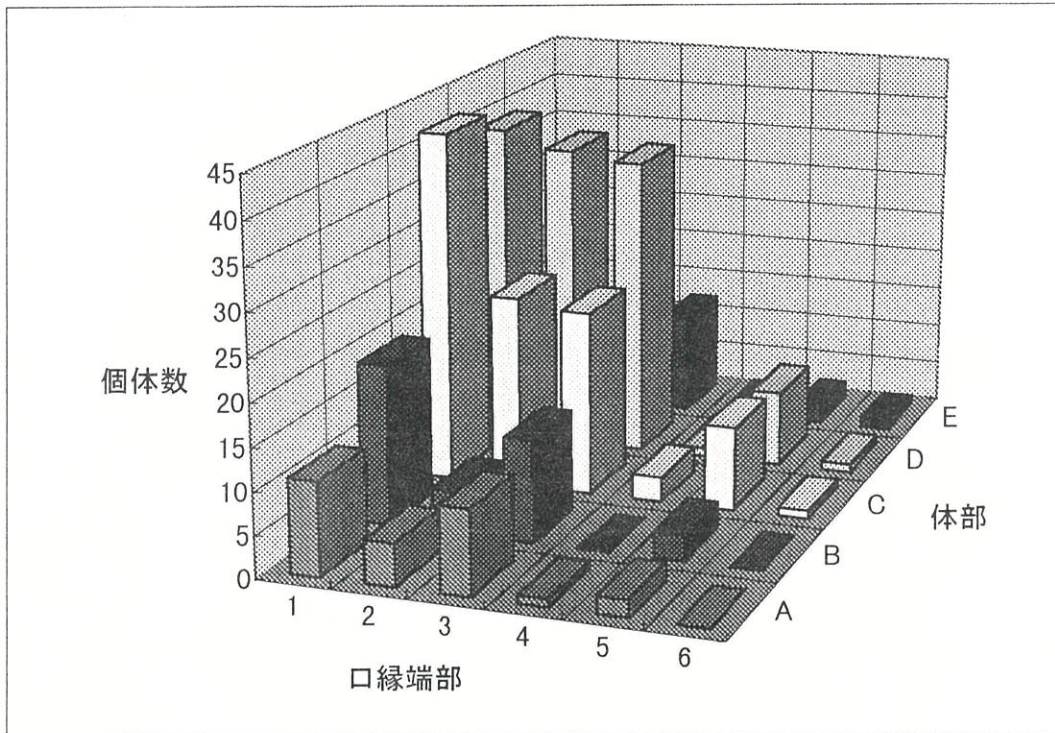
第14表 碗類皿類法量比較表

除いて同数値となった。最大値は高台径と器高でほぼ同じ様な数値となった。最小値はいずれにおいても同様な数値となった。他の窯跡で出土した碗と比較すると、海陸庵古窯の碗（平均値で口径15.9cm、高台径7.1cm、器高5.0cm）よりは若干大きいのが、神明古窯の碗（2号窯の平均値で口径16.7cm、高台径7.9cm、器高5.2cm）よりはいずれの部位でも下回る数値であった①。また、森岡第1号窯とは、碗類も皿類もやや下回る値である②。

次に、器形分類についてみる。碗類は以下に示すように、窯と灰原の器形分類は床面下施設のそれと比較したところ、同様の傾向をしめした。つまり、C類とD類が約7割を占めている。口縁端部においても、1類・2類・3類が圧倒的な数を占めている。

口 縁 体 部	口 縁						合 計
	1類	2類	3類	4類	5類	6類	
A類	11	5	10	1	2	0	29
B類	19	5	12	0	3	0	39
C類	42	23	22	3	10	1	101
D類	39	37	36	1	9	1	123
E類	9	4	12	1	2	1	29
合 計	120	74	92	6	26	3	321

第15表 碗類器形分類別組合せ表



第26図 碗類器形別分類組成図

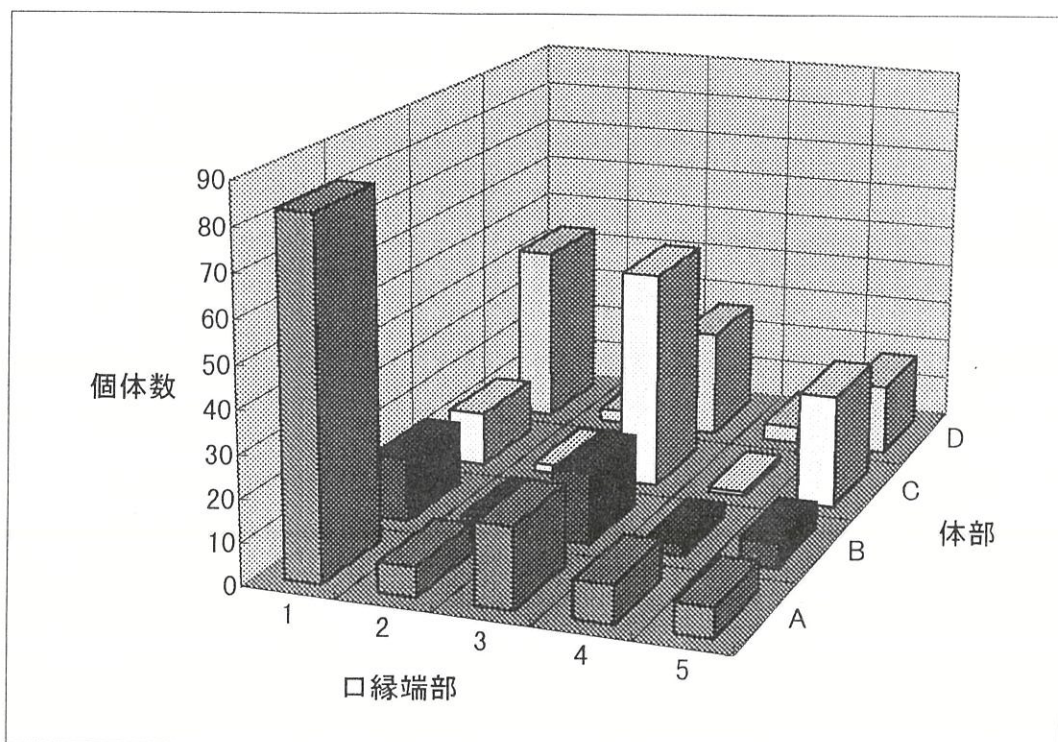
皿類は537点が調査の対象となった。皿類には付高台の消滅したタイプのものである。

まず、法量は平均値で器高が口径8.5cm、底径4.0cm、器高2.1cmとなった。他の窯跡で出土した皿と比較すると、海陸庵古窯の皿（平均値で口径7.9cm、底径3.7cm、器高2.1cm）よりは若干大きい、神明古窯の皿（灰原の平均値で口径9.3cm、高台径5.1cm、器高2.6cm）よりはいずれの部位でも下回る数値であった①。また、森岡第1号窯と比較してもやや下回る値である②。

次に、器形分類についてみる。皿類は以下に示すように、A類が最多で以下C類とD類が続く。口縁端部においても、1類・3類が圧倒的な数を数え、この2タイプで7割を占める。

口縁端部 体部	1類	2類	3類	4類	5類	合計
A類	83	7	19	9	7	125
B類	15	3	17	3	6	44
C類	13	2	52	1	27	95
D類	43	3	26	4	17	93
合計	154	15	114	17	57	357

第16表 皿類器形分類別組合せ表



第27図 皿類器形別分類組成図

以上のように見てきたが、年代的には、碗類は中野編年③によると、2から3形式（12世紀第3四半期から同第4四半期）に該当し、3形式の傾向が強い。また、皿類は付高台の無くなる3形式のものが圧倒的に多くこの時期が該当すると思われる。

最後に、障焰棒について簡単に述べることにする。これは、焼成品ではなく窯道具のひとつと考えられ、大府市での調査では初見である。同様のものの出土事例は数例しかなく、知多半島においては亀塚池古窯（常滑市）④や中田池古窯（武豊町）⑤、瀬戸窯では太子A窯（瀬戸市）⑥がある。それぞれ、このものの呼称には相違がみとめられるが、報告書を見る限り同様の形をなしている。このガンジ山A古窯跡群では、4点発見され、窯の焚口や灰原で出土していることや全体にかなりの自然釉がかかっていることから炎にごく近い場所、つまり分焰柱付近とかに置かれたものと思われる。今後、調査により同様のものが、その使用目的が解る形で発掘されることを期待している。

註①近藤英正・古田功治他編『海陸庵古窯跡群 神明古窯跡群』（1996年刊、大府市教育委員会）。

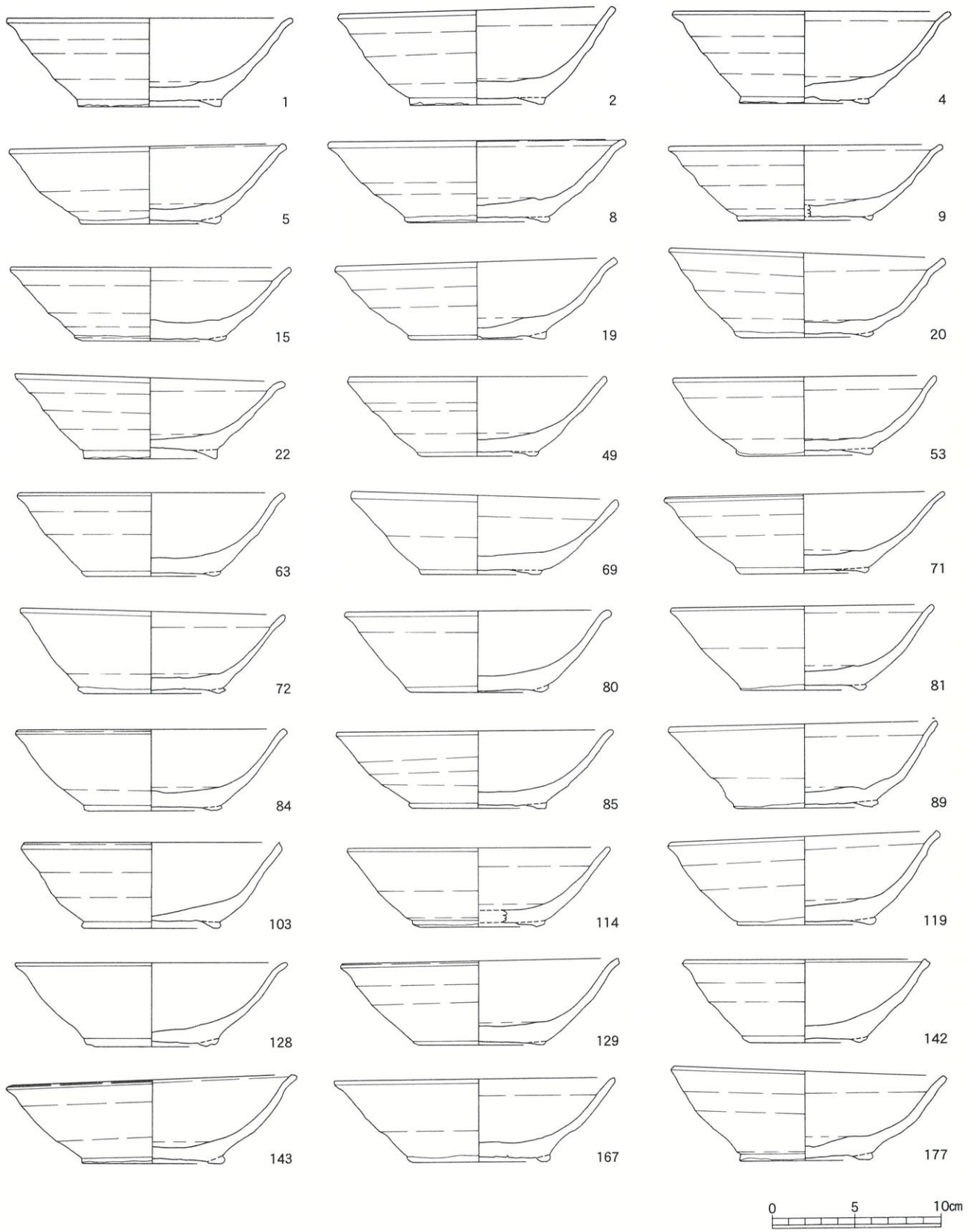
②中野良法他編『森岡第1号窯跡群』（1999年刊、愛知県埋蔵文化財センター）。

③中野晴久「赤羽・中野『生産地における編年について』」（『中世常滑焼をおって』資料集』、1994年刊、日本福祉大学知多半島総合研究所）。

④中野晴久編『亀塚池古窯址群発掘調査報告書』66・105・168・188頁（1993年刊、常滑市教育委員会）。

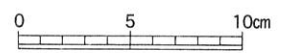
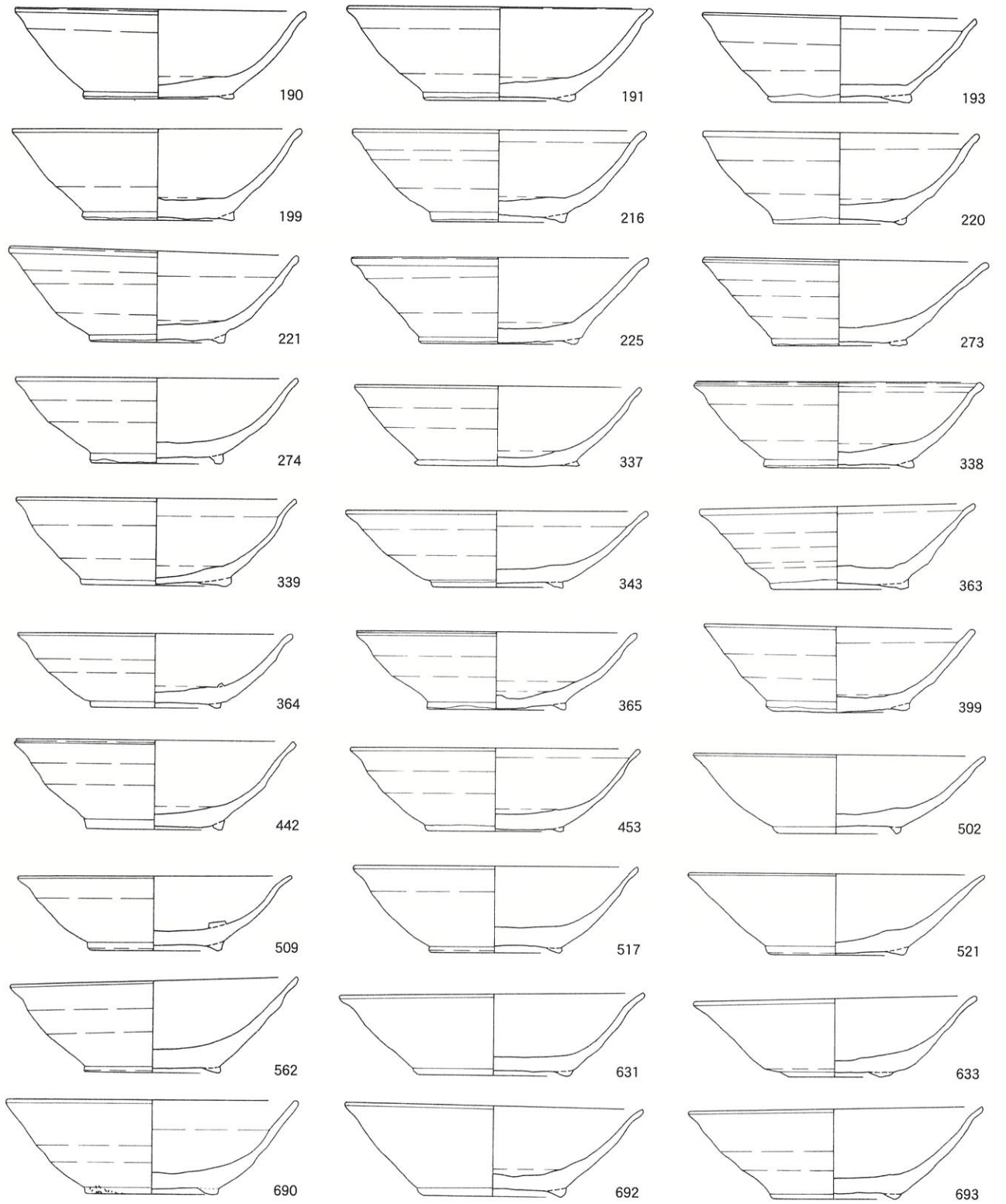
⑤磯部幸男編『中田池古窯址群 その1』300頁（1990年刊、武豊町教育委員会）。

⑥青木修編『太子A窯跡』84・105頁（1997年刊、財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター）。

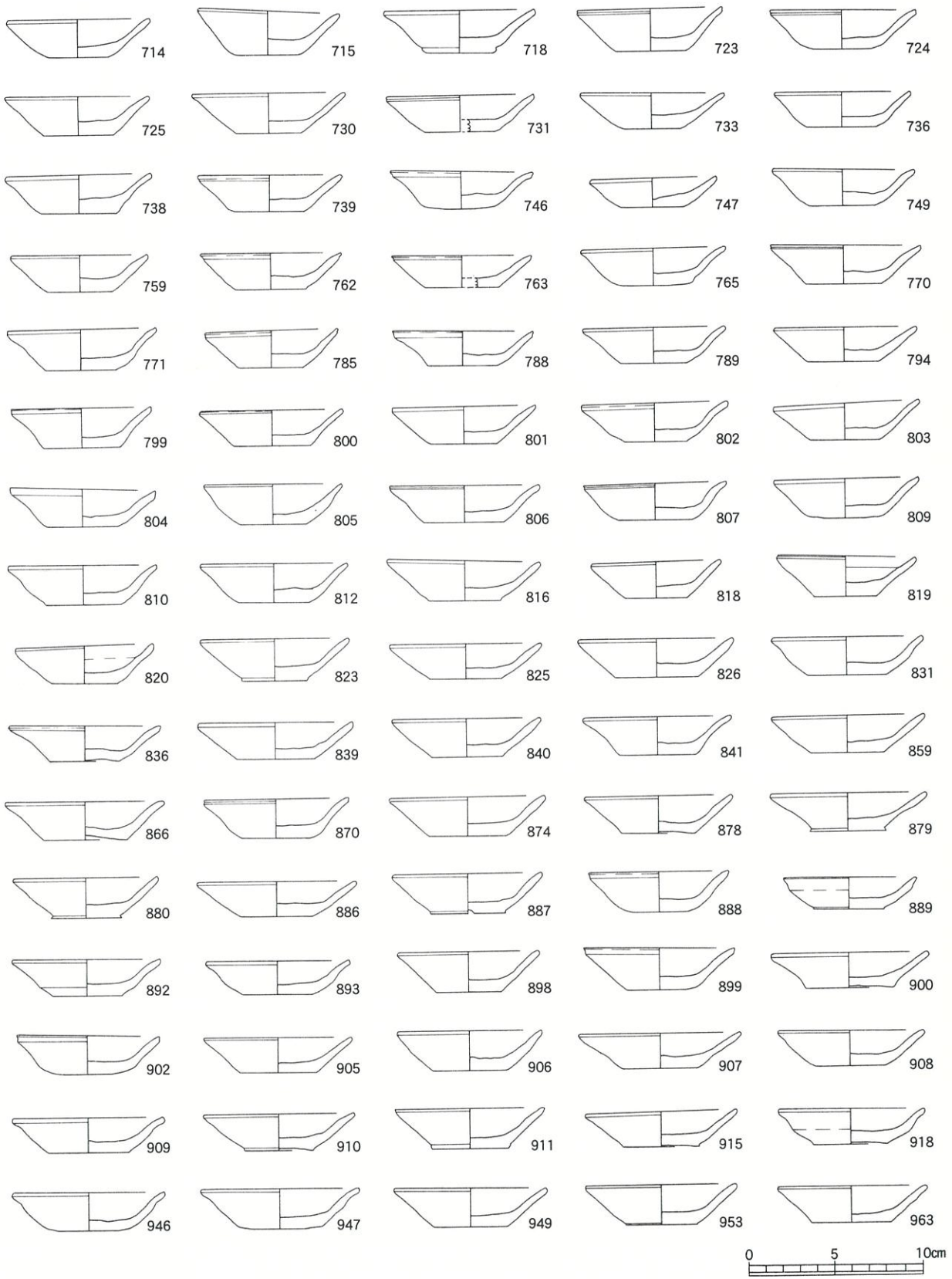


第28図 遺物実測図(碗 1 遺構)

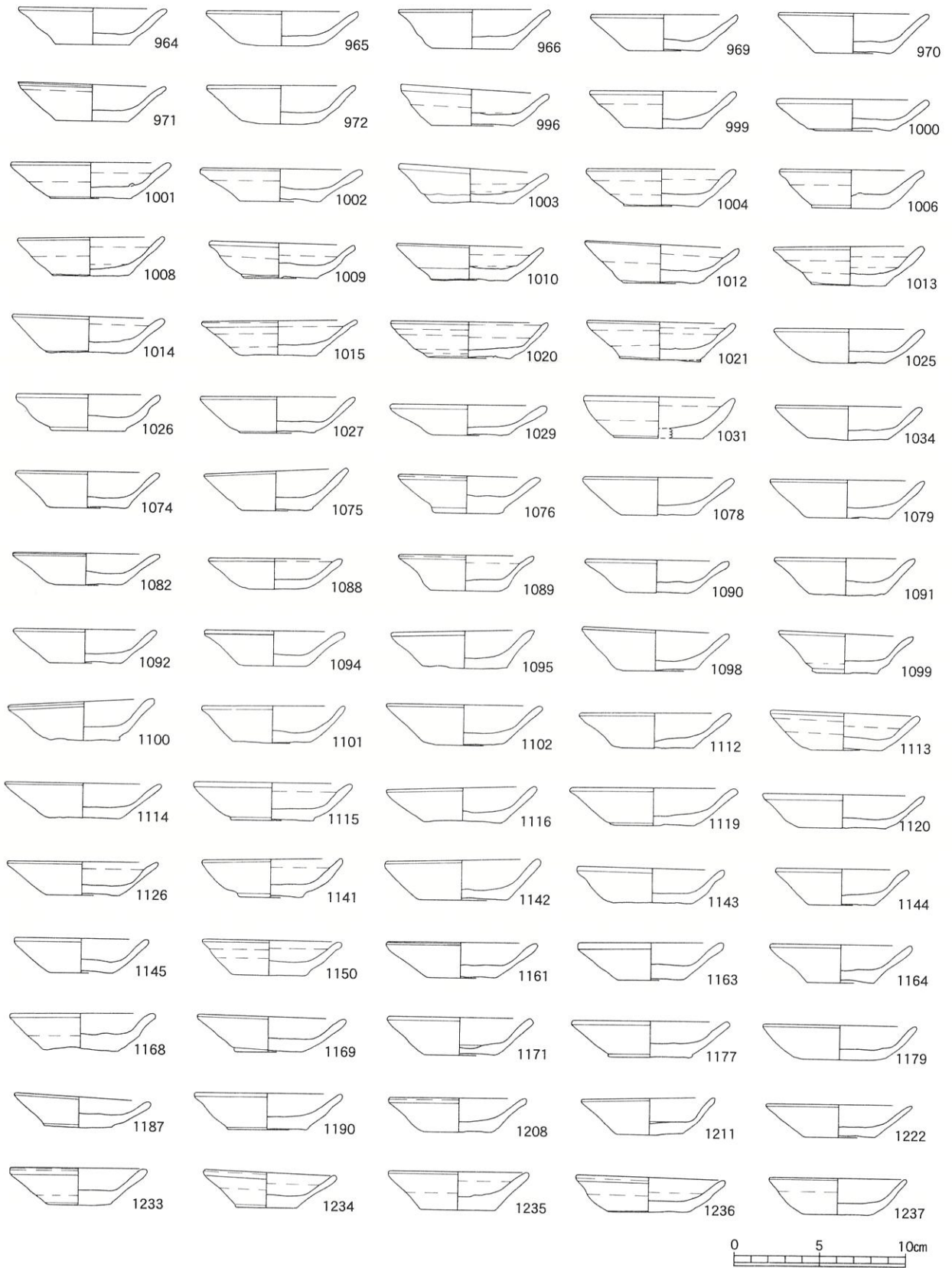




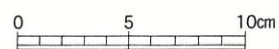
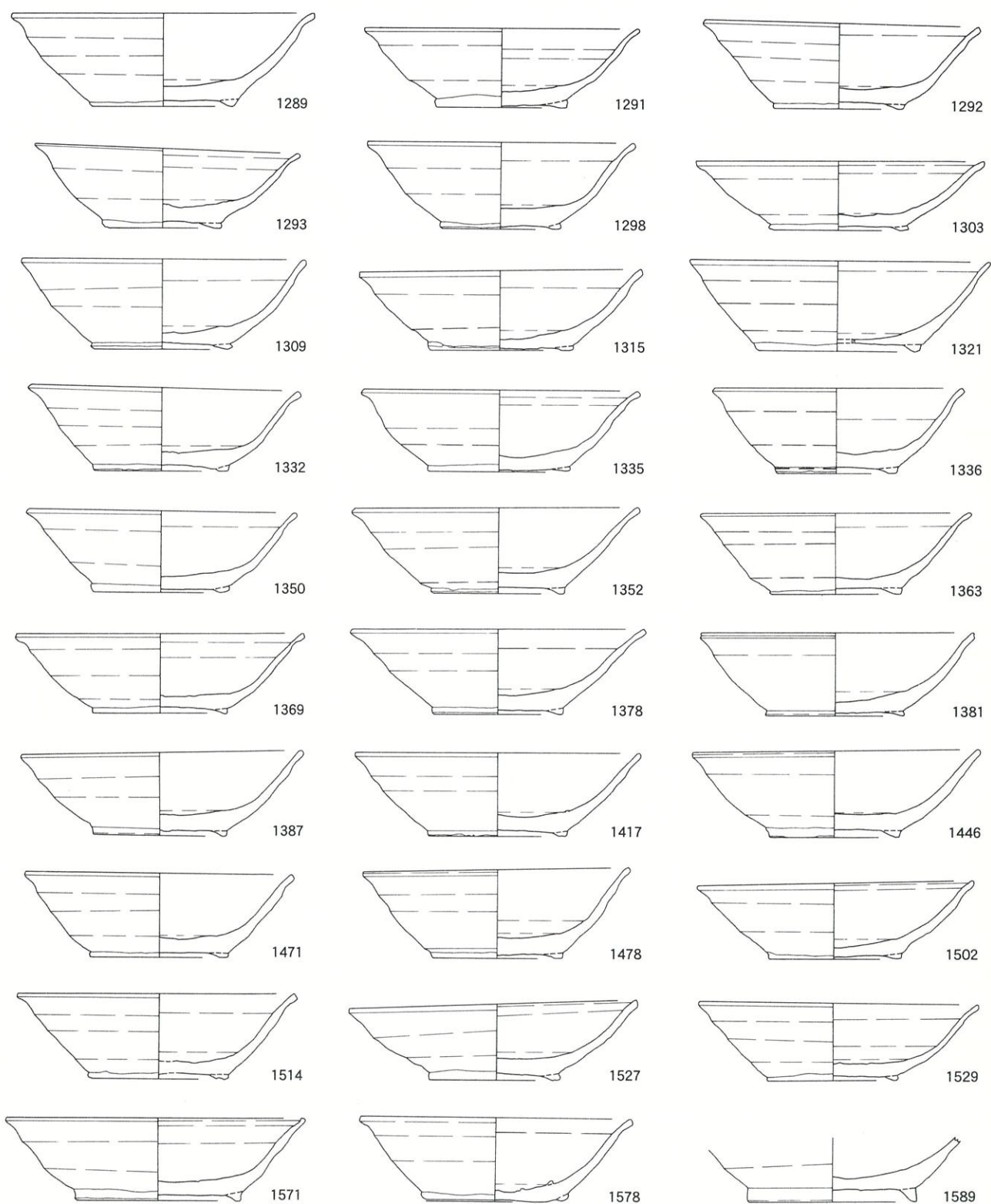
第29図 遺物実測図(碗 2 遺構)



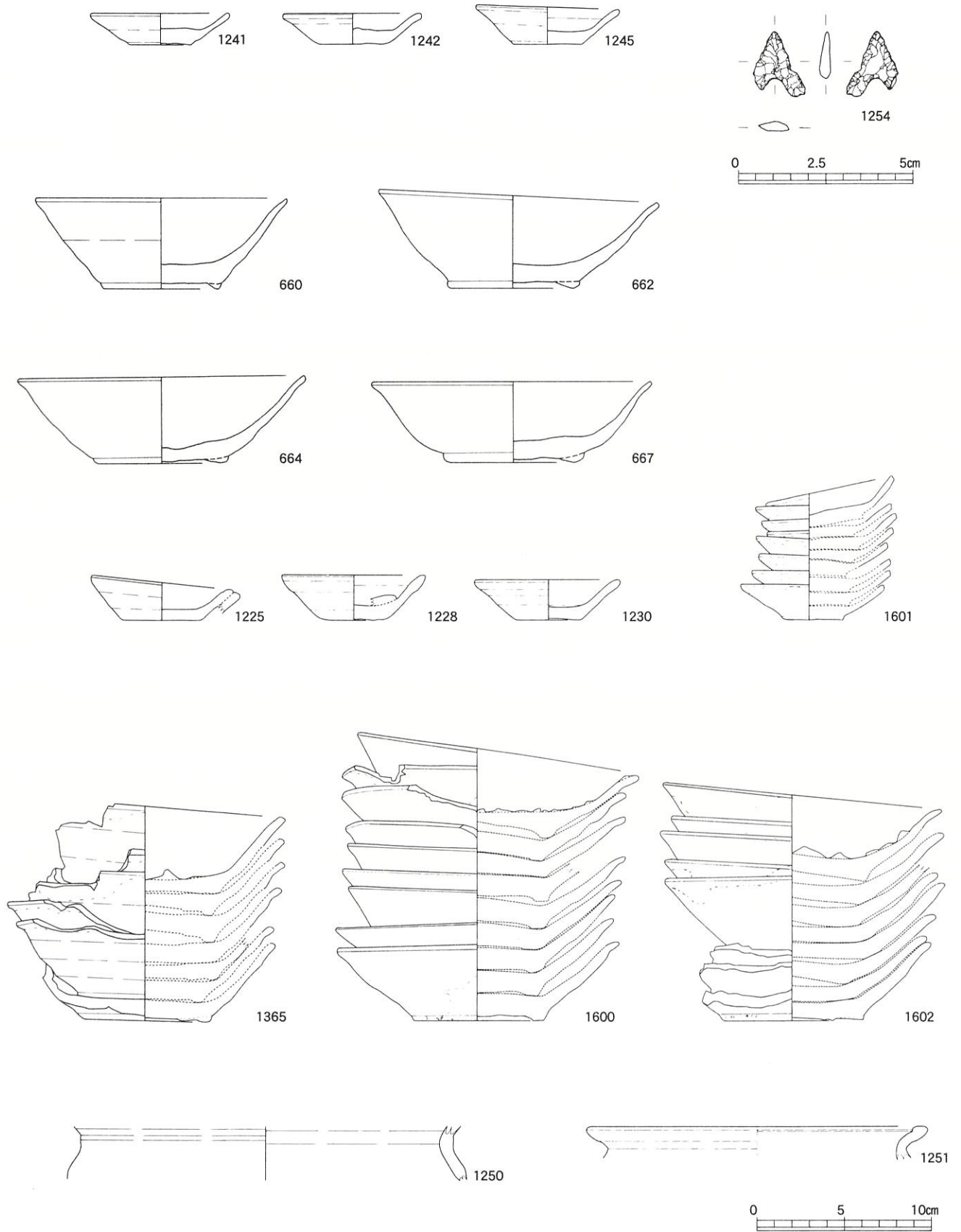
第30図 遺物実測図(皿1 遺構)



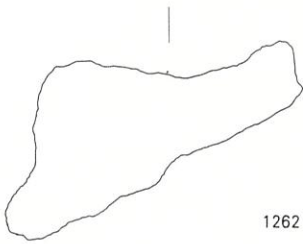
第31図 遺物実測図(皿2 遺構)



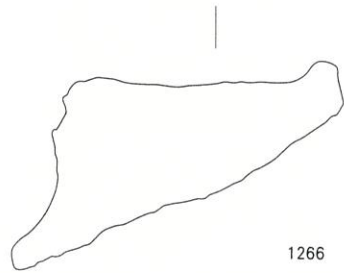
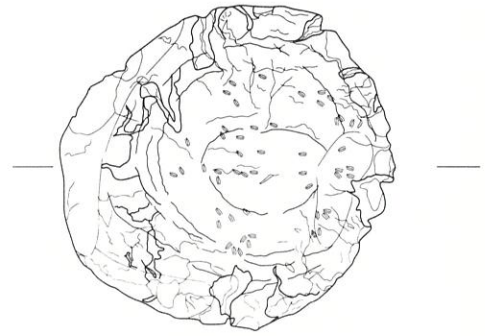
第32図 遺物実測図(碗 床面下)



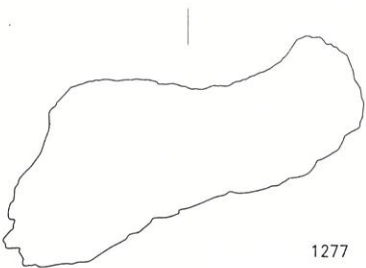
第33図 遺物実測図(その他)



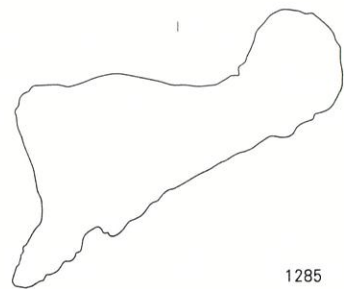
1262



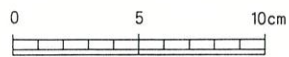
1266



1277



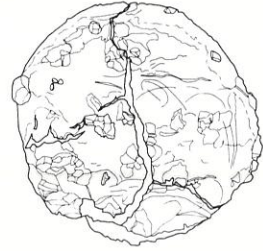
1285



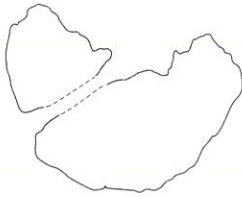
第34図 遺物実測図 (焼台)



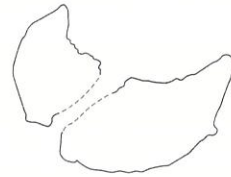
1225



1256



1257



1258



第35図 遺物実測図 (障焰棒)

## 出土遺物観察表の凡例

### 【法量の計測】

- 口 径 実測できるものは、そのまま計測した。1/2以下は推定値を記し、形が変形などしているものは平均値とした。推定値には（ ）を、平均値には[ ]を付した。また測定が困難な箇所は「測定不能」と、測定箇所が欠損している場所は「－」とした。
- 高台径 実測できるものは、そのまま計測した。1/2以下は推定値を記し、形が変形などしているものは平均値とした。推定値には（ ）を、平均値には[ ]を付した。また測定が困難な箇所は「測定不能」と、測定箇所が欠損している場所は「－」とした。高台径で高台が欠けているものは底径として数値を入れた。
- 器 高 実測できるものは、そのまま計測した。形が変形などしているものは平均値と[ ]を付した。高台が欠けているものは、残存長として数値を入れた。また測定が困難な箇所は「測定不能」と、測定箇所が欠損している場所は「－」とした。

### 【各部位の観察】

#### 高台底面付着面

高台底面には様々な痕跡が認められるが、ここではもみ痕・砂・わら跡などを観察した。

#### 底部外面（碗皿共通）

底部外面には様々な痕跡が認められるが、ここでは回転台から切り離す工程でできた糸切り痕と糸切り後にナデたものなどを観察した。

見込み 内面底部中央のこと。その箇所の状態を記した。

焼 成 生焼けのものは不良とし、それ以外は良とした。

胎 土 緻密で砂粒が少ないものを最良とし、それ以外を良とした。

釉 全部自然釉である。釉がすこしでもかかっているならば、「あり」とした

接 合 修復により破片が戻ったところがあれば、「あり」とした

備 考 該当項目がないか、記した方がよい点があれば適宜記入した。



遺物 番号	器種	C名	出土位置	法量(cm)		高台底面 付着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	釉の箇所		接合	体部	口縁	備考	その他
				口径	器高						内面	外面					
1	碗	8f	1号窯内(焼成室)	8.4	5.3	もみ	糸切り	指ナデ	良	良		あり	D	2			
2	碗	8f	1号窯内(焼成室)	16.1	7.9	もみ	糸切り	指ナデ	良	良		あり	A	2		胎土に小石を含む	
3	碗	8f	1号窯内(焼成室)	16.4	7.4	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	D	2			
4	碗	8f	1号窯内(焼成室)	(15.2)	7.8	もみ	糸切り	指ナデ	良	良		あり	D	2		胎土に小石を含む	
5	碗	5f	2号窯内(焚口)	(16.2)	8.1	もみ	糸切り	指ナデ	良	良		あり	B	2			
6	碗	5f	2号窯内(焚口)	8.8	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり					底部にひびわれ	
7	碗	5f	2号窯内	8.0	—	もみ	糸切り	指ナデ	良	良			D	1			
8	碗	6e	2号窯内(焼成室)	(17.8)	8.2	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		D	3			
9	碗	5f	2号窯内(焼成室)	(16.5)	(9.0)	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり						
10	碗	5f	2号窯内(焼成室)	7.0	—	不明	不明	指ナデ	良	良		あり					
11	碗	6e	2号窯内(焼成室)	7.3	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良							
12	碗	5f	2号窯内(焼成室)	7.9	—	もみ	不明	指ナデ	良	良							
13	碗	5f	2号窯内(焼成室)	7.2	—	もみ	不明	指ナデ	良	良							
14	碗	5f	2号窯内(焼成室)	8.1	—	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり						
15	碗	6e	2号窯内(焼成室)	(7.9)	4.4	もみ	糸切り	指ナデ	良	良						高台に歪み、割れ口の一部に釉付着	
16	碗	5f	2号窯内	(16.3)	8.7	もみ	糸切り	指ナデ	不良	良		あり	A	3			
17	碗	5f	2号窯内	7.9	—	もみ	不明	指ナデ	良	良	あり		A	3		生焼け	
18	碗	5f	2号窯内	7.8	—	もみ	糸切り	指ナデ	良	良						胎土に小石を含む	
19	碗	5f	2号窯内(焚口)	8.0	4.6	もみ	不明	指ナデ	良	良	あり		D	2		内面隆灰	
20	碗	5f	2号窯内(焚口)	16.2	7.6	もみ	糸切り	指ナデ	良	良			D	3		第12図1	
21	碗	5f	2号窯内(焚口)	(16.6)	8.4	もみ	不明	指ナデ	良	最良	あり		E	4		第12図6	
22	碗	5f	2号窯内(焚口)	15.9	8.0	もみ	不明	指ナデ	良	良		あり	D	1		第12図7	
23	碗	5f	2号窯内(焚口)	(8.2)	4.3	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		C	3		第12図9	
24	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	8.0	4.5	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり		E	2		第12図24	
25	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.2)	7.6	もみ	糸切り	指ナデ	不良	良			C	2		第12図25	
26	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	15.9	8.0	[4.75]	糸切り	ナデ	良	良	あり		B	3		第12図26	
27	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	8.1	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良							
28	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	7.8	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良							
29	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(17.4)	8.2	不明	糸切り	ナデ	不良	良			B	3		生焼けっぽい、胎土に小石を含む	
30	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(8.6)	—	もみ	糸切り	指ナデ	良	良							
31	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	8.3	—	もみ	糸切り	不明	良	良						内面隆灰	
32	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.2)	7.4	もみ	糸切り	ナデ	良	最良	あり		D	3		内面隆灰、重ね焼片付着	
33	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	8.0	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり					重ね焼片付着	
34	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	7.4	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり					高台がほとんどとれて残らない	
35	碗	5f	2号窯内(焼成室)	(17.2)	7.8	もみ	糸切り	ナデ	良	良			E	2		胎土に小石を含む	
36	碗	5f	2号窯内(焼成室)	(7.7)	(5.1)	もみ	不明	ナデ	不良	良			C	2		生焼け	
37	碗	5f	2号窯内(焼成室)	(16.2)	8.3	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり		B	1			
38	碗	5e	2号窯内(焼成室)	7.8	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良							
39	碗	5e	2号窯内(焼成室)	[7.4]	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良						高台がた円、胎土に小石を含む	
40	碗	5e	2号窯内(焼成室)	7.4	—	もみ	糸切り	指ナデ	良	最良						底部に板目もあり	
41	碗	5e	2号窯内(焼成室)	7.5	—	もみ	糸切り	ナデ	不良	良						生焼け	
42	碗	5e	2号窯内(焼成室)	8.5	—	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり					底部に板目もあり	
43	碗	5e	2号窯内(焼成室)	(15.8)	8.7	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり		D	1		胎土に小石を含む、内面隆灰	
44	碗	5e	2号窯内(焼成室)	7.4	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良							
45	碗	5e	2号窯内(焼成室)	8.2	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良							

第17表 遺物調査表 (碗) 1

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		高台底面 付着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	釉の箇所		口縁	備考	その他
				口径	高台径						内面	口縁			
46	碗	5e	2号窯内(焼成室)	—	8.3	—	不明	ナデ	良	良	あり	あり	C	3	底部は1/4のみ残存
47	碗	5e	2号窯内(焼成室)	(16.0)	—	4.4	不明	ナデ	良	良	あり	あり	あり		
48	碗	5e	2号窯内(焼成室)	—	7.7	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり		
49	碗	5e	2号窯内(焼成室)	(15.3)	7.2	4.7	糸切り	指ナデ	不良	良	あり	あり	A	3	底部に板目もあり
50	碗	5e	2号窯内(焼成室)	—	(8.6)	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり			底部は1/3のみ残存、胎土に小石を含む
51	碗	5e	2号窯内(焼成室)	(16.8)	(8.2)	4.4	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	C	3	底部は1/4のみ残存、内面片取
52	碗	5e	2号窯内(焼成室)	—	8.1	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	B	3	
53	碗	5e	2号窯内(焼成室)	(15.3)	7.8	4.7	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり			
54	碗	5e	2号窯内(焼成室)	—	8.2	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり			
55	碗	5e	2号窯内(焼成室)	(17.0)	8.5	4.7	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	D	2	
56	碗	5e	2号窯内(焼成室)	(16.4)	8.3	4.7	不明	ナデ	良	良	あり	あり	D	2	胎土に小石を含む
57	碗	5e	2号窯内(焼成室)	—	8.1	—	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	D	2	天埴もの、内側部全面片取
58	碗	5e	2号窯内(焼成室)	(16.7)	7.8	4.8	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	C	3	
59	碗	5e	2号窯内(焼成室)	(17.0)	8.1	4.7	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり			
60	碗	5e	2号窯内(焼成室)	—	8.2	—	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり			
61	碗	5e	2号窯内(焼成室)	(16.5)	8.1	4.1	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	C	1	
62	碗	5e	2号窯内(焼成室)	(17.6)	8.0	4.9	糸切り	指ナデ	不良	良	あり	あり	D	3	生焼っぽい、胎土に小石を含む
63	碗	5e	2号窯内(焼成室)	(16.0)	8.3	5.0	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	D	1	胎土に小石を含む
64	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	—	8.2	—	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	E	1	胎土に小石を含む
65	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.1	8.4	4.45	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	E	1	胎土に小石を含む
66	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.6)	8.0	5.2	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	D	1	胎土に小石を含む
67	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(17.0)	8.8	4.95	糸切り	指ナデ	不良	良	あり	あり	B	1	生焼っぽい
68	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.6)	8.2	5.2	糸切り	ナデ	不良	良	あり	あり	A	1	生焼っぽい、胎土に小石を含む
69	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.0	7.4	[4.7]	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	B	3	
70	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.0	7.5	[4.3]	不明	不明	良	良	あり	あり	B	3	胎土に小石を含む
71	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.7	8.0	[4.7]	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	D	3	
72	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	15.6	8.1	[5.9]	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	C	1	胎土に小石を含む
73	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.1	7.6	[4.45]	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	C	1	口縁に歪み、胎土に小石を含む
74	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.3	8.6	4.5	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	A	2	胎土に小石を含む
75	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.7)	8.0	4.5	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	D	1	口縁に歪み
76	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.8	8.3	4.5	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	C	1	
77	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.9)	7.9	4.8	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	C	2	
78	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.1	7.8	[4.9]	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	D	3	胎土に小石を含む
79	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.8	[8.0]	5.95	糸切り	ナデ	不良	良	あり	あり	C	2	生焼っぽい、胎土に小石を含む
80	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.0	8.5	4.9	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	D	1	胎土に小石を含む
81	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	15.4	7.4	5	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	C	2	
82	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.0)	7.4	4.65	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	E	1	
83	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.3	8.5	4.7	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	D	1	
84	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.2	8.2	4.85	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	C	2	胎土に小石を含む
85	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.3	8.0	4.6	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	C	1	完形品、内面片取
86	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.4)	8.2	4.3	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	C	2	かまくそ付着、ゆがみが強い、内面片取
87	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.5	7.9	4.5	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	D	1	ゆがみが強い
88	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.2)	8.1	4.6	不明	不明	良	良	あり	あり	E	3	天埴もの、ゆがみが強い、内面片取、胎土に小石を含む
89	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	15.8	8.1	5.0	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	E	3	内面片取
90	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.4)	8.8	4.85	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	E	3	ゆがみが強い、胎土に小石を含む、重ね焼片付着

第18表 遺物観察表 (碗) 2

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		高台底面 附着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	釉の箇所		口縁 端部	備考	その他
				口径	高台径						器高	内面			
91	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(17.3)	(9.0)	5.2	もみ	指ナデ	不良	良			3	胎土に小石を含む	
92	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.1)	(8.1)	4.7	もみ	指ナデ	良	良	あり		3		
93	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.2)	(8.7)	4.5	もみ	ナデ	良	良	あり		3		
94	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.7	8.4	4.4	もみ	ナデ	良	良	あり		C		底面に板目あり、ゆがみが強い、胎土に小石を含む、内面降灰
95	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(15.4)	8.4	5.1	もみ	ナデ	良	良	あり		D		
96	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(15.3)	7.4	4.6	もみ	指ナデ	良	良	あり		C		
97	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.6)	(8.2)	4.4	不明	ナデ	良	良			C		
98	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	—	—	—	もみ	ナデ	良	良			C		
99	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	—	8.4	—	もみ	指ナデ	良	良	あり				
100	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.1)	7.7	[5.0]	もみ	ナデ	良	最良	あり		D		
101	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.5	7.9	4.8	もみ	指ナデ	不良	良			B		
102	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(15.8)	(8.0)	5.3	もみ	ナデ	良	良			D		
103	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(15.6)	(8.4)	5.1	もみ	ナデ	良	良	あり		5		外側にきれいに釉がのる。
104	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(15.8)	(7.0)	4.8	もみ	ナデ	良	良	あり		E		内面降灰
105	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	15.5	8.4	[4.4]	もみ	不明	良	良			C		天牌もの、全面にカマクソ付着、底面に板目
106	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.3	7.1	[4.9]	もみ	ナデ	良	良			D		高台が平坦
107	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(15.8)	7.6	4.6	もみ	ナデ	良	良	あり		D		内側にカマクソ付着
108	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.2)	(8.6)	5.2	もみ	指ナデ	良	良	あり		E		
109	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(15.8)	8.5	5.2	もみ	指ナデ	良	良	あり		D		内面降灰、胎土に小石を含む
110	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.0	7.8	[4.3]	もみ	指ナデ	良	良	あり		D		内側にカマクソ付着
111	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.2)	7.9	4.8	もみ	ナデ	良	良	あり		C		内面降灰
112	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.6)	8.1	5.1	もみ	ナデ	不良	良	あり		C		胎土に小石を含む
113	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.6)	(8.2)	5.0	もみ・砂	指ナデ	良	良	あり		D		
114	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(15.7)	(7.9)	4.7	もみ	指ナデ	良	良	あり		B		
115	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(17.2)	6.5	4.9	もみ	ナデ	良	良	あり		B		
116	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.1	8.0	4.8	もみ	ナデ	良	良	あり		D		胎土に小石を含む
117	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.0	8.2	4.9	もみ	ナデ	良	良	あり		E		胎土に小石を含む
118	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.7	8.3	5.0	もみ	不明	良	良			D		胎土に小石を含む
119	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.2	8.4	5.3	もみ	指ナデ	良	良			D		胎土に小石を含む
120	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(15.8)	(8.4)	5.0	もみ	指ナデ	良	良			D		胎土に小石を含む
121	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.3	8.0	4.7	もみ	指ナデ	良	良	あり		D		胎土に小石を含む、内面降灰
122	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.4)	(7.5)	5.0	もみ	系切り	良	良	あり		D		
123	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	15.6	7.5	[5.0]	もみ	系切り後ナデ	良	良			A		
124	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	—	7.2	—	もみ	系切り後ナデ	良	良			D		胎土に小石を含む、ゆがんでいる
125	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	—	7.3	—	もみ	系切り後ナデ	良	最良	あり				胎土に小石を含む
126	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.8)	8.5	5.0	もみ	系切り後ナデ	良	良	あり		D		胎土に小石を含む、ゆがんでいる
127	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	—	8.2	—	もみ	系切り後ナデ	良	良	あり		D		
128	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.2)	(8.0)	5.0	もみ	系切り後ナデ	良	良			D		底面にひび割れとわら跡
129	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.7	7.9	5.0	もみ	系切り後ナデ	良	良			D		胎土に小石を含む、底面にわら跡
130	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	—	8.0	—	不明	系切り後ナデ	不良	良	あり				底面にひび割れ、内面降灰
131	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	—	8.4	—	もみ	系切り後ナデ	良	良					
132	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	—	8.3	—	もみ	系切り後ナデ	良	良	あり				底面に板目、口縁がたれてゆがむ
133	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.2)	(8.5)	4.4	もみ	系切り	良	良	あり		D		
134	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.8	8.5	4.8	もみ	系切り	良	良	あり		D		
135	碗	5e	2号窯内(焼成室)	—	7.6	—	もみ	系切り	良	最良			D		内面降灰

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		高台底面 付着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	軸の箇所			備考	その他
				口径	器高						内面	口縁外面	接合体部		
136	碗	6e	2号窯内(燃焼室)	(16.0)	4.5	もみ	糸切り	指ナデ	良	あり					
137	碗	6e	2号窯内(燃焼室)	(8.0)	—	不明	糸切り後ナデ	不明	良						
138	碗	6e	2号窯内(燃焼室)	(7.6)	—	不明	糸切り	ナデ	良			あり		高台とれ	
139	碗	6e	2号窯内(燃焼室)	7.6	—	もみ	糸切り	ナデ	良						
140	碗	6e	2号窯内(燃焼室)	(17.2)	4.5	もみ	糸切り	指ナデ	良						
141	碗	6e	2号窯内(燃焼室)	—	8.7	—	糸切り	指ナデ	良						
142	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	14.8	7.6	もみ	不明	指ナデ	良						
143	碗	6e	2号窯内(燃焼室)	17.3	8.5	もみ	糸切り	指ナデ	良						
144	碗	6e	2号窯内(燃焼室)	(17.3)	4.8	もみ	糸切り	指ナデ	良						
145	碗	6e	2号窯内(焼成室上層)	—	8.4	—	糸切り	ナデ	良			あり			
146	碗	6e	2号窯内(焼成室)	—	7.7	—	糸切り後ナデ	指ナデ	良						
147	碗	6e	2号窯内(焼成室)	—	7.1	—	糸切り	ナデ	良						
148	碗	6e	2号窯内(焼成室)	(7.6)	—	もみ	糸切り	ナデ	良						
149	碗	6e	2号窯内(焼成室)	—	8.3	—	糸切り後ナデ	ナデ	良						
150	碗	6e	2号窯内(焼成室)	(8.6)	—	もみ	糸切り	ナデ	良						
151	碗	6e	2号窯内(焼成室)	—	9.2	—	不明	不明	良						
152	碗	5e	2号窯内(焼成室)	—	8.1	—	糸切り	ナデ	良						
153	碗	6e	2号窯内(焼成室)	—	7.8	—	糸切り	ナデ	良						
154	碗	5e	2号窯内(焼成室)	(16.2)	4.5	もみ	糸切り	指ナデ	良			あり			
155	碗	5e	2号窯内(焼成室下層)	—	8.0	—	糸切り後ナデ	ナデ	良						
156	碗	5e	2号窯内(焼成室下層)	(16.4)	5.0	もみ	糸切り	ナデ	良						
157	碗	5e	2号窯内(焼成室下層)	—	7.6	—	糸切り後ナデ	指ナデ	良						
158	碗	5e	2号窯内(焼成室下層)	—	7.9	—	糸切り	ナデ	良						
159	碗	5e	2号窯内(焼成室下層)	—	7.6	4.9	糸切り	ナデ	良						
160	碗	5e	2号窯内(焼成室下層)	—	8.4	—	糸切り	ナデ	良						
161	碗	5e	2号窯内(焼成室下層)	—	8.3	—	糸切り	ナデ	良						
162	碗	6e	2号窯内(焼成室)	—	7.8	—	糸切り	ナデ	良						
163	碗	6e	2号窯内(焼成室)	—	8.4	—	糸切り	ナデ	良						
164	碗	5e	2号窯内(焼成室)	(16.0)	5.2	砂	糸切り	ナデ	良						
165	碗	5e	2号窯内(焼成室下層)	15.7	7.8	もみ	糸切り	ナデ	良						
166	碗	5e	2号窯内(焼成室下層)	15.8	8.3	もみ	糸切り	ナデ	良						
167	碗	6e	2号窯内(焼成室下層)	16.7	8.5	なし	糸切り	ナデ	良						
168	碗	6e	2号窯内(焼成室下層)	15.9	7.8	もみ	糸切り	指ナデ	良						
169	碗	6e	2号窯内(焼成室)	(16.1)	4.7	もみ	糸切り	指ナデ	良						
170	碗	6e	2号窯内(焼成室)	(16.2)	4.7	もみ	糸切り	指ナデ	良						
171	碗	6e	2号窯内(焼成室下層)	17.1	8.0	もみ	糸切り	指ナデ	良						
172	碗	6e	2号窯内(焼成室下層)	—	7.7	—	糸切り	ナデ	良						
173	碗	5e	3号窯内(燃焼室)	—	8.1	—	糸切り	ナデ	良						
174	碗	5e	3号窯内(燃焼室)	—	8.4	—	糸切り	ナデ	良						
175	碗	5e	3号窯内(燃焼室)	—	8.6	—	糸切り	指ナデ	良						
176	碗	5e	3号窯内(燃焼室)	—	7.8	—	糸切り	指ナデ	良						
177	碗	8f	1号窯内(焼成室)	16.3	8.1	もみ	糸切り	ナデ	良						
178	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	8.1	—	糸切り	ナデ	良						
179	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	8.7	—	ナデ	指ナデ	良						
180	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	7.5	—	糸切り	ナデ	良						

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		高台底面		底面外面	見込み	焼成	胎土	釉の箇所		口縁	備考	その他
				口径	高台径	器高	附着痕					内面	外面			
181	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	8.6	—	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良			あり		
182	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	8.0	—	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良			あり		胎土に小石を含む
183	碗	5e	3号窯内(焼成室)	(16.7)	8.3	5.2	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり	E	胎土に小石を含む
184	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	8.0	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良					
185	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	7.4	—	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	最良					胎土に小石を含む
186	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	—	—	不明	不明	不明	不良	良			あり		高台とれ、生焼け
187	碗	5e	3号窯内(焼成室)	(15.2)	(8.4)	4.9	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良			あり	A	胎土に小石を含む
188	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	7.9	5.2	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	不良	良				D	3
189	碗	5e	3号窯内(焼成室)	(17.3)	7.9	—	もみ	ナデ	指ナデ	良	良			あり	C	3
190	碗	5e	3号窯内(焼成室)	16.7	8.7	5.1	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり	C	2
191	碗	5e	3号窯内(焼成室)	(17.5)	8.6	5.3	もみ	糸切り	ナデ	不良	良			あり		生焼け
192	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	8.2	—	もみ	糸切り	指ナデ	良	良			あり	D	3
193	碗	5e	3号窯内(焼成室)	15.8	8.3	5.0	もみ	糸切り	指ナデ	良	良			あり		生焼け
194	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	8.0	—	不明	糸切り後ナデ	指ナデ	不良	良			あり		
195	碗	5e	3号窯内(焼成室)	16.9	8.4	4.9	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良			あり	C	3
196	碗	5e	3号窯内(焼成室)	(17.0)	8.4	4.9	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良			あり	C	1
197	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	8.3	—	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	不良	良			あり		生焼け
198	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	7.3	—	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良			あり	D	1
199	碗	5e	3号窯内(焼成室)	16.7	8.8	5.3	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり	D	3
200	碗	5e	3号窯内(焼成室)	(16.0)	8.7	4.7	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり	C	1
201	碗	5e	3号窯内(焼成室)	16.8	8.0	5.1	不明	糸切り後ナデ	指ナデ	不良	良			あり	C	1
202	碗	5e	3号窯内(焼成室)	16.1	(8.1)	5.2	もみ	糸切り	指ナデ	良	良			あり	D	3
203	碗	5e	3号窯内(焼成室)	(16.0)	7.9	5.0	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	不良	良			あり	A	1
204	碗	5e	3号窯内(焼成室)	17.0	8.4	5.5	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	不良	良			あり	C	1
205	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	8.6	—	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良					生焼け
206	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	7.9	—	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良					生焼け
207	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	7.6	—	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良					
208	碗	5f	3号窯内(焼成室)	—	8.1	—	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良					
209	碗	5e	3号窯内(焼成室)	(16.2)	8.2	5.3	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり	D	3
210	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	8.4	—	不明	糸切り	ナデ	不良	良			あり		高台とれ、生焼け
211	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	測定不能	残長5.2	不明	糸切り後ナデ	ナデ	不良	良			あり		高台とれ
212	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	測定不能	—	砂	糸切り	ナデ	不良	良					
213	碗	5e	3号窯内(焼成室)	(15.8)	7.2	4.5	不明	糸切り	ナデ	良	良				B	1
214	碗	5e	3号窯内(焼成室)	測定不能	7.0	4.6	不明	糸切り	ナデ	良	良			あり	D	1
215	碗	5f	3号窯内(焼成室)	(16.5)	8.0	[5.3]	もみ	糸切り	指ナデ	良	良			あり	B	1
216	碗	5f	3号窯内(焼成室)	16.8	7.6	5.3	もみ	糸切り	指ナデ	良	良			あり	C	1
217	碗	5f	3号窯内(焼成室)	測定不能	8.0	測定不能	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良			あり	D	1
218	碗	5f	3号窯内(焼成室下層)	16.3	7.4	4.9	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり	C	1
219	碗	5f	3号窯内(焼成室下層)	(15.8)	8.0	5.2	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良			あり	C	3
220	碗	5f	3号窯内(焼成室下層)	15.9	7.7	5.3	もみ	指ナデ	指ナデ	良	良				E	1
221	碗	5f	3号窯内(焼成室下層)	16.7	7.8	5.3	もみ	糸切り	指ナデ	良	良				C	5
222	碗	5f	3号窯内(焼成室下層)	17.6	9.3	4.8	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良			あり	B	5
223	碗	5f	3号窯内(焼成室)	16.8	8.6	5.1	もみ	糸切り	指ナデ	良	良				D	3
224	碗	5e	3号窯内(焼成室)	16.6	8.0	5.2	もみ	糸切り	指ナデ	良	良			あり	D	3
225	碗	5e	3号窯内(焼成室)	16.9	9.0	5.0	もみ	糸切り	指ナデ	良	良				D	3

表21 遺物観察表 (続) 5

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		高台底面 付着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	袖の箇所		口縁 端面	備考	その他
				口径	器高						内面	外面			
226	碗	3g	検出 I (灰原)	—	(8.0)	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
227	碗	4g	検出 I (灰原)	—	8.0	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良					胎土に小石を含む
228	碗	4g	検出 I (灰原)	—	7.9	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				胎土に小石を含む
229	碗	4g	検出 I (灰原)	—	7.5	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				胎土に小石を含む
230	碗	4h	検出 I (灰原)	(16.5)	(8.4)	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	あり	C	2
231	碗	4h	検出 I (灰原)	—	8.8	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	不良	良					
232	碗	4h	検出 II (灰原)	—	8.1	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
233	碗	4h	検出 II (灰原)	—	7.1	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	最良	あり				
234	碗	5h	検出 I (灰原)	—	7.4	もみ	ナデ	指ナデ	良	良	あり				
235	碗	5h	検出 I (灰原)	(17.4)	7.6	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり			C	5
236	碗	6g	灰原上層	—	7.3	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
237	碗	6g	灰原上層	—	7.6	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり				
238	碗	6g	灰原上層	—	7.6	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良					胎土に小石を含む
239	碗	6g	灰原上層	—	8.1	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	最良	あり				
240	碗	6g	灰原上層	—	7.5	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
241	碗	6g	灰原上層	—	(7.0)	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良					
242	碗	6g	灰原上層	—	8.0	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり			
243	碗	6g	灰原上層	(16.2)	7.8	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり			D	1
244	碗	6g	灰原上層	(16.4)	8.1	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり			D	1
245	碗	6g	灰原上層	—	(8.0)	もみ	ナデ	ナデ	良	良					
246	碗	6g	灰原上層	—	(8.0)	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
247	碗	5f	灰原上層	測定不能	8.6	測定不能	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり		B	1
248	碗	5f	灰原上層	(16.4)	7.8	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり		C	4
249	碗	4h	検出 II (灰原)	—	(8.6)	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり				
250	碗	4g	検出 II (灰原)	—	(7.6)	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
251	碗	4g	検出 II (灰原)	—	(8.0)	もみ	糸切り	ナデ	良	良					
252	碗	6f	灰原上層	—	7.6	もみ	糸切りとナデ	ナデ	良	良	あり	あり			
253	碗	6f	灰原上層	—	8.5	もみ	糸切りとナデ	ナデ	良	良	あり				
254	碗	6f	灰原上層	—	8.5	もみ	糸切りとナデ	ナデ	良	良	あり				
255	碗	6f	灰原上層	—	7.6	もみ	糸切りとナデ	ナデ	良	良	あり				
256	碗	6f	灰原上層	—	8.4	もみ	ナデ	ナデ	良	良	あり				
257	碗	6f	灰原上層	—	7.6	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				胎土に小石を含む
258	碗	6f	灰原上層	—	(8.6)	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
259	碗	6g	検出 II (灰原)	—	7.7	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり				胎土に小石を含む
260	碗	6g	検出 I (灰原)	—	(8.0)	もみ	糸切り	指ナデ	良	良					胎土に小石を含む
261	碗	6g	検出 I (灰原)	—	8.5	もみ	糸切り	ナデ	良	良				C	5
262	碗	6f	検出 I (灰原)	—	7.1	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				高台がほとんどとれている
263	碗	6f	検出 I (灰原)	—	8.2	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	あり	あり			胎土に小石を含む
264	碗	6f	検出 I (灰原)	—	7.4	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				内面至面精
265	碗	6f	検出 I (灰原)	(17.0)	(7.8)	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり			
266	碗	6f	検出 I (灰原)	(16.0)	(8.0)	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり		D	3
267	碗	6f	検出 I (灰原)	—	7.5	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり	あり		B	3
268	碗	5f	検出 I (灰原)	—	7.2	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり				
269	碗	5f	検出 I (灰原)	—	8.1	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
270	碗	5f	検出 I (灰原)	(16.2)	(8.8)	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり			C	3

第22表 遺物観覧表 (碗) 6

第23期 遺物調査表 (碗) 7

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		高台底面 付着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	釉の箇所			口縁 端部	備考	その他
				口径	高台径						口径	内面	外面			
271	碗	6g	検出II(灰原)	(16.5)	(8.9)	5.0	系切り	ナデ	良	良	あり	あり	C	3	内面降灰	
272	碗	6g	検出II(灰原)	—	(7.6)	—	系切り	指ナデ	良	良	あり	あり				
273	碗	6g	検出II(灰原)	16.4	7.8	5.0	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	D	1	胎土に小石を含む、内面降灰	
274	碗	6g	検出II(灰原)	(16.3)	7.5	4.9	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	C	1	内面降灰	
275	碗	6g	検出II(灰原)	(17.4)	8.3	4.6	ナデ	指ナデ	良	良	あり	あり	D	2	胎土に小石を含む、内面降灰	
276	碗	6g	検出II(灰原)	測定不能	底径8.0	測定不能	系切り	指ナデ	良	良	あり	あり	C	1	高台とれ、内面降灰	
277	碗	6g	検出II(灰原)	(17.0)	8.6	4.7	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	E	5		
278	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	—	系切り	ナデ	良	良	あり	あり				
279	碗	6g	検出II(灰原)	17.0	8.2	4.5	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	C	1	内面降灰、底部に穴	
280	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	—	系切り後ナデ	不明	良	良	あり	あり				
281	碗	6g	検出II(灰原)	—	底径8.4	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
282	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.4	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり			高台が半分とれ	
283	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.4	—	系切り	ナデ	良	良	あり	あり				
284	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.5	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
285	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.8	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
286	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
287	碗	6g	検出II(灰原)	—	(7.6)	—	ナデ	ナデ	良	良	あり	あり			胎土に小石を含む	
288	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.7	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
289	碗	6g	検出II(灰原)	—	(9.0)	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
290	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.2	—	系切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり	あり			底部に板目	
291	碗	6g	検出II(灰原)	—	底径6.5	—	系切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり	あり				
292	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.2	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
293	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.3	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
294	碗	6g	検出II(灰原)	(16.0)	底径7.4	4.5	ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	C	1	高台がほとんどとれ	
295	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.1	—	不明	ナデ	良	良	あり	あり				
296	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.2	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
297	碗	6g	検出II(灰原)	—	9.0	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
298	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.1	—	系切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり	あり				
299	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.3	—	系切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり	あり				
300	碗	6g	検出II(灰原)	—	(8.4)	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	B	3		
301	碗	6g	検出II(灰原)	(15.8)	7.3	4.2	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり			胎土に小石を含む	
302	碗	6g	検出II(灰原)	(16.8)	8.2	4.3	系切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり	あり	B	1	胎土に小石を含む	
303	碗	6g	検出II(灰原)	—	(7.8)	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
304	碗	6g	検出II(灰原)	—	底径8.2	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
305	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
306	碗	6g	検出II(灰原)	(16.2)	8.0	4.4	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	D	1	胎土に小石を含む	
307	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.2	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
308	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.4	—	系切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり	あり				
309	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.7	—	系切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり	あり			胎土に小石を含む	
310	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.0	—	ナデ	指ナデ	良	良	あり	あり			胎土に小石を含む	
311	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.4	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
312	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
313	碗	6g	検出II(灰原)	(16.5)	7.8	4.5	系切り	不明	良	良	あり	あり	D	3		
314	碗	6g	検出II(灰原)	—	[7.6]	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
315	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.4	—	系切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		高台底面 付着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	釉の箇所		口縁	備考	その他
				口径	高台径						内面	外面			
316	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.8	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				胎土に小石を含む
317	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.5	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				胎土に小石を含む
318	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.6	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
319	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.8	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
320	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
321	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.1	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
322	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.5	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
323	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.6	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
324	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.8	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
325	碗	6g	検出II(灰原)	(17.2)	8.2	4.3	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり				
326	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	—	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり				
327	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.2	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
328	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.6	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
329	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.1	—	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり				
330	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
331	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.6	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
332	碗	6g	検出II(灰原)	測定不能	8.2	測定不能	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
333	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.6	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
334	碗	6g	検出II(灰原)	—	[7.8]	—	不明	指ナデ	良	良	あり				
335	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.4	—	糸切り	指ナデ	良	良	あり				
336	碗	6g	検出II(灰原)	(16.0)	7.8	4.8	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり				
337	碗	6g	検出II(灰原)	(16.4)	9.4	4.6	糸切り	ナデ	良	良	あり				
338	碗	6g	検出II(灰原)	(16.6)	8.7	4.9	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり				
339	碗	6g	検出II(灰原)	(16.2)	8.7	5.0	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり				
340	碗	6g	検出II(灰原)	(16.7)	7.2	5.0	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
341	碗	6g	検出II(灰原)	(15.7)	7.3	4.5	糸切り	ナデ	良	良	あり				
342	碗	6g	検出II(灰原)	(15.6)	(8.3)	5.2	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり				
343	碗	6g	検出II(灰原)	(17.2)	7.3	4.4	糸切り	ナデ	良	良	あり				
344	碗	6g	検出II(灰原)	(16.8)	8.8	4.2	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
345	碗	6g	検出II(灰原)	測定不能	測定不能	4.4	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
346	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.6	—	糸切り	ナデ	良	良	あり				
347	碗	6g	検出II(灰原)	—	(7.2)	—	糸切り	ナデ	良	良	あり				
348	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
349	碗	6g	検出II(灰原)	測定不能	8.2	測定不能	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
350	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.1	—	糸切り後ナデ	不明	良	良	あり				
351	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.2	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
352	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.4	—	糸切り	ナデ	良	良	あり				
353	碗	6g	検出II(灰原)	(16.7)	8.0	4.3	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
354	碗	6g	検出II(灰原)	(16.0)	8.0	4.7	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
355	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	—	糸切り	ナデ	良	良	あり				
356	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.2	—	ナデ	ナデ	良	良	あり				
357	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.6	—	糸切り	不明	良	良	あり				
358	碗	6g	検出II(灰原)	測定不能	8.3	測定不能	糸切り	指ナデ	良	良	あり				
359	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.4	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり				
360	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	—	糸切り	ナデ	良	良	あり				



遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		高台底面 付着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	釉の箇所		口縁 外部	高台 接合	備考	その他
				口径	器高						内面	口縁				
361	碗	6g	検出II(灰原)	(15.4)	4.9	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり					
362	碗	6g	検出II(灰原)	16.7	4.5	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	あり			
363	碗	6g	検出II(灰原)	(15.9)	7.9	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり	あり				
364	碗	6g	検出II(灰原)	(15.9)	7.5	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	あり			
365	碗	6g	検出II(灰原)	16.0	7.9	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	あり			
366	碗	6g	検出II(灰原)	(18.0)	8.2	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	あり			全体にゆがむ
367	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.9	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり		あり			
368	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.7	—	糸切り	指ナデ	良	良	あり		あり			
369	碗	6g	検出II(灰原)	16.4	8.4	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				口縁が少したれる
370	碗	6g	検出II(灰原)	(16.6)	4.6	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり			
371	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	もみ	糸切り	指ナデ	良	良						
372	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.8	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良			あり			
373	碗	6g	検出II(灰原)	(17.4)	8.0	もみ	糸切り	指ナデ	良	良			あり			
374	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.3	もみ	糸切り	指ナデ	良	良						
375	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.9	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり		あり			
376	碗	6g	検出II(灰原)	—	(8.0)	もみ	糸切り	指ナデ	良	良						胎土に小石を含む
377	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.1	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良						
378	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	もみ	糸切り	ナデ	良	良						
379	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.1	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良						
380	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.7	もみ	糸切り	指ナデ	良	良						
381	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.1	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		あり			
382	碗	6g	検出II(灰原)	(17.6)	(8.2)	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり			
383	碗	6g	検出II(灰原)	—	(8.6)	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良			あり			胎土に小石を含む
384	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.4	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良			あり			胎土に小石を含む
385	碗	6g	検出II(灰原)	(16.2)	(9.2)	もみ	糸切り	指ナデ	良	良			あり			胎土に小石を含む
386	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.9	砂	糸切り後ナデ	ナデ	良	良			あり			胎土に小石を含む
387	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.5	もみ	糸切り	指ナデ	良	良						胎土に小石を含む
388	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.6	もみ	糸切り	ナデ	良	良						胎土に小石を含む
389	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.2	もみ	糸切り	ナデ	良	良						胎土に小石を含む
390	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.6	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり			胎土に小石を含む
391	碗	6g	検出II(灰原)	(16.2)	(8.0)	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		あり			
392	碗	6g	検出II(灰原)	(17.0)	7.4	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり			
393	碗	6g	検出II(灰原)	(16.2)	7.8	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良			あり			胎土に小石を含む
394	碗	6g	検出II(灰原)	(16.6)	8.5	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり		あり			胎土に小石を含む
395	碗	6g	検出II(灰原)	—	9.0	もみ	糸切り	ナデ	良	良						
396	碗	6g	検出II(灰原)	(15.0)	7.5	もみ	糸切り	ナデ	良	良						胎土に小石を含む
397	碗	6g	検出II(灰原)	—	(8.4)	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり					胎土に小石を含む
398	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.8	もみ	糸切り	指ナデ	良	良						
399	碗	6g	検出II(灰原)	15.6	8.3	もみ	糸切り	指ナデ	良	良			あり			
400	碗	6g	検出II(灰原)	測定不能	7.2	測定不能	糸切り後ナデ	ナデ	良	良			あり			口縁たれ
401	碗	6g	検出II(灰原)	—	(9.0)	もみ	糸切り	ナデ	良	良						
402	碗	6g	検出II(灰原)	16.2	8.3	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり			胎土に小石を含む
403	碗	6g	検出II(灰原)	(17.2)	8.5	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり			
404	碗	6g	検出II(灰原)	(17.2)	(8.0)	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり			
405	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.7	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり			

第25表 遺物観察表 (碗) 9

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		高台底面 付着痕	底部外面	見込み	胎土	類の箇所		口縁	備考	その他		
				口径	高台径					内面	口縁外面				高台	接合体部
406	碗	6g	検出II(灰原)	測定不能	—	不明	不明	ナデ	良	あり		C	1	高台とれ		
407	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.8	もみ	糸切り	ナデ	良					胎土に小石を含む		
408	碗	6g	検出II(灰原)	—	(8.4)	もみ	糸切り	ナデ	良					胎土に小石を含む		
409	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.6	もみ	糸切り	ナデ	良					胎土に小石を含む		
410	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.7	もみ	糸切り	指ナデ	良					胎土に小石を含む		
411	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	もみ	糸切り	ナデ	良	あり				胎土に小石を含む		
412	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	もみ	糸切り	ナデ	良					胎土に小石を含む		
413	碗	6g	検出II(灰原)	—	(9.0)	もみ	糸切り	指ナデ	良							
414	碗	6g	検出II(灰原)	—	(8.0)	もみ	糸切り	ナデ	良							
415	碗	6g	検出II(灰原)	—	(8.0)	もみ	糸切り	ナデ	良							
416	碗	6g	検出II(灰原)	—	(7.4)	もみ	糸切り	ナデ	良	あり						
417	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.5	不明	糸切り	ナデ	良	あり						
418	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.5	もみ	糸切り	ナデ	良	あり						
419	碗	6g	検出II(灰原)	—	[8.0]	もみ	糸切り	ナデ	良							
420	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.7	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良						胎土に小石を含む、底面に板目	
421	碗	6g	検出II(灰原)	—	(7.2)	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良							
422	碗	6g	検出II(灰原)	—	(8.0)	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良							
423	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.2	もみ	糸切り	ナデ	良							
424	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.1	もみ	糸切り	指ナデ	良						胎土に小石を含む	
425	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.7	もみ	糸切り	ナデ	良						胎土に小石を含む	
426	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.1	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良							
427	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	もみ	糸切り	ナデ	良							
428	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.7	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良						胎土に小石を含む	
429	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.7	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良						胎土に小石を含む	
430	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.4	もみ	糸切り	ナデ	良						胎土に小石を含む	
431	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	もみ	糸切り	ナデ	良						胎土に小石を含む	
432	碗	6g	検出II(灰原)	—	(8.0)	なし	糸切り	指ナデ	良	あり					胎土に小石を含む	
433	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.7	もみ	糸切り	ナデ	良							
434	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.9	もみ	糸切り	指ナデ	良							
435	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.9	もみ	糸切り	指ナデ	良							
436	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.8	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良							
437	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.6	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良							
438	碗	6g	検出II(灰原)	(16.2)	7.4	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良				E	1	胎土に小石を含む	
439	碗	6g	検出II(灰原)	(17.0)	7.6	もみ	糸切り	指ナデ	良	あり			C	5		
440	碗	6g	検出II(灰原)	(15.6)	7.2	もみ	糸切り	ナデ	良	あり					高台底とんどれ	
441	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.4	もみ	糸切り	ナデ	良	あり						
442	碗	6g	検出II(灰原)	(16.3)	7.8	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	あり	あり				胎土に小石を含む	
443	碗	6g	検出II(灰原)	15.9	7.6	もみ	糸切り	ナデ	良	あり	あり					
444	碗	6g	検出II(灰原)	(15.4)	7.3	(4.6)	糸切り後ナデ	ナデ	良	あり	あり					
445	碗	6g	検出II(灰原)	16.7	8.0	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	あり	あり					
446	碗	6g	検出II(灰原)	15.9	8.0	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	あり	あり					
447	碗	6g	検出II(灰原)	(16.0)	7.8	もみ	糸切り	ナデ	良	あり	あり					
448	碗	6g	検出II(灰原)	(15.9)	7.4	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	あり	あり				底面にひびわれ	
449	碗	6g	検出II(灰原)	—	8.0	もみ	糸切り	ナデ	良						重ね焼片付着	
450	碗	6g	検出II(灰原)	—	7.8	もみ	糸切り	ナデ	不良							

第26表 遺物観測表 (碗) 10

第27期 遺物観察表 (碗) 11

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		高台底面 付着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	釉の箇所			口縁 端部	備考	その他
				口径	高台径						器高	内面	口縁			
451	碗	6f	検出II(灰原)	(15.9)	8.2	4.6	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	E	1		
452	碗	6f	検出II(灰原)	(16.6)	7.4	5.0	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	D	1		
453	碗	6f	検出II(灰原)	(16.5)	7.7	4.8	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	C	1		
454	碗	6f	検出II(灰原)	(17.2)	8.1	4.6	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	C	1		
455	碗	6f	検出II(灰原)	(16.0)	7.5	4.9	糸切り後ナデ	ナデ	良	最良	あり	あり	D	3		
456	碗	6f	検出II(灰原)	(17.0)	8.3	4.7	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	C	2		
457	碗	6f	検出II(灰原)	(16.8)	8.6	4.6	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	D	1		
458	碗	6f	検出II(灰原)	—	8.5	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
459	碗	6f	検出II(灰原)	—	7.8	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
460	碗	6f	検出II(灰原)	—	7.1	—	ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
461	碗	6f	検出II(灰原)	—	7.3	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
462	碗	6f	検出II(灰原)	—	8.5	—	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり				
463	碗	6f	検出II(灰原)	—	7.5	—	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり				
464	碗	6f	検出II(灰原)	—	(9.0)	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
465	碗	6f	検出II(灰原)	—	7.8	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
466	碗	6f	検出II(灰原)	—	7.2	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
467	碗	6f	検出II(灰原)	—	7.8	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
468	碗	6f	検出II(灰原)	—	7.8	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
469	碗	6f	検出II(灰原)	測定不能	7.8	測定不能	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり			重ね焼片付着	
470	碗	6f	検出II(灰原)	—	7.5	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
471	碗	6f	検出II(灰原)	—	8.6	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
472	碗	6f	検出II(灰原)	—	7.5	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
473	碗	6f	検出II(灰原)	—	7.5	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
474	碗	6f	検出II(灰原)	—	7.0	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり			胎土に小石を含む	
475	碗	6f	検出II(灰原)	—	7.6	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
476	碗	6f	検出II(灰原)	—	8.7	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
477	碗	6f	検出II(灰原)	—	7.5	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
478	碗	6f	検出II(灰原)	—	7.5	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
479	碗	6f	検出II(灰原)	—	8.1	—	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり			底面に板目	
480	碗	6f	検出II(灰原)	—	(8.0)	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
481	碗	6f	検出II(灰原)	—	8.3	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
482	碗	6f	検出II(灰原)	—	7.6	—	糸切り後ナデ	不明	良	良	あり	あり			底面に板目 内面の軸は厚い	
483	碗	4h	検出III(灰原)	—	9.0	—	糸切り	ナデ	不良	良	あり	あり				
484	碗	4h	検出III(灰原)	16.6	8.4	4.6	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり	あり	A	1		
485	碗	4h	検出III(灰原)	(16.9)	8.0	4.7	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良	あり	あり	D	1	胎土に小石を含む、内面降灰	
486	碗	4h	検出III(灰原)	(16.1)	(8.0)	4.7	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	D	3		
487	碗	4h	検出III(灰原)	15.8	7.9	4.4	糸切り	ナデ	不良	良	あり	あり	D	1		
488	碗	4h	検出III(灰原)	16.4	8.1	4.5	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	E	3	胎土に小石を含む	
489	碗	6g	灰原(灰層)	—	8.0	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				
490	碗	6g	灰原(灰層)	—	8.1	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
491	碗	6g	灰原(灰層)	—	8.0	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
492	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.0	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
493	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.8	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり			胎土に小石を含む	
494	碗	6g	灰原(灰層)	—	(7.6)	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				
495	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.2	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり			胎土に小石を含む	

遺物 番号	器種	G名	出土位置		法量(cm)		高台底面 付着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	釉の箇所			口縁 端部	備考	その他
			口径	高台径	器高	内面						口縁外面	高台	接合			
496	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.6	—	糸切り	ナデ	良	良	良						
497	碗	6g	検出Ⅱ(灰原)	—	8.0	—	糸切り	ナデ	良	良	良	あり					
498	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.7	—	糸切り	ナデ	良	良	良	あり					胎土に小石を含む
499	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.7	—	糸切り	ナデ	良	良	良						胎土に小石を含む
500	碗	6g	灰原(灰層)	(16.6)	(8.3)	4.8	糸切り	ナデ	良	良	良		あり	A	1		胎土に小石を含む
501	碗	6g	灰原(灰層)	16.9	8.0	4.4	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり	B	3		胎土に小石を含む
502	碗	6g	灰原(灰層)	16.8	7.4	4.5	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	良		あり	C	1		胎土に小石を含む
503	碗	5f	灰原(灰層)	—	7.8	—	糸切り	不明	良	良	良						内面障灰
504	碗	5f	灰原(灰層)	—	8.5	—	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり				胎土に小石を含む
505	碗	5f	灰原(灰層)	—	8.2	—	糸切り	指ナデ	良	良	良						内面障灰
506	碗	5f	灰原(灰層)	—	7.2	—	糸切り	不明	良	良	良						内面障灰
507	碗	5f	灰原(灰層)	(16.4)	(7.3)	5.1	糸切り	指ナデ	良	良	良		あり	D	3		
508	碗	5f	灰原(灰層)	—	7.6	—	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり					内面障灰
509	碗	5f	灰原(灰層)	15.9	7.9	4.3	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり	C	1		
510	碗	5f	灰原(灰層)	15.7	7.4	4.7	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり	C	3		
511	碗	6g	灰原(灰層)	(16.0)	(7.3)	5.2	糸切り	ナデ	良	良	良		あり	A	1		胎土に小石を含む
512	碗	6g	灰原(灰層)	15.8	7.8	4.8	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	C	1		
513	碗	6g	灰原(灰層)	—	8.2	—	糸切り	指ナデ	良	良	良						胎土に小石を含む
514	碗	6g	灰原(灰層)	—	(8.2)	—	糸切り	ナデ	良	良	良						
515	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.6	—	ナデ	指ナデ	良	良	良						
516	碗	6g	灰原(灰層)	(16.1)	(8.2)	5.0	糸切り	指ナデ	良	良	良		あり	D	3		
517	碗	6g	灰原(灰層)	(16.2)	(7.5)	5.0	糸切り	ナデ	良	良	良		あり	C	3		
518	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.7	—	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり	あり			口縁ゆがみ
519	碗	6g	灰原(灰層)	(16.7)	(7.8)	4.7	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	B	1		
520	碗	6g	灰原(灰層)	(15.2)	(7.2)	4.6	糸切り	ナデ	良	良	良	あり		B	2		胎土に小石を含む
521	碗	6g	灰原(灰層)	(17.1)	(8.2)	4.7	糸切り	ナデ	良	良	良	あり		A	1		
522	碗	6g	灰原(灰層)	—	8.4	—	糸切り	ナデ	良	良	良						
523	碗	6g	灰原(灰層)	(16.2)	(7.7)	4.8	糸切り	ナデ	良	良	良		あり	C	1		
524	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.7	—	糸切り	ナデ	良	良	良	あり					
525	碗	6g	灰原(灰層)	(16.2)	7.7	5.2	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	D	2		
526	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.8	—	糸切り	ナデ	良	良	良	あり		あり			
527	碗	6g	灰原(灰層)	—	8.3	—	糸切り	ナデ	良	良	良		あり	あり			
528	碗	6g	灰原(灰層)	16.3	8.4	5.3	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり		D	2		壳形品、内面障灰、口縁たれ
529	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.5	—	糸切り	ナデ	良	良	良		あり				
530	碗	6g	灰原(灰層)	—	(8.4)	—	糸切り	ナデ	良	良	良						
531	碗	6g	灰原(灰層)	(17.0)	底径8.0	残存長4.4	不明	ナデ	良	良	良	あり		C	3		胎土に小石を含む、高台とれ
532	碗	6g	灰原(灰層)	15.8	7.9	4.5	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり	E	1		内面障灰
533	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.7	—	糸切り	ナデ	良	良	良						胎土に小石を含む
534	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.4	—	糸切り	ナデ	良	良	良	あり					
535	碗	6g	灰原(灰層)	(15.0)	(8.2)	5.3	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良	良	あり	あり	D	2		
536	碗	6g	灰原(灰層)	(16.2)	7.7	4.6	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり		D	2		
537	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.4	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	良	あり					底部にから跡
538	碗	6g	灰原(灰層)	(16.6)	7.5	4.3	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	良	あり	あり	B	1		
539	碗	6g	灰原(灰層)	16.1	7.8	4.6	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり	D	2		胎土に小石を含む、口縁ゆがみ
540	碗	6g	灰原(灰層)	—	8.0	—	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	良		あり				胎土に小石を含む

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		高台底面 付着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	釉の箇所			口縁 接合部	備考	その他
				口径	器高						内面	口縁	外面			
541	碗	6g	灰原(灰層)	(17.4)	8.7	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	A	1	
542	碗	6g	灰原(灰層)	—	8.8	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり			
543	碗	6g	灰原(灰層)	(15.8)	7.6	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	あり	C	1	底面にびびり
544	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.6	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	あり			
545	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.9	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり			
546	碗	6g	灰原(灰層)	—	(7.8)	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	あり			
547	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.6	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり			
548	碗	6g	灰原(灰層)	—	8.0	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	あり			
549	碗	6h	検出 I (灰原)	(16.4)	7.9	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり			内面降灰
550	碗	6h	検出 I (灰原)	—	7.3	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり			
551	碗	6h	検出 I (灰原)	—	7.8	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	あり			胎土に小石を含む
552	碗	6h	検出 I (灰原)	—	7.6	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	あり			ほとんど高台とれ
553	碗	6h	検出 I (灰原)	—	7.6	不明	糸切り	ナデ	不良	不良			あり			胎土に小石を含む
554	碗	5h	灰原	—	7.9	もみ	糸切り	ナデ	不良	不良			あり			胎土に小石を含む
555	碗	5h	検出 II (灰原)	—	7.8	もみ	糸切り	ナデ	不良	不良			あり			胎土に小石を含む
556	碗	5h	検出 II (灰原)	—	底径8.0	もみ	糸切り	ナデ	不良	不良			あり			
557	碗	5h	検出 II (灰原)	(16.9)	(7.3)	4.1	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	B	1	
558	碗	6g	灰原	(16.1)	(8.1)	4.7	糸切り	ナデ	不良	不良			あり	C	1	胎土に小石を含む
559	碗	6g	灰原	(16.6)	8.4	4.7	糸切り	ナデ	不良	不良			あり	A	1	胎土に小石を含む
560	碗	6h	灰原	16.9	8.0	4.9	糸切り	ナデ	良	良			あり	D	1	
561	碗	5h	灰原	(16.0)	(8.4)	4.8	糸切り後ナデ	ナデ	良	良			あり	C	1	
562	碗	5h	灰原	16.6	7.9	5.2	糸切り	ナデ	良	良			あり	C	3	
563	碗	5h	灰原	(16.3)	(7.1)	4.7	糸切り	指ナデ	良	良			あり	C	1	
564	碗	5h	灰原	—	8.3	もみ	糸切り	ナデ	不良	不良			あり			
565	碗	5h	灰原	—	8.0	もみ	糸切り	指ナデ	良	良			あり			
566	碗	5h	灰原	17.0	8.3	4.9	糸切り	指ナデ	良	良			あり	C	1	胎土に小石を含む
567	碗	5h	灰原	—	8.0	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良			あり			
568	碗	5h	灰原	16.8	8.0	4.9	糸切り	指ナデ	良	良			あり	D	5	
569	碗	5h	灰原	16.1	6.7	5.0	糸切り後ナデ	ナデ	良	良			あり	B	1	
570	碗	5h	灰原	—	8.6	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり			胎土に小石を含む、同心円でナデ
571	碗	5h	灰原	16.0	7.8	4.9	糸切り	ナデ	良	良			あり	C	1	
572	碗	5h	灰原	17.0	8.0	5.1	糸切り	ナデ	良	良			あり	D	6	胎土に小石を含む、ほぼ球形、口縁に特徴
573	碗	5h	灰原	—	7.7	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	不良	不良			あり			胎土に小石を含む
574	碗	5h	灰原	—	底径7.8	もみ	糸切り	ナデ	良	良						
575	碗	5h	灰原	16.7	7.9	4.7	糸切り	ナデ	良	良			あり	C	1	ほぼ球形、口縁たれ
576	碗	5h	灰原	17.0	8.6	5.2	糸切り	ナデ	不良	不良			あり	D	5	胎土に小石を含む
577	碗	5h	灰原	(17.4)	8.1	5.1	糸切り	ナデ	不良	不良			あり	D	5	胎土に小石を含む
578	碗	6h	灰原	—	底径8.0	もみ	糸切り	不明	不良	不良						
579	碗	5e	3号窯内(焼成室)	—	7.7	もみ	糸切り	ナデ	良	良						
580	碗	6h	灰原	(16.0)	(8.1)	4.7	糸切り	ナデ	良	良			あり	C	1	
581	碗	6h	灰原	(15.8)	(7.3)	4.7	糸切り後ナデ	ナデ	良	良			あり	C	1	
582	碗	3g	検出 II (灰原)	—	(8.0)	もみ	糸切り	ナデ	不良	不良						
583	碗	3g	灰原(灰層)	(15.8)	(8.0)	4.8	糸切り	ナデ	良	良			あり	A	2	胎土に小石を含む
584	碗	4g	灰原(灰層)	—	(8.6)	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり			
585	碗	4g	灰原	—	(7.2)	もみ	糸切り	ナデ	不良	不良			あり			

遺物 番号	器種	G名	出土位置		法量(cm)		高台底面 付着痕		底部外面	見込み	焼成	胎土	釉の箇所			口縁 端部	備考	その他
			口径	器高	口径	器高	内面	口縁外面					高台					
586	碗	4g	灰原	—	8.5	—	不明	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	あり				
587	碗	4g	灰原	—	7.8	—	不明	糸切り	ナデ	不良	不良						胎土に小石を含む	
588	碗	4g	灰原(灰層)	(16.2)	(7.5)	5.0	もみ	糸切り	ナデ	良	良				C	1	胎土に小石を含む	
589	碗	4g	灰原(灰層)	(17.2)	(8.2)	5.3	もみ	糸切り	ナデ	不良	不良				D	4	胎土に小石を含む	
590	碗	4g	灰原(灰層)	(17.0)	(8.5)	5.3	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり		D	2	胎土に小石を含む、高台にわら跡	
591	碗	4g	灰原(灰層上層)	(16.0)	(8.0)	5.1	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良				D	1		
592	碗	4g	灰原(灰層上層)	(17.7)	(9.2)	4.8	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり		D	1	胎土に小石を含む	
593	碗	4g	灰原(灰層上層)	(17.0)	(8.6)	4.9	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり		C	2	胎土に小石を含む	
594	碗	4g	灰原(灰層の上)	—	8.0	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良							
595	碗	4g	灰原上層	—	8.0	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良							
596	碗	4g	灰原上層	—	8.5	—	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	不良	不良							
597	碗	4g	灰原上層	(17.8)	8.4	4.8	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	あり	D	1		
598	碗	4g	灰原上層	—	7.8	—	なし	糸切り	指ナデ	良	最良	あり	あり	あり				
599	碗	6g	灰原	—	7.5	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良							
600	碗	6g	灰原	—	7.6	—	もみ	糸切り	指ナデ	良	良							
601	碗	6g	灰原	(16.8)	7.4	4.6	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	あり	C	5	口縁たれ	
602	碗	6g	灰原	(16.6)	7.7	4.5	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	あり	C	5	胎土に小石を含む	
603	碗	6g	灰原	—	8.2	—	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり					
604	碗	6g	灰原	—	7.6	—	わら跡	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良							
605	碗	6g	灰原	(15.6)	7.6	4.7	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良				B	1	胎土に小石を含む	
606	碗	6g	灰原	—	8.2	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良						胎土に小石を含む	
607	碗	6g	灰原	—	7.8	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり					
608	碗	6g	灰原	(17.4)	8.2	4.5	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	あり	D	1	胎土に小石を含む、口縁たれ	
609	碗	6g	灰原	—	7.7	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり		C	6		
610	碗	6g	灰原	—	7.7	—	不明	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良			あり				
611	碗	6g	灰原	—	7.9	—	不明	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				胎土に小石を含む	
612	碗	6g	灰原	—	底径7.9	—	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり				重ね焼片付着	
613	碗	6g	灰原	16.8	8.5	4.9	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり		D	1		
614	碗	6h	灰原	—	(8.2)	—	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良						胎土に小石を含む	
615	碗	6h	灰原	—	7.1	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり					
616	碗	6h	灰原	—	7.5	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり					
617	碗	6h	灰原	—	7.7	—	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	あり	E	1		
618	碗	6h	灰原	(17.1)	(7.8)	4.8	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり					
619	碗	6h	灰原	(16.2)	8.0	4.9	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり		D	1	胎土に小石を含む	
620	碗	6h	灰原	(17.2)	8.0	4.5	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	あり	C	1	重ね焼片付着	
621	碗	6h	灰原	—	7.4	—	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	あり	C	2	胎土に小石を含む	
622	碗	6h	灰原	(15.8)	(8.5)	4.8	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり					
623	碗	4g	灰原	—	7.4	—	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良						胎土に小石を含む	
624	碗	5h	灰原	—	8.0	—	もみ	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				胎土に小石を含む、内面磨灰	
625	碗	6g	灰原	(17.2)	(8.4)	4.6	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	B	3	胎土に小石を含む	
626	碗	6g	灰原(灰層)	—	7.8	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良						胎土に小石を含む	
627	碗	6f	灰原	—	7.6	—	もみ	糸切り後ナデ	指ナデ	良	最良						胎土に小石を含む	
628	碗	6f	灰原	—	8.2	—	もみ	糸切り	指ナデ	良	最良							
629	碗	6f	灰原	(16.0)	(8.5)	4.9	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり		A	4	胎土に小石を含む	
630	碗	6f	灰原	—	—	—	—	糸切り	ナデ	良	良							

第30表 遺物観察表 (碗) 14

遺物 番号	器種	G名	出土位置		法量(cm)		高台底面		高台底面 付着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	軸の箇所		口縁	備考	その他
			口径	高台径	器高	口径	外面	高台						口径	外面			
631	碗	6f	灰原	17.4	9.1	4.7	糸切り	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり	D	2		
632	碗	6f	灰原	(16.2)	(8.0)	4.8	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	E	3		
633	碗	6f	灰原	16.3	6.6	4.5	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	B	1	胎土に小石を含む	
634	碗	6f	灰原	—	8.3	—	糸切り	糸切り	指ナデ	最良	最良	最良	あり	あり				
635	碗	6f	灰原	—	8.0	—	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり				
636	碗	6f	灰原	—	8.1	—	糸切り	糸切り	指ナデ	最良	最良	最良	あり	あり				
637	碗	6f	灰原	—	7.8	—	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり			内面降灰	
638	碗	6f	灰原	(17.6)	(8.6)	4.8	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	A	3		
639	碗	6f	灰原	17.4	9.3	4.9	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	E	6		
640	碗	5f	灰原	—	(8.0)	—	糸切り	糸切り	ナデ	良	良	良						
641	碗	4g	灰原	—	(8.0)	—	糸切り	糸切り	ナデ	最良	最良	最良						
642	碗	4h	灰原	—	8.1	—	糸切り	糸切り	ナデ	良	良	良						
643	碗	4h	灰原	—	(8.0)	—	糸切り	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり				
644	碗	4h	灰原	—	8.8	—	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり			胎土に小石を含む	
645	碗	4h	灰原	17.9	8.5	5.0	糸切り	糸切り	指ナデ	最良	最良	最良	あり	あり	C	4	胎土に小石を含む	
646	碗	4h	灰原	測定不能	7.7	測定不能	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり			胎土に小石を含む、内面降灰	
647	碗	4h	灰原	測定不能	7.8	測定不能	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり			胎土に小石を含む	
648	碗	4h	灰原	—	7.9	—	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり			胎土に小石を含む	
649	碗	4h	灰原	—	8.2	—	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良					内面降灰	
650	碗	4h	灰原	—	8.1	—	糸切り	糸切り	指ナデ	最良	最良	最良					胎土に小石を含む	
651	碗	4h	灰原	(17.2)	7.6	4.9	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	D	2	胎土に小石を含む	
652	碗	4h	灰原	16.2	7.5	4.8	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	C	1	胎土に小石を含む	
653	碗	6g	灰原	—	8.2	—	糸切り	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり				
654	碗	6g	灰原	—	9.0	—	糸切り	糸切り	ナデ	不良	不良	不良						
655	碗	6g	灰原	(16.2)	(9.0)	5.2	糸切り	糸切り	ナデ	良	良	良			A	1		
656	碗	7h	SK9	16.3	7.8	5.1	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	A	3		
657	碗	5g	SK4	(17.2)	(7.0)	4.7	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	D	2	胎土に小石を含む	
658	碗	7h	SK9	17.4	8.8	5.3	糸切り	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり	C	2	胎土に小石を含む	
659	碗	7h	SK9	15.8	7.9	5.0	糸切り	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり	C	2	胎土に小石を含む	
660	碗	5f	2号窯燃焼室北側壁内	(14.5)	(7.0)	5.2	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	A	3		取上げ位置の記録あり
661	碗	5f	2号窯燃焼室北側壁内	15.8	7.7	5.2	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	E	2		取上げ位置の記録あり
662	碗	5f	2号窯燃焼室北側壁内	16.0	7.5	5.3	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	D	2	胎土に小石を含む	
663	碗	5f	2号窯燃焼室北側壁内	16.7	8.1	5.4	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	A	2	胎土に小石を含む	
664	碗	5f	2号窯燃焼室北側壁内	16.6	7.8	5.0	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	D	2	胎土に小石を含む	
665	碗	5f	2号窯燃焼室北側壁内	—	7.6	—	糸切り	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり				取上げ位置の記録あり
666	碗	6f	2号窯分焰柱内	—	8.2	—	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり			二次焼成	
667	碗	6f	2号窯分焰柱内	(16.0)	(8.0)	4.6	不明	不明	指ナデ	良	良	良	あり	あり	C	2		
668	碗	不明	表面採取	—	8.4	—	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり			内面降灰、内面の厚く縮	
669	碗	不明	表面採取	—	8.6	—	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり				
670	碗	不明	表面採取	(17.0)	8.2	4.8	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり	B	2		
671	碗	3h	検出Ⅱ(区域外、灰原)	—	9.0	—	糸切り	糸切り	指ナデ	良	良	良	あり	あり				
672	碗	不明	表面採取	—	7.8	—	糸切り	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり			胎土に小石を含む	
673	碗	不明	表面採取	—	7.8	—	糸切り	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり				
674	碗	不明	表面採取	(16.5)	(7.9)	4.5	糸切り	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり	C	3	胎土に小石を含む	
675	碗	3h	検出Ⅱ(区域外、灰原)	—	7.2	—	糸切り	糸切り	ナデ	良	良	良	あり	あり				

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)			高台底面 付着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	軸の箇所			備考	その他
				口径	高台径	器高						内面	口縁外面	接合部		
676	碗	7g	検出 I (区域外、灰原)	—	7.3	—	糸切り	指ナデ	良	良	あり					
677	碗	7g	検出 I (区域外、灰原)	—	8.4	—	糸切り	ナデ	良	良	あり					
678	碗	7g	検出 I (区域外、灰原)	—	底径7.4	—	糸切り	指ナデ	良	良	あり					
679	碗	7h	検出 I (区域外、灰原)	—	7.1	—	糸切り	指ナデ	良	良	あり					高台とれ
680	碗	7h	検出 I (区域外、灰原)	(16.9)	(9.0)	4.9	糸切り	ナデ	良	良	あり	A	3			
681	碗	7h	検出 I (区域外、灰原)	(15.5)	(6.8)	4.5	糸切り	ナデ	良	良	あり	C	3			
682	碗	7h	検出 I (区域外、灰原)	(16.0)	(7.0)	5.1	糸切り	指ナデ	良	良	あり	C	2			
683	碗	7h	検出 I (区域外、灰原)	—	8.7	—	糸切り	ナデ	良	良	あり					胎土に小石を含む
684	碗	7h	検出 I (区域外、灰原)	—	8.0	—	糸切り	指ナデ	良	良	あり					胎土に小石を含む
685	碗	7h	検出 I (区域外、灰原)	15.9	7.9	5.3	糸切り	不明	良	最良	あり	D	2			胎土に小石を含む、内面降灰
686	碗	8h	検出 I (区域外、灰原)	—	(8.0)	—	糸切り	ナデ	良	良	あり					
687	碗	7h	検出 II (区域外、灰原)	—	底径7.6	—	糸切り	ナデ	良	良	あり					ほとんど高台とれ
688	碗	7h	検出 II (区域外、灰原)	—	7.9	—	糸切り	ナデ	良	良						
689	碗	7h	検出 II (区域外、灰原)	—	7.6	—	糸切り	ナデ	不良	不良	あり					
690	碗	8f	1号窯内(燃焼室)	(17.4)	7.6	5.5	糸切り	指ナデ	不良	不良	あり	B	1			
691	碗	8f	1号窯内(燃焼室)	—	7.8	—	糸切り	指ナデ	不良	不良	あり					
692	碗	8f	1号窯内(燃焼室)	17.0	8.4	5.2	糸切り	指ナデ	不良	不良	あり	D	3			
693	碗	8f	1号窯内(燃焼室)	17.0	7.6	5.2	糸切り	指ナデ	良	良	あり					高台とれ
694	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	—	底径7.4	—	糸切り	指ナデ	良	良	あり					
695	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.8)	(8.7)	4.5	糸切り	指ナデ	良	良	あり	E	3			胎土に小石を含む
696	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.6	8.9	4.6	糸切り	指ナデ	良	良	あり	C	2			胎土に小石を含む
697	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.2	8.4	4.2	糸切り	指ナデ	良	良	あり	C	3			
698	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(16.6)	7.8	4.6	糸切り	指ナデ	良	良	あり	D	5			胎土に小石を含む
699	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	16.3	7.7	5.1	糸切り	指ナデ	良	良	あり	A	5			胎土に小石を含む
700	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(17.4)	8.5	4.8	糸切り	指ナデ	良	良	あり	B	1			
701	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	—	7.6	—	糸切り	ナデ	良	良	あり					
702	碗	6h	検出 II (灰原)	16.7	8.8	4.9	糸切り	ナデ	良	良	あり					
703	碗	6h	検出 II (灰原)	—	8.0	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	D	1			
704	碗	5e	2号窯床面下施設	(16.2)	7.7	5.1	糸切り	不明	良	良	あり	あり	あり			内面の厚く指
705	碗	5e	2号窯床面下施設	—	8.3	—	糸切り	指ナデ	良	良	あり	C	3			
706	碗	6e	2号窯床面下施設	(16.7)	8.6	5.3	糸切り	ナデ	良	良	あり					胎土に小石を含む
707	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	測定不能	測定不能	測定不能	糸切り	ナデ	不良	不良	あり	C	3			
708	碗	6g	検出 II (灰原)	測定不能	測定不能	測定不能	不明	不明	不明	不明	あり					胎土に小石を含む、口縁のみ、内側に3mm幅のミノ
709	碗	6g	検出 II (灰原)	測定不能	測定不能	測定不能	不明	不明	不明	不明	あり					口縁のみ、玉縁状の口縁
710	碗	6f	検出 II (灰原)	測定不能	測定不能	測定不能	不明	不明	不明	不明	あり					口縁のみ、口縁内側に折れる
711	碗	5e	3号窯内(焼成室)	(19.0)	測定不能	測定不能	不明	不明	不明	不明	あり					口縁のみ、口縁が厚い
712	碗	6h	灰原	(17.6)	測定不能	残高4.3	不明	不明	不明	不明	あり					口縁のみ、口縁に3本のミノ
713	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	(17.0)	測定不能	測定不能	不明	不明	不明	不明	あり					口縁に1本のミノ
1600	碗	5f	2号窯内(燃焼室)	測定不能	7.6	4.5	糸切り	不明	良	良	あり	C	1			口縁のみ
1602	碗	6e	2号窯内(焼成室)	測定不能	8.2	測定不能	糸切り	不明	良	良	あり	B	1			内面降灰、重ね焼



遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)		底部外面	見込み	構成	胎土	軸の箇所		接合	系統	体部	口縁	備考	その他
				口径	器高					内面	口縁外面						
714	皿	8f	1号窯内(焼成室)	8.3	3.6	2.2	糸切り	良	最良	あり			I	A	3	胎土に小石を含む	
715	皿	8f	1号窯内(焼成室)	8.2	3.6	2.5	糸切り	良	最良				I	A	3	胎土に小石を含む	
716	皿	8f	1号窯内(焼成室)	—	3.6	—	糸切り	良	最良	あり			I	D	3	内面降灰	
717	皿	8f	1号窯内(焼成室下層)	8.6	5.0	2.1	糸切り	良	最良	あり			II	D	3		
718	皿	8f	1号窯内(燃焼室)	8.8	4.3	2.5	糸切り	良	最良	あり			I	A	3	内面降灰	
719	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	7.9	4.2	2.1	糸切り	良	良	あり			I	A	4	内面降灰	
720	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	7.8	4.0	2.2	糸切り	良	良	あり			I	A	1	内面降灰、口縁たれ	
721	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	(7.6)	4.4	2.2	糸切り	良	良	あり			I	A	1	内面降灰、口縁たれ	
722	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	—	3.8	—	糸切り	ナデ	良			あり	I	C	5		
723	皿	6e	2号窯内(焼成室)	8.4	4.0	2.4	糸切り	ナデ	良				I	C	5		
724	皿	6e	2号窯内(焼成室)	8.3	3.3	2.3	糸切り	ナデ	良				I	C	5		
725	皿	6e	2号窯内(焼成室)	8.4	4.0	2.2	糸切り	不明	良				I	A	1	内面降灰	
726	皿	6e	2号窯内(焼成室)	8.3	4.0	2.2	糸切り	指ナデ	良			あり	I	C	5		
727	皿	6e	2号窯内(焼成室)	8.4	4.0	2.2	糸切り	指ナデ	良			あり	I	C	5		
728	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	(8.2)	3.9	2.2	糸切り	指ナデ	良				II	C	1	口縁ゆがみ	
729	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	(7.8)	(4.4)	2.0	糸切り	指ナデ	良	あり			II	A	2		
730	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	(8.8)	(3.7)	2.2	糸切り	ナデ	良			あり	I	A	1		
731	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	(8.6)	(4.0)	2.1	糸切り	不明	良				I	A	5	内面に厚く釉	
732	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	(8.1)	(4.4)	2.3	糸切り	ナデ	良			あり	II	A	5		
733	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.3	3.2	2.1	糸切り	ナデ	良	あり			II	B	3		
734	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	(8.2)	(4.4)	2.1	糸切り	ナデ	良				I	C	5		
735	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	(8.5)	(4.2)	2.1	糸切り後ナデ	ナデ	良				I	C	1		
736	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	(7.8)	(4.0)	2.1	糸切り	ナデ	良				I	C	3		
737	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	(8.1)	(3.8)	2.1	糸切り	ナデ	良				I	C	3		
738	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	(8.5)	4.3	2.2	糸切り後ナデ	ナデ	良	あり			II	C	5		第12図8
739	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	(8.3)	(4.0)	2.1	糸切り	ナデ	良	あり			I	D	5		第12図10
740	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	(9.2)	(3.8)	2.2	糸切り	ナデ	良	あり		あり	I	C	5		第12図11
741	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	(7.8)	3.7	1.9	糸切り	指ナデ	良	あり			I	C	3		第12図12
742	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	7.9	4.2	1.9	糸切り	ナデ	良	あり		あり	I	C	5		第12図14
743	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	(8.4)	4.0	1.8	糸切り	ナデ	良	あり		あり	I	B	3		第12図15
744	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	(7.6)	3.7	2.2	糸切り	ナデ	良	あり			I	C	3		第12図16
745	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	(7.8)	4.0	2.2	糸切り	指ナデ	良				I	A	5		第12図17
746	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	8.3	3.8	2.2	糸切り	ナデ	良	あり			II	C	5		第12図18
747	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	7.3	3.5	1.7	糸切り	ナデ	良	あり		あり	I	B	2		第12図20
748	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	8.0	4.3	2.1	糸切り	ナデ	良	あり			II	A	3		第12図21
749	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	8.1	3.8	2.1	糸切り	ナデ	良	あり			I	C	1		第12図22
750	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	(7.8)	4.0	2.3	糸切り	指ナデ	良	あり			I	A	4		第12図23
751	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	(8.2)	3.6	2.2	糸切り	ナデ	良	あり			I	D	5	口縁たれ	
752	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	(7.9)	3.9	2.0	糸切り	不明	良	あり			I	D	5	内面降灰	
753	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	(7.6)	4.0	2.0	糸切り	ナデ	良	あり	あり		I	C	5		
754	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	—	4.1	—	糸切り	指ナデ	良								
755	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	—	3.6	—	糸切り	ナデ	良								
756	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	—	4.0	—	糸切り	ナデ	良	あり							
757	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	—	3.8	—	糸切り	ナデ	良								
758	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	(8.0)	4.5	1.8	糸切り	ナデ	良	あり			I	B	5		

第33表 遺物観覧表 (目) 1

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)		底外部面	見込み	焼成	胎土	軸の箇所		接合	系統	体部	口縁	備考	その他
				口径	器高					内面	外面						
759	皿	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	8.0	2.1	糸切り	ナデ	良	良				I	B	1		
760	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	—	—	糸切り	指ナデ	良	良				I	D	5		
761	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.0	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり			I	B	5		第12図24
762	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.2	2.1	糸切り	ナデ	良	良				I	B	5		
763	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.1	1.8	糸切り	ナデ	良	良				I	B	5		
764	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.1	2.0	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	I	B	1		
765	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.4	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり			I	C	1		
766	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	—	—	糸切り	ナデ	良	良				I	C	5		
767	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.6	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり			II	B	3		
768	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.1	2.3	糸切り	指ナデ	良	良	あり			II	C	1		
769	皿	5e	2号窯内(焼成室)	8.2	2.1	糸切り	ナデ	良	良	あり			I	C	5		発形品、胎土に小石を含む
770	皿	5e	2号窯内(焼成室)	8.6	2.3	糸切り	指ナデ	良	良				I	C	3		ほぼ発形、胎土に小石を含む
771	皿	5e	2号窯内(焼成室)	8.6	2.4	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	あり	II	B	1		
772	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.2	1.8	糸切り	指ナデ	良	良	あり			I	D	1		口縁たれ
773	皿	5e	2号窯内(燃焼室)	8.3	1.9	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり		I	D	1		口縁にミノ
774	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.3	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	I	C	3		発形品、内面隆灰
775	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.2	2.0	糸切り	不明	良	良	あり			I	D	5		内面隆灰
776	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.2	2.1	糸切り	ナデ	良	良	あり		あり	I	D	5		
777	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.8	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり		あり	II	C	5		
778	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.1	3.8	糸切り	ナデ	良	良	あり		あり	I	D	5		
779	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	—	—	糸切り	指ナデ	良	良	あり							
780	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	測定不能	3.7	測定不能	糸切り	良	良	あり							
781	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.0	4.0	2.1	糸切り	ナデ	良	あり		あり	I	D	3		口縁たれ
782	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	—	4.0	—	糸切り	指ナデ	良	あり							
783	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	7.4	3.6	1.9	糸切り	指ナデ	良				I	D	1		
784	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	測定不能	3.8	測定不能	糸切り	不明	良				I	C	5		胎土に小石を含む、内面隆灰、全体にゆがみ
785	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	7.7	3.7	2.1	糸切り	ナデ	良	あり	あり		I	C	5		口縁にミノ
786	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	測定不能	3.8	測定不能	糸切り	不明	良	あり			I	A	3		内面隆灰、口縁たれ
787	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.2	4.2	2.0	糸切り	ナデ	良	あり			I	D	5		
788	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.1	4.0	2.0	糸切り	ナデ	良	あり		あり	I	C	1		
789	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.3	3.8	2.1	糸切り	ナデ	良	あり	あり						
790	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	—	4.0	—	糸切り	ナデ	良	あり			I	D	5		
791	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.0	3.6	2.0	糸切り	指ナデ	良	あり	あり		II	A	1		
792	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.4	3.8	2.5	糸切り	ナデ	良	あり	あり		I	B	3		内面隆灰
793	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	7.8	4.2	1.8	糸切り	不明	良	あり		あり	I	B	3		
794	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.2	4.1	2.0	糸切り	不明	良	あり		あり	I	A	1		
795	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.1	4.1	2.4	糸切り	ナデ	良	あり			I	D	5		
796	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	測定不能	4.0	2.1	糸切り	ナデ	良	あり			I	A	3		口縁たれ
797	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	測定不能	4.1	2.0	糸切り	ナデ	良		あり		I	A	3		
798	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	測定不能	3.8	2.3	糸切り	ナデ	良		あり		I	A	3		
799	皿	5f	2号窯内(燃焼室)	8.1	4.4	2.3	糸切り	ナデ	良				I	C	3		胎土に小石を含む、口縁にゆがみ
800	皿	6e	2号窯内(燃焼室)	8.3	4.4	2.1	糸切り	ナデ	良	あり			I	D	5		胎土に小石を含む
801	皿	6e	2号窯内(燃焼室)	8.3	3.8	2.2	糸切り	指ナデ	良	あり	あり		I	A	5		胎土に小石を含む
802	皿	6e	2号窯内(燃焼室)	8.5	3.6	2.2	糸切り	ナデ	良	あり			I	A	3		ほぼ発形
803	皿	6e	2号窯内(燃焼室)	8.4	3.9	2.1	糸切り	ナデ	良	あり			I	C	3		

第34表 遺物観察表 (Ⅲ) 2

第35表 遺物観察表 (Ⅲ) 3

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		底部外面	見込み	焼成	胎土	釉の箇所		系統	合体部	口縁	備考	その他	
				口径	底径					器高	内面						口縁外面
804	皿	6e	2号窯内(焼成室)	8.4	(4.0)	2.2	糸切り	良	良			I	C	3	胎土に小石を含む		
805	皿	6e	2号窯内(焼成室下層)	(8.0)	(3.8)	2.3	糸切り	良	良	あり		I	B	1			
806	皿	5e	2号窯内(焼成室下層)	8.7	4.6	2.1	糸切り	良	良			I	C	5	胎土に小石を含む、内面降灰		
807	皿	5e	2号窯内(焼成室下層)	8.4	4.2	2.1	糸切り	良	良	あり		I	C	5			
808	皿	6e	2号窯内(焼成室下層)	(8.2)	3.9	2.0	糸切り	良	良			I	D	3	胎土に小石を含む、内面降灰		
809	皿	6e	2号窯内(焼成室)	8.3	4.0	2.3	糸切り	良	良			I	C	1	内面降灰		
810	皿	5e	2号窯内(焼成室)	8.6	4.3	2.3	糸切り	良	良			I	C	3	宍形品、胎土に小石を含む		
811	皿	5e	2号窯内(焼成室)	(7.9)	3.8	2.2	糸切り	良	良	あり		I	D	5	口縁たれ、蓋として使用したものか		
812	皿	5e	2号窯内(焼成室)	(8.5)	4.0	2.2	糸切り	良	良	あり		I	C	2	胎土に小石を含む		
813	皿	5e	2号窯内(焼成室)	(7.8)	3.8	1.9	糸切り	良	良	あり		I	C	3	内面降灰		
814	皿	5e	2号窯内(焼成室)	(8.0)	4.0	2.0	糸切り	良	良			I	C	5			
815	皿	6e	2号窯内(焼成室)	8.2	3.8	2.5	不明	良	良	あり		I	D	3	内面降灰、分極性補修とした使用		
816	皿	5e	3号窯内(焼成室)	8.9	4.1	2.3	糸切り	良	良			I	A	1	宍形品、胎土に小石を含む		
817	皿	5e	3号窯内(焼成室)	(8.1)	(4.0)	2.2	糸切り	良	良	あり		I	D	3			
818	皿	5f	3号窯内(燃焼室)	7.6	3.6	2.1	糸切り	良	良			I	D	3	宍形品		
819	皿	5e	3号窯内(焼成室)	8.0	3.6	2.3	糸切り	良	良			I	D	5			
820	皿	5e	3号窯内(焼成室)	8.0	3.8	2.2	糸切り	良	良			あり	I	B	1		
821	皿	4g	検出I(灰原)	測定不能	4.3	測定不能	糸切り	良	良			あり	I	A	1	胎土に小石を含む、口縁ゆがみ	
822	皿	4g	検出I(灰原)	8.4	3.7	2.2	糸切り	良	良	あり		I	A	1			
823	皿	4g	検出I(灰原)	8.6	3.7	2.4	糸切り	良	良			あり	I	A	1	胎土に小石を含む	
824	皿	4h	検出I(灰原、灰層上層)	—	4.4	—	糸切り	不明	不明								
825	皿	5h	検出I(灰原)	(8.8)	(4.2)	2.0	糸切り	不明	不明			あり	I	A	1		
826	皿	5h	検出I(灰原)	(9.0)	4.8	2.2	糸切り	良	良	あり		あり	I	A	1		
827	皿	5h	検出I(灰原)	—	4.4	—	糸切り	良	良								
828	皿	5h	検出I(灰原)	—	4.7	—	糸切り	良	良	あり							
829	皿	5h	検出I(灰原)	—	(4.9)	—	糸切り	良	良	あり							
830	皿	5h	検出I(灰原)	8.8	4.4	2.4	糸切り	良	良			あり	I	C	1		
831	皿	6g	灰原(灰層上層)	(8.7)	4.6	2.2	糸切り	良	良			あり	I	C	3		
832	皿	6g	灰原(灰層上層)	8.2	4.1	2.1	糸切り	不明	不明	あり		あり	I	C	3	内面降灰	
833	皿	6g	灰原(灰層上層)	—	4.9	—	糸切り	良	良			あり					
834	皿	6g	灰原(灰層上層)	—	4.2	—	糸切り	良	良	あり							
835	皿	5f	灰原(灰層上層)	—	4.2	—	糸切り	良	良	あり							
836	皿	4g	検出II(灰原)	8.8	4.0	2.1	糸切り	良	良			あり	I	D	5		
837	皿	4g	検出II(灰原)	測定不能	3.6	測定不能	糸切り	良	良	あり		あり				全体にゆがみ	
838	皿	6f	灰原(灰層上層)	—	4.4	—	糸切り	良	良	あり							
839	皿	6f	灰原(灰層上層)	(9.0)	4.4	2.1	糸切り	良	良	あり							
840	皿	6f	灰原(灰層上層)	(8.6)	4.1	2.2	糸切り	良	良			あり	I	A	3		
841	皿	6f	灰原(灰層上層)	(8.6)	(4.4)	2.2	糸切り	良	良			あり	I	A	1		
842	皿	6f	灰原(灰層上層)	—	4.8	—	糸切り	良	良			あり	I	D	1		
843	皿	6f	灰原(灰層上層)	—	4.4	—	糸切り	良	良								
844	皿	6f	灰原(灰層上層)	—	4.1	—	糸切り	良	良	あり							
845	皿	6f	灰原(灰層上層)	—	4.7	—	糸切り	良	良								
846	皿	6f	灰原(灰層上層)	—	4.3	—	糸切り	良	良	あり							
847	皿	6f	灰原(灰層上層)	—	4.7	—	糸切り	良	良	あり							
848	皿	6f	灰原(灰層上層)	—	4.5	—	糸切り	良	良			あり					

第36表 遺物観覧表 (目) 4

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)		器高	底部外面	見込み	焼成	胎土	軸の箇所			系統	体部	口縁	備考	その他
				口径	底径						内面	口縁	外面					
849	皿	6f	灰原(灰層上層)	—	4.3	—	糸切り	ナデ	良	良								
850	皿	6f	灰原(灰層上層)	—	4.6	—	糸切り	ナデ	良	良	あり							
851	皿	6f	灰原(灰層上層)	—	4.0	—	糸切り	ナデ	良	良	あり							
852	皿	6f	灰原(灰層上層)	—	3.9	—	糸切り	ナデ	良	良								
853	皿	6f	灰原(灰層上層)	(7.8)	3.7	2.4	糸切り	不明	良	良	あり		I	C	5	内面降灰		
854	皿	6f	灰原(灰層上層)	(8.8)	4.6	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり		I	D	1	口縁たれ		
855	皿	6f	灰原(灰層上層)	8.2	4.8	2.0	糸切り	ナデ	良	良	あり		I	C	3	重ね焼の破片付着		
856	皿	4g	検出Ⅱ(灰原)	(8.8)	4.4	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり		I	D	1			
857	皿	4g	トレンゾ内(灰原)	8.0	4.2	2.1	糸切り	不明	良	良	あり		II	A	1	内面全降		
858	皿	6h	検出Ⅰ(灰原)	(8.5)	(4.8)	2.4	糸切り	ナデ	良	良	あり		I	A	5	胎土に小石を含む		
859	皿	6g	検出Ⅰ(灰原)	8.8	4.2	2.1	糸切り	ナデ	良	良	あり		II	A	1			
860	皿	6g	検出Ⅰ(灰原)	—	4.4	—	糸切り	ナデ	良	良						胎土に小石を含む		
861	皿	6g	灰原(灰層上層)	—	4.4	—	糸切り	ナデ	良	良								
862	皿	6g	検出Ⅰ(灰原)	—	4.4	—	糸切り	ナデ	良	良		あり						
863	皿	6g	検出Ⅰ(灰原)	(8.0)	(3.8)	2.1	糸切り	ナデ	良	良	あり		I	C	3			
864	皿	6g	検出Ⅰ(灰原)	8.3	4.0	2.6	糸切り	指ナデ	良	良	あり		I	D	3	重ね焼の破片付着		
865	皿	6g	検出Ⅰ(灰原)	8.1	3.8	2.4	糸切り	不明	良	良	あり		I	C	5	内面降灰		
866	皿	6g	検出Ⅰ(灰原)	(9.2)	4.8	2.2	糸切り	ナデ	良	良			I	D	1			
867	皿	6g	検出Ⅰ(灰原)	—	3.9	—	糸切り	不明	良	良	あり							
868	皿	6g	検出Ⅰ(灰原)	—	5.0	—	糸切り	指ナデ	良	良								
869	皿	6g	検出Ⅰ(灰原)	(8.7)	4.4	2.0	糸切り	ナデ	良	良			I	A	1			
870	皿	5f	検出Ⅰ(灰原)	8.3	3.9	2.2	糸切り	不明	良	良			I	C	5	赤形品、内面降灰		
871	皿	5f	検出Ⅰ(灰原)	(7.8)	3.9	1.7	糸切り	不明	良	良	あり		I	B	3	内面降灰		
872	皿	5f	検出Ⅰ(灰原)	(8.2)	(4.4)	1.9	糸切り	ナデ	良	良			I	C	3			
873	皿	5f	検出Ⅰ(灰原)	—	4.0	—	糸切り	ナデ	良	最良	あり							
874	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	9.0	4.4	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり		I	A	1			
875	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	8.2	3.9	測定不能	糸切り	ナデ	良	良	あり		I	A	5	胎土に小石を含む、全体にゆがむ		
876	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	8.7	4.8	1.7	糸切り	不明	良	良	あり		I	B	4	内面降灰		
877	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.3)	4.4	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり		あり	I	D	1		
878	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	8.6	4.2	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり		あり	I	A	1	胎土に小石を含む	
879	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(9.0)	4.5	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり		II	D	1			
880	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.4)	4.1	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり		II	A	3			
881	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.4)	4.2	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり		I	A	1	胎土に小石を含む		
882	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.4)	3.9	2.1	糸切り	ナデ	良	良	あり		II	B	2			
883	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	8.9	4.6	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり		あり	I	A	1	胎土に小石を含む	
884	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(9.0)	4.4	2.1	糸切り	ナデ	良	良	あり		あり	I	B	1	胎土に小石を含む	
885	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.8)	4.4	2.1	糸切り	ナデ	良	良	あり		あり	I	A	1	胎土に小石を含む	
886	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(9.2)	4.1	2.1	糸切り	ナデ	良	良	あり		あり	I	A	1	胎土に小石を含む	
887	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.6)	4.3	2.3	糸切り	不明	良	良	あり		II	B	3			
888	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.1)	3.8	2.3	糸切り	ナデ	良	良			I	C	5			
889	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(7.6)	4.1	1.8	糸切り	ナデ	良	良	あり		I	B	4			
890	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(9.3)	4.5	2.0	糸切り	ナデ	良	良	あり		あり	I	D	1		
891	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.6)	4.3	2.1	糸切り	不明	良	良	あり		あり	II	D	2	口縁特徴	
892	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.6)	4.0	2.1	糸切り	ナデ	良	良	あり		あり	I	D	3		
893	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.3)	(4.0)	1.9	糸切り	指ナデ	良	良			I	C	3			

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)			底部外面	見込み	焼成	胎土	釉の箇所		系統	体部	口縁	備考	その他
				口径	底径	器高					内面	口縁					
894	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	8.3	3.7	2.3	糸切り	ナデ	良	良		I	C	5	胎土に小石を巻む		
895	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.8)	4.6	2.1	糸切り	ナデ	良	良		I	A	3			
896	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.3)	4.4	2.1	糸切り	ナデ	良	良		I	B	5			
897	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(9.0)	4.5	2.1	糸切り	ナデ	良	良		II	A	1			
898	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.2)	3.8	2.3	糸切り	ナデ	良	良		II	A	1			
899	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	8.7	3.8	2.4	糸切り	ナデ	良	良	あり	I	D	5	胎土に小石を巻む		
900	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(9.0)	5.0	2.0	糸切り	ナデ	良	良		I	D	1			
901	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.8)	4.5	1.8	糸切り	ナデ	良	良		I	A	1			
902	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	8.2	4.2	2.2	糸切り	ナデ	良	良		あり	I	C	5		
903	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	8.6	4.6	2.3	糸切り	ナデ	良	良		あり	I	C	3		
904	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(9.4)	4.9	2.0	糸切り	ナデ	良	良		あり	I	A	1		
905	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.6)	(4.4)	2.0	糸切り	ナデ	良	良		あり	I	A	1		
906	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.4)	4.2	2.3	糸切り	ナデ	良	良		あり	I	B	3		
907	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(9.4)	4.3	2.0	糸切り	ナデ	良	良		I	D	1			
908	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	8.4	4.0	2.0	糸切り	ナデ	良	良	あり	I	C	1			
909	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.7)	(4.6)	2.0	糸切り	ナデ	良	良		あり	I	C	3		
910	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.7)	3.9	2.1	糸切り	ナデ	良	良		II	A	4			
911	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.6)	(4.4)	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり	II	A	2			
912	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.6)	3.8	2.0	糸切り	ナデ	良	良		あり	I	A	2		
913	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.0)	(4.0)	2.0	糸切り	ナデ	良	良		I	D	3			
914	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	7.6	3.5	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり	II	B	3	重ね焼の破片付着		
915	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	8.8	4.4	2.0	糸切り	ナデ	良	良		I	A	3			
916	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(9.4)	4.5	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり	I	A	2	胎土に小石を巻む		
917	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	8.3	4.0	2.1	糸切り	ナデ	良	良		I	D	1			
918	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	8.4	4.3	2.0	糸切り	ナデ	良	良	あり	I	C	3			
919	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	9.2	4.6	2.0	糸切り	ナデ	良	良	あり	I	A	1			
920	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	測定不能	4.0	測定不能	糸切り	不明	良	良	あり	I	B	3	全体にゆがむ		
921	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.6)	4.0	2.3	糸切り	不明	良	良		あり	I	A	1	内面削灰	
922	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	(8.6)	4.5	2.2	糸切り	不明	良	良	あり	あり	I	A	1		
923	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	8.4	3.8	2.5	糸切り	不明	良	良	あり		I	A	3	内面削灰	
924	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	測定不能	4.2	測定不能	糸切り	不明	良	良	あり				胎土に小石を巻む		
925	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	—	3.9	—	糸切り	指ナデ	良	良							
926	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	—	4.1	—	糸切り	不明	良	良					内面削灰		
927	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	—	4.4	—	糸切り	ナデ	良	良							
928	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	—	4.5	—	糸切り	ナデ	良	良	あり						
929	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	—	4.2	—	糸切り	不明	良	良	あり				内面の軸は厚い		
930	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	—	4.7	—	糸切り	ナデ	良	良	あり				内面の軸は厚い		
931	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	—	3.8	—	糸切り	ナデ	良	最良	あり				胎土に小石を巻む		
932	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	—	4.4	—	糸切り	ナデ	良	良	あり						
933	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	—	4.7	—	糸切り	ナデ	良	良	あり						
934	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	—	3.9	—	糸切り	不明	良	良	あり				内面の軸は厚い		
935	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	—	4.6	—	糸切り	ナデ	良	良	あり						
936	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	—	(4.4)	—	糸切り	ナデ	良	良	あり						
937	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	—	(5.4)	—	糸切り	ナデ	良	良		あり					
938	皿	6g	検出Ⅱ(灰原)	—	(5.0)	—	糸切り	ナデ	良	良		あり					

第37表 遺物観察表 (目) 5

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		底径	器高	底部外面	見込み	焼成	胎土	軸の箇所			系統	体部	口縁	備考	その他	
				口径	底径							内面	口縁	外面						底部
939	皿	6g	検出II(灰原)	—	(5.0)	—	糸切り	ナデ	良	良	良									
940	皿	6g	検出II(灰原)	—	(5.4)	—	糸切り	ナデ	良	良	良									
941	皿	6g	検出II(灰原)	—	(5.0)	—	糸切り	ナデ	良	良	良									
942	皿	6g	検出II(灰原)	8.2	4.6	2.1	糸切り	ナデ	良	良	良		あり	あり	I	A	1			
943	皿	6g	検出II(灰原)	9.1	4.5	2.1	糸切り	ナデ	良	良	良				I	A	1			
944	皿	6g	検出II(灰原)	8.7	5.0	1.9	糸切り	ナデ	良	良	良				I	A	3			
945	皿	6g	検出II(灰原)	8.4	3.8	2.2	糸切り後ナデ	ナデ	良	良	良		あり	あり	I	B	5			
946	皿	6g	検出II(灰原)	(6.8)	4.6	2.2	糸切り	ナデ	良	良	良				I	C	3			
947	皿	6g	検出II(灰原)	(9.1)	4.7	2.3	糸切り	ナデ	良	良	良				I	C	1			
948	皿	6g	検出II(灰原)	(8.9)	4.8	2.0	糸切り	ナデ	良	良	良				I	D	1			
949	皿	6g	検出II(灰原)	8.9	4.2	2.2	糸切り	ナデ	良	良	良				I	A	1			
950	皿	6g	検出II(灰原)	(8.8)	4.2	2.3	糸切り	ナデ	良	良	良				II	A	1			
951	皿	6g	検出II(灰原)	(8.3)	4.2	2.1	糸切り	ナデ	良	良	良				I	A	1			
952	皿	6g	検出II(灰原)	(8.7)	4.6	2.1	糸切り	ナデ	良	良	良		あり		I	A	1			
953	皿	6g	検出II(灰原)	(8.8)	4.1	2.3	糸切り	ナデ	良	良	良				I	A	1			
954	皿	6g	検出II(灰原)	(8.5)	4.4	2.0	糸切り	指ナデ	良	良	良		あり		I	A	1			
955	皿	6g	検出II(灰原)	(9.4)	4.4	2.2	糸切り	ナデ	良	良	良				I	C	2			
956	皿	6g	検出II(灰原)	9.1	4.1	2.0	糸切り	ナデ	良	良	良				I	A	1			
957	皿	6g	検出II(灰原)	(8.8)	3.9	2.0	糸切り	ナデ	良	良	良				I	A	1			
958	皿	6g	検出II(灰原)	(9.0)	4.4	2.3	糸切り	ナデ	良	良	良				I	A	1			
959	皿	6g	検出II(灰原)	(8.7)	4.6	2.2	糸切り	ナデ	良	良	良		あり		I	A	1			
960	皿	6g	検出II(灰原)	(8.4)	4.2	2.2	糸切り	ナデ	良	良	良				I	A	1			
961	皿	6g	検出II(灰原)	(9.0)	(4.4)	2.3	糸切り	ナデ	良	良	良				I	A	1			
962	皿	6g	検出II(灰原)	(9.0)	4.2	2.3	糸切り	ナデ	良	良	良				I	D	1			
963	皿	6g	検出II(灰原)	(8.6)	4.6	2.1	糸切り	ナデ	良	良	良				I	D	1			
964	皿	6g	検出II(灰原)	(8.6)	4.3	2.1	糸切り	ナデ	良	良	良				I	D	1			
965	皿	6g	検出II(灰原)	(8.8)	(4.5)	2.0	糸切り	ナデ	良	良	良				I	B	3			
966	皿	6g	検出II(灰原)	8.7	4.5	2.3	糸切り	ナデ	良	良	良				I	A	1			
967	皿	6g	検出II(灰原)	(9.0)	4.4	2.1	糸切り	ナデ	良	良	良				I	A	3			
968	皿	6g	検出II(灰原)	(8.4)	(4.2)	1.9	糸切り	ナデ	良	良	良				I	D	1			
969	皿	6g	検出II(灰原)	(8.6)	4.2	2.1	糸切り	ナデ	良	良	良				I	A	3			
970	皿	6g	検出II(灰原)	(8.8)	4.4	2.3	糸切り	ナデ	良	良	良				I	A	1			
971	皿	6g	検出II(灰原)	8.6	4.2	2.1	糸切り	ナデ	良	良	良				あり	I	A	1		
972	皿	6g	検出II(灰原)	8.7	4.4	2.2	糸切り	指ナデ	良	最良	良				あり	I	A	5		
973	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.9	—	糸切り	ナデ	良	良	良				あり	I	A	1		
974	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.6	—	糸切り	ナデ	良	良	良									
975	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.6	—	糸切り	ナデ	良	良	良									
976	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.4	—	糸切り	ナデ	良	良	良									
977	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.5	—	糸切り	ナデ	良	良	良									
978	皿	6g	検出II(灰原)	—	3.9	—	糸切り	ナデ	良	良	良									
979	皿	6g	検出II(灰原)	—	5.2	—	糸切り	ナデ	良	良	良									
980	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.8	—	糸切り	ナデ	良	良	良		あり							
981	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.8	—	糸切り	ナデ	良	良	良									
982	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.1	—	糸切り	ナデ	良	良	良									
983	皿	6g	検出II(灰原)	—	5.0	—	糸切り	ナデ	良	良	良									

第39期 遺物観察表 (三) 7

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量 (cm)			口縁外面		胎土	釉の箇所		系統	体部	口縁 端部	備考	その他
				口径	底径	器高	口径	外面		内面	底面					
984	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.9	—	糸切り	良								
985	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.5	—	糸切り	良								
986	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.9	—	糸切り	良								
987	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.2	—	糸切り	良							胎土に小石を含む	
988	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.7	—	糸切り	良								
989	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.5	—	糸切り	良							胎土に小石を含む	
990	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.4	—	糸切り	良								
991	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.6	—	糸切り	良								
992	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.0	—	糸切り	良							胎土に小石を含む	
993	皿	6g	検出II(灰原)	—	(5.0)	—	糸切り	良								
994	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.5	—	糸切り	良								
995	皿	6g	検出II(灰原)	—	(4.0)	—	糸切り	良								
996	皿	6f	検出II(灰原)	8.5	4.6	2.1	糸切り	良								
997	皿	6f	検出II(灰原)	8.5	4.7	2.1	糸切り	良								
998	皿	6f	検出II(灰原)	9.2	4.7	2.2	糸切り	良								
999	皿	6f	検出II(灰原)	(8.5)	4.5	2.2	糸切り	良								
1000	皿	6f	検出II(灰原)	(8.9)	4.6	1.8	糸切り	良								
1001	皿	6f	検出II(灰原)	(9.3)	4.7	2.1	糸切り	良								
1002	皿	6f	検出II(灰原)	(9.4)	4.6	1.9	糸切り	良								
1003	皿	6f	検出II(灰原)	8.6	4.6	2.1	糸切り	良								
1004	皿	6f	検出II(灰原)	8.7	4.4	2.2	糸切り	良								
1005	皿	6f	検出II(灰原)	8.5	4.3	2.2	糸切り	良								
1006	皿	6f	検出II(灰原)	(8.5)	4.6	2.2	糸切り	良							内面の釉は厚い	
1007	皿	6f	検出II(灰原)	(9.0)	(4.4)	2.2	糸切り	良								
1008	皿	6f	検出II(灰原)	8.5	4.4	2.2	糸切り	良								
1009	皿	6f	検出II(灰原)	8.5	4.2	2.0	糸切り	良								
1010	皿	6f	検出II(灰原)	8.4	4.3	2.0	糸切り	良								
1011	皿	6f	検出II(灰原)	(8.6)	4.8	2.1	糸切り	良								
1012	皿	6f	検出I(灰原)	9.0	4.4	2.2	糸切り	良								
1013	皿	6f	検出II(灰原)	8.8	4.4	2.2	糸切り	良								
1014	皿	6f	検出II(灰原)	8.9	4.2	2.1	糸切り	良								
1015	皿	6f	検出II(灰原)	9.0	4.4	2.0	糸切り	良								
1016	皿	6f	検出II(灰原)	(9.6)	4.9	2.2	糸切り	良								
1017	皿	6f	検出II(灰原)	(8.4)	4.7	1.9	糸切り	良								
1018	皿	6f	検出II(灰原)	8.3	4.3	2.0	糸切り	良								
1019	皿	6f	検出I(灰原)	9.2	4.2	2.0	糸切り	良								
1020	皿	6f	検出II(灰原)	(9.0)	4.6	2.1	糸切り	良								
1021	皿	6f	検出II(灰原)	8.6	4.7	2.2	糸切り	良								
1022	皿	6f	検出II(灰原)	(9.2)	4.9	2.3	糸切り	良								
1023	皿	6f	検出I(灰原)	(9.2)	4.1	2.0	糸切り	良								
1024	皿	6f	検出II(灰原)	(8.3)	(4.2)	1.9	糸切り	良								
1025	皿	6f	検出II(灰原)	(8.8)	4.2	2.0	糸切り	良								
1026	皿	6f	検出II(灰原)	(8.4)	4.3	2.1	糸切り	良								
1027	皿	6f	検出II(灰原)	(9.0)	4.4	2.1	糸切り	良								
1028	皿	6f	検出II(灰原)	(8.6)	4.4	2.1	糸切り	良								

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)			底外部面	見込み	焼成	胎土	軸の箇所			系統	体部	口縁	備考	その他
				口径	底径	器高					内面	口縁	外面					
1029	皿	6f	検出II(灰原)	(9.0)	4.4	1.8	糸切り	ナデ	良	良			I	D	1			
1030	皿	6f	検出II(灰原)	(8.0)	3.9	2.6	糸切り	ナデ	良	良			II	A	4			
1031	皿	6f	検出I(灰原)	(8.8)	(5.2)	2.4	糸切り	ナデ	良	良			あり	II	B	3		
1032	皿	6f	検出II(灰原)	(8.9)	4.7	2.3	糸切り	不明	良	良			あり	I	D	1	内面の釉は厚い、内面降灰	
1033	皿	6f	検出II(灰原)	(9.4)	(5.2)	2.2	糸切り	ナデ	良	良			あり	I	D	1		
1034	皿	6f	検出II(灰原)	(8.6)	(4.6)	2.0	糸切り	ナデ	良	良			あり	I	A	1		
1035	皿	6f	検出II(灰原)	測定不能	4.6	測定不能	糸切り	不明	良	良			あり	I	C	3	内面の釉は厚い、ゆがみ	
1036	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.3	—	糸切り	ナデ	良	良				I	D	1	重ね焼の破片付着(磨部)、胎土に小石を含む	
1037	皿	6f	検出II(灰原)	(8.6)	4.4	2.1	糸切り	不明	良	良			あり	I	D	1	内面の釉は厚い、内面降灰	
1038	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.8	—	糸切り	ナデ	良	良								
1039	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.1	—	糸切り	ナデ	良	良								
1040	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.5	—	糸切り	ナデ	良	良								
1041	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.1	—	糸切り	ナデ	良	良								
1042	皿	6f	検出I(灰原)	—	4.7	—	糸切り	ナデ	良	良								
1043	皿	6f	検出II(灰原)	—	3.9	—	糸切り	ナデ	良	良								
1044	皿	6f	検出I(灰原)	—	4.5	—	糸切り	ナデ	良	良								
1045	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.6	—	糸切り	ナデ	良	良			あり					
1046	皿	6f	検出II(灰原)	—	3.7	—	糸切り	ナデ	良	良								
1047	皿	6f	検出I(灰原)	—	4.3	—	糸切り	指ナデ	良	良								
1048	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.5	—	糸切り	ナデ	良	良								
1049	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.4	—	糸切り	ナデ	良	良								
1050	皿	6f	検出I(灰原)	—	4.3	—	糸切り	ナデ	良	良								
1051	皿	6f	検出I(灰原)	—	4.1	—	糸切り	ナデ	良	良								
1052	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.4	—	糸切り	ナデ	良	良								
1053	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.5	—	糸切り	ナデ	良	良								
1054	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.7	—	糸切り	ナデ	良	良								
1055	皿	6f	検出I(灰原)	—	5.3	—	糸切り	ナデ	良	良								
1056	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.6	—	糸切り	指ナデ	良	良								
1057	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.4	—	糸切り	ナデ	良	良			あり					
1058	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.8	—	糸切り	ナデ	良	良								
1059	皿	6f	検出II(灰原)	—	3.6	—	糸切り	指ナデ	良	良								
1060	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.4	—	糸切り	ナデ	良	良								
1061	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.5	—	糸切り	ナデ	良	良								
1062	皿	6f	検出I(灰原)	—	4.2	—	糸切り	ナデ	良	良								
1063	皿	6f	検出I(灰原)	—	4.3	—	糸切り	ナデ	良	良								
1064	皿	6f	検出I(灰原)	—	4.2	—	糸切り	ナデ	良	良								
1065	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.2	—	糸切り	ナデ	良	良								
1066	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.4	—	糸切り	ナデ	良	良								
1067	皿	6f	検出I(灰原)	—	4.8	—	糸切り	ナデ	良	良								
1068	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.1	—	糸切り	ナデ	良	良								
1069	皿	6f	検出I(灰原)	—	4.9	—	糸切り	ナデ	良	良			あり					
1070	皿	6f	検出I(灰原)	—	4.3	—	糸切り	指ナデ	良	良			あり					
1071	皿	6f	検出I(灰原)	—	3.8	—	糸切り	ナデ	良	最良								
1072	皿	6f	検出I(灰原)	—	4.0	—	糸切り	ナデ	良	良								
1073	皿	6f	検出II(灰原)	—	4.5	—	糸切り	ナデ	良	良								



第4期 遺物観察表 (目) 9

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)			底面外面		見込み	焼成	胎土	軸の箇所		結合	系統	体部	口縁	備考	その他
				口径	底径	器高	底面	外面				口縁	外面						
1074	皿	6g	灰層(灰原)	(8.4)	4.4	2.1	糸切り	ナデ	良	良	あり			I	D	1	胎土に小石を含む		
1075	皿	6g	灰層(灰原)	8.4	4.2	2.2	糸切り	ナデ	良	良				I	D	2	胎土に小石を含む		
1076	皿	6g	灰層(灰原)	8.1	3.9	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり			II	A	4	胎土に小石を含む、高台特徴		
1077	皿	6g	灰層(灰原)	(8.6)	4.0	2.1	糸切り	不明	良	良				I	A	1	内面隆起、軸が厚い、口縁やがみ		
1078	皿	6g	灰層(灰原)	8.9	4.3	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり			I	D	1			
1079	皿	6g	灰層(灰原)	(9.0)	4.8	2.2	糸切り	ナデ	良	良			あり		I	A	1		
1080	皿	6g	灰層(灰原)	(8.7)	4.4	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり				I	A	1		
1081	皿	6g	灰層(灰原)	(8.3)	(4.8)	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり				I	C	3		
1082	皿	6g	灰層(灰原)	(8.6)	(4.2)	1.9	糸切り	ナデ	良	良	あり				I	D	5	胎土に小石を含む	
1083	皿	6g	灰層(灰原)	—	4.3	—	糸切り	ナデ	良	良	あり								
1084	皿	6g	灰層(灰原)	—	4.6	—	糸切り	ナデ	良	良									
1085	皿	5f	灰層(灰原)	7.9	3.7	2.0	糸切り	不明	良	良	あり			I	B	4	胎土に小石を含む、内面隆起		
1086	皿	5f	灰層(灰原)	7.4	3.8	2.2	糸切り	不明	良	良				I	D	3	内面隆起		
1087	皿	5f	灰層(灰原)	(8.1)	3.6	2.1	糸切り	ナデ	良	良				I	C	1	胎土に小石を含む		
1088	皿	5f	灰層(灰原)	(7.8)	3.6	1.8	糸切り	ナデ	良	良	あり			I	C	3			
1089	皿	5f	灰層(灰原)	(7.8)	4.0	2.1	糸切り	ナデ	良	良				I	D	3			
1090	皿	5f	灰層(灰原)	(8.4)	3.8	1.9	糸切り	ナデ	良	良				I	D	3			
1091	皿	5f	灰層(灰原)	8.2	4.3	2.2	糸切り	ナデ	良	良				I	D	3			
1092	皿	6g	検出II(灰原)	(8.4)	4.2	2.0	糸切り	ナデ	良	良	あり			I	B	1	胎土に小石を含む		
1093	皿	6g	灰層(灰原)	8.5	4.4	2.2	糸切り	ナデ	良	良		あり		I	D	1			
1094	皿	6g	灰層(灰原)	(8.2)	4.0	2.1	糸切り	ナデ	良	良	あり			I	D	3			
1095	皿	6g	灰層(灰原)	8.2	4.8	2.2	糸切り	ナデ	良	良				I	D	4			
1096	皿	6g	灰層(灰原)	8	3.8	2.1	糸切り	不明	良	良	あり			あり	I	C	5	内面隆起	
1097	皿	6g	灰層(灰原)	(8.3)	4.0	2.3	糸切り	不明	良	良	あり			あり	I	A	1	内面と口縁の軸は厚い	
1098	皿	6g	灰層(灰原)	8.6	4.5	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり			あり	I	D	1	内面と口縁の軸は厚い	
1099	皿	6g	灰層(灰原)	7.9	3.8	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり			II	C	3			
1100	皿	6g	灰層(灰原)	8.5	4.1	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり			II	C	5	胎土に小石を含む		
1101	皿	6g	灰層(灰原)	8.3	4.5	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり			I	B	3			
1102	皿	6g	検出II(灰原)	(9.0)	4.4	2.4	糸切り	ナデ	良	良				あり	I	A	1		
1103	皿	6g	灰層(灰原)	7.9	4.4	2.1	糸切り	ナデ	良	良	あり			あり	I	C	3	重台様の破片付着	
1104	皿	6g	灰層(灰原)	(7.9)	4.0	2.0	糸切り	不明	良	良	あり			あり	I	C	3	重台様の破片付着、内面隆起	
1105	皿	6g	灰層(灰原)	測定不能	3.8	測定不能	糸切り	不明	良	良	あり			I	C	3	重台様の破片付着、胎土に小石を含む、内面隆起、口縁たれ		
1106	皿	6g	灰層(灰原)	測定不能	4.0	測定不能	糸切り	不明	良	良	あり			I	C	3	重台様の破片付着、胎土に小石を含む、内面隆起、口縁たれ		
1107	皿	6g	灰層(灰原)	測定不能	(5.0)	測定不能	糸切り	ナデ	良	良	あり			あり	I	D	1	やがみ	
1108	皿	6g	灰層(灰原)	測定不能	(4.2)	測定不能	糸切り	不明	良	良	あり			I	D	1	やがみ		
1109	皿	6g	検出II(灰原)	—	4.6	—	糸切り	指ナデ	良	良									
1110	皿	6g	灰層(灰原)	—	3.8	—	糸切り	ナデ	良	良				あり					
1111	皿	6g	灰層(灰原)	—	4.3	—	糸切り	ナデ	良	良									
1112	皿	6h	検出I(灰原)	8.9	4.6	2.1	糸切り	ナデ	良	良				あり	I	D	1		
1113	皿	5h	検出II(灰原)	8.9	4.2	2.2	糸切り	ナデ	良	良				あり	I	B	1		
1114	皿	5h	検出II(灰原)	(9.2)	4.4	2.1	糸切り	ナデ	良	良				あり	I	A	1		
1115	皿	5h	検出II(灰原)	(9.2)	4.8	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり			あり	II	B	1		
1116	皿	5h	検出II(灰原)	8.6	4.3	2.1	糸切り	ナデ	良	良	あり			あり	I	A	1		
1117	皿	5h	検出II(灰原)	(8.8)	4.6	2.0	糸切り	ナデ	良	良	あり			あり	II	A	2		
1118	皿	5h	検出II(灰原)	(9.2)	(5.0)	1.8	糸切り	ナデ	良	良				I	D	2	胎土に小石を含む		

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		底高	底部外面	見込み	構成	胎土	釉の箇所		接合	系統	体部	口縁	備考	その他
				口径	底径						内面	口縁						
1119	皿	5h	検出II(灰原)	(9.8)	5.0	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	I	A	4	胎土に小石を含む		
1120	皿	5h	灰原	(9.4)	5.0	2.0	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	I	C	3			
1121	皿	5h	検出II(灰原)	(9.2)	4.2	2.1	糸切り	ナデ	良	良			I	A	1	胎土に小石を含む		
1122	皿	5h	検出II(灰原)	(9.0)	(4.8)	1.8	糸切り	ナデ	良	良			I	D	1			
1123	皿	5h	検出II(灰原)	(8.4)	4.2	2.3	糸切り	ナデ	良	良			あり	I	D	1		
1124	皿	5h	検出II(灰原)	—	5	—	糸切り	ナデ	良	良			あり	I	A	1	胎土に小石を含む	
1125	皿	5h	検出II(灰原)	(9.4)	(5.4)	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	I	A	3			
1126	皿	5h	検出II(灰原)	(8.8)	4.2	2.0	糸切り	ナデ	良	良			I	A	3			
1127	皿	5h	検出II(灰原)	—	4.7	—	糸切り	ナデ	良	良								
1128	皿	5h	検出II(灰原)	—	4.5	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり						
1129	皿	5h	検出II(灰原)	—	4.3	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり						
1130	皿	5h	検出II(灰原)	—	4.4	—	糸切り	ナデ	良	良								
1131	皿	5h	検出II(灰原)	—	4.0	—	糸切り	不明	良	良	あり	あり						
1132	皿	5h	検出II(灰原)	—	4.1	—	糸切り	ナデ	良	良								
1133	皿	5h	検出II(灰原)	—	4.3	—	糸切り	ナデ	良	良								
1134	皿	5h	検出II(灰原)	—	4.5	—	糸切り	ナデ	良	良								
1135	皿	5h	検出II(灰原)	—	4.6	—	糸切り	ナデ	良	良								
1136	皿	5h	検出II(灰原)	—	5.0	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり						
1137	皿	5h	検出II(灰原)	—	4.3	—	糸切り	ナデ	良	良								
1138	皿	5h	検出II(灰原)	—	4.9	—	糸切り	ナデ	良	良								
1139	皿	5h	検出II(灰原)	—	4.6	—	糸切り	ナデ	良	良								
1140	皿	6g	灰原	(8.6)	5.0	1.7	糸切り	不明	良	良	あり	あり	I	C	3	内面と外面と口縁に釉が厚い、内面降灰		
1141	皿	6h	灰原	8.2	3.8	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	II	B	3	底面に特徴		
1142	皿	6h	灰原	8.9	5.1	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	I	A	1	胎土に小石を含む		
1143	皿	6h	灰原	8.6	4.7	2.0	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	I	C	3			
1144	皿	6h	灰原	(7.8)	3.8	2.1	糸切り	ナデ	良	良			I	A	2			
1145	皿	6h	灰原	(7.9)	3.8	2.0	糸切り	指ナデ	良	良			あり	I	A	1	胎土に小石を含む	
1146	皿	6h	灰原	(9.0)	4.2	2.1	糸切り	ナデ	良	良			I	A	1	胎土に小石を含む		
1147	皿	6h	灰原	(8.0)	3.9	2.2	糸切り	不明	良	良			I	A	1	内面と口縁に釉が厚い		
1148	皿	6h	灰原	測定不能	4.9	測定不能	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	I	C	3	ゆがむ		
1149	皿	6h	灰原	8.3	4.2	2.1	糸切り	ナデ	良	良			I	A	4	胎土に小石を含む		
1150	皿	6h	灰原	8.1	4.5	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	I	C	3			
1151	皿	6h	灰原	—	3.7	—	ナデ	不明	良	良			あり					
1152	皿	6h	灰原	—	4.5	—	糸切り	指ナデ	良	良								
1153	皿	6h	灰原	(8.4)	4.5	2.2	糸切り	ナデ	良	良			I	C	3	胎土に小石を含む		
1154	皿	6h	灰原	—	4.4	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり						
1155	皿	6h	灰原	—	4.4	—	糸切り	不明	良	良	あり	あり						
1156	皿	6h	灰原	—	4.6	—	糸切り	不明	良	良	あり	あり						
1157	皿	6h	灰原	—	4.3	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり						
1158	皿	6h	灰原	7.7	3.8	1.9	糸切り	指ナデ	良	良			I	B	3	少しゆがみ		
1159	皿	6h	灰原	(7.9)	3.5	2.2	糸切り	不明	良	良			I	C	1	内面降灰		
1160	皿	3g	灰原(灰層)	7.8	4.7	1.9	糸切り	ナデ	良	良			I	B	2			
1161	皿	3g	灰原(灰層)	(8.7)	3.8	2.1	糸切り	ナデ	良	良			I	D	5	胎土に小石を含む		
1162	皿	3g	灰原(灰層)	(8.4)	4.0	2.0	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	I	B	3			
1163	皿	4g	灰原(下層の灰原)	8.5	3.9	2.2	糸切り	指ナデ	良	良			I	D	3			

第42表 遺物観表 (目) 10

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)			底部分外		見込み	焼成	胎土	軸の箇所		結合	系統	体部	口縁	備考	その他
				口径	底径	器高	底面	外面				口縁	外面						
1164	皿	4g	灰層(下層の灰原)	(8.3)	3.9	2.2	糸切り	ナデ	良	最良				あり	I	D	3		
1165	皿	4g	灰層(灰層の上)	—	4.3	—	糸切り	ナデ	良	良	あり								
1166	皿	4g	灰層(下層の灰原)	—	4.5	—	糸切り	ナデ	良	良									
1167	皿	4g	灰層(下層の灰原)	—	3.8	—	糸切り	ナデ	良	最良									
1168	皿	4g	灰層(灰層上層)	8.5	4.2	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり			I	D	1		
1169	皿	4g	灰層(灰層上層)	8.7	3.9	2.1	糸切り	ナデ	良	良					II	A	1		
1170	皿	4g	灰層(灰層上層)	(8.4)	4.0	2.4	糸切り	ナデ	良	最良					I	A	1		
1171	皿	4g	灰層(灰層上層)	8.4	4.2	2.2	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり			I	A	2		
1172	皿	4g	灰層(灰層上層)	—	4.0	—	糸切り	ナデ	良	良									
1173	皿	4g	灰層(灰層上層)	—	4.3	—	糸切り	ナデ	良	良									
1174	皿	4g	灰層(灰層上層)	—	4.1	—	糸切り	ナデ	良	良									
1175	皿	6g	灰原	(8.6)	5.0	1.9	糸切り	ナデ	良	良					I	C	3		
1176	皿	6g	灰原	(8.6)	4.3	2.3	糸切り	ナデ	良	良	あり		あり		I	D	1		
1177	皿	6g	灰原	(9.2)	5.0	2.1	糸切り	ナデ	良	良					II	A	1	胎土に小石を含む	
1178	皿	6g	灰原	(9.1)	4.7	2.2	糸切り	ナデ	良	良		あり			I	A	1		
1179	皿	6g	灰原	(9.0)	5.0	2.1	糸切り	ナデ	良	良					I	B	1		
1180	皿	6g	灰原	(8.2)	3.8	2.1	糸切り	指ナデ	良	最良					II	B	1		
1181	皿	6g	灰原	—	4.4	—	糸切り	ナデ	良	良									
1182	皿	6g	灰原	—	4.7	—	糸切り	ナデ	良	良	あり								
1183	皿	6g	灰原	—	4.2	—	糸切り	ナデ	良	良									
1184	皿	6g	灰原	—	4.5	—	糸切り	ナデ	良	良	あり								
1185	皿	6g	灰原	—	4.3	—	糸切り	ナデ	良	良									
1186	皿	6g	灰原	—	4.5	—	糸切り	不明	良	良	あり								内面に釉が厚い
1187	皿	6h	灰原	8.0	3.9	1.8	糸切り	指ナデ	良	良				あり	II	A	1	胎土に小石を含む	
1188	皿	6h	灰原	(8.7)	4.3	2.2	糸切り	ナデ	良	良					I	A	1	内面と口縁に降灰	
1189	皿	6h	灰原	(8.6)	4.5	2.1	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり			II	A	1		
1190	皿	6h	灰原	8.6	4.6	2.1	糸切り	ナデ	良	良	あり				II	C	3		
1191	皿	6h	灰原	(8.0)	4.4	2.1	糸切り	ナデ	良	良	あり				II	C	3		
1192	皿	6h	灰原	(8.4)	4.4	2.1	糸切り	不明	良	良	あり	あり			I	C	3		
1193	皿	6h	灰原	(8.8)	4.3	2.0	糸切り	ナデ	良	良					I	D	1	重ね焼の破片付着	
1194	皿	6h	灰原	—	4.4	—	糸切り	ナデ	良	良	あり								
1195	皿	6h	灰原	—	4.8	—	糸切り	ナデ	良	良	あり								
1196	皿	6h	灰原	(8.4)	4.0	2.1	糸切り	不明	良	良	あり	あり			I	D	4	内面と口縁に釉が厚い	
1197	皿	6h	灰原	(8.1)	(4.0)	2.1	糸切り	不明	良	良	あり	あり			I	D	1	内面と口縁に釉が厚い	
1198	皿	6h	灰原	—	4.7	—	糸切り	ナデ	良	良	あり								
1199	皿	6h	灰原	—	(4.6)	—	糸切り	ナデ	良	良									
1200	皿	6h	灰原	—	(4.6)	—	糸切り	ナデ	良	良									
1201	皿	6h	灰原	—	3.8	—	糸切り	ナデ	良	良									
1202	皿	6h	灰原	—	4.7	—	糸切り	ナデ	良	良									
1203	皿	6h	灰原	—	4.4	—	糸切り	ナデ	良	良									
1204	皿	6h	灰原	—	4.3	—	糸切り	ナデ	良	良	あり								
1205	皿	6h	灰原	—	4.2	—	糸切り	ナデ	良	良									
1206	皿	6h	灰原(上層)	7.8	4.4	1.8	糸切り	不明	良	良	あり				I	A	4	胎土に小石を含む、内面降灰、重ね焼の破片付着	
1207	皿	6h	灰原(上層)	8.3	4.1	2.2	糸切り	不明	良	良	あり				II	C	3	変形品、内面降灰、重ね焼の破片付着	
1208	皿	6h	灰原(上層)	7.9	4.0	2.0	糸切り	ナデ	良	良		あり			I	C	3		

第43表 遺物観察表 (皿) 11

第44表 遺物観察表 (Ⅲ) 12

遺物 番号	器種	G名	出土位置		法量(cm)			底面外面		見込み	焼成	胎土	釉の箇所		系統	体部	口縁	備考	その他
			器高	口径	底径	底面	外面	口縁	底面				接合						
1209	皿	6h	灰原(上層)	測定不能	38	19	糸切リ	ナデ	良	良	良	あり		I	C	3			
1210	皿	6h	灰原(上層)	測定不能	8.2	2.1	糸切リ	不明	良	良	良	あり		II	A	3	完形品、内面障灰		
1211	皿	6h	灰原(上層)	測定不能	7.8	3.9	糸切リ	ナデ	良	良	良	あり		I	C	3			
1212	皿	6h	灰原(上層)	測定不能	7.9	4.0	糸切リ	ナデ	良	良	良	あり		I	C	5			
1213	皿	6h	灰原(上層)	測定不能	—	4.0	糸切リ	ナデ	良	良	良	あり						二次焼成品	
1214	皿	6h	灰原(上層)	測定不能	—	5.0	糸切リ	ナデ	良	良	良	あり							
1215	皿	6f	灰原(下層)	測定不能	4.0	測定不能	糸切リ	ナデ	良	良	良	あり		I	A	1	ゆがみ		
1216	皿	6f	灰原(下層)	測定不能	(8.1)	3.5	糸切リ	ナデ	良	良	良	あり		I	A	1			
1217	皿	6f	灰原(下層)	測定不能	4.5	測定不能	糸切リ	ナデ	良	良	良	あり		I	C	3	胎土に小石を含む、ゆがみ		
1218	皿	6f	灰原(下層)	測定不能	(8.2)	3.8	糸切リ	ナデ	良	良	良	あり		I	C	4	胎土に小石を含む		
1219	皿	6f	灰原(下層)	測定不能	—	4.7	糸切リ	指ナデ	良	良	良	あり							
1220	皿	6f	灰原(下層)	測定不能	—	4.9	糸切リ	ナデ	良	良	良								
1221	皿	5f	灰原	測定不能	—	3.8	糸切リ	ナデ	良	良	良								
1222	皿	4g	灰原	測定不能	(8.5)	4.2	糸切リ	ナデ	良	良	良	あり		I	A	1			
1223	皿	5h	灰原	測定不能	8.3	4.5	糸切リ	ナデ	良	良	良	あり		II	C	3			
1224	皿	6g	灰原	測定不能	—	3.9	糸切リ	不明	良	良	良	あり						内面障灰	
1225	皿	5f	2号窯分焰柱内	測定不能	8.2	4.3	糸切リ	指ナデ	良	良	良			I	A	4	重ね焼の破片付着、二次焼成品		
1226	皿	6f	2号窯分焰柱内	測定不能	8.5	4.1	糸切リ	不明	良	良	良	あり		I	D	3	完形品、重ね焼の破片付着、内面障灰、二次焼成品		
1227	皿	6f	2号窯分焰柱内	測定不能	8.4	4.0	糸切リ	ナデ	良	良	良	あり		II	D	3			
1228	皿	6f	2号窯分焰柱内	測定不能	8.3	3.8	糸切リ	ナデ	良	良	良			I	D	3			
1229	皿	6f	2号窯分焰柱内	測定不能	8.3	3.9	糸切リ	ナデ	良	良	良			II	D	3			
1230	皿	6f	2号窯分焰柱内	測定不能	8.3	3.9	糸切リ	ナデ	良	良	良			I	D	3			
1231	皿	5e	3号窯焼成室床面内	測定不能	—	4.0	糸切リ	ナデ	良	良	良							取上げ位置の記録あり	
1232	皿	5e	3号窯内(焼成室)	測定不能	7.7	3.6	糸切リ	ナデ	良	良	良	あり		I	D	5	完形品、ゆがみ	取上げ位置の記録あり	
1233	皿	5e	3号窯内(焼成室)	測定不能	8.2	3.8	糸切リ	ナデ	良	良	良			I	D	4	完形品、取上げ位置の記録あり(工3)	取上げ位置の記録あり	
1234	皿	5e	3号窯内(焼成室)	測定不能	7.8	3.6	糸切リ	ナデ	良	良	良			あり	I	D	3		
1235	皿	7g	灰原(区域外)	測定不能	(8.4)	4.2	糸切リ	ナデ	良	良	良			あり	I	D	1	内面障灰	
1236	皿	7h	検出I(区域外、灰原)	測定不能	8.8	4.7	糸切リ	指ナデ	良	良	良	あり		I	C	3	胎土に小石を含む		
1237	皿	7h	検出I(区域外、灰原)	測定不能	8.6	4.4	糸切リ	指ナデ	良	良	良	あり		I	B	1			
1238	皿	7h	検出I(区域外、灰原)	測定不能	—	4.5	糸切リ	指ナデ	良	良	良								
1239	皿	7h	検出I(区域外、灰原)	測定不能	—	4.3	糸切リ	指ナデ	良	良	良								
1240	皿	7g	灰原(区域外)	測定不能	—	4.1	糸切リ	指ナデ	良	良	良	あり						胎土に小石を含む	
1241	皿	7h	灰原(区域外)	測定不能	(7.9)	3.6	糸切リ	不明	良	良	良	あり		I	A	1	内面障灰		
1242	皿	7h	灰原(区域外)	測定不能	(8.0)	4.0	糸切リ	不明	良	良	良	あり		I	D	3			
1243	皿	7h	灰原(区域外)	測定不能	—	4.6	糸切リ	指ナデ	良	良	良								
1244	皿	7h	灰原(区域外)	測定不能	—	3.7	糸切リ	指ナデ	良	良	良								
1245	皿	8h	灰原(区域外)	測定不能	8.2	4.0	糸切リ	ナデ	良	良	良	あり		I	D	3			
1246	皿	4h	検出II(灰原)	測定不能	測定不能	測定不能	不明	不明	良	良	良	あり						口縁に特徴	
1247	皿	4h	検出I(灰原)	測定不能	測定不能	測定不能	不明	不明	良	良	良	あり						口縁に特徴	
1248	皿	6f	灰原上層	測定不能	(9.0)	測定不能	不明	不明	良	良	良							口縁に特徴	
1249	皿	6f	灰原上層	測定不能	測定不能	測定不能	不明	不明	良	良	良							口縁に特徴	
1601	皿	8f	1号窯内(焼成室下層)	測定不能	3.7	2.1	ナデ	ナデ	良	良	良	あり		II	B	3	重ね焼		

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)				残存率(%)					状態	備考	
				口径	頸基部径	胴部最大径	底径	器高	口頸部高	口縁	頸部	胴部			底部
1250	土師質埴	8f	1号窯内(焼成室)	—	(21.4)	—	—	—	—	—	—	10	—	—	もろい 7点の破片
1251	土師質埴	8f	1号窯内(焼成室)	(19.7)	(17.2)	—	—	—	—	—	10	5	—	—	もろい 12点の破片
1252	土師質埴	8f	1号窯内(焼成室)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	もろい 体部のみ、一部接合

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		備考
				たて	厚さ(最大)	
1253	不明	3h	灰原	6.43	1.48	焼成は不良

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)			備考
				長さ	幅(残存長)	厚さ(最大)	
1254	石鉢	4f	表面採取	1.98	1.52	0.27	一部欠損、下呂石

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)			残存率 (%)	焼成	接合	穴	その他	備考
				底径1	底径2	高さ						
1255	埴埴棒	5f	灰層(灰原)	11.35	10.24	12.5	80	底の方がもろい	—	—	—	胎土に小石をきむ、表面に釉がかかる。底部は丸くない
1256	埴埴棒	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	9.55	8.13	14.75	100	良	あり	—	第12図2	胎土に小石をきむ、表面に釉がかかる。底部は丸くない
1257	埴埴棒	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	11.91	12.19	16.5	75	底の方がもろい	あり	あり	第12図3・4	体部に穴あり、胎土に小石をきむ、表面に釉がかかる。底部は丸くない
1258	埴埴棒	5f	2号窯内(燃焼室焚口)	12.36	11.98	15.9	50	底の方がもろい	あり	あり	第12図5	—

第45表 遺物観察表 (その他) 1

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)			焼成	備考
				最大長	最大幅	最大高		
1259	焼台	8f	1号窯内(焼成室上部)	13.29	13.64	6.0	良	幅広いものである、完形品
1260	焼台	8f	1号窯内(焼成室上部)	残長14.61	12.26	6.5	良	一部欠損
1261	焼台	8f	1号窯内(焼成室西側中間)	12.38	12.85	6.2	良	完形品
1262	焼台	8f	1号窯内(焼成室東側中間)	12.98	13.14	5.5	良	完形品
1263	焼台	8f	1号窯内(焼成室東側中間)	13.22	13.90	5.1	良	完形品
1264	焼台	8f	1号窯内(焼成室中央下部)	14.14	13.73	5.9	良	一部欠損
1265	焼台	5f	2号窯内(燃焼室)	残長13.03	残長11.52	6.2	良	一部欠損、完形品
1266	焼台	6e	2号窯内(焼成室南側中間)	15.00	13.02	6.1	良	完形品
1267	焼台	6e	2号窯内(焼成室南側中間)	16.37	13.62	6.6	良	一部欠損
1268	焼台	5e	2号窯内(焼成室北側中間)	14.39	13.67	6.4	良	完形品
1269	焼台	5e	2号窯内(焼成室北側中間)	13.73	13.43	6.4	良	完形品
1270	焼台	5e	2号窯内(焼成室北側中間)	14.81	12.98	5.1	良	ひらたい
1271	焼台	5f	3号窯内(焼成室下部)	13.98	13.12	5.1	良	完形品
1272	焼台	5f	3号窯内(焼成室下部)	14.95	13.28	6.8	良	完形品
1273	焼台	5f	3号窯内(焼成室下部)	13.87	12.00	6.7	良	
1274	焼台	5f	3号窯内(焼成室南側中央)	15.72	14.45	6.5	良	
1275	焼台	5e	3号窯内(焼成室南側上部)	15.47	13.64	5.8	良	
1276	焼台	5f	3号窯内(焼成室北側中央)	14.27	13.02	6.5	良	一部欠損
1277	焼台	5f	3号窯内(焼成室北側中央)	14.36	13.48	6.8	良	
1278	焼台	5e	3号窯内(焼成室北側上部)	12.91	13.50	7.3	良	一部欠損
1279	焼台	5f	3号窯内(焼成室北側下部)	14.13	12.25	6.8	良	一部欠損
1280	焼台	6g	検出Ⅱ(灰原)	13.78	12.99	7.3	良	
1281	焼台	6g	検出Ⅱ(灰原)	残長13.73	残長10.82	6.6	良	一部欠損
1282	焼台	6g	検出Ⅱ(灰原)	残長13.26	残長11.48	7.0	良	一部欠損
1283	焼台	4h	検出Ⅲ(灰原)	残長15.55	13.89	6.5	良	一部欠損
1284	焼台	5h	灰原	14.88	13.18	7.2	良	
1285	焼台	5h	灰原	15.98	14.30	6.8	良	
1286	焼台	4g	灰層の上(灰原)	13.96	12.73	6.0	良	一部欠損

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)			高台底面 付着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	軸の箇所			口縁 端部	備考	取上 番号
				口径	高台径	器高						内面	口縁外面	高台			
1287	碗	6f	2号窯床面下	16.1	7.4	4.7	もみ	糸切リ	不明	良	良	あり	あり	C	5	重ね焼、胎土に小石を含む	1
1288	碗	6f	2号窯床面下	(16.2)	7.9	4.4	もみ	糸切リ	ナデ	良	良	あり		A	1		2
1289	碗	6f	2号窯床面下	17.4	8.1	5.4	もみ	糸切リ後ナデ	ナデ	良	不良				2	胎土に小石を含む	3
1290	碗	6f	2号窯床面下	17.6	8.7	4.7	もみ	糸切リ	ナデ	不良	不良			D	2	胎土に小石を含む	3
1291	碗	6f	2号窯床面下	(15.8)	7.4	4.6	もみ	糸切リ後ナデ	ナデ	良	最良		あり	E	3		4
1292	碗	6f	2号窯床面下	15.6	7.5	5.0	もみ	糸切リ	指ナデ	良	良			D	5	胎土に小石を含む、口縁の一部ハゼ	5
1293	碗	6f	2号窯床面下	15.3	6.7	4.6	砂	ナデ	ナデ	良	最良	あり		C	1	胎土に小石を含む	6
1294	碗	6f	2号窯床面下	—	—	—	もみ	糸切リ	ナデ	良	良	あり				重ね焼、胎土に小石を含む	7
1295	碗	6f	2号窯床面下	15.5	7.4	4.8	もみ	糸切リ後ナデ	ナデ	良	最良	あり		D	2	重ね焼の破片付着、胎土に小石を含む	8
1296	碗	6f	2号窯床面下	17.2	8.3	4.8	もみ	糸切リ	ナデ	良	良	あり		D	5	重ね焼、胎土に小石を含む	9
1297	碗	6f	2号窯床面下	(17.0)	7.8	4.7	砂	糸切リ	指ナデ	良	最良			D	5	重ね焼、胎土に小石を含む	10
1298	碗	6f	2号窯床面下	(15.4)	6.6	5.0	もみ	糸切リ	指ナデ	良	最良	あり		C	3	胎土に小石を含む	11
1299	碗	6f	2号窯床面下	16.1	7.5	4.6	もみ	糸切リ	指ナデ	良	最良	あり		D	3	重ね焼の破片付着、胎土に小石を含む	12
1300	碗	6f	2号窯床面下	(16.6)	7.2	4.8	もみ	ナデ	指ナデ	良	最良			C	1		13
1301	碗	6f	2号窯床面下	—	—	—	もみ	糸切リ	不明	良	最良					重ね焼	14
1302	碗	6f	2号窯床面下	(16.4)	7.7	4.8	もみ	ナデ	不明	良	最良	あり		D	3	重ね焼の破片付着、内面降灰	15
1303	碗	6f	2号窯床面下	(16.5)	8.2	4.0	もみ	糸切リ	指ナデ	良	良			C	3	胎土に小石を含む	16
1304	碗	6f	2号窯床面下	—	(8.0)	—	もみ	糸切リ	指ナデ	良	良						16
1305	碗	6f	2号窯床面下	(17.2)	7.8	4.9	もみ	糸切リ	ナデ	良	最良	あり		C	2	胎土に小石を含む	17
1306	碗	6f	2号窯床面下	(16.4)	8.2	4.6	もみ	糸切リ	ナデ	良	良	あり	あり	C	1	胎土に小石を含む	18
1307	碗	6f	2号窯床面下	—	8.2	—	もみ	糸切リ	ナデ	良	良	あり		D	2	ゆがみ	19
1308	碗	6f	2号窯床面下	(17.2)	8.0	4.5	もみ	糸切リ	ナデ	良	最良	あり		C	3	胎土に小石を含む	20
1309	碗	6f	2号窯床面下	16.2	7.6	5.2	もみ	糸切リ	ナデ	良	良			C	1	胎土に小石を含む	21
1310	碗	6f	2号窯床面下	(17.0)	8.4	5.0	もみ	糸切リ	ナデ	良	最良			D	1	胎土に小石を含む	22
1311	碗	6f	2号窯床面下	—	8.1	—	もみ	糸切リ	不明	良	最良	あり	あり	C	3	重ね焼、胎土に小石を含む、内面降灰	23
1312	碗	6f	2号窯床面下	(16.2)	8.1	5.5	もみ	糸切リ	ナデ	不良	不良						23
1313	碗	6f	2号窯床面下	(16.0)	8.1	4.7	もみ	ナデ	ナデ	良	最良	あり		D	2	重ね焼	24
1314	碗	6f	2号窯床面下	(17.0)	8.0	4.7	もみ	糸切リ	ナデ	良	最良	あり	あり	C	2	重ね焼の破片付着	25
1315	碗	6f	2号窯床面下	16.2	8.0	4.6	もみ	糸切リ	ナデ	良	最良	あり	あり	D	3	胎土に小石を含む	26
1316	碗	6f	2号窯床面下	(16.4)	7.8	4.7	もみ	糸切リ	指ナデ	良	最良	あり		C	3	胎土に小石を含む	27
1317	碗	6f	2号窯床面下	15.8	7.6	4.6	もみ	糸切リ	ナデ	良	最良	あり		D	2	重ね焼	28
1318	碗	6f	2号窯床面下	16.2	7.3	4.9	もみ	糸切リ	ナデ	良	良	あり		C	1		28
1319	碗	5f	2号窯床面下	15.9	7.1	4.6	もみ	糸切リ	ナデ	良	最良	あり	あり	D	3	重ね焼	29
1320	碗	5f	2号窯床面下	(15.2)	7.3	4.4	もみ	糸切リ	ナデ	良	最良	あり	あり	C	3	重ね焼	30
1321	碗	6f	2号窯床面下	(17.2)	9.4	5.2	もみ	糸切リ	指ナデ	良	良			A	1	胎土に小石を含む	31
1322	碗	6f	2号窯床面下	16.3	底径8.3	4.7	砂	糸切リ	指ナデ	不明	不良			D	5	胎土に小石を含む、高台ほとんど丸	32
1323	碗	6f	2号窯床面下	16.5	9.0	5.0	もみ	糸切リ	ナデ	良	良		あり	D	5	完形品、胎土に小石を含む	33
1324	碗	6f	2号窯床面下	(16.6)	7.8	5.0	もみ	糸切リ後ナデ	ナデ	良	最良	あり	あり	D	5		34
1325	碗	6f	2号窯床面下	(16.3)	8.1	4.8	もみ	糸切リ	指ナデ	良	最良	あり		D	2	胎土に小石を含む	35
1326	碗	6f	2号窯床面下	15.5	7.8	4.4	もみ	糸切リ	不明	良	最良	あり	あり	C	2	重ね焼、胎土に小石を含む、内面降灰	36
1327	碗	6f	2号窯床面下	16.1	測定不能	測定不能	もみ	糸切リ	不明	良	最良	あり	あり	C	2	重ね焼、胎土に小石を含む、内面降灰	37
1328	碗	5f	2号窯床面下	(16.1)	7.5	4.5	もみ	糸切リ	ナデ	良	最良	あり	あり	C	2	重ね焼の破片付着	38
1329	碗	5f	2号窯床面下	16.0	測定不能	測定不能	もみ	糸切リ	不明	良	良	あり	あり			重ね焼、胎土に小石を含む、内面降灰	39
1330	碗	5f	2号窯床面下	測定不能	7.7	測定不能	もみ	糸切リ	ナデ	良	最良	あり	あり			重ね焼、重ね焼の破片付着	40
1331	碗	5f	2号窯床面下	(16.7)	7.9	4.6	もみ	糸切リ	指ナデ	良	最良	あり	あり	D	2		41

第47表 遺物観察表 (碗 床面下) 1

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		高台底面 付着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	釉の箇所		接合	体部	口縁 端部	備考	取上 番号
				口径	器高						内面	外面					
1332	碗	5f	2号窯床面下	15.4	7.7	4.8	糸切り	ナデ	良	良	あり		C	2		41	
1333	碗	5f	2号窯床面下	(15.8)	8.4	5.1	糸切り	ナデ	良	最良	あり	あり	D	2	胎土に小石を含む、重ね焼の破片付着	42	
1334	碗	5f	2号窯床面下	(16.3)	(8.0)	4.9	不明	ナデ	良	最良	あり	あり	あり	C	2	重ね焼の破片付着	43
1335	碗	5e	2号窯床面下	16.1	8.2	4.7	糸切り	指ナデ	良	最良	あり	あり	あり	C	2		44
1336	碗	5e	2号窯床面下	(14.2)	7.0	4.9	糸切り	ナデ	良	最良	あり		あり	C	2	重ね焼の破片付着	45
1337	碗	5e	2号窯床面下	(16.4)	8.0	4.7	糸切り	ナデ	良	良	あり		あり	D	2	ゆがみ	46
1338	碗	5e	2号窯床面下	16.6	7.8	4.8	糸切り	指ナデ	良	最良			あり	C	3		47
1339	碗	5f	2号窯床面下	15.9	7.7	4.8	糸切り	ナデ	良	最良	あり		あり	D	3		48
1340	碗	5e	2号窯床面下	16.7	8.4	4.7	糸切り	ナデ	良	最良	あり	あり	あり	D	2	重ね焼	49
1341	碗	5e	2号窯床面下	測定不能	7.2	測定不能	糸切り	不明	良	最良	あり	あり	あり	あり	あり	重ね焼、内面降灰	50
1342	碗	5e	2号窯床面下	測定不能	7.8	測定不能	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	あり	あり	重ね焼、内面降灰	51
1343	碗	5e	2号窯床面下	16.2	7.8	5.2	糸切り	指ナデ	不良	良			あり	C	3	胎土に小石を含む	52
1344	碗	5e	2号窯床面下	15.4	7.8	4.5	糸切り	ナデ	良	最良	あり	あり	あり	C	2	内面降灰	53
1345	碗	5e	2号窯床面下	15.7	7.8	4.5	糸切り	不明	良	最良	あり	あり	あり			重ね焼、重ね焼の破片付着、内面降灰	54
1346	碗	5e	2号窯床面下	(15.8)	7.8	5.0	糸切り	ナデ	良	最良	あり	あり		C	3	重ね焼	55
1347	碗	5e	2号窯床面下	(16.4)	8.0	4.6	糸切り	ナデ	良	最良	あり	あり		C	2	重ね焼	56
1348	碗	6e	2号窯床面下	測定不能	8.0	測定不能	糸切り	不明	良	最良	あり	あり	あり	あり	あり	重ね焼	57
1349	碗	6f	2号窯床面下	(16.4)	7.9	4.6	糸切り	不明	良	最良	あり	あり	あり	D	3	重ね焼、内面降灰	58
1350	碗	6f	2号窯床面下	15.6	7.9	4.7	糸切り	指ナデ	良	最良	あり	あり	あり	あり	あり	重ね焼、内面降灰	59
1351	碗	6f	2号窯床面下	17.0	7.8	5.2	糸切り	指ナデ	良	良	あり			D	3	胎土に小石を含む、少し口縁ゆがみ	60
1352	碗	6f	2号窯床面下	16.3	7.5	4.9	糸切り後ナデ	指ナデ	良	良		あり		D	2	胎土に小石を含む	61
1353	碗	6f	2号窯床面下	—	7.8	—	糸切り	ナデ	良	良							62
1354	碗	6f	2号窯床面下	—	8.0	—	糸切り	ナデ	良	良				B	1	胎土に小石を含む	63
1355	碗	6f	2号窯床面下	(16.6)	8.2	5.0	糸切り	ナデ	良	良	あり			B	1		64
1356	碗	6f	2号窯床面下	(16.6)	7.3	4.9	糸切り	指ナデ	良	良				B	1		65
1357	碗	6f	2号窯床面下	(17.0)	7.8	4.3	糸切り	ナデ	良	良				B	1	重ね焼の破片付着、ゆがみ	67
1358	碗	6f	2号窯床面下	—	8.1	—	糸切り	ナデ	良	良				あり			66
1359	碗	6f	2号窯床面下	(16.8)	8.3	5.1	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	A	1	口縁にゆがみ	68
1360	碗	6f	2号窯床面下	(17.2)	8.1	5.0	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	B	3	胎土に小石を含む、重ね焼の破片付着	69
1361	碗	6f	2号窯床面下	16.2	7.6	4.8	糸切り	指ナデ	良	最良	あり	あり	あり	D	2	胎土に小石を含む	70
1362	碗	6e	2号窯床面下	—	8.0	—	糸切り	ナデ	良	良	あり			D	1	胎土に小石を含む	71
1363	碗	6f	2号窯床面下	15.5	7.6	4.7	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり					72
1364	碗	6e	2号窯床面下	—	(8.0)	—	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり		D	3	重ね焼	73
1365	碗	6e	2号窯床面下	(15.6)	7.5	4.6	糸切り	不明	良	最良	あり	あり	あり	D	3	重ね焼	74
1366	碗	6e	2号窯床面下	—	7.6	—	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり		E	3	重ね焼、重ね焼の破片付着	75
1367	碗	5e	2号窯床面下	15.9	8.0	4.6	糸切り	指ナデ	良	最良	あり	あり	あり	あり		内面降灰、ゆがみ	76
1368	碗	5e	2号窯床面下	—	(8.4)	—	糸切り	ナデ	良	良				D	5	口縁に特徴	77
1369	碗	5e	2号窯床面下	(16.7)	7.8	4.6	糸切り	ナデ	良	最良	あり	あり		D	2		78
1370	碗	5e	2号窯床面下	16.4	8.0	4.9	糸切り	指ナデ	良	最良	あり	あり	あり	D	2		79
1371	碗	5e	2号窯床面下	17.7	8.3	4.7	糸切り	ナデ	良	良			あり	D	2		80
1372	碗	5e	2号窯床面下	(15.6)	7.5	4.9	糸切り	ナデ	良	最良	あり	あり	あり	D	2	重ね焼、重ね焼の破片付着	81
1373	碗	5e	2号窯床面下	測定不能	7.2	測定不能	糸切り	不明	良	良	あり	あり	あり	C	5	重ね焼、ゆがみ	82
1374	碗	5e	2号窯床面下	測定不能	8.4	測定不能	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	あり	あり		重ね焼、ゆがみ	83
1375	碗	5e	2号窯床面下	測定不能	7.2	測定不能	糸切り	不明	良	良	あり	あり	あり			重ね焼、ゆがみ	84
1376	碗	5e	2号窯床面下	(16.0)	7.0	4.9	糸切り	不明	良	最良	あり	あり	あり	C	3	重ね焼、内面降灰	85

第48表 遺物観測表(碗床面下) 2





遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)			高台底面		底部外面	見込み	焼成	胎土	釉の箇所		接合	口縁 体部端部	備考	取上 番号
				口径	高台径	器高	付着痕	内面					外面	口縁				
1422	碗	6e	2号窯床面下	(17.1)	8.2	4.6	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	D	1	胎土に小石を含む	131	
1423	碗	6e	2号窯床面下	(17.4)	8.2	4.2	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり		B	1		132	
1424	碗	6e	2号窯床面下	16.7	8.5	5.3	もみ	糸切り	ナデ	不良	良			B	1	胎土に小石を含む	133	
1425	碗	6e	2号窯床面下	(15.6)	8.4	4.8	もみ	糸切り	ナデ	良	良			A	1	胎土に小石を含む	134	
1426	碗	6e	2号窯床面下	(16.0)	8.0	4.9	もみ	糸切り	ナデ	良	良			B	1	胎土に小石を含む	135	
1427	碗	6e	2号窯床面下	(16.8)	7.8	4.7	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	D	1		136	
1428	碗	6e	2号窯床面下	測定不能	測定不能	4.4	もみ	ナデ	ナデ	良	良	あり	あり	A	1		137	
1429	碗	6e	2号窯床面下	—	7.4	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり				重ね焼、胎土に小石を含む	138	
1430	碗	6e	2号窯床面下	(15.6)	8.3	4.7	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	A	1	胎土に小石を含む	139	
1431	碗	6e	2号窯床面下	(17.2)	8.0	4.5	もみ	ナデ	ナデ	良	良	あり		C	5	胎土に小石を含む	140	
1432	碗	6e	2号窯床面下	—	8.2	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり				胎土に小石を含む	141	
1433	碗	6e	2号窯床面下	測定不能	測定不能	4.2	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		C	1		142	
1434	碗	6e	2号窯床面下	(17.3)	8.8	4.6	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	D	1	胎土に小石を含む	143	
1435	碗	6e	2号窯床面下	—	7.8	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良					胎土に小石を含む	143	
1436	碗	6e	2号窯床面下	(16.1)	8.1	4.9	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり		C	3		144	
1437	碗	6e	2号窯床面下	15.6	8.6	4.6	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		D	1	重ね焼、胎土に小石を含む	145	
1438	碗	6e	2号窯床面下	(17.0)	8.6	5.3	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		D	3	重ね焼、胎土に小石を含む	146	
1439	碗	6e	2号窯床面下	(16.9)	8.4	4.6	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		B	1		147	
1440	碗	6e	2号窯床面下	(15.6)	7.8	4.8	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		E	1	内面降灰	148	
1441	碗	6e	2号窯床面下	(16.8)	8.5	4.3	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	C	1		149	
1442	碗	6e	2号窯床面下	(16.8)	7.5	4.3	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		D	1	胎土に小石を含む	150	
1443	碗	6e	2号窯床面下	(16.7)	8.8	4.3	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		B	1	胎土に小石を含む	151	
1444	碗	6e	2号窯床面下	(16.0)	7.8	4.5	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	D	1	胎土に小石を含む	152	
1445	碗	6e	2号窯床面下	17.1	7.6	5.0	もみ	ナデ	指ナデ	良	良			C	5	胎土に小石を含む	153	
1446	碗	6e	2号窯床面下	16.4	7.6	5.0	もみ	糸切り	ナデ	良	良			B	3	胎土に小石を含む	154	
1447	碗	6e	2号窯床面下	—	8.0	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり					154	
1448	碗	6e	2号窯床面下	(15.9)	(8.0)	4.6	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		D	1	胎土に小石を含む	155	
1449	碗	6e	2号窯床面下	16.8	8.0	4.7	もみ	糸切り	ナデ	良	良			C	5	胎土に小石を含む	156	
1450	碗	6e	2号窯床面下	17.3	底径8.2	5.2	もみ	糸切り	指ナデ	不良	良			D	6	胎土に小石を含む	157	
1451	碗	6e	2号窯床面下	(16.8)	8.4	4.9	もみ	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	B	1	重ね焼、胎土に小石を含む	158	
1452	碗	6e	2号窯床面下	(16.9)	8.4	4.6	もみ	ナデ	指ナデ	良	良	あり		C	1		159	
1453	碗	6e	2号窯床面下	15.6	8.3	4.4	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	E	1	胎土に小石を含む、内面降灰	160	
1454	碗	6e	2号窯床面下	(17.4)	8.6	4.9	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		D	1	胎土に小石を含む	161	
1455	碗	6e	2号窯床面下	(17.1)	8.2	4.7	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	C	1	内面降灰	162	
1456	碗	6e	2号窯床面下	測定不能	7.8	測定不能	もみ	糸切り	不明	良	良	あり	あり	A	1	重ね焼、重ね焼の破片付着、内面降灰	163	
1457	碗	6e	2号窯床面下	15.8	8.0	5.1	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		C	3	胎土に小石を含む	164	
1458	碗	6e	2号窯床面下	(16.6)	8.0	4.9	もみ	糸切り	ナデ	良	良			C	1	胎土に小石を含む	165	
1459	碗	6e	2号窯床面下	(17.2)	7.8	4.6	もみ	糸切り	ナデ	良	良						166	
1460	碗	6e	2号窯床面下	測定不能	(8.4)	測定不能	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	D	1	胎土に小石を含む、ゆがみ	167	
1461	碗	6e	2号窯床面下	—	7.6	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり			重ね焼の破片付着	168	
1462	碗	6e	2号窯床面下	—	(9.0)	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり			胎土に小石を含む	169	
1463	碗	6e	2号窯床面下	(16.5)	7.4	4.8	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		C	1	重ね焼、胎土に小石を含む	170	
1464	碗	6e	2号窯床面下	(16.5)	7.9	4.7	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		D	3	胎土に小石を含む	171	
1465	碗	6e	2号窯床面下	16.1	8.0	4.6	もみ	糸切り	不明	良	良	あり	あり	C	4	胎土に小石を含む	172	
1466	碗	6e	2号窯床面下	15.8	8.2	4.4	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり		B	1	胎土に小石を含む	173	

第50表 遺物調査表(碗床面下) 4

遺物 番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)			高台底面		底部外面	見込み	焼成	胎土	内面	釉の箇所		合体部	口縁 端部	備考	取上 番号			
				口径	高台径	器高	付着痕							胎土 内面	胎土 外面					高台 外面	胎土 内面	胎土 外面
							測定不能	測定不能														
1467	碗	6e	2号窯床面下	(16.6)	(8.2)	4.9	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	C 1		174					
1468	碗	6e	2号窯床面下	—	7.7	—	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				175					
1469	碗	6e	2号窯床面下	17.3	7.7	4.9	不明	糸切り	ナデ	不良	良	あり	あり				176					
1470	碗	6e	2号窯床面下	(16.8)	8.0	4.5	不明	糸切り	ナデ	不良	良	あり	あり	あり			177					
1471	碗	6e	2号窯床面下	15.6	7.9	4.8	付着痕	糸切り	ナデ	良	最良						178					
1472	碗	6e	2号窯床面下	—	8.2	—	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり			179					
1473	碗	6e	2号窯床面下	測定不能	測定不能	測定不能	不明	不明	不明	良	最良	あり	あり				180					
1474	碗	6e	2号窯床面下	(16.6)	7.6	4.6	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり			181					
1475	碗	6e	2号窯床面下	(15.6)	8.0	4.8	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				182					
1476	碗	6e	2号窯床面下	(15.5)	8.0	4.4	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				183					
1477	碗	6e	2号窯床面下	(17.0)	7.8	4.5	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり			184					
1478	碗	6e	2号窯床面下	15.3	7.4	5.1	付着痕	ナデ	ナデ	良	最良	あり					184					
1479	碗	6e	2号窯床面下	測定不能	測定不能	7.9	付着痕	糸切り	不明	良	良	あり	あり	あり			185					
1480	碗	6e	2号窯床面下	16.5	8.2	5.0	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり			186					
1481	碗	6e	2号窯床面下	15.9	測定不能	測定不能	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり			186					
1482	碗	6e	2号窯床面下	(17.4)	8.3	4.5	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				187					
1483	碗	6e	2号窯床面下	(16.6)	8.0	4.4	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				187					
1484	碗	6e	2号窯床面下	(16.9)	8.3	4.9	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				188					
1485	碗	6e	2号窯床面下	17.1	7.9	4.7	付着痕	ナデ	指ナデ	良	良	あり	あり	あり			189					
1486	碗	6e	2号窯床面下	—	8.4	—	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり					190					
1487	碗	6e	2号窯床面下	(16.4)	7.8	5.1	付着痕	糸切り	ナデ	良	良						191					
1488	碗	6e	2号窯床面下	16.7	7.9	5.1	付着痕	糸切り	ナデ	良	最良		あり				191					
1489	碗	6e	2号窯床面下	(16.6)	7.8	5.0	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				192					
1490	碗	6e	2号窯床面下	測定不能	8.7	測定不能	付着痕	糸切り	指ナデ	良	良	あり	あり	あり			193					
1491	碗	6e	2号窯床面下	(17.2)	8.6	4.5	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				194					
1492	碗	6e	2号窯床面下	16.1	7.8	4.7	付着痕	糸切り	ナデ	良	良						195					
1493	碗	6e	2号窯床面下	(16.6)	8.4	4.7	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				196					
1494	碗	6e	2号窯床面下	(16.7)	8.2	4.9	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				197					
1495	碗	6e	2号窯床面下	(16.2)	7.6	4.5	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				197					
1496	碗	6e	2号窯床面下	(16.0)	7.8	4.7	付着痕	糸切り	不明	不明	良	良	あり	あり			198					
1497	碗	6e	2号窯床面下	—	7.9	—	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				199					
1498	碗	6e	2号窯床面下	(17.2)	8.1	4.6	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり			200					
1499	碗	6e	2号窯床面下	—	8.2	—	付着痕	糸切り	ナデ	良	良						201					
1500	碗	6e	2号窯床面下	(16.4)	8.4	5.6	付着痕	糸切り	指ナデ	良	良			あり			202					
1501	碗	6e	2号窯床面下	15.9	7.6	4.6	付着痕	糸切り	ナデ	良	最良	あり	あり	あり			203					
1502	碗	6e	2号窯床面下	15.9	7.8	4.4	付着痕	糸切り	ナデ	良	最良						204					
1503	碗	6e	2号窯床面下	(17.4)	8.2	4.7	付着痕	ナデ	ナデ	良	良	あり	あり				204					
1504	碗	6e	2号窯床面下	17.0	7.9	4.8	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				205					
1505	碗	6e	2号窯床面下	16.4	8.2	5.1	付着痕	糸切り	指ナデ	良	最良	あり	あり				205					
1506	碗	6e	2号窯床面下	測定不能	8.4	測定不能	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり			206					
1507	碗	6e	2号窯床面下	—	7.9	—	付着痕	糸切り	ナデ	良	良						207					
1508	碗	6e	2号窯床面下	15.4	7.5	4.9	付着痕	糸切り	ナデ	良	最良			あり			208					
1509	碗	6e	2号窯床面下	測定不能	底径8.2	測定不能	付着痕	糸切り	不明	不明	良	あり	あり	あり			209					
1510	碗	6e	2号窯床面下	15.6	7.9	4.9	付着痕	ナデ	ナデ	良	最良	あり	あり	あり			210					
1511	碗	6e	2号窯床面下	(16.8)	8.5	4.7	付着痕	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり			211					

第51表 遺物観察表 (碗 床面下) 5

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)		高台底面 付着痕	底部外面	見込み 焼成	胎土	軸の箇所		口縁	備考	取上 番号
				口径	高台径					内面	外面			
1512	碗	6e	2号窯床面下	172	底径83	4.8	糸切り	ナデ	良	あり		C 2	胎土に小石を含む	211
1513	碗	6e	2号窯床面下	—	8.1	—	糸切り	ナデ	良	あり			胎土に小石を含む	211
1514	碗	6e	2号窯床面下	162	8.1	4.9	糸切り	ナデ	良	あり		D 3		212
1515	碗	6e	2号窯床面下	測定不能	8.0	測定不能	糸切り	ナデ	良	あり	あり			213
1516	碗	6e	2号窯床面下	(15.2)	7.4	4.9	糸切り	ナデ	良	あり	あり			214
1517	碗	6e	2号窯床面下	測定不能	7.8	測定不能	糸切り	不明	良	あり	あり	C 1		215
1518	碗	6e	2号窯床面下	(16.4)	8.1	4.2	糸切り	ナデ	良	あり	あり			216
1519	碗	6e	2号窯床面下	155	7.8	4.9	糸切り	ナデ	良	あり	あり	B 1		217
1520	碗	6e	2号窯床面下	(15.8)	8.4	4.5	糸切り	ナデ	良	あり	あり	D 3		218
1521	碗	6e	2号窯床面下	(15.0)	7.2	5.1	糸切り	ナデ	良	あり	あり	C 1		219
1522	碗	6e	2号窯床面下	167	8.2	4.5	糸切り	ナデ	良	あり	あり			220
1523	碗	6e	2号窯床面下	(16.8)	7.8	4.7	ナデ	ナデ	良	あり	あり	D 2		221
1524	碗	6e	2号窯床面下	(15.6)	7.7	4.9	糸切り	ナデ	良	あり		A 1		222
1525	碗	6e	2号窯床面下	—	7.5	—	糸切り	ナデ	良	あり			胎土に小石を含む	223
1526	碗	6e	2号窯床面下	(16.0)	8.2	5.7	糸切り	ナデ	良	あり		D 1		224
1527	碗	6e	2号窯床面下	161	7.6	4.4	糸切り	ナデ	良	あり	あり	B 3		225
1528	碗	6e	2号窯床面下	164	8.4	4.6	糸切り	ナデ	良	あり	あり	C 1		226
1529	碗	6e	2号窯床面下	161	7.6	4.4	ナデ	ナデ	良	あり	あり	C 2		227
1530	碗	6e	2号窯床面下	測定不能	8.2	測定不能	糸切り	ナデ	良	あり				228
1531	碗	6e	2号窯床面下	161	8.1	4.2	糸切り	指ナデ	良	あり	あり	C 2		229
1532	碗	6e	2号窯床面下	164	8.0	5.4	糸切り	ナデ	良	あり		B 1		230
1533	碗	6e	2号窯床面下	164	8.0	4.9	ナデ	ナデ	良	あり	あり	D 3		231
1534	碗	6e	2号窯床面下	169	9.0	5.0	糸切り	ナデ	良	あり	あり			232
1535	碗	6e	2号窯床面下	153	7.4	4.8	糸切り	ナデ	良	あり		C 2		233
1536	碗	6e	2号窯床面下	(15.8)	7.4	4.6	糸切り	指ナデ	良	あり	あり	C 3		234
1537	碗	6e	2号窯床面下	(14.9)	7.3	5.1	糸切り	指ナデ	良	あり	あり	C 2		235
1538	碗	6e	2号窯床面下	163	8.0	4.9	糸切り	ナデ	良	あり		D 2		236
1539	碗	6e	2号窯床面下	—	8.1	—	糸切り	ナデ	良	あり	あり			237
1540	碗	6e	2号窯床面下	(17.4)	8.4	5.1	糸切り	ナデ	不良			D 3		238
1541	碗	6e	2号窯床面下	—	8.1	—	糸切り	ナデ	良	あり	あり			239
1542	碗	6e	2号窯床面下	測定不能	7.3	測定不能	糸切り	不良	良	あり	あり	A 1		240
1543	碗	6e	2号窯床面下	(15.5)	7.4	4.5	糸切り	ナデ	良	あり	あり	C 1		241
1544	碗	6e	2号窯床面下	163	8.6	4.7	糸切り	ナデ	良	あり		B 1		242
1545	碗	6e	2号窯床面下	(16.0)	8.2	4.9	糸切り	ナデ	良	あり		C 1		243
1546	碗	6e	2号窯床面下	(16.6)	7.6	4.8	糸切り	ナデ	良	あり				244
1547	碗	6e	2号窯床面下	(16.7)	7.4	4.4	糸切り	ナデ	良	あり	あり	B 3		245
1548	碗	6e	2号窯床面下	測定不能	8.0	測定不能	糸切り	ナデ	良	あり	あり			246
1549	碗	6e	2号窯床面下	(17.0)	8.2	4.7	糸切り	ナデ	不良			D 3		247
1550	碗	6e	2号窯床面下	(16.4)	8.5	5.0	糸切り	ナデ	良	あり	あり	C 1		248
1551	碗	6e	2号窯床面下	(16.8)	8.7	4.4	ナデ	ナデ	良	あり	あり	E 1		249
1552	碗	6e	2号窯床面下	(17.4)	8.6	4.5	糸切り	ナデ	良	あり		C 1		250
1553	碗	6e	2号窯床面下	(16.7)	8.1	5.0	糸切り	ナデ	良	あり	あり			251
1554	碗	5e	2号窯床面下	(17.0)	8.7	4.9	糸切り	指ナデ	良	あり	あり	C 1		252
1555	碗	5e	2号窯床面下	(17.1)	8.6	4.1	糸切り	ナデ	良	あり	あり			252
1556	碗	5e	2号窯床面下	160	8.2	4.8	糸切り	指ナデ	良	あり	あり	A 2		252

第52表 遺物観測表 (碗 床面下) ①

遺物 番号	器種	G名	出土位置		法量(cm)		高台底面 付着痕	底部外面	見込み	焼成	胎土	釉の箇所			口縁 端部	備考	取上 番号
			口径	高台径	口径	外面						高台 接合	体部				
1557	碗	6e	2号窯床面下	(168)	8.5	4.9	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	C	胎土に小石を含む、内面降灰	263
1558	碗	6e	2号窯床面下	測定不能	8.4	測定不能	もみ	糸切り	不明	良	良	あり	あり	あり	C	重ね焼の破片付着、胎土に小石を含む、ゆがみ、ハゼている	263
1559	碗	5e	2号窯床面下	(165)	8.3	5.0	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり		C	重ね焼、胎土に小石を含む	264
1560	碗	5e	2号窯床面下	—	8.1	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり			胎土に小石を含む	265
1561	碗	5e	2号窯床面下	(168)	8.6	4.8	もみ	糸切り	不明	良	良	あり	あり		A	重ね焼、胎土に小石を含む、内面降灰、ゆがみ	266
1562	碗	5e	2号窯床面下	—	8.1	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり		胎土に小石を含む	267
1563	碗	5e	2号窯床面下	(179)	8.4	5.1	もみ	糸切り	ナデ	不良	良			あり	D	胎土に小石を含む	268
1564	碗	5e	2号窯床面下	(170)	8.6	4.4	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり	C	胎土に小石を含む	269
1565	碗	5e	2号窯床面下	15.7	7.2	4.7	もみ	糸切り	不明	良	最良	あり	あり	あり	D	重ね焼、重ね焼の破片付着、胎土に小石を含む	269
1566	碗	5e	2号窯床面下	—	8.1	—	もみ	糸切り	指ナデ	良	良			あり	B	重ね焼、重ね焼の破片付着、胎土に小石を含む、ゆがみ	261
1567	碗	5e	2号窯床面下	16.7	7.7	4.8	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	C	重ね焼、重ね焼の破片付着、胎土に小石を含む	262
1568	碗	5e	2号窯床面下	(17.4)	7.7	4.4	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	C	重ね焼、重ね焼の破片付着、胎土に小石を含む	263
1569	碗	5e	2号窯床面下	(160)	7.9	4.8	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	C	内面降灰	264
1570	碗	5e	2号窯床面下	—	7.7	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				265
1571	碗	5e	2号窯床面下	17.3	9.6	4.8	もみ	糸切り	指ナデ	良	良				D	胎土に小石を含む	265
1572	碗	5e	2号窯床面下	—	8.5	—	もみ	糸切り	ナデ	不良	良				D	胎土に小石を含む	266
1573	碗	5e	2号窯床面下	16.5	8.7	4.4	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり		D	胎土に小石を含む	266
1574	碗	5e	2号窯床面下	—	8.6	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	D	重ね焼、胎土に小石を含む、内面降灰	267
1575	碗	5e	2号窯床面下	16.6	7.8	4.7	もみ	糸切り	ナデ	良	良				D	ゆがみ	268
1576	碗	5e	2号窯床面下	(15.8)	8.8	5.0	もみ	糸切り	ナデ	良	良			あり	C	胎土に小石を含む	269
1577	碗	5e	2号窯床面下	—	7.8	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	D	胎土に小石を含む	270
1578	碗	5e	2号窯床面下	(15.3)	8.4	4.8	もみ	糸切り	ナデ	良	最良	あり	あり		D		271
1579	碗	5e	2号窯床面下	—	8.6	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり		B		272
1580	碗	5e	2号窯床面下	(16.2)	(8.0)	4.6	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり		D		273
1581	碗	5e	2号窯床面下	測定不能	8.5	測定不能	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	D		274
1582	碗	5e	2号窯床面下	—	8.1	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良						275
1583	碗	5e	2号窯床面下	—	8.0	—	もみ・砂	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり			275
1584	碗	5e	2号窯床面下	16.4	8.8	4.2	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり		D	胎土に小石を含む	275
1585	碗	5e	2号窯床面下	(16.9)	8.6	5.0	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	D	胎土に小石を含む	276
1586	碗	5e	2号窯床面下	—	8.4	—	もみ	糸切り	ナデ	不良	良						277
1587	碗	5e	2号窯床面下	(17.0)	8.1	4.1	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	C		278
1588	碗	5e	2号窯床面下	測定不能	7.5	測定不能	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	E	重ね焼の破片付着	279
1589	碗	5e	2号窯床面下	—	9.7	—	なし	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり				280
1590	碗	5e	2号窯床面下	15.7	8.0	4.8	もみ	糸切り	ナデ	良	最良	あり	あり	あり	D	内面降灰、口縁ハゼ	281
1591	碗	5e	2号窯床面下	—	8.1	—	もみ	糸切り	不明	良	良	あり	あり	あり		重ね焼、内面降灰	282
1592	碗	5e	2号窯床面下	17.2	8.5	5.5	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	D	胎土に小石を含む	283
1593	碗	5e	2号窯床面下	16.2	8.0	4.6	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	D	重ね焼、胎土に小石を含む	284
1594	碗	5e	2号窯床面下	—	7.7	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり		胎土に小石を含む	285
1595	碗	5e	2号窯床面下	—	7.9	—	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり			胎土に小石を含む	286
1596	碗	5e	2号窯床面下	測定不能	8.0	測定不能	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり	あり	D	胎土に小石を含む、ゆがみ	287
1597	碗	5e	2号窯床面下	(15.8)	(8.0)	4.6	もみ	糸切り	ナデ	良	最良	あり	あり		C		54
1598	碗	6e	2号窯床面下	(17.2)	(8.0)	4.6	もみ	糸切り	ナデ	良	良	あり	あり		C		105
1599	碗	6e	2号窯床面下	(15.8)	(8.0)	4.7	もみ	糸切り	ナデ	良	良				C	胎土に小石を含む	127

## 第4章 科学分析について



熱残留磁気測定調査風景

# 第1節 ガンジ山A古窯跡群の考古地磁気学的研究

富山大学理学部地球科学教室

広岡公夫、佐竹俊昭

## はじめに

岩石や土には、鉄酸化物の磁鉄鉱 ( $\text{Fe}_3\text{O}_4$ ) や赤鉄鉱 ( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ 、ベンガラ) など磁石になることができる磁性鉱物が1～3%程度含まれている。鉄原子が少量のチタン原子に置き代わってできたチタン磁鉄鉱 ( $(\text{Fe},\text{Ti})_3\text{O}_4$ ) や、チタン赤鉄鉱 ( $(\text{Fe},\text{Ti})_2\text{O}_3$ ) も混じっている。これらの磁性鉱物は加熱されて、キュリー点と呼ばれるその鉱物に固有の温度に達すると、磁石になる性質(磁性)を失う。しかし、この反応は可逆的で、磁性を失った高温の状態から冷えて、キュリー点(Curie point)まで温度が下がった瞬間に再び磁性を取り戻し、磁石になる。磁鉄鉱のキュリー点は  $578^\circ\text{C}$ 、赤鉄鉱のそれは  $670^\circ\text{C}$ 、チタン磁鉄鉱やチタン赤鉄鉱のキュリー点は、チタンの含有量が増えるにしたがって低くなる。通常のチタン磁鉄鉱は、 $560^\circ\text{C}$  程度のものが多い。

このように、「加熱-冷却」の過程が、地球磁場が作用している地球上の地点で行なわれると、磁性鉱物は冷却中にその時のその場所での地球磁場の方向と同じ向きに磁化される。このようにして獲得された磁化を熱残留磁化(thermoremanent magnetization、略して、TRM)という。これらの鉄(およびチタン)の酸化物の熱残留磁化は、常温では磁氣的に非常に安定なものが多く、何百万年経っても残留磁化の方向や強さは変わらずに保存される。このため、過去のある時期に焼かれた焼土は、その当時の、その場所の地磁気の方向を、熱残留磁化の形で現在まで記憶していることになる。このようにTRMは、いわば、過去の地磁気を記録している眼に見えない「地磁気の化石」といえよう。

考古学的な遺跡に残されている炉跡や窯跡などの焼土遺構から測定試料を得て、このような「地磁気の化石(TRM)」を測定し、考古学が扱う過去の時代の地磁気の変動の様子を明らかにする研究を考古地磁気学(Archeomagnetism)という。

## 地磁気永年変化とその地域差

地球磁場は、地球上の地点ごとに少しずつ違っている。磁石の針が指す北(磁北)の方位は、地理学的な北(真北)から東または西に少しずれている。このずれの角度を偏角(declination)という。また、磁石の針は水平面内で廻るように針の重心から少しずれたところで支えているので水平に向いているが、実際の地球磁場は相当大きく水平から傾斜した方向に傾いている。この傾斜角は伏角(inclination)と呼ばれており、緯度が高くなるほど大きくなる。このように地球磁場は3次元のベクト

ルなので、通常、偏角と伏角と磁場強度（全磁力、total force という）で表わすことになっている。現在、日本では偏角は鹿児島<sup>の</sup> 5.5°西偏から稚内<sup>の</sup> 10°西偏まで、また、伏角は鹿児島<sup>の</sup> 44°から稚内<sup>の</sup> 59°まで変化しており、大府市周辺では偏角は西偏 6.5°、伏角は 48°である。

地球磁場の方向は、このように場所によって異なる上に、時間的にも非常にゆっくりとはあるが変化している。この変化を地磁気永年変化（geomagnetic secular variation）と呼ぶ。

地磁気を直接観測して地球磁場の方向（偏角と伏角）が求められたのは、英国のロンドンで16世紀の後半に始められた継続的観測が最古の記録となるが、それにも明らかに地磁気の永年変化は見られる。しかし、地磁気永年変化の周期は、それ以来400年以上の観測結果をもってしても、もっと長いものであるらしく、わかっていない。

日本では、北陸・東海地方から九州北部に至る西南日本の各地に分布する遺跡から焼土試料が採集され、考古地磁気測定が行なわれた結果、過去2,000年間については相当詳しい考古地磁気永年変化曲線が得られている（Hirooka, 1971；広岡, 1977）。

この永年変化曲線によると、西暦1世紀頃は偏角（declination）が西偏し、伏角（inclination）は比較的浅い値を示す。3～4世紀には著しい東偏の偏角と深い伏角となり、6世紀は著しい西偏偏角、7世紀は西偏偏角で深い伏角が特徴的である。8世紀から10世紀にかけては、偏角は西偏のまま時代が下るにしたがって伏角が浅くなり、その後、13・14世紀には東偏偏角、深い伏角となる。15～16世紀にかけては伏角が時代とともに急激に浅くなるのが特徴である。17世紀には東偏偏角と浅い伏角であったのが、20世紀にかけて偏角の東偏は減じ、伏角も少し深くなり現在に至っている。焼成年代が不詳の焼土の残留磁化方向を測定して、上記の永年変化と照合することによって、考古地磁気学的に年代を推定することができる。これが考古地磁気年代推定法である。

最近、北陸地方（福井、石川、富山、新潟）において多数の考古地磁気データが蓄積され、この地域のデータのみで、西暦500年～1550年の1050年間にわたる永年変化曲線を描くことが可能になった（広岡, 1997）。この曲線を見ると、西南日本で求められた上記の永年変化曲線と大勢は一致しているが、全体的に伏角が数度深く、13・14世紀の偏角が西南日本ほどには東偏しないという違いが見られる。また、東海地方についても、8世紀から18世紀に至る期間の考古地磁気永年変化曲線の試案が示されている（広岡・藤沢, 1998）が、中世に関しては北陸版永年変化曲線と同様の傾向がみられる。これらの事実は日本付近の地球磁場の地域差によるものと思われる。

## 測定試料の採取と磁化測定

大府市内では、海陸庵古窯址群と神明古窯址群について考古地磁気の測定がなされた例がある（広岡ほか, 1996）。今回は、ガンジ山A古窯跡群のA1・A2・A3号窯について試料を採取したので、それらの考古地磁気測定の結果を報告する。

A1号窯では13個、A2号窯では下層床から12個、最終床（上層床）から12個、A3号窯では12個の、総計49個の試料を採集した。採取試料個数および試料番号は第54表に示されている。



考古地磁気測定によって焼土の磁化方向を精度よく求めるためには、試料として採取した焼土が遺構中でどのような方位をとっていたかを詳しく測っておかなければならない。このときの方位測定の正確さが、測定結果の精度を左右する。また、いくら精密に方位測定や磁化測定を行なっても、焼土の磁化そのものが採取部位によって少しずつ異なっているため、統計的に処理できる個数が必要である。試料個数は多いほど統計的精度は向上するが、余り数が多いとサンプリングにも磁化測定にも時間を要し、多くの遺構について考古地磁気データを得ることが難しくなる。そのため、私たちの研究グループでは、遺跡現場での試料の方位測定の精度がよくて、しかも、余り長時間を要しないサンプリング法として、次に述べるような石膏を用いる方法を採用している。

試料採取の手順は次のように行なう。

- 1) まず、窯址の床面のよく焼けている部分を選んで、試料として採取する焼土（こぶし大）の周りに深さ数cmの溝を掘る。このとき、焼土が動かないように、根の部分が遺構につながったままの状態が保たれるように気を付ける。
- 2) 次に、多めの水で溶いた石膏をその部分にかけ、全体がくずれないようにする。その後、濃いに溶いた石膏を焼土の表面にのせ、数cm角のアルミ板を押し付けて石膏の上面に平面をつくる。
- 3) 石膏が固まった後に、アルミ板をはがして、石膏平面の最大傾斜線の方位（これをpitch という）とその傾斜角（dip）を考古地磁気用の特製クリノメーターで測り、野帳に記録する。石膏平面には、その面の走向（strike）と傾斜方向を示す3点と試料の番号を油性マーカーで記す。
- 4) 1本刃の手鋸を用いて石膏で固めた試料を遺構から掘り起こす。
- 5) 試料の裏面にも石膏をかけて補強した後、1個ずつ壊れないように紙で包む。

通常、遺構の大きさにかかわらず、1遺構当りこのような試料を10～15個採取して、研究室に持ち帰る。

残留磁化の測定には、夏原技研製のリングコア型スピナー磁力計（SMM-85型）を使用した。測定は6回置直し法で行なった。

測定試料に含まれる磁性鉱物は色々な種類のものから構成されており、中には磁気的な安定性に劣るものも含まれている場合が多い。特に、十分な高温にまで熱せられていない場合には不安定成分が多くなる傾向がみられる。これらの不安定な磁化成分の中には、最終焼成が行なわれて熱残留磁化を獲得した時以来、現在に至るまで常に地球磁場に曝され続けているため、後世の地球磁場の影響を受けて磁化方向を変えるものがでてくる。このような磁化成分は焼成時の地磁気の化石とはいえないものになっているので、それらを消去し、最終焼成当時の地磁気の方向を忠実に記録している安定な磁化成分のみを選び出すことが必要となる。

不安定な磁化成分を効果的に消去する実験的手段として、試料を交番磁場の中に置いて磁気的に揺るといふ交流消磁実験が考案されており、今回の試料についても交流消磁実験を行なった。遺構から採取してきた試料が持っている残留磁化（これを自然残留磁化、natural remanent magnetization、略して、NRMという）を測定した後、段階的に交番磁場強度を上げていく段階交流消磁が一般的である。

交流消磁には夏原技研製の交流消磁装置（DEM-8601C型）を用い、消磁磁場が 2.5 mT、5.0 mT、7.

5 mT、10.0 mT、15.0 mT、20.0 mT、25 mT となる 7 段階を設定し、各遺構ごとの消磁のされ具合を見て、5～7 段階で消磁を行なった。各段階ごとに、消磁実験が終わると残留磁化を測定し、磁化方向のばらつき具合や磁化強度の減少度を検討し、最も効果的に不安定な残留磁化成分を消去できた段階（最適消磁段階）を判定した。

## 残留磁化の測定結果

NRM および各消磁段階の残留磁化の測定の結果、大きく外れている若干個の試料を除けば、各遺構ともまとまりの良い磁化方向を示した。十分な高温（キュリー点以上の）にまで加熱されていると磁化強度も強くなり、 $10^{-4} \sim 10^{-3}$  ( $\text{Am}^2/\text{kg}$ ) の値となる。全ての遺構の試料が  $10^{-4}$  のオーダーの磁化強度を示しており、いずれも充分温度が上がったものと思われる。

各段階の磁化測定の結果は第55～81表にまとめられている。表中に\*印が付されている試料は、まとまった磁化方向を示す試料から大きく磁化が外れているものであることを示し、平均磁化方向を求める統計計算の際にはこれらの試料は除外した。

平均磁化方向を求める統計処理には、フィッシャーの統計法 (Fisher, 1953) を用いた。各段階ごとに、平均偏角 (D)、平均伏角 (I)、フィッシャーの信頼角 ( $\alpha_{95}$ )、フィッシャーの精度係数 (K)、平均磁化強度を計算する。段階ごとに統計計算に用いた試料の個数 (N) も加えて、その結果は第82表に示されている。

$\alpha_{95}$  は測定データから考えられる真の磁化方向が95%の確率で存在する範囲を示すもので、その範囲は、計算によって得られた平均磁化方向を中心にその周り  $\pm \alpha_{95}$  の角度内であることを意味している。この角度は小さいほどまとまりがよいことを示し、よく焼けて磁化方向のまとまりがよい古窯の場合には、 $\alpha_{95}$  の値は  $3^\circ$  より小さくなる。K は個々の試料の磁化のばらつきの程度を表わすパラメータで、値が大きいほど磁化方向のばらつきが少ないことを表し、古窯の場合には、通常、500 以上の値となる。最適消磁段階でみるとどの遺構も 500 を超えており、磁化方向のまとまりがよいことを示している。特に、A 2 号窯下層床と A 3 号窯では K が 2000 以上の値を示しているので、まとまりが非常によい。

各消磁段階で、磁化強度、磁化方向などを考慮して過去の地磁気の記録ではないと思われる試料を除外して、D、I、 $\alpha_{95}$ 、K を計算し、 $\alpha_{95}$  が最も小さく、K が最も大きくなる段階を最適消磁段階として、そのときの測定結果を考古地磁気データとして採用する。

## 考古地磁気年代の推定

現在、考古地磁気学的年代推定に用いられているのは、主に、西南日本の考古地磁気学的測定から得られた過去2,000年間の考古地磁気永年変化曲線（西南日本版永年変化曲線：広岡、1977）であるの

で、これと今回得られたガンジ山A古窯跡群の測定結果（第82表）を照合して年代を推定する。

第82表の最適消磁段階の結果を、西南日本版永年変化曲線にプロットすると、第36図のようになる。第36図には、東海地方の永年変化曲線（広岡・藤沢、1998）も重ねて描かれている。ここに示した東海地方の永年変化曲線は、現在製作中のものなので、今後修正される可能性があるものとしてご覧きたい。

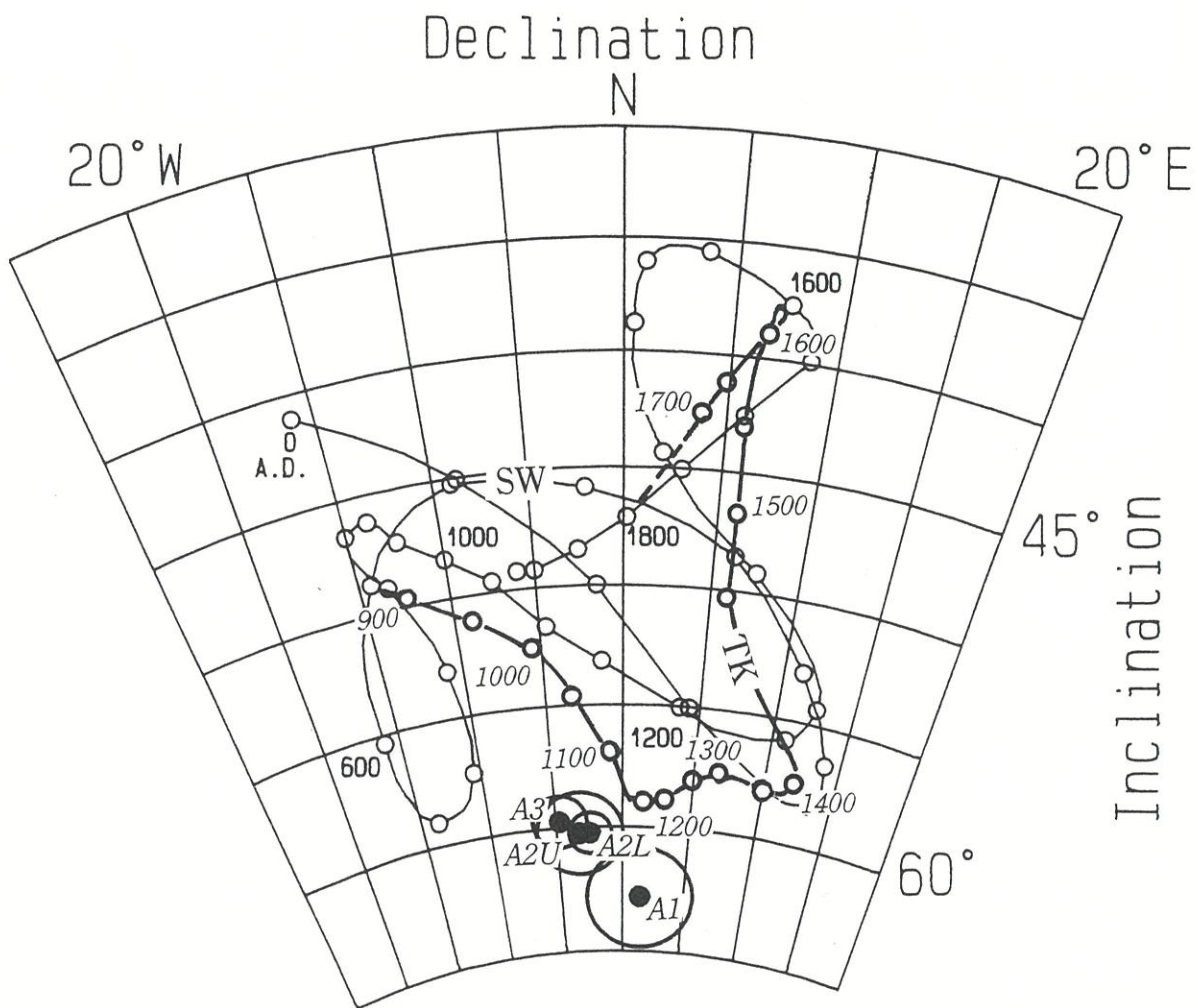
第36図では、黒丸が各古窯の平均磁化方向を表し、 $\alpha_{95}$ （フィッシャーの95%レベルの信頼角）は黒丸を囲む円として示されている。永年変化曲線が大府市付近の過去の地磁気変動を正しく表しているとする、黒丸に最も近い永年変化曲線の部分の年代が、考古地磁気学的に推定される遺構の年代となる。また、この推定年代の年代幅（誤差）は、 $\alpha_{95}$ の円に覆われる曲線の線分の長さで示される。図に明らかなように、今回得られたガンジ山A古窯の測定結果は、各古窯とも伏角が深く、西南日本版および東海版のいずれの永年変化曲線にもものらない結果となった。永年変化曲線自体に角度にして数度の誤差が含まれていると思われるので、永年変化曲線の最も近い部分の年代を推定年代値とすることにした。

上記のようにして第36図から考古地磁気年代を推定すると、推定年代値は第83表のようになろう。

考古地磁気学的には、先に挙げた年代値ほど可能性が高いが、その差はほんの少しである。また、A2号窯の上層床と下層床の年代が逆転しているが、上層床の信頼円（ $\alpha_{95}$ の円）が大きく下層床の信頼円全体を覆ってしまっているので、統計学的には年代差は認められない。したがって、大きな時代差はなく殆ど同時代といってよいことになる。

#### 引用文献

- Fisher, R. A. (1953) Dispersion on a sphere, Proceedings of Royal Society of London, Series A, vol.217, 295-305.
- Hirooka, K. (1971) Archaeomagnetic study for the past 2,000 years in Southwest Japan, Mem. Fac. Sci., Kyoto Univ., ser. Geol. & Mineral., 38, 167-207.
- 広岡公夫 (1977) 考古地磁気および第四紀古地磁気研究の最近の動向、第四紀研究、vol.15, 200-203.
- 広岡公夫 (1997) 北陸における考古地磁気研究、「中・近世の北陸、一考古学が語る社会史一」、北陸中世土器研究会編、桂書房、富山、560-583.
- 広岡公夫、藤沢良祐 (1998) 東海地方の地磁気永年変化曲線、「考古地磁気の地域差とその年代推定への応用」、平成7年度～平成9年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書、広岡公夫編、147-160.
- 広岡公夫、水上裕美、川浪英子 (1996) 海陸庵・神明古窯址群の考古地磁気年代、「海陸庵古窯址群・神明古窯址群、～大府半月地区区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告書～」、大府市文化財調査報告書、第2集、愛知県大府市教育委員会、138-151.



第36図 ガンジ山A古窯の考古地磁気測定結果と西南日本版（広岡、1997）および東海版（広岡・藤沢、1998）考古地磁気永年変化曲線

A1：A1号窯、A2L：A2号窯下層床、A2U：A2号窯上層床、A3：A3号窯  
 SW：西南日本版永年変化曲線、TK：東海版永年変化曲線

遺構名	個数	試料番号
ガンジ山 A 1 号窯	13	CT 2791~2803
ガンジ山 A 2 号窯下層床	12	CT 2811~2822
ガンジ山 A 2 号窯上層床	12	CT 2831~2842
ガンジ山 A 3 号窯	12	CT 2851~2862

Longitude : 136° 58' 14.18"E、 Latitude : 35° 00' 53.66"N  
 現在の偏角 : Dp = -6.50°

第54表 ガンジ山 A 1・A 2・A 3 号窯で採取した考古地磁気試料番号

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2791	-6.5	64.8	0.922
2792	-7.9	62.0	1.54
2793	-2.3	62.5	1.82
2794	11.4	64.8	1.84
2795	-0.2	63.5	1.73
* 2796	7.5	50.3	2.17
2797	0.8	61.6	2.37
2798	4.4	59.4	3.33
2799	0.1	58.3	1.97
* 2800	-3.4	53.7	1.01
2801	1.1	62.4	3.11
2802	-2.2	65.7	2.52
2803	-3.9	67.9	4.79

\* : 統計計算の際に除外したもの。

第55表 ガンジ山 A 1 号窯のNRMの磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2791	-6.2	65.8	0.909
2792	-5.8	62.2	1.50
2793	-0.2	64.1	1.81
2794	10.0	64.6	1.79
2795	-2.4	62.1	1.69
* 2796	4.7	49.8	2.11
2797	5.1	61.5	2.30
2798	2.2	59.1	3.22
2799	3.8	58.2	1.89
* 2800	-5.2	53.9	0.987
2801	-2.3	61.6	3.06
2802	-0.9	66.6	2.43
2803	-3.7	67.5	4.67

\* : 統計計算の際に除外したもの。

第56表 ガンジ山 A 1 号窯の2.5 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2791	-6.0	65.6	0.878
2792	-5.5	63.1	1.49
2793	1.9	63.7	1.76
2794	13.0	64.6	1.77
2795	-0.4	63.4	1.68
* 2796	10.8	50.0	2.10
2797	2.4	62.0	2.28
2798	5.4	59.9	3.24
2799	-0.4	58.4	1.89
* 2800	-2.9	53.8	0.985
2801	1.9	63.1	3.02
2802	-1.2	66.8	2.41
2803	0.0	68.8	4.67

\*：統計計算の際に除外したもの。

第57表 ガンジ山A 1号窯の5.0mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2791	-7.0	65.9	0.859
2792	-4.7	62.9	1.50
2793	-0.3	62.7	1.75
2794	9.0	64.3	1.77
2795	0.5	63.5	1.66
* 2796	3.1	50.3	2.06
2797	4.1	61.6	2.24
2798	4.3	59.2	3.20
2799	-3.3	58.0	1.84
* 2800	-5.9	52.2	0.967
2801	2.0	62.9	3.02
2802	-4.6	65.8	2.39
2803	-3.0	67.8	4.67

\*：統計計算の際に除外したもの。

第58表 ガンジ山A 1号窯の7.5mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2791	-7.6	64.4	0.820
2792	-7.4	62.5	1.45
2793	-1.7	62.8	1.73
2794	13.2	64.2	1.73
2795	1.3	63.5	1.64
* 2796	11.9	50.5	2.06
2797	4.4	61.0	2.26
2798	3.6	59.4	3.18
2799	6.4	58.5	1.86
* 2800	-1.0	54.2	0.950
2801	-0.2	62.6	2.77
2802	1.4	66.2	2.39
2803	-0.5	68.1	4.65

\*：統計計算の際に除外したもの。

第59表 ガンジ山A 1号窯の10.0mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2791	-6.3	64.6	0.734
2792	-4.4	62.9	1.35
2793	-2.3	62.6	1.57
2794	8.5	64.3	1.63
2795	-3.4	63.5	1.53
* 2796	6.6	51.7	1.96
2797	2.8	61.6	2.15
2798	4.5	58.7	3.04
2799	7.1	59.4	1.78
* 2800	-4.9	55.2	0.887
2801	-1.1	62.4	2.87
2802	-0.4	65.7	2.28
2803	-0.8	68.9	4.55

\*：統計計算の際に除外したもの。

第60表 ガンジ山A 1号窯の15.0mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2791	-4.9	64.6	0.662
2792	-3.3	62.2	1.27
2793	0.2	62.5	1.49
2794	10.7	63.9	1.52
2795	2.3	63.6	1.44
* 2796	6.6	51.9	1.86
2797	4.7	61.8	2.06
2798	2.5	57.8	2.90
2799	2.6	58.2	1.68
* 2800	-8.2	55.1	0.821
2801	-1.8	62.1	2.81
2802	3.3	65.8	2.21
2803	0.0	68.1	4.46

\*：統計計算の際に除外したもの。

第61表 ガンジ山A 1号窯の20.0mT消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2791	-2.9	64.6	0.596
2792	-5.7	62.2	1.18
2793	3.5	63.5	1.37
2794	9.4	63.4	1.40
2795	2.5	62.9	1.32
* 2796	11.3	52.5	1.77
2797	6.2	61.8	1.94
2798	4.3	58.7	2.75
2799	8.1	58.3	1.56
* 2800	-8.7	55.8	0.756
2801	-6.5	64.0	2.64
2802	2.7	65.9	2.09
2803	-4.8	67.8	4.40

\*：統計計算の際に除外したもの。

第62表 ガンジ山A 1号窯の25.0mT消磁後の磁化測定結果



試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2811	-0.8	61.9	2.70
2812	-1.6	61.3	2.01
* 2813	-0.4	55.0	1.75
2814	-1.7	62.2	2.19
2815	-2.7	61.1	1.21
2816	-5.0	60.8	1.78
2817	-2.2	58.3	13.0
2818	2.0	60.0	5.62
2819	1.0	61.2	0.699
* 2820	10.1	58.6	9.78
2821	0.0	59.7	3.65
2822	0.5	63.5	1.82

\*：統計計算の際に除外したもの。

第63表 ガンジ山A 2号窯下層床のNRMの磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2811	-2.0	60.4	2.65
2812	-1.8	60.1	1.94
* 2813	-1.6	55.3	1.69
2814	-0.5	61.0	2.15
2815	-1.3	61.4	1.19
2816	-4.7	60.9	1.75
2817	0.9	60.2	12.9
2818	2.6	58.4	5.33
2819	-0.3	61.3	0.701
* 2820	34.1	74.3	7.98
2821	-3.2	58.5	3.54
2822	-2.2	61.9	1.79

\*：統計計算の際に除外したもの。

第64表 ガンジ山A 2号窯下層床の2.5 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2811	-4.0	60.6	2.63
2812	-2.6	61.3	1.96
* 2813	-3.1	54.7	1.65
2814	-4.4	60.9	2.11
2815	-2.7	60.7	1.16
2816	-7.2	60.2	1.75
2817	0.8	59.3	12.9
* 2818	36.4	72.0	4.14
2819	-6.4	59.2	0.693
* 2820	8.4	60.0	9.47
2821	-0.7	59.5	3.48
2822	-3.8	61.5	1.76

\*：統計計算の際に除外したもの。

第65表 ガンジ山A 2号窯下層床の5.0mT消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2811	-0.6	61.2	2.61
2812	-0.3	61.9	1.95
* 2813	1.3	55.8	1.58
2814	-0.5	62.0	2.09
2815	-2.3	60.4	1.15
2816	-8.2	58.9	1.72
2817	-5.6	56.4	12.6
2818	1.5	58.8	4.44
2819	-0.9	61.4	0.675
* 2820	10.4	61.0	9.38
2821	-3.2	58.2	3.42
2822	-1.6	61.4	1.73

\*：統計計算の際に除外したもの。

第66表 ガンジ山A 2号窯下層床の7.5mT消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2811	-2.9	60.6	2.50
2812	-2.2	61.5	1.86
* 2813	-0.6	55.5	1.45
2814	0.2	61.8	2.05
2815	-3.5	59.4	1.10
2816	-5.3	60.2	1.68
2817	-2.1	58.2	12.3
2818	0.0	59.0	3.78
2819	-2.1	60.6	0.667
* 2820	5.2	59.2	9.16
2821	-2.5	59.8	3.17
2822	-4.0	60.5	1.69

\*：統計計算の際に除外したもの。

第67表 ガンジ山A 2号窯下層床の10.0mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2811	0.4	61.9	2.32
2812	-0.7	61.2	1.82
* 2813	1.8	56.1	1.13
2814	2.8	63.2	1.88
2815	0.9	61.2	1.02
2816	-1.7	61.0	1.54
2817	-1.2	59.1	10.9
2818	-2.0	60.4	2.88
2819	-5.2	58.8	0.636
* 2820	9.1	60.3	8.10
2821	-0.6	60.0	2.81
2822	-1.2	61.9	1.59

\*：統計計算の際に除外したもの。

第68表 ガンジ山A 2号窯下層床の15.0mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2831	3.4	65.5	1.05
2832	1.4	64.4	1.41
2833	6.0	61.9	1.12
2834	-0.1	61.1	1.31
2835	-3.3	59.0	1.67
2836	-7.8	60.9	1.70
2837	-5.5	60.3	1.42
2838	-8.2	61.7	1.57
2839	-14.7	57.8	1.72
* 2840	19.0	46.5	0.634
2841	-12.7	59.2	2.10
2842	-7.4	58.2	1.78

\*：統計計算の際に除外したもの。

第69表 ガンジ山A 2号窯上層床のNRMの磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2831	3.9	64.4	1.03
2832	-2.0	62.2	1.38
2833	5.9	61.3	1.09
2834	-2.0	58.7	1.28
2835	-3.7	58.7	1.66
2836	-7.6	61.1	1.65
2837	-5.2	61.2	1.39
2838	-5.7	61.0	1.53
* 2839	-17.7	56.6	1.67
* 2840	17.8	44.9	0.613
2841	-12.3	60.1	2.04
2842	-8.9	58.8	1.75

\*：統計計算の際に除外したもの。

第70表 ガンジ山A 2号窯上層床の2.5 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2831	2.8	63.7	1.02
2832	-3.7	62.0	1.37
2833	3.3	59.8	1.08
2834	-1.7	60.2	1.27
2835	-6.5	57.8	1.65
2836	-6.4	60.5	1.66
2837	-6.9	61.6	1.38
2838	-10.7	60.6	1.54
2839	-14.2	57.7	1.66
* 2840	17.7	45.6	0.609
* 2841	-18.8	57.4	2.03
2842	-9.1	58.4	1.77

\*：統計計算の際に除外したもの。

第71表 ガンジ山 A 2 号窯上層床の5.0 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2831	5.9	64.3	1.01
2832	2.8	63.7	1.35
2833	2.4	59.7	1.05
2834	0.3	60.6	1.26
2835	-5.9	57.1	1.61
2836	-4.4	59.7	1.62
2837	-7.2	60.6	1.37
2838	-5.7	60.8	1.51
2839	-14.4	58.1	1.65
* 2840	18.4	43.4	0.593
2841	-11.0	59.0	2.02
2842	-5.2	58.7	1.73

\*：統計計算の際に除外したもの。

第72表 ガンジ山 A 2 号窯上層床の7.5 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2831	4.6	63.8	0.980
2832	0.9	62.7	1.32
2833	2.1	59.8	1.04
2834	1.0	60.1	1.24
2835	-6.4	57.3	1.61
2836	-4.7	60.7	1.60
2837	-3.7	61.5	1.35
2838	-10.0	60.3	1.48
* 2839	-16.1	56.2	1.61
* 2840	19.0	43.1	0.579
2841	-11.8	58.8	1.96
2842	-7.9	57.4	1.71

\*：統計計算の際に除外したもの。

第73表 ガンジ山A 2号窯上層床の10.0 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2831	1.6	61.7	0.934
2832	1.7	63.1	1.27
2833	4.3	59.8	0.975
2834	-3.4	59.0	1.18
2835	-1.7	58.6	1.54
2836	-5.4	60.5	1.52
2837	-7.5	61.0	1.30
2838	-4.3	60.5	1.40
* 2839	-15.1	56.6	1.55
* 2840	20.0	41.0	0.551
2841	-10.5	58.4	1.88
2842	-6.1	58.7	1.66

\*：統計計算の際に除外したもの。

第74表 ガンジ山A 2号窯上層床の15.0 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2831	4.6	61.5	0.876
2832	4.4	63.5	1.20
2833	4.1	58.9	0.905
2834	-1.1	60.6	1.11
2835	-3.5	58.3	1.49
2836	-4.7	60.4	1.42
2837	-5.0	61.9	1.22
2838	-4.9	59.8	1.31
2839	-11.2	58.2	1.45
* 2840	21.9	38.6	0.514
2841	-13.1	57.6	1.77
2842	-7.0	57.7	1.59

\*：統計計算の際に除外したもの。

第75表 ガンジ山A 2号窯上層床の20.0 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2851	1.5	60.1	1.72
2852	-5.3	58.9	1.58
* 2853	-12.0	64.6	1.05
2854	-3.7	61.6	1.75
* 2855	-31.0	60.9	0.706
2856	-1.9	59.0	2.19
* 2857	-12.7	61.8	1.69
2858	-5.9	60.4	1.89
2859	-6.4	58.1	2.40
2860	-5.9	59.0	2.15
2861	-1.4	61.1	2.55
2862	2.9	60.5	2.42

\*：統計計算の際に除外したもの。

第76表 ガンジ山A 3号窯のNRMの磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2851	-0.7	60.4	1.68
2852	-3.9	59.5	1.53
* 2853	-13.6	64.5	1.03
2854	-3.9	61.7	1.71
* 2855	-28.4	61.6	0.692
2856	-2.9	57.9	2.15
* 2857	-14.4	62.1	1.64
2858	-8.0	60.2	1.87
2859	-3.8	59.5	2.33
2860	-11.4	57.8	2.11
2861	-4.6	60.3	2.50
2862	0.1	59.2	2.36

\*：統計計算の際に除外したもの。

第77表 ガンジ山 A 3 号窯の2.5 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2851	-0.2	60.1	1.68
2852	-5.9	59.1	1.52
* 2853	-14.7	63.8	1.02
2854	-5.0	61.9	1.70
* 2855	-34.3	60.3	0.671
2856	-4.3	58.4	2.13
* 2857	-13.6	61.4	1.61
2858	-6.4	60.8	1.85
2859	-6.8	58.6	2.31
2860	-7.0	59.4	2.07
2861	-5.3	60.2	2.49
2862	-1.7	59.0	2.32

\*：統計計算の際に除外したもの。

第78表 ガンジ山 A 3 号窯の5.0 mT 消磁後の磁化測定結果



試料番号	偏角 (° E)	伏角 (° )	磁化強度 ( $\times 10^{-1}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2851	-0.5	60.0	1.64
2852	0.6	60.6	1.50
* 2853	-13.7	64.3	1.00
2854	-4.2	60.6	1.67
* 2855	-28.0	60.4	0.646
2856	-2.8	57.8	2.08
* 2857	-14.3	61.4	1.60
2858	-6.8	60.1	1.82
2859	-2.0	59.2	2.29
2860	-8.7	58.4	2.05
2861	-4.1	59.9	2.45
2862	-0.2	58.8	2.32

\*：統計計算の際に除外したもの。

第79表 ガンジ山A 3号窯の7.5 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (° )	磁化強度 ( $\times 10^{-1}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2851	4.8	60.7	1.61
2852	-4.0	58.6	1.46
* 2853	-14.5	64.1	1.01
2854	-3.6	62.2	1.64
* 2855	-31.0	60.2	0.62
2856	-4.1	57.9	2.00
* 2857	-14.2	61.0	1.56
2858	-8.1	59.8	1.78
2859	-8.0	58.0	2.23
2860	-5.5	58.6	1.99
2861	-5.6	59.6	2.38
2862	3.0	60.1	2.27

\*：統計計算の際に除外したもの。

第80表 ガンジ山A 3号窯の10.0 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (° )	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CT 2851	-0.7	59.7	1.50
2852	-3.1	59.8	1.38
* 2853	-14.3	63.5	0.927
2854	-2.4	62.3	1.53
* 2855	-21.8	61.0	0.534
2856	-1.6	59.2	1.92
* 2857	-13.3	62.1	1.47
2858	-6.6	60.2	1.72
2859	-5.1	57.9	2.14
2860	-9.0	57.2	1.89
2861	-7.2	58.9	2.23
2862	-0.9	59.5	2.15

\*：統計計算の際に除外したもの。

第81表 ガンジ山A 3号窯の15.0 mT 消磁後の磁化測定結果

窯名	消磁段階	N	D (° E)	I (°)	$\alpha_{95}$ (°)	K	平均磁化強度 ( $\times 10^{-4} \text{Am}^2/\text{kg}$ )
A 1号窯	NRM	11	-0.4	63.1	2.05	496.8	2.36
	2.5 mT	11	0.1	63.1	2.09	478.0	2.30
	5.0 mT	11	1.1	63.7	2.09	476.6	2.28
	7.5 mT	11	-0.1	63.2	2.02	510.5	2.26
	10.0 mT	11	1.3	63.1	2.18	440.7	2.23
	15.0 mT	11	0.5	63.2	2.01	516.4	2.13
	【20.0 mT	11	1.5	62.8	2.01	518.3	2.05】
	25.0 mT	11	1.8	63.1	2.13	459.4	1.93
A 2号窯下層床	NRM	10	-1.1	61.0	1.04	2146.8	3.12
	2.5 mT	10	-1.2	60.4	0.93	2687.1	3.07
	5.0 mT	9	-3.4	60.4	0.97	2820.7	3.18
	7.5 mT	10	-2.3	60.1	1.42	1162.5	2.97
	【10.0 mT	10	-2.4	60.2	0.82	3459.4	2.85】
	15.0 mT	10	-0.9	60.9	1.00	2316.4	2.74
A 2号窯上層床	NRM	11	-4.8	61.1	2.26	410.2	1.53
	2.5 mT	10	-3.9	60.9	1.92	631.5	1.48
	5.0 mT	10	-5.5	60.3	2.02	575.6	1.44
	7.5 mT	11	-4.1	60.3	2.10	471.9	1.47
	10.0 mT	10	-3.8	60.3	2.05	554.1	1.43
	【15.0 mT	10	-3.2	60.2	1.65	862.2	1.37】
	20.0 mT	11	-3.6	60.0	2.02	514.0	1.30
A 3号窯	NRM	9	-2.9	59.9	1.31	1534.7	2.07
	2.5 mT	9	-4.4	59.7	1.39	1377.2	2.03
	【5.0 mT	9	-4.7	59.7	1.04	2447.8	2.01】
	7.5 mT	9	-3.2	59.5	1.19	1884.2	1.98
	10.0 mT	9	-3.5	59.6	1.69	929.1	1.93
	15.0 mT	9	-4.1	59.4	1.35	1464.8	1.83

N：試料個数、D：平均偏角、I：平均伏角、 $\alpha_{95}$ ：フィッシャーの信頼角、K：フィッシャーの精度係数。

【】が最適消磁段階として年代推定のために採用した考古地磁気データであることを示す。

第82表 ガンジ山A 1・A 2・A 3号窯の考古地磁気測定結果

ガンジ山A 1号窯	: A.D. 1220 ± 30 年	(東海版永年変化 : A.D. 1150 ± 50 年)
ガンジ山A 2号窯		
下層床	: A.D. 1185 ± 10 年	(東海版永年変化 : A.D. 1140 ± 20 年)
ガンジ山A 2号窯		
上層床	: A.D. 1170 ± 30 年	(東海版永年変化 : A.D. 1130 ± 50 年)
ガンジ山A 3号窯	: A.D. 1180 ± 20 年	又は A.D. 690 ± 15 年
		(東海版永年変化 : A.D. 1130 ± 30 年)

第83表 ガンジ山A 1・A 2 (下層床) ・A 2 (上層床) ・A 3号窯の  
考古地磁気年代

## 第2節 炭化物について

植田弥生 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

ガンジ山A古窯跡群は愛知県大府市桃山町に所在し、出土考古遺物の碗類・皿類からは12世紀末～13世紀中頃(平安時代末から鎌倉時代初め)までと推定される古窯である。ここでは、同一斜面に近接して並び、12世紀末期の可能性が高い2号窯と3号窯に関連する燃料材の樹種同定結果を報告する。検討試料は、2基の窯体内および灰層・灰原から出土した燃料材残渣と考えられる炭化材である。

### 2. 炭化材の試料と樹種同定の方法

採取された試料は、1地点から1点のものもあれば複数のものである。炭化材は割れやすいうえ、樹種の種類や炭化状態によっても保存性が異なる。使用された燃料材の分類群組成や使用頻度をより正確に復元するためには大きな破片や状況のよさそうな破片だけを同定すると結果に偏りが生じる恐れがあると考え、破片の大小にかかわらずほぼすべての破片を検査し、接合しない破片はすべて1点と数え計数した。なお当遺跡から採取された炭化材は直径2～6cmの丸材や半割れのもものが比較的多かった。

同定は、まず炭化材の横断面(木口)を手で割り実体顕微鏡下で分類群のおおよその目安をつけ、その典型的試料と不確定な試料を走査電子顕微鏡で観察し同定を決定した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗り、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日本電子(株)製JSM-T100型)で観察と写真撮影を行った。

### 3. 結果

結果の一覧を第84表に、出土位置ごとの検出分類群とその点数を第85表にまとめ、第37図に各分類群が検出された位置を示した。

検出された分類群は、針葉樹のマツ属複維管束亜属と、落葉広葉樹のコナラ節・クヌギ節であった。マツ属複維管束亜属は全体的には数量の占める割合は多くないが、灰原・灰層と2基の窯内から広く検出された(第37図)。3号窯では、焼成室からマツ属複維管束亜属・コナラ節・クヌギ節の3分類群が検出されその中ではクヌギ節が圧倒的に多く、クヌギ節は窯内覆土上からも多数検出され、焚口からはマツ属複維管束亜属が検出された。2号窯の燃焼室からはマツ属複維管束亜属が検出された。灰原・灰層の炭化材は、12世紀末期の2号窯と3号窯から廃棄されたものであるが13世紀の窯跡から廃棄された炭化材も含んでいる可能性はある。ここからはマツ属複維管束亜属のみが検出された。

全体的にはクヌギ節が圧倒的に多く検出され、その出土位置は3号窯の焼成室と窯内覆土上に集中していた。マツ属複維管束亜属は、検討した遺構のほとんどから検出された。コナラ節は検出数が最も少なく、出土位置は3号窯の焼成室である。このように分類群により出土位置にやや偏りが見られ、クヌギ節とコナラ節は焼成室から、マツ属複維管束亜属は焼成室・焚口・燃焼室そして灰原・灰層か

ら出土した。マツ属複維管束亜属の出土地点は、主に燃料材を燃やす位置であり灰原・灰層はその残渣を廃棄する所である。このことから、マツ属複維管束亜属はクヌギ節より検出点数は少なかったが恒常的に燃料材として使われていたと推測される。

検出された3分類群は、すべて二次林要素の樹種を含むという共通点があった。

以下に各分類群の同定根拠を記す。

1)マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科 写真1 1a.-1c.(炭6)

垂直・水平樹脂道がある針葉樹材。晩材部の量は多く、垂直樹脂道は主に年輪後半に分布している。分野壁孔は窓状である。放射組織の上下端に放射仮道管がありその内壁には鋸歯状の肥厚がある。このような形質からアカマツとクロマツを含むマツ属複維管束亜属であることが判る。

マツ属複維管束亜属は、暖帯から温帯下部の陽光地に生育し、二次林の構成種でもある。

2)コナラ属コナラ亜属コナラ節 *Quercus*. subgen. *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 写真1 2a.-2c.(炭5)

年輪の始めに中型の管孔が配列し、晩材部は薄壁・角形で小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にチロースがある。放射組織は単列のものと幅広の複合状のものがあり、道管との壁孔は交互状・柵状である。

コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木でカシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがあり、二次林にも多い。

3)コナラ属コナラ亜属クヌギ節 *Q.* subgen. *Quercus* sect. *Cerris* ブナ科 図版1 3a.-3c.(炭3)

年輪の始めに大型の管孔が配列し、晩材部は厚壁・円形の小型の管孔が単独で放射方向に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にチロースがある。放射組織は同性、単列のものと幅広の複合状のものがある。

クヌギ節は落葉性のドングリの仲間でクヌギとアベマキが属する。暖帯の山林や二次林に多い。

#### 4. まとめ

当窯跡から検出された炭化材樹種は、マツ属複維管束亜属・クヌギ節・コナラ節の3分類群であり、全体的にはクヌギ節が優占し、次にマツ属複維管束亜属が多く、コナラ節は少なかった。各分類群と検出地点の関連性を探ると、クヌギ節とコナラ節は3号窯の焼成室から出土し、マツ属複維管束亜属は3号窯の焼成室・焚口と2号窯の燃焼室そして灰原・灰層の各地点から出土した。このように分類群により出土位置にやや偏りが見られた。特にマツ属複維管束亜属は、窯体内でも燃料材を燃焼する部分とその残渣を廃棄した灰原・灰層から検出され、恒常的に使用されていた燃料材であったと推測される。

当窯跡に近く操業時期もほぼ同じ頃(平安時代末から鎌倉時代初頭)の神明古窯址の燃料材調査結果(小川、1996)を見ると、コナラ亜属が81.25%とマツ属が18.75%であり、樹種構成とその比率は当遺跡の結果と非常によく一致していた。小川(1996)の樹種同定結果の表現は当報告とはやや異なるが、「コナラ・クヌギ・アベマキ」および「クヌギ or コナラ」は当報告のコナラ亜属に属しコナラ節とク

含む分類群であり、マツ属は当報告のマツ属複維管束亜属と対応する。神明古窯の焼成室からはマツ属・コナラ・アベマキ・コナラ亜属が検出されており、マツ属はコナラ亜属より少ない。神明古窯の焼成室から出土した炭化材の樹種構成とその割合は、当窯跡3号窯の焼成室の結果と類似していた。このような類似性は単なる偶然なのか、それとも焼成過程の段階で焼成室の燃焼時にこのような樹種の組み合わせと割合が重要な要素であったのか、今後も同様な資料の蓄積がなされ検討してゆく必要があるのではないだろうか。

大府市内の古窯の燃料材樹種構成は、当遺跡の北部に広がる猿投・瀬戸地域のほぼ同時期の窯址の燃料材調査結果（斎藤、1983、木方、1984、城ヶ谷、1992、植田、1998）とも類似性が高かった。周辺地域一帯の12～13世紀初頭の窯で使用された燃料材は、コナラ節・クヌギ節・マツ属複維管束亜属で、これら分類群の割合はコナラ節とクヌギ節の占める割合が多くマツ属複維管束亜属は比較的少ない点でも一致している。当地域一帯の本来の自然植生は、シイノキ属・アカガシ亜属・ツバキ属などの常緑広葉樹を中心とした照葉林帯である。しかし、古来より農耕のための開発や窯業のための燃料材伐採などの人為的影響が強く、現在では丘陵地の植生はアカマツ・クロマツ・コナラ・アベマキなどからなる二次林が主体となっている（大府市誌編さん刊行委員会、1988）。当地一帯の古窯跡から出土する炭化材樹種はいずれも二次林の主要樹種を含む分類群であることから、窯操業時にはすでに周辺の植生は二次林化していたとも考えられるが、これらの3分類群がなぜこの地域一帯で窯業燃料材として選択使用されていたのかは、今後の詳細な古植生復元の資料との検討や、焼成温度管理などの技術面からも検討して行く必要がある。

## 引用文献

斎藤孝正、1983、木炭の樹種同定、「正家1号窯発掘調査報告書」、58、恵那市教育委員会。

木方洋二、1984、岩崎45号窯出土木炭の樹種の識別、「愛知県日進町株山地区埋蔵文化財発掘調査報告書」、132-134、日進町教育委員会。

小川雅康、1996、出土炭化材の樹種同定、「海陸庵古窯址群・神明古窯址群」、125-133、大府市教育委員会。

城ヶ谷和宏、1992、小田妻古窯跡出土木炭の樹種同定、「小田妻古窯跡群」、71-75、図版43、財団法人愛知県埋蔵文化財センター。

植田弥生、1998、炭化材の樹種同定、「大高南区遺跡発掘調査報告書」、141-143、名古屋市教育委員会。  
大府市誌編さん刊行委員会、1998、「大府市誌 資料編 自然」、478pp.、大府市

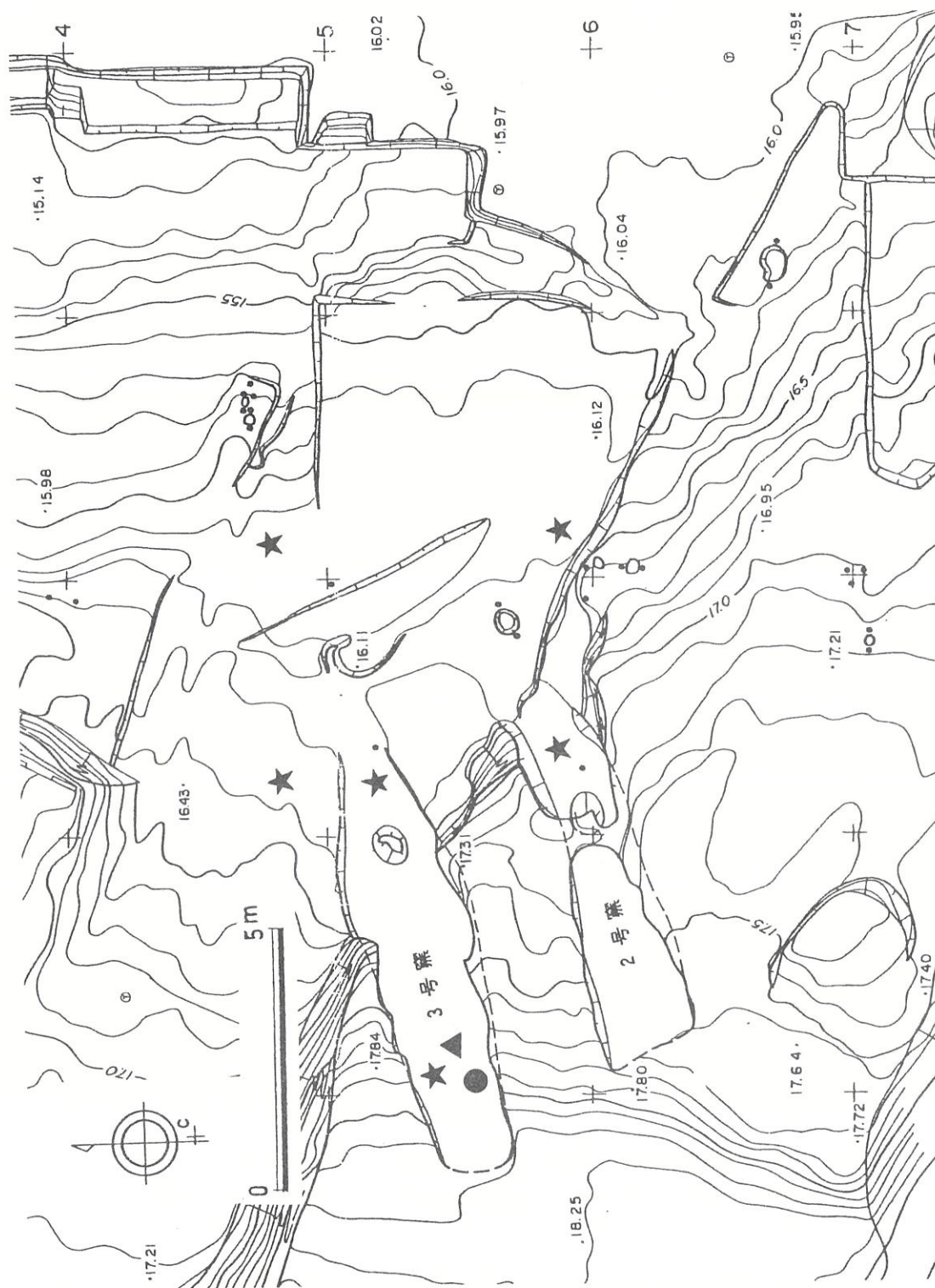
出土位置		グリッド	試料番号	分類群	破片数
灰原		6 g	炭7	マツ属複維管束亜属	11
灰層	上層	5 f	炭1	マツ属複維管束亜属	5
	下層	4 g	炭10	マツ属複維管束亜属	1
2号窯	燃烧室覆土	4 g	炭9	マツ属複維管束亜属	2
	窯内覆土上層	5 f	炭2	マツ属複維管束亜属	3
3号窯	焚口覆土	5 e	炭3	クヌギ節	15
	烧成室覆土	5 f	炭4	マツ属複維管束亜属	6
				コナラ節	3
	烧成室覆土下層	5 e	炭5	クヌギ節	26
				マツ属複維管束亜属	1
			コナラ節	5	
			クヌギ節	28	
			炭6	マツ属複維管束亜属	5
	主軸ベルト烧成室	5 d	炭12	クヌギ節	12
主軸ベルト烧成室下層	5 e	炭11	クヌギ節	4	
不明	不明	炭13	クヌギ節	1	
				マツ属複維管束亜属	1

第84表 ガンジ山A古窯の燃料材樹種同定結果

検出分類群	灰原・灰層	2号窯 燃烧室	3号窯		
			焚口	窯内覆土上層	烧成室
マツ属複維管束亜属	19	3	6		6
コナラ節					8
クヌギ節				15	17

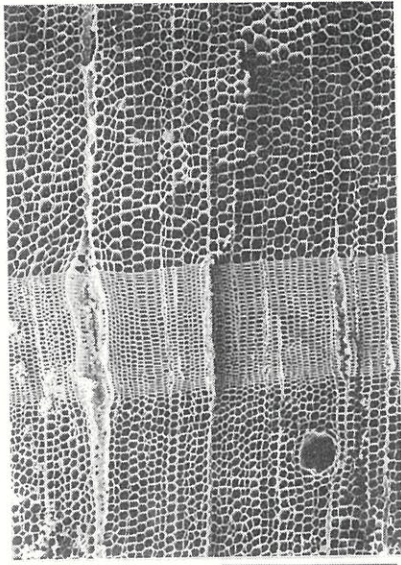
第85表 ガンジ山A古窯燃料材の出土位置別の検出樹種



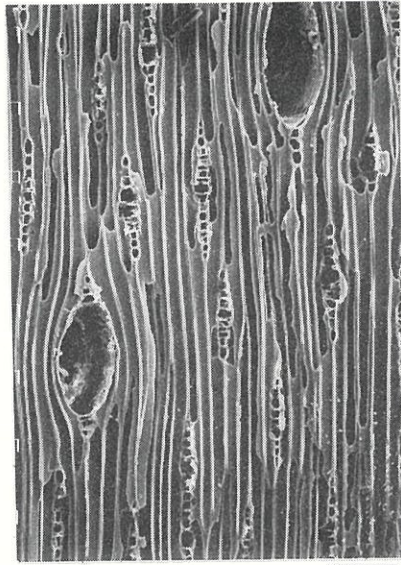


★ : マツ属複維管束亜属   ● : コナラ節   ▲ : クヌギ節

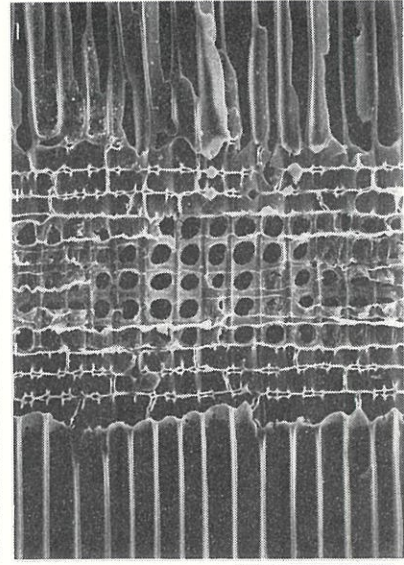
第37図 ガンジ山A古窯の燃料材樹種の検出地点



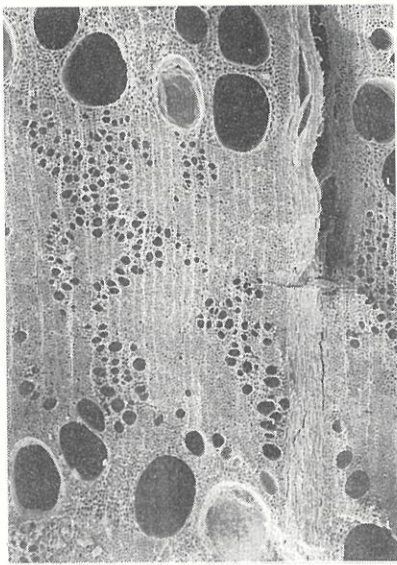
1a. マツ属複維管束亜属 (横断面)  
炭6 bar:0.5mm



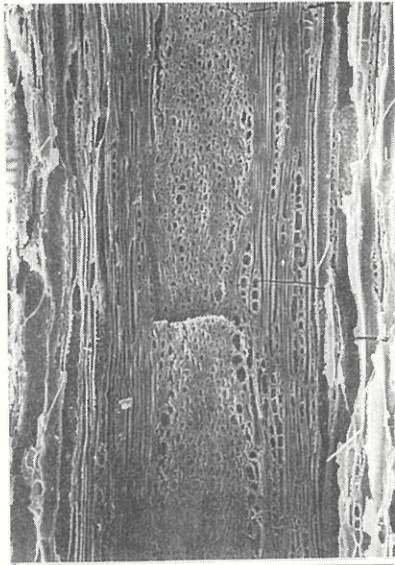
1b. 同 (接線断面) bar:0.1mm



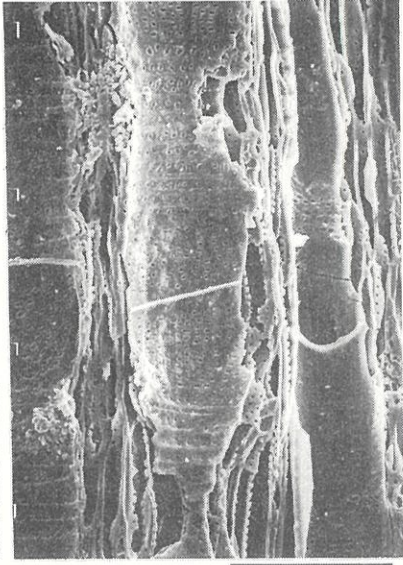
1c. 同 (放射断面) bar:0.1mm



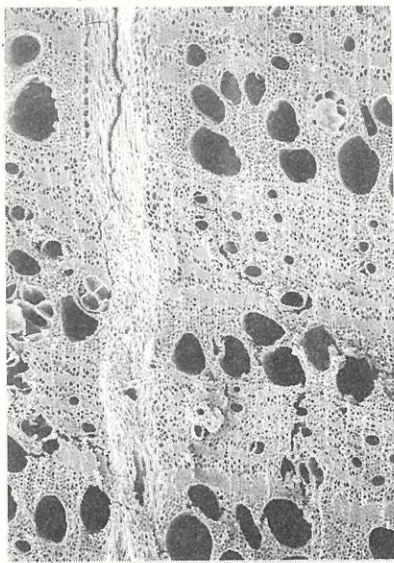
2a. コナラ節 (横断面)  
炭5 bar:0.5mm



2b. 同 (接線断面) bar:0.1mm



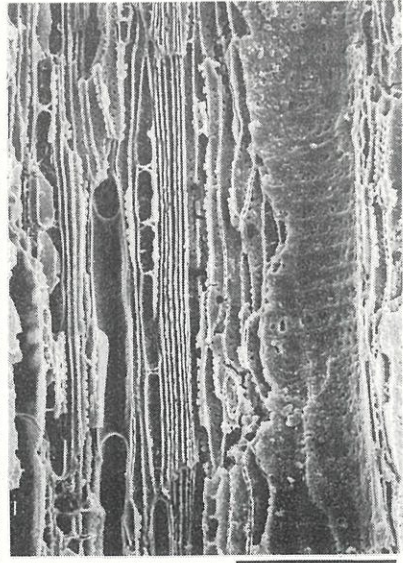
2c. 同 (放射断面) bar:0.1mm



3a. クヌギ節 (横断面)  
炭3 bar:0.5mm

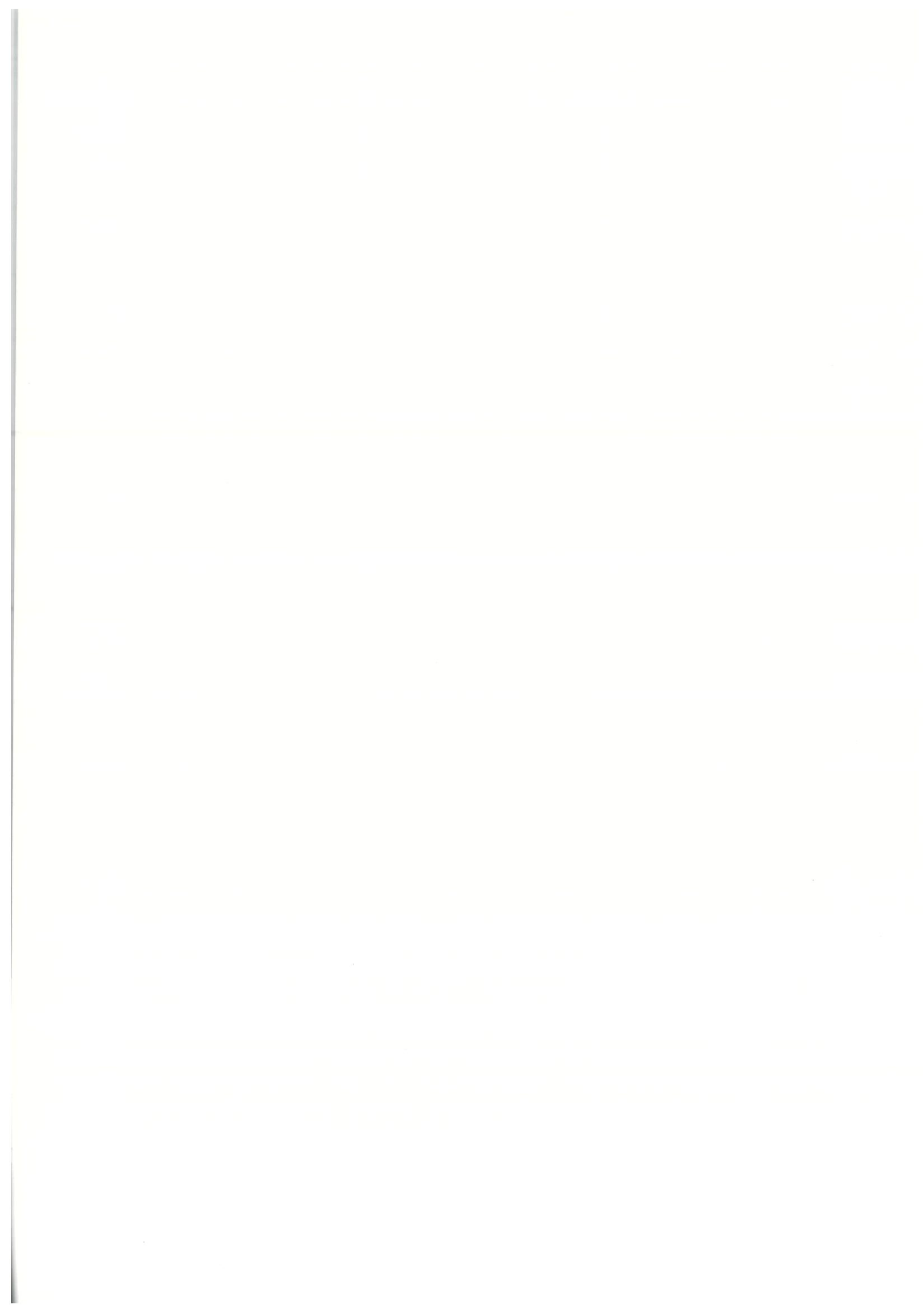


3b. 同 (接線断面) bar:0.1mm



3c. 同 (放射断面) bar:0.1mm

写真1 ガンジ山A古窯燃料材走査電子顕微鏡写真



## 第5章 ま と め



現地説明会風景

## ま と め

ガンジ山A古窯跡群は、市内で11例目の発掘調査である。窯業遺跡として8例目である。本遺跡は3基の窯体と灰原からなる古窯跡群である。3基の窯体のうち1号窯は、分焰柱中央部から燃烧室・焚口まで滅失していたが、他の2基は焼成室上部を欠くのみで、焚口まで残存していた。だが前庭部から灰原は、1基分（1号窯関連）は完全に消失、他の2基分も前庭部及び灰原中央部がほぼ完全に消失していた。また、2号窯では大府市内の窯業遺跡で初めて床面下施設の完全な遺構を検出した。

### 遺構について

本古窯跡群の3基の窯体は、いずれも床面に補修が施されていた。3基とも焼成室の床面は2層になっており、それぞれの窯体で数回の焼成が行なわれていたものであろう。このなかで特に2号窯には、床面下施設が造られていた。

床面下施設は、知多古窯群（中世に知多半島に展開した陶器生産窯のことで、常滑古窯群ともいう）では多くの窯体に見ることができ、現在までに発掘調査が行なわれ、報告された古窯の数は、385基にのぼるが、この中で床面下施設をもつ窯体は、本窯（2号窯）を含めて48基が確認されている①。この数は床面下施設をもつ窯体の割合が、全体の約12.5%にあたるものである。

床面下施設は、防湿や排水を目的に造られたものであるが、その構造は窯体によって様々である。池本正明氏は、床面下施設の構造を次のように分類している②。それは、焼成室床面を掘り下げた後、異なった土砂を充填するものと、溝を設定するものとに大別し、それぞれに焼成不良品などを敷き詰めるものと、炭化物や木材などを敷き詰めるものとに分類している。知多古窯群の場合では、焼成室床面を全面に掘り下げて用材を入れるものと、焼成室床面全体に枝状に溝を掘るものと、側壁沿いや焼成室中央部分に、1本から2本の溝を掘るものというように3種類に分類できる。また用材についても、碗類・皿類・鉢類・壺甕類などの多様な器種の不良品や破片を利用したものがみられる。本窯の床面下施設は、焼成室を掘り下げて、そこに碗を伏せて全面に敷き詰めたものである。使用された碗は全体の1/3が熔着した状態のものであり、掘り込みの深いところでは、2枚以上重ねて置かれていた。個体数は313個体が確認され、その内部は粘土や碗の破片が敷き詰められた状態であった。知多古窯群で床面下施設をもつ窯体46基のうち、本窯のように全面あるいは全面に施されたと思われる窯体の数は29基になり、全体の約51%にあたる。またこれらの床面下施設には、排水溝が併設される場合が多い。本窯も燃烧室右側壁（北東側）沿いに前庭部まで続く排水溝が併設されていた。

本窯のように焼成室下半部の全面に施されるものは、12世紀末から13世紀初頭にかけて最も多く造られている。

### 遺物について

本窯の出土遺物は、碗類と皿類の2種類が主な焼成器種であった。3基の窯内から出土した碗類と皿類について、それぞれの法量の平均値をみると、碗類の平均値は、1号窯では口径16.6cm・高台径7.9cm・器高5.4cm、2号窯では口径16.3cm・高台径8.0cm・器高4.9cm、3号窯では口径16.6cm・高台径8.1cm・器高5.1cmである。皿類の平均値は1号窯では口径8.5cm・底径4.0cm・器高2.3cm、

2号窯では口径8.2cm・底径4.0cm・器高2.1cm、3号窯では口径8.0cm・底径3.8cm・器高2.2cmである。3基の窯内から出土した碗類・皿類は法量の数値からは、ほぼ同様の結果が得られた。また2号窯の床面下施設から出土した碗の平均値は、口径16.4cm・高台径8.0cm・器高4.7cmであり、3基の窯内出土の碗とほぼ同様であった。また器形分類についても、3基の窯内出土の碗と同様の傾向をしめしていることから、2号窯の床面下施設で使用された碗は、他の古窯跡群で作られたものではなく、本古窯跡群で焼成されたものを利用したものであらうと考えられる。

本古窯跡群からは碗類・皿類の製品の他に、窯道具の一種である障焰棒が4点出土している。この障焰棒は知多古窯群では、本窯以外に2例しかみられない③。しかし瀬戸窯からも同様の障焰棒が出土しており④、知多古窯群と瀬戸窯との間に、何らかの関わりがあったものと思われる。

### 炭化材について

本古窯跡群からは、多くの炭化材が検出された。今回はその炭化材の樹種同定を行った。その結果検出された炭化材樹種は、マツ属複維管束亜属・クヌギ節・コナラ節の3種であった。構成比率はマツ属が27.13%、クヌギ・コナラ節が72.87%となっている。同遺跡から南西に約2.5kmの地点に位置する神明古窯群から検出された炭化材樹種⑤は、マツ属・ヌカメ材（コナラ・クヌギ・アベマキ）・クヌギ or コナラ・コナラ・アベマキであり、構成比率はマツ属が18.75%、コナラ亜属が81.25%である。神明古窯群から検出された炭化材樹種の構成と比率は、本古窯跡群とかなり類似している。一方神明古窯群に近接する森岡第1号窯⑥がある。操業時期は12世紀中葉から後葉で、神明古窯群や本古窯跡群とほぼ同時期のものといえる。森岡第1号窯は灰原のみの調査であったが、灰原から検出された炭化材樹種⑦の構成は、マツ属複維管束亜属が多数をしめ、他にアカガシ亜属・クヌギ節・クリ・ミズキ属・エゴノキ属・広葉樹が若干認められたのみであった。神明古窯群・本古窯跡群・森岡第1号窯と、地理的にも時期的にも近い3ヶ所の古窯で、なぜこのような正反対の結果がでたのであらうか。個々の古窯で、炭化材の出土場所についてみてみたい。森岡第1号窯は灰原のみの調査であった。神明古窯群からは灰原からの検出はなく、すべて窯内のものであった。本古窯跡群では、窯内と灰原から炭化材が出土しているが、灰原から検出された炭化材樹種はすべてマツ属複維管束亜属であり、また2号窯燃焼室および3号窯焚口から検出された炭化材も同様であった。しかし、3号窯焼成室から検出された炭化材樹種は、クヌギ節86点・コナラ節13点に対して、マツ属複維管束亜属はわずか12点であった。このことから灰原からの検出では、本古窯跡群と森岡第1号窯とでは同様の結果となり、窯内からの検出では、本古窯跡群と神明古窯群と同様の結果となった。灰原から出土する炭化材は、ほとんどが燃焼室で燃料材として使用されたものであると思われる。一方焼成室から出土する炭化材は、初めから焼成室に入れられていたものか、焼成途中で責め焚きのために入れられたものかは不明であるが、燃料材として使用されたものではないのではないかとと思われる。このことから理由は詳らかではないが、燃焼室で燃やす燃料材としてはマツ属を多く用い、焼成室に入れられた木材はコナラ亜属を多く使用し、ここの用途によって使い分けていたのではないらうかと思われる。

### 築窯年代について

本古窯跡群では、考古地磁気年代測定を行った。それによると、次のとおりである。1号窯は A.D. 1220 ± 30年、2号窯下層床は A.D. 1185 ± 10年、2号窯上層床は A.D. 1170 ± 30年、

3号窯は A.D. 1180 ± 20 年又は A.D. 690 ± 15 年という結果が得られている。この中で2号窯の下層床と上層床の年代が逆転しているが、これは統計学的には年代差は認められないとのことで、ほとんど同時代であるといえる。

2基以上の窯体をもつ古窯跡群では、各窯体の築窯順を推測する手段としては、焚口部分の切り合いの具合や、前庭部の重なり、灰原における灰層の重なりなど種々ある。本窯の場合、1号窯は燃焼室・焚口・前庭部から灰原にかけてすべて消失しており、並行して築窯された2・3号窯も、前庭部から灰原中位が消失しており、また灰原末端部も灰層が1層に混ざっているため、築窯順は明確に決められない状態であった。

しかし、考古地磁気年代測定の結果からは1号窯が他の2基に比べやや年代が下がるものの、出土遺物の形態からはほとんど時期差はないと思われる。これらのことから考えて、本古窯跡群の築窯年代および操業時期は、12世紀末から13世紀初頭と思われる。

最後に上記の年代測定の結果は、西南日本版の永年変化曲線から得られたものであるが、これを東海地方の永年変化曲線に照合すると、約半世紀程度年代が遡る結果となった。東海版は現在制作中で、今後修正される可能性があるということで、今後の研究が待たれるところである。

註①文献1には43基があり、それ以降海陸庵1号窯(文献2)、小白根B地点1号窯・C地点2号窯(文献3)、上親田1号窯(文献4)およびガンジ山A古窯2号窯の5基が確認されている。

②文献5参照。

③本窯以外では、常滑市の亀塚池1～6号窯灰原・13号窯(文献6)から3点と武豊町の中田池A地点Ⅲグループ灰原(文献7)から1点、報告例があるのみである。また本窯出土の4点のうち2点に穿孔がみられるが、亀塚池1～6号窯灰原出土の2点のうち1点にも、同様の穿孔がみられる。

④瀬戸市の太子A窯跡(文献8)から同様の障焰棒が出土している。また、太子A窯跡では、重ね焼で熔着した碗を、障焰棒と同様に使用したと思われるものが2点出土している。

⑤小川雅康「出土炭化材の樹種同定」(文献2、125～133頁)。

⑥文献9参照。

⑦植田弥生「森岡第1号窯跡群出土炭化材の樹種同定」(文献9、57～62頁)。

#### 文献

1. 立松宏他編『親田古窯址群』(1996年刊、阿久比町教育委員会)。
2. 近藤英正・古田功治他編『海陸庵古窯址群・神明古窯址群』(1996年刊、大府市教育委員会)。
3. 立松宏他編『小白根古窯址群』(1998年刊、阿久比町教育委員会)。
4. 立松宏他編『上親田古窯址群』(1999年刊、阿久比町教育委員会)。
5. 「灰釉系陶器窯の床下施設について」(『年報 平成9年度』 1998年刊、愛知県埋蔵文化財センター)。
6. 中野晴久編『亀塚池古窯址群発掘調査報告書』(1993年刊、常滑市教育委員会)。
7. 磯部幸男編『中田池古窯址群 その1』(1990年刊、武豊町教育委員会)。
8. 青木修編『太子A窯跡』(1997年刊、財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター)。
9. 中野良法他編『森岡第1号窯跡群』(1999年刊、愛知県埋蔵文化財センター)。

# 版 图





①調査前風景（北東から）



②工事中風景（北東から）



③工事中風景（北東から）

図版1 遺跡(1) 調査前



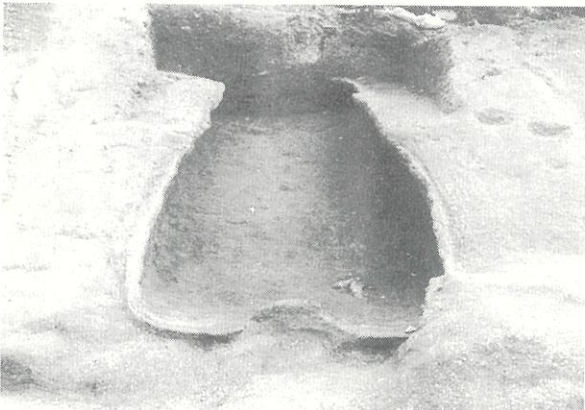
① 1号窯掘削前（北東から）



② 1号窯窯内埋土第1ベルト（北から）



③ 1号窯（北から）



④ 1号窯完掘（北から）



⑤ 1号窯焼成室床面断面（北東から）



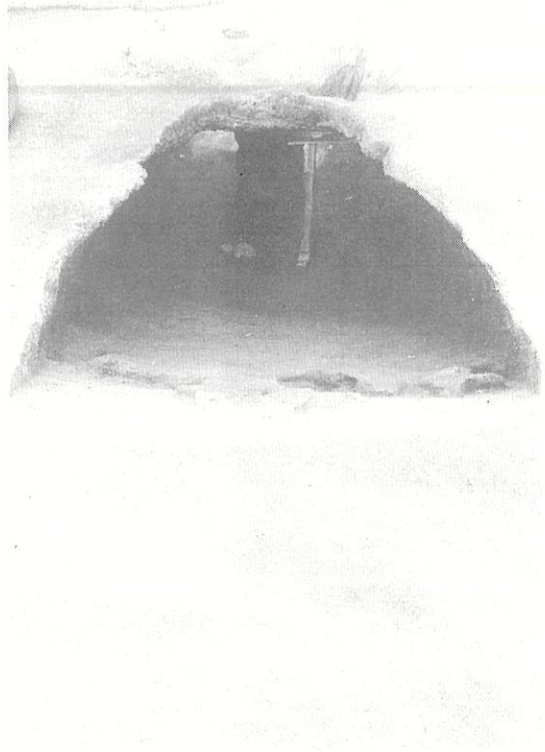
① 2号窯焚口（北東から）



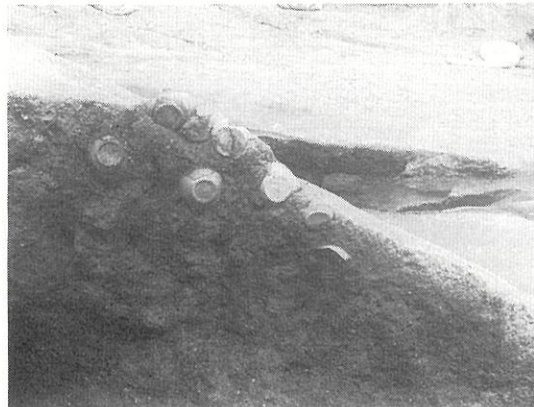
② 2号窯窯内埋土第2ベルト（北東から）



③ 2号窯完掘（北東から）



④ 2号窯完掘（南西から）



⑤ 2号窯燃焼室側壁（南東から）

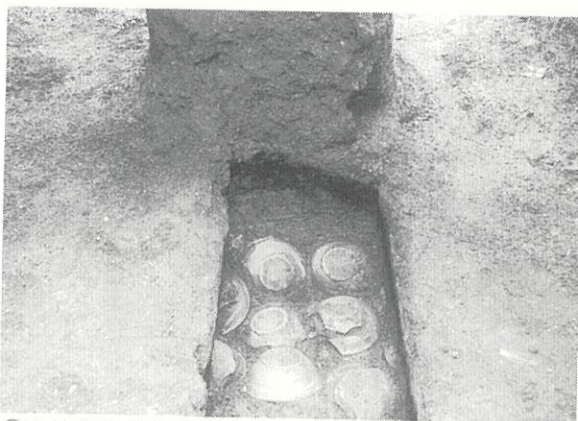


⑥ 2号窯燃焼室土器溜（北東から）

図版3 遺跡(3) 2号窯



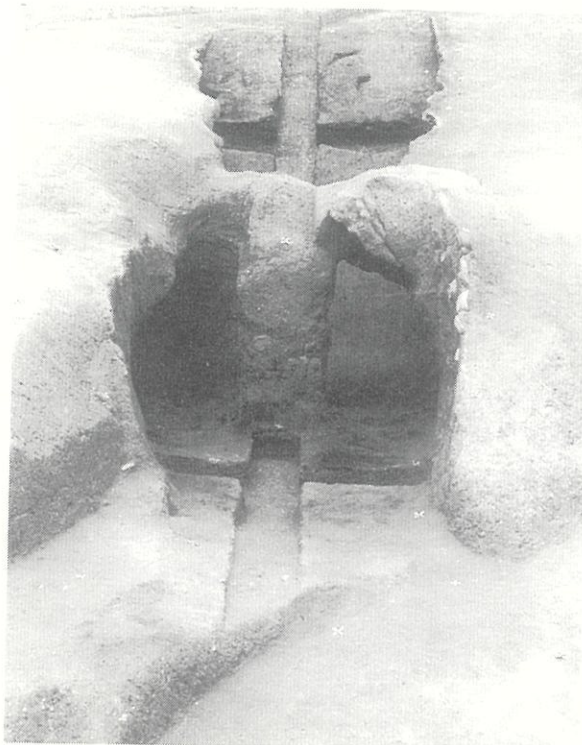
① 2号窯燃焼室床面断面北西側（南から）



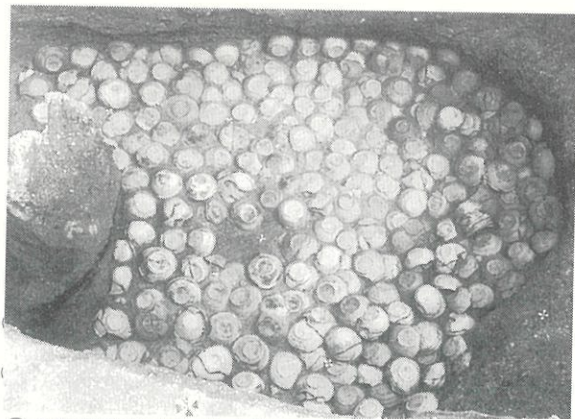
② 2号窯焼成室床面断面（南西から）



③ 2号窯床面下施設（北東から）



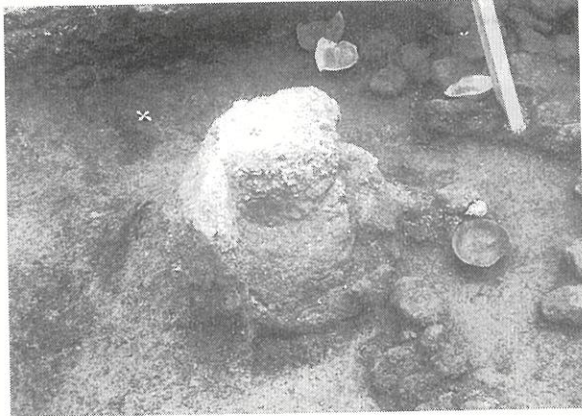
④ 2号窯床面断面全体（北東から）



⑤ 2号窯床面下施設（北西から）



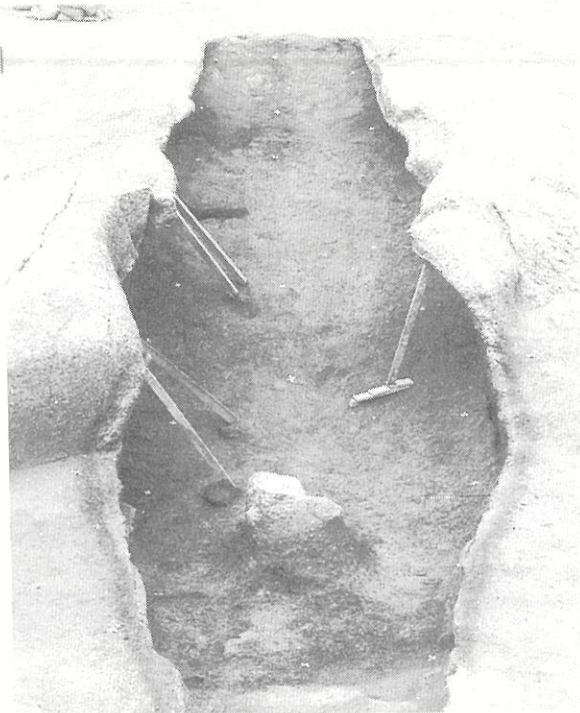
⑥ 2号窯床面下施設（北東から）



① 3号窯分焰柱 (北から)



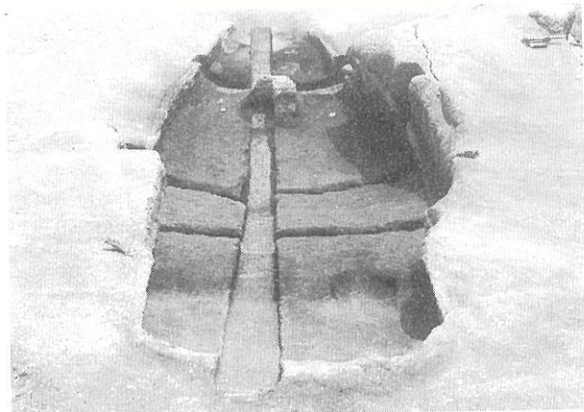
② 3号窯窯内埋土土軸ベルト (北から)



③ 3号窯完掘 (北東から)



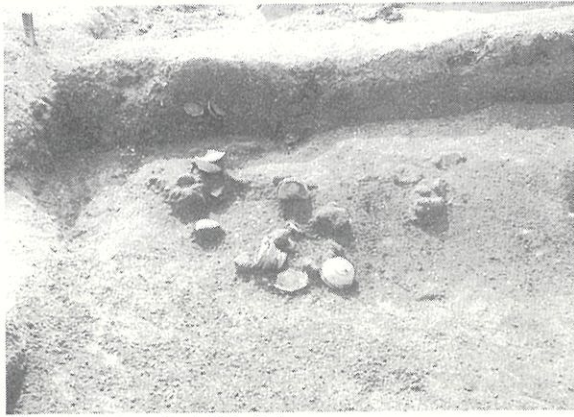
④ 3号窯完掘 (南西から)



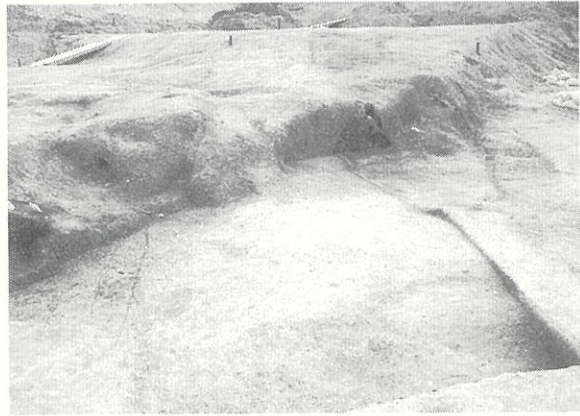
⑤ 3号窯床面断面全体 (南西から)



⑥ 3号窯分焰柱断面 (南西から)



① 4 h グリッド (東から)



② 2号窯・3号窯 (東から)



③ 2号窯焚口付近 (北から)



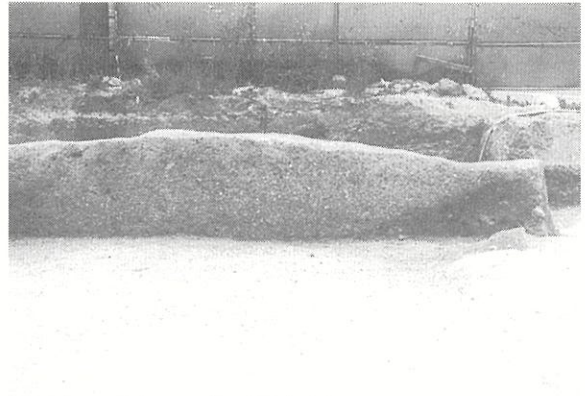
④ 6 g グリッド (北西から)



⑤ 6 f・6 g・7 g ベルト (北西から)



① 4 g グリッド (南から)



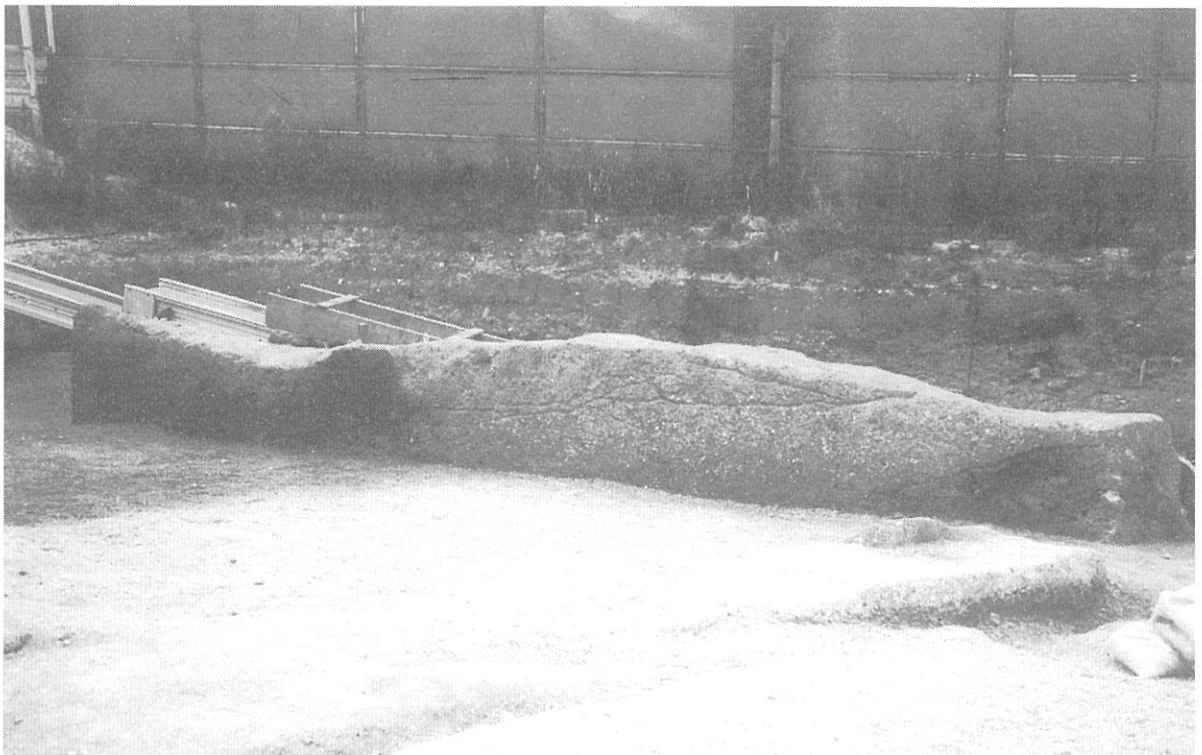
② 4 h ・ 5 h ベルト (西から)



③ 4 g ・ 4 h ベルト (南から)



④ 4 h ・ 4 i ベルト (南から)



⑤ 3 h ・ 4 h ・ 5 h ベルト (南西から)



①遺跡遠景（北東上空から）



②遺跡近景（北東から）

図版8 遺跡（8）発掘後



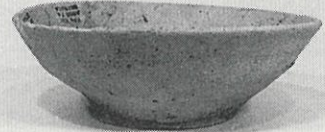




22



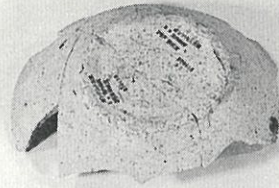
53



177



22



53



177



190



220



221



190



220



221



338



399



562



338



399



562

图版10 遺物 (2) 碗



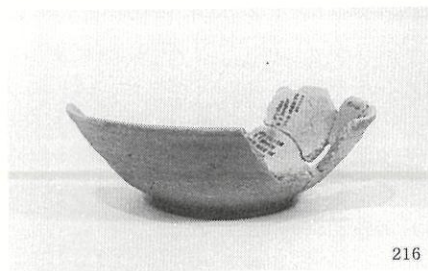
167



193



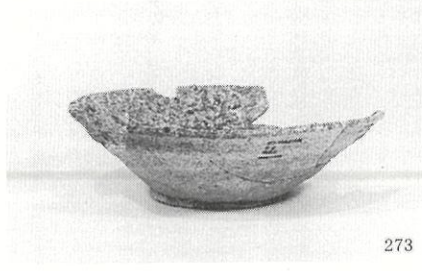
199



216



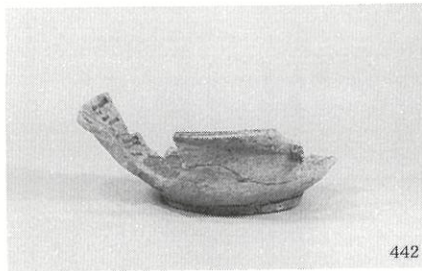
225



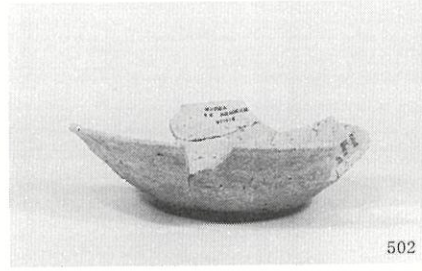
273



274



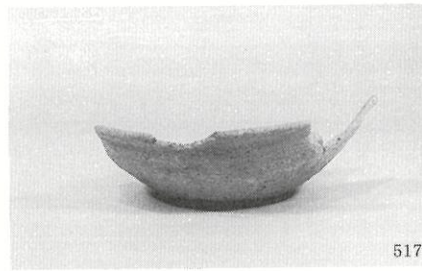
442



502



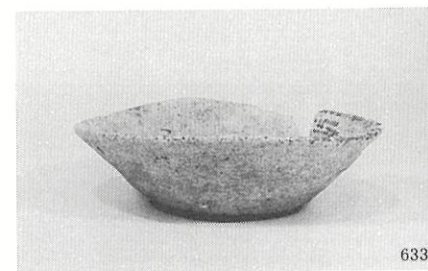
509



517



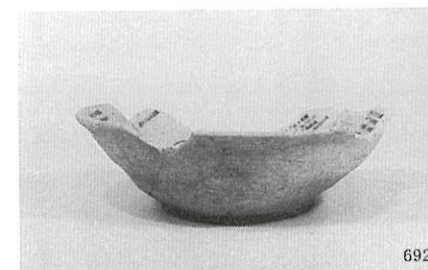
631



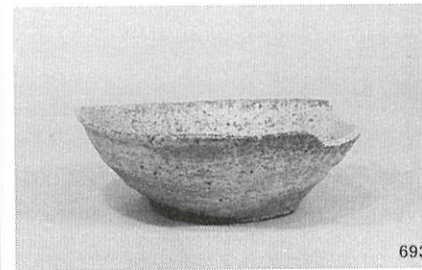
633



690



692

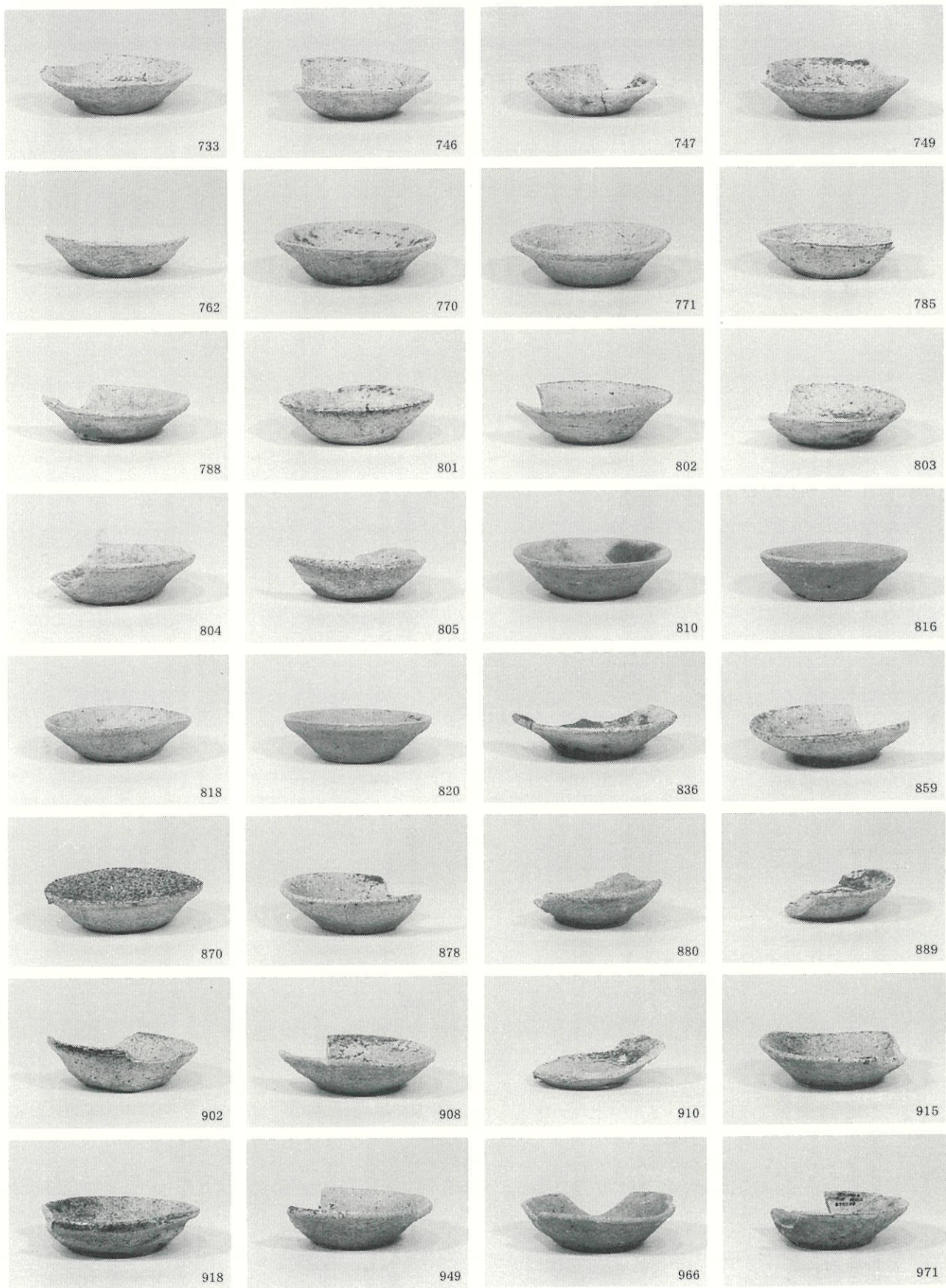


693

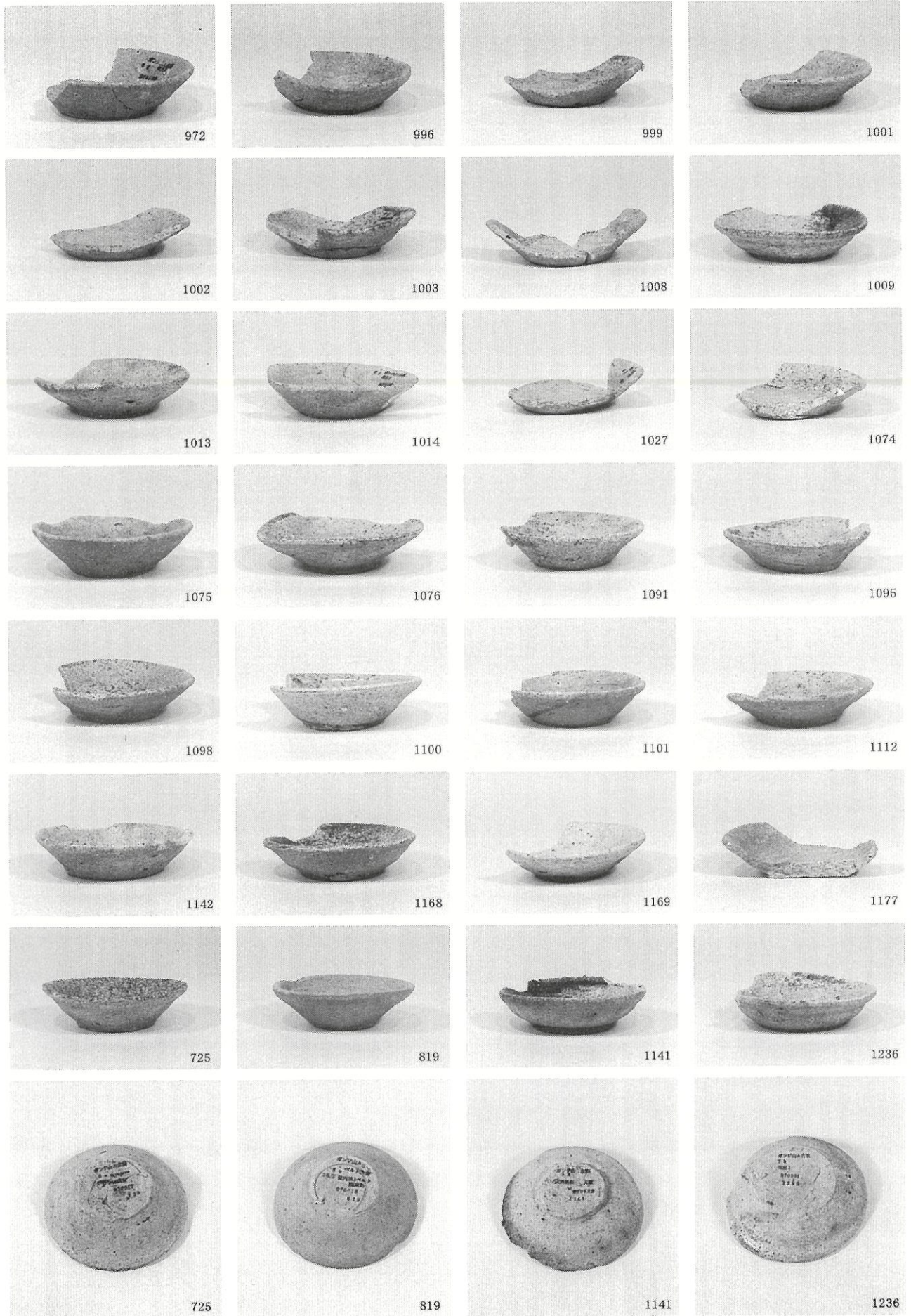


1600

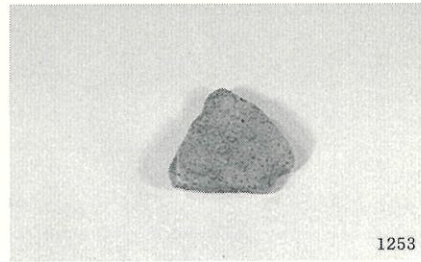
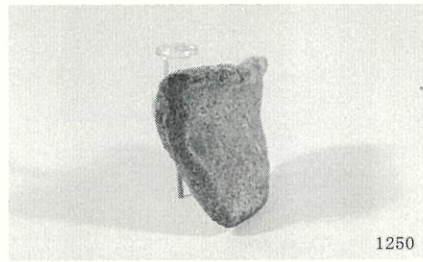
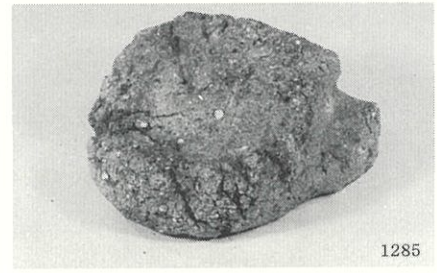
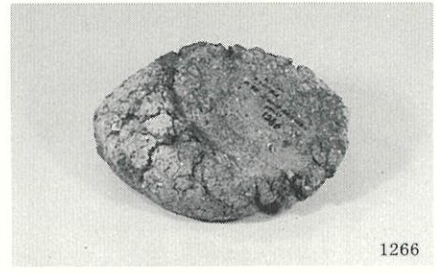
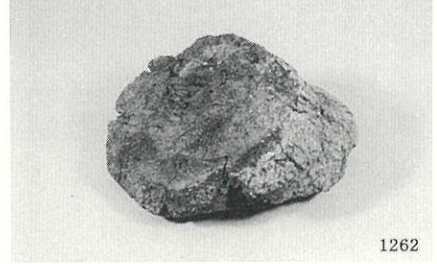
图版11 遺物 (3) 碗



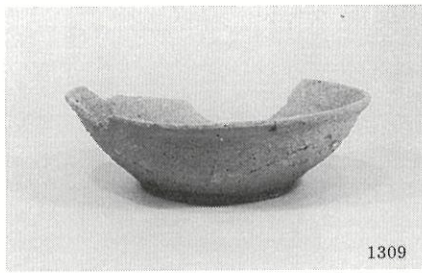
图版12 遺物 (4) 皿



图版13 遺物 (5) 皿



図版14 遺物 (6) その他



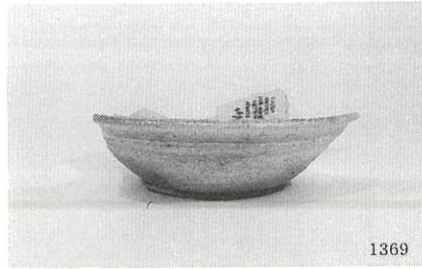
1309



1315



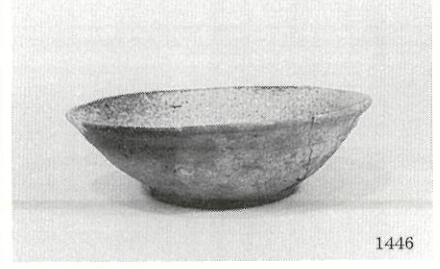
1363



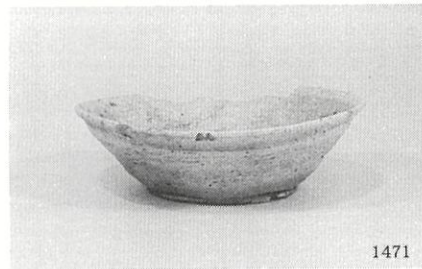
1369



1417



1446



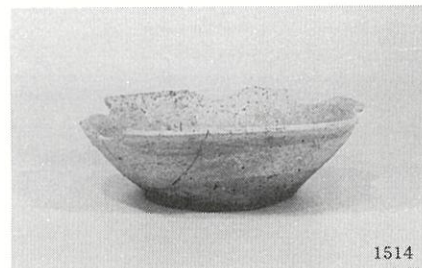
1471



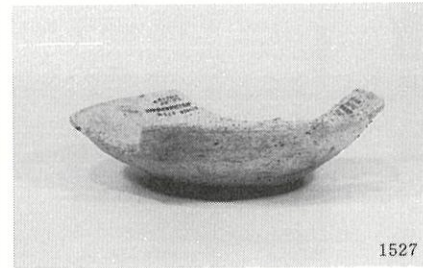
1478



1502



1514



1527



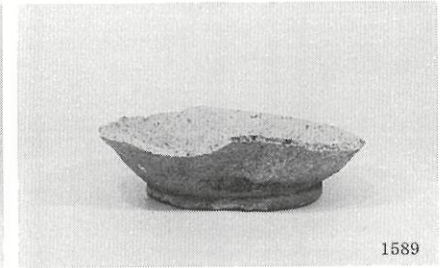
1529



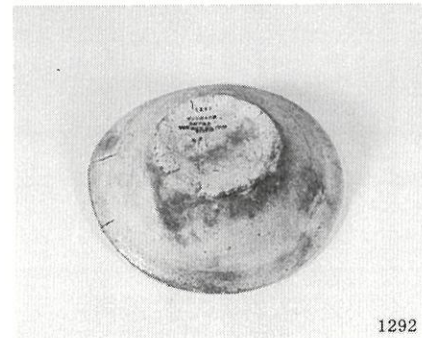
1292



1571



1589



1292



1571



1589

图版15 遺物 (7) 床面下

## 報告書抄録

ふりがな	がんじやまえいこようせきぐん							
書名	ガンジ山A古窯跡群							
副書名	大府桃山土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	大府市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第4集							
編著者名	近藤英正、古田功治、広岡公夫、佐竹俊昭、柘植弥生							
編集機関	愛知県大府市教育委員会							
所在地	〒474-0025 愛知県大府市中央町五丁目70番地							
	2000年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ガンジ山 A古窯跡 群	大府市桃山町 三丁目111 番地 他	232238	44091	35度 0分 51秒	136度 58分 14秒	19970414 ～ 19970706 19970818 ～ 19970819	800	区画整理 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
ガンジ山A 古窯跡群	古窯	平安時代末期 ～ 鎌倉時代初期	窯跡3基 灰原 ピット 床面下施設 1箇所	碗、皿、障焰棒、 焼台、伊勢型鍋		床面下施設を市内の窯 跡から初めて検出した また、障焰棒の初出土		





大府市文化財調査報告書 第4集

ガンジ山A古窯跡群

～大府桃山土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告書～

平成12年3月31日 発行

発行 愛知県大府市教育委員会

住所 〒474-0025 愛知県大府市中央町五丁目70番地

印刷 有限会社シバガキ印刷



